ガ、先決問題トシテハ、此教育費ヲ整理スルコトガ必要ナリト考ヘテ居ル、是ハ制度ノ關係ヨリ參ルモノモアリマセウ、習慣ヨリ參ルモノモアリマセウ、無用ナル費用ヲ支出シテ居ルト云フ次第デハアリマセヌガ或ハ節約シ得ベキモノヲ節約セズシテ居ルカモ知レヌ、ト云フ疑ヲ懷カナケレバナラヌ點モ多々アル、斯樣ナ次第デアリマスカラ、政府ハ茲ニ一ノ調査會ヲ設ケ、文部、內務、大藏ト云フヤウナ當該ノ人々ハ無論ノ事、在野ノ有力者等ヲ集メテ、此教育費ニ向ッテ大整理ヲ致シタイト考ヘル、大整理ヲ致シ、個人ノ負擔モ輕減セラレルダケ輕減シ、地方費ノ節約モ出來ルダケ節約シ、而シテ國庫ハ已ムヲ得ナケレバ支出スル方法モ執ラナケレバナラヌガ、斯樣ナ整理ヲ致サヌケレバ、唯ダ年々增加ニ次グニ增加ヲ以テシテ、際限ナク費用ヲ增スト云フコトハ、國民ノ負擔シ切レルモノデハナイト考ヘル、故ニ近日政府ニ於テハ此調査機關ニ關スル費用ヲ追加豫算トシテ、諸君ノ御協贊ヲ得タイノデアル、是ハ他ノ先進國ノ例ニ照シテ見マシテモ、其國各〻狀態ヲ異ニ致シテ居リマスケレドモ、其國ノ富ノ程度、其國ノ國民ノ負擔力、種々ナル點ヨリ考察致シテ、日本ノ教育費ト云フモノハ、餘程整理致スベキ餘地ハアリハセヌカト考ヘル、殊ニ教育費ノ整理ト云フ如キ事ハ、未ダ會テ致シタコトガナイ、唯ダ增加スル一方デアル、是ハ到底國家ノ爲メニ取ラザル所ト考ヘマスカラ、近日此整理ニ關スル費用ヲ請求致シ、幸ニ御協贊ヲ得マシタナラバ、成ベク速ニ著手ヲシテ、十分ナル教育費ノ整理ヲシ、節約スベキモノハ節約シテ、增加スベキモノハ增加スルノ方針デ行キタイト考ヘマス、大體政府ノ所見ヲ述ベテ、唯今ノ御質問ノ御答ト致シマス

次テ本案ハ砂田重政君外二名提出小學校教員俸給國庫負擔額增加ニ關スル建議案(一)外一件委員ニ併セ付託スルニ決ス委員ハ審査ノ末原案ヲ可決スヘキモノト決シ二月十四日報告書ヲ議長ニ提出セリ

二月十五日再ヒ本案ノ第一讀會ノ續會ヲ開キ委員長鈴木錠熙君ハ委員會ノ經過及結果ニ付左ノ報告ヲ爲ス

唯今議題ト相成リマシタ、一年現役小學校教員俸給費國庫負擔法案ハ、國民黨ノ砂田重政君外二名御提出ノ小學校教員國庫負擔額增加ニ關スル建議案、同一ノ建議案ガ憲政會ノ高田耘平君外五名ノ方〻カラ出テ居リマスノデ、更ニ守屋松之助君外二名御提出ノ市町村義務教育費國庫負擔中改正法律案、此特別委員ニ合セテ御付託ニナリマシテ、此三案ハ事頗ル重大デゴザイマシテ、唯今マダ審議未了デゴザイマスガ、此一年現役小學校教員俸給費國庫負擔法ハ豫算ニ關係モアリマスシ、殊ニ此點ニ就テハ一同御贊成ノ案デアリマスカラシテ、他ノ三建議案ト分離致シマシテ審査終了致シマシタ、其經過及結果ヲ御報告申上ゲマス、此案ハ大正七年徵兵令ノ改正ノ結果ト致シマシテ、本年度カラ小學校正教員ノ現役兵ト致シマシテ入營スル者ニ對シマスル、俸給ノ國庫ノ負擔ヲ此所デ決メタノデゴザイマシテ、詰リ現俸給金八割ヲ支給シヤウト云フガ此案ノ趣意デゴザイマス、此事ニ就キマシテハ、ドウ云フ爲メニ八割支給スルカト云ヒマスレバ、政府委員ノ答ハ詰リ此入營兵ハ衣食共ニ官給デアルカラシテ、幾分カ生活上ニ於テモ省略ガ出來テ居ルダラウカラ、二割ヲ減ジテ八割ト云フコトニナッタノダサウデアリマス、而シテドノ位ノ數ニナルカト云ヒマスト、現役ノ教員ガ約一千人、是ハ卒業生ガ年々一千三百九十九人位アルサウデゴザイマシテ、其中ノ七割ガ合格シテ入營致シマスカラ丁度千人ニナル、而シテ俸給ガ一人ノ平均ガ六百二十二圓デアリマシテ、此八割ヲ支給致シマスト、一人ニ付テ四百九十八圓ニナリマス、故ニ一千人ニ四百九十八圓ヲ乘ジマシテ、四十九萬八千圓ト云フ爰ニ數字ガ現レタノデゴザイマス、是ハ至極事宜ニ適シタ所ノ法律デゴザイマシテ、滿場一致ヲ以テ可決致シマシタカラ、此段御報告致シマス

院議異議ナク本案ノ第二讀會ヲ開クニ決シ引續キ第二讀會ヲ開キ第三讀會ヲ省略シテ原案ノ通可決確定シ卽日之ヲ貴族院ニ送付ス同院ハ三月十日可決奏上シ三月三十日法律第十七號ヲ以テ公布

セラル

一七　明治三十九年法律第三十四號中改正法律案

明治三十九年法律第三十四號中左ノ通改正ス

第二條中「無記名利札付證券」ヲ「無記名證券」ニ、「記名利札付證券」ヲ「記名證券」ニ改ム

第四條中「一箇月間之ヲ停止ス」ヲ「一箇月ヲ超エサル期間之ヲ停止スルコトヲ得國債ノ登錄除却ニ付亦同シ」ニ改ム

第九條ニ左ノ但書ヲ加フ

但シ割引ノ方法ヲ以テ發行シタル國債ノ消滅時效ハ五箇年ヲ以テ完成ス

附　則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

大藏省證券條例ハ之ヲ廢止ス

一八　臨時國庫證券法中改正法律案

臨時國庫證券法中左ノ通改正ス

第三條ヲ削ル

附　則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

右兩案ハ孰レモ十年二月七日本院ニ之ヲ提出ス二月十日兩案ヲ一括シテ第一讀會ヲ開キ高橋國務大臣ハ左ノ如ク趣旨ヲ辯明セリ

唯今上程ニナリマシタル兩改正案ニ就テ、簡單ニ提出ノ理由ヲ說明致シタイト存ジマス、從來國債ニ關シマスル法律ノ外ニ、大藏省證券條例ト云フモノガゴザイマシテ、大藏省證券其他割引ノ方法ヲ以チマシテ發行致シタル國債ニハ、此條例ヲ適用致シ來ッタノデゴザイマス、其結果ト致シマシテ取扱ガ區々ニ涉リ、又往々其所有者ニ不便ヲ感ゼシメタルノ遺憾ガアッタノデゴザイマス、今回會計法ノ改正ノ機會ヲ以チマシテ、此大藏省證券條例ヲ廢止シマシテ、其結果國債ニ關スル法律ニ必要ナル改正ヲ加フルコト、致シタノデゴザイマス、又法規ノ統一ヲ圖ル爲メニ、臨時國庫證券法ニ改正ヲ加フルコトニ致シマシタ、何卒御審議ノ上協贊ヲ與ヘラレンコトヲ希望シマス

次テ兩案ハ政府提出會計法改正法律案（一三）外一件委員ニ併セ付託スルニ決ス（委員會竝議事可決ノ經過及公布ハ本項（一三）參看）

一九　大正五年法律第四號中改正法律案

大正五年法律第四號中左ノ通改正ス

「四億八千萬圓」ヲ「五億八千萬圓」ニ改ム

右ハ十年二月七日本院ニ之ヲ提出ス二月十日本案ノ第一讀會ヲ開キ神野政府委員ハ左ノ如ク趣旨ヲ辯明セリ

本法ハ大正三年臨時事件費支辨ニ關シマシテ、借入金ヲ爲シ、或ハ公債發行ヲ爲スコトヲ得ルノ件デゴザイマスガ、今回臨時軍事費ノ追加ニ伴ヒマシテ、其發行制限額ヲ擴張スルノ必要ガアルノデゴザイマス、ソレデ一億圓ヲ增加致シマシテ四億八千萬圓以內トアルノヲ、五億八千萬圓以內ト改正致シタイト云フノデアリマス、御審議御協贊ヲ願ヒマス

次ニ委員ノ選擧ハ議長指名(十八名)ニ決シ卽日議長之ヲ指名ス委員ハ翌十二日委員會ヲ開キ委員長及理事ノ互選ヲ行ヒ審査ノ末原案ヲ可決スヘキモノト決シ二月十八日報告書ヲ議長ニ提出セリ二月十九日再ヒ本案ノ第一讀會ノ續會ヲ開キ委員長富安保太郎君ハ委員會ノ經過及結果ニ付左ノ報告ヲ爲ス

極メテ簡單ニ委員會ノ經過及結果ヲ御報告申上ゲマス、本案ハ大正十年度ニ要スル臨時軍事費九千九百萬圓ヲ公債支辨トナス爲メニ、大正五年法律第四號中ニ改正ヲ加ヘルノ件デアリマシテ、卽チ公債發行額四億八千萬圓ヲ五億八千萬圓ト爲スノ件デアリマス、委員會ハ愼重審議ノ末滿場一致ヲ以テ可決致シマシタ、此段御報告申上ゲマス

院議異議ナク讀會ノ順序ヲ省略シテ原案ノ通可決確定シ卽日之ヲ貴族院ニ送付ス同院ハ三月十九日可決奏上シ四月一日法律第三十號ヲ以テ公布セラル

二〇　朝鮮事業公債法中改正法律案

朝鮮事業公債法中左ノ通改正ス

「前項」ヲ「前二項」ニ、「二億六百五十萬圓」ヲ「二億三千六十萬圓」ニ改メ第一項ノ次ニ左ノ一項ヲ加フ

朝鮮ニ於ケル煙草專賣制度ノ實施ニ要スル交付金トシテ交付スル爲政府ハ公債ヲ發行スルコトヲ得

二一　臺灣事業公債法中改正法律案

臺灣事業公債法中左ノ通改正ス

第一條中「一億六百二十萬圓」ヲ「一億千五百六十萬圓」ニ改ム

二二　樺太事業公債法中改正法律案

樺太事業公債法中左ノ通改正ス

第一條中「千二百五十萬圓」ヲ「千九百六十萬圓」ニ改ム

右三案ハ孰レモ十年二月七日本院ニ之ヲ提出ス二月十日三案ヲ一括シテ第一讀會ヲ開キ神野政府委員ハ左ノ如ク趣旨ヲ辯明セリ

朝鮮事業公債法中改正法律案ニ就テ說明ヲ申上ゲマス、朝鮮事業費ノ中デ、咸鏡線平壤炭礦線ノ鐵道建設改良費及仁川海關工事費ニ於キマシテ、物價騰貴ノ爲メニ大正十年度年割額ニ於テ合計六百七十五萬圓ノ追加ヲ要スルコトヽナリマシタ、又朝鮮ニ於キマシテ新ニ煙草專賣制度ヲ始メルコトニ致シマシテ、大正十年度以降三箇年度間ノ繼續費總額千七百三十二萬圓ヲ支出スルコトニ致シマシテ、合計二千四百十萬圓ヲ國債支辨トスルコトニ致シタノデアリマス、隨テ現行ノ法定起債額ヲ二億三千六十萬圓ニ改正致シタイト云フノデアリマス、次ハ臺灣事業公債法デアリマスガ、臺灣ニ於キマシテ旅客ノ增加並ニ貨物ノ增加ガ著シクアリマシテ、現在ノ設備ニテハ殆ド其用ヲ爲サナイノデアリマス、ソレ故ニ大正十年度ニ於キマシテ、六百二十五萬餘圓ヲ支出致シマシテ、車輛ノ增備並ニ線路ノ改良ヲ圖ルノデアリマス、又臺灣東部地方ニ於キマスル交通機關ノ整備ヲ圖ル爲メニ、大正十年度以降三箇年度間ノ繼續費ト致シマシテ、二百十萬餘圓ノ鐵道建設費ヲ計上致シマシタ、次ニ縱貫鐵道ノ設備費、大正十年度年割額ニ百萬圓ヲ追加スルノ必要ガアリマスノデ、以上合計九百三十五萬餘圓ヲ公債財源ニ依ルコト、致シマシテ、現行ノ起債法定額一億六百二十萬圓ヲ一億千五百六十萬圓ニ改正シヤウト云フノデアリマス、樺太事業公債法中改正法律案ハ、此度眞岡港ノ修築ヲ爲スコトヽ致シマシテ、其經費總額二百九十五萬圓ヲ、大正十年度以降五箇年度ニ亙ル繼續費トシテ支出スルコトニ致シマシタ、又大泊築濱ノ鐵道ハ、從來應急的修補ヲ致スニ止テ居リマシタガ、之ガ爲メニ輸送力ノ缺乏ヲ感ジマシテ、動モスレバ危險ヲ感ズル場合モアル位デアリマスルカラ、此度根本的改良ヲ加ヘルコトニ致シマシテ、大正十度以降三箇年度間ノ繼續費總額四百九萬圓ヲ支出スコトニ致シマシタ、以上合計七百四萬圓ノ事業費ハ、之ヲ公債支辨ト致シマシテ、現行ノ法定起債額千二百五十萬圓ニ追加致シマシテ、之ヲ千九百六十萬圓ニ改正シヤウト云フノデアリマス、ドウゾ御審議ノ上御協贊ヲ願ヒマス

次テ委員ノ選擧ハ議長指名(十八名ノ同一委員)ニ決シ卽日議長之ヲ指名ス委員ハ二月十二日委員會ヲ開キ委員長及理事ノ互選ヲ行ヒ審査ノ末各原案ヲ可決スヘキモノト決シ二月十九日報告書ヲ議長ニ提出セリ

二月二十二日再ヒ三案ノ第一讀會ノ續會ヲ開キ委員長高山長幸君ハ委員會ノ經過及結果ニ付左ノ報告ヲ爲ス

此法案ハ三案共何レモ案其物ハ極メテ簡單デアリマシテ、僅カニ數語ノ文字ヲ改メルニ過ギナイノデアリマス、併ナガラ其內容ハ相當大ナル事業ノ計畫ニ關スルコトデアリマス、卽チ朝鮮ニ於テハ煙草專賣ノ開始ニ對スル費用、並ニ鐵道ノ建設改良ノ費用、其他ヲ合セマシテ總額二千四百餘萬圓デアリマス、又臺灣ニ於キマシテハ東海岸ニ鐵道ヲ敷設スル費用、並ニ既設鐵道改良費用ヲ合セテ、其金額ハ九百餘萬圓デアリマス、第三ニ樺太ニ於キマシテハ、眞岡港ノ修築費用ト既設鐵道ノ改良費用ヲ合セテ七百餘萬圓デアリマス、委員會ハ數回之ヲ開キマシタ、當局者ノ說明並ニ各委員ヨリノ質問ニ對スル答辯ヲ得テ、其事業計畫ハ必要ナモノト認メ、隨ッテ此支出モ必

要ナモノト認メマシテ、全會一致ヲ以テ之ヲ可決シタ次第デアリマス、此段御報告ヲ致シマス

院議異議ナク三案ノ第二讀會ヲ開クニ決シ引續キ第二讀會ヲ開キ第三讀會ヲ省略シテ各原案ノ通可決確定シ即日三案全部ヲ貴族院ニ送付ス同院ハ三月十九日可決奏上シ四月一日法律第二十七號(二〇)法律第二十八號(二一)法律第二十九號(二二)ヲ以テ公布セラル

二三　作業會計法中改正法律案

作業會計法中左ノ通改正ス

第一條中「海軍採炭所」ヲ「海軍燃料廠」ニ改ム

第二條中「四十七萬圓」ヲ「百萬圓」ニ改メ同條第五項ヲ左ノ如ク改ム

海軍燃料廠据置運轉資本ハ二百萬圓トシ大正九年度末現在ノ海軍採炭所据置運轉資本ヲ以テ之ニ充テ其ノ不足額ハ漸次一般會計ヨリ繰入ス

附　則

本法ハ大正十年度ヨリ之ヲ施行ス但シ大正九年度分ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル

大正九年度海軍採炭所特別會計歳入歳出豫算中翌年度ニ繰越ヲ要スルモノハ海軍燃料廠特別會計ニ繰越スヘシ

二四　海軍燃料廠ノ石炭、煉炭又ハ燃料油ノ買入ニ關スル法律案

海軍ニ於テ海軍燃料廠ヨリ石炭、煉炭又ハ燃料油ヲ買入ルル場合ニ於テハ前金拂ヲ爲スコトヲ得

附　則

本法ハ大正十年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

大正七年法律第二十號ハ之ヲ廢止ス

右兩案ハ孰レモ十年二月七日本院ニ之ヲ提出ス二月十日兩案ヲ一括シテ第一讀會ヲ開キ神野政府委員ハ左ノ如ク趣旨ヲ辯明セリ

本案ノ改正ノ點ハ二ツデアルノデアリマス、第一ハ海軍燃料廠特別會計ノ設置ニ關スルモノデゴザイマス、從來ハ海軍採炭所ニ於テ、海軍所用ノ石炭ノ採掘事業ヲ行ッテ居リマシタガ、右ノ外從來別ニ經營ヲ致シテ居リマシタ、煉炭製造事業ヲ之ニ合セマシテ、新ニ經營スベキ艦船用燃料油ノ製造ヲモ之ニ合併致シマシテ、來年度ヨリ海軍燃料廠ヲ設ケマシテ、從來ノ海軍製炭所特別會計ヲ擴張シテ、海軍燃料廠特別會計ニ改メヤウト云フノデアリマス、而シテ之ニ要スル据置運轉資本ハ二百萬圓ト致シマシテ、現ニ海軍採炭所ニ屬シテ居リマスル据置運轉資本十萬圓ヲ之ニ充テマシテ、其不足分ハ漸次一般會計カラ繰入レル計畫デアリマス、第二ハ印刷局据置運轉資本ノ增額デアリマス、印刷局ノ据置運轉資本額ハ現在四十七萬圓デアリマスルガ、同局事業ノ增進竝ニ物價騰貴ニ依リマシテ、從來ノ据置運轉資本ニテハ其經理ヲ爲スニ堪ヘマセヌカラ、大正十年度カラ之ヲ百萬圓ニ增加致シマシテ、其差額ハ一般會計ヨリ之ヲ繰入レル計畫デアリマス、

海軍燃料廠ノ石炭、煉炭又ハ燃料油ノ買入ニ關スル法律案ハ唯今申シマシタ海軍燃料廠設置ノ爲メニ作業會計法中ニ改正ヲ加ヘル法律ト、關聯致シテ居ルノデアリマス、海軍ニ於テ海軍燃料廠ヨリ燃料ヲバ買入レル場合ニ於テハ前金拂ヲ爲ス途ヲ開キマシテ、海軍燃料廠特別會計ニ於ケル資金運轉ヲ圓滑ナラシメントスルノデアリマス、御審議ノ上御協贊ヲ願ヒマス

奥村安太郎君ハ(二四)案ニ付質疑ヲ爲シ加藤國務大臣之ニ應答ス

奥村安太郎君ノ質疑

海軍燃料廠ノ石炭、煉炭又ハ燃料油ノ買入ニ關スル件ニ就キマシテ、海軍大臣ニ伺ヒタイト思ヒマス、我國ノ海軍燃料問題ニ就キマシテハ、非常ナル決心ヲ以テ熱烈ナル研究ヲセヌケレバナラヌノデゴザイマス、爰ニ私ガ燃料ト謂フノハ、燃料油ノコトデアリマシテ、現在海軍ノ使ッテ居ル所ノ燃炭ノコトヲ申スノデハナイノデゴザイマス、煉炭事業ノ如キハ洵ニ小サイ事業デゴザイマシテ、一ノ會社ニ經營セシメテモ宜イノデゴザイマス、別段海軍ノ大ナル力ヲ要スルト思ヒマセヌ、ソレヨリ今日ノ場合ハ、一意專心燃料油ニ對シテ猛烈ナル熱烈ナル調査研究ヲ致シマシテ所謂自給自足ノ途ヲ立テナケレバナラヌ次第デゴザイマス、現在世界ノ石油政策ノ有樣ヲ申シマスレバ、英國ニ於テモ、米國ニ於テモ、或ハ佛蘭西、伊太利ニ於テモ何レモ、絶對閉鎖主義ヲ執リマシテ、株券スラ外國人ニ持タスコトハシナイノデゴザイマス、其英米ニ於テハ何レモ自分ノ領地ニ於テハ熱烈ナル調査ヲ致シテ居リマスルガ、此頃ニ至リマシテハ、支那方面マデ手ヲ染メテ居ルノデゴザイマス、何レモ之ニ就テハ非常ナル研究ヲ致シマシテ、彼ノ世界ニ於ケル六割マデノ產油ノアリマス所ノ亞米利加ニ於テスラ、今日デハ禁油——油ノ輸出ヲ止メルベク、大統領ニ迫ッテ居ルト云フ次第デゴザイマス、ソコデ我國ハドウデアルカト申シマスレバ、一箇年ニ僅ニ三十萬噸、世界ノ五十分ノ一ニ過ギナイ、採油ヨリナイノデゴザイマス、是ハ今日ハ悉ク機械又ハ動力ニ消費シテ居ルト云フ話デアリマスガ、八八艦隊完成ノ曉ハ僅ニ二晝夜ヨリ之ヲ用キルコトガ出來ナイサウデアリマス、實ハ米國モ十年前マデハ僅ニ少額ノ採收ニ過ギナカッタノデゴザイマスガ、今日ハ洵ニ强イ力ヲ以テ採油ヲヤリマシタ結果、今日ニ至ッタノデゴザイマス、此事ニ就キマシテ、政府ノ御意見ガ祕密デナイ限リ伺ヒタイト思ヒマス、ドウ云フ御考ヲ持ッテ居ラレルカ、ソレカラ獨逸ハ戰爭中ニ、自動車飛行機又ハ潛航艇ニ多量ノ液體燃料ヲ使ッテ居ッタト云フ話デアリマス、此獨逸ノ液體燃料ガ石油デナクシテ、石炭ヨリ低溫乾溜法ニ依リマシテ得タル所ノ燃料油デアッタト云フ話デゴザイマス、此事ニ就テ政府ハ研究シテゴザルカドウカト云フコトヲ伺ヒタイノデゴザイマス、勿論日本人ハ研究能力ノ非常ニ强イ國民デアリマス、實ニ發明的天才ノアルコトハ過日モ此席デ述ベマシタガ打棄テ置イテハイケナイノデゴザイマス、少シ誰カガ後援シテヤラセレバ、日本人ノ腦量ハ決シテ外國人ニ劣ラナイノデアル、英國ガ一番腦量ガ重クテ、其次ガ獨逸デ、次ガ日本人、ソレカラ佛蘭西、亞米利加ト云フ風ナ順ニナルト云フ話デゴザイマス、斯ノ如ク腦量ニ於テハ、日本人ハ決シテ外國人ニ劣ッテ居ル譯デナイノデアリマス、ソレデモ矢張外國人ガ言ハナイト、ソレヲ採用セヌト云フ御考デゴザイマスルカ、別ニ西洋ノ方ノ發明ヲ待タズシテ、日本人ハ之ヲ研究スルト云フ御考デアリマスカ、之ヲ伺ヒタイ、ソレカラ石炭ヲ燃料トスル場合ニハ、其活動熱力ガ三四割ヨリ使フコトガ出來ナクシテ、殘リノ六七割ハ逃ゲテシマウ、消散シテシマウト云フ話デアリマス、近頃ノ科學ノ進步ニ依リマシテ、光ヲ以テ熱量ニ變ズルコトガ出來ルト云フコトヲ屢〻聞イテ居リマス、其外ニ太陽熱ヲ用キルトカ風力ヲ用キルトカ、波力ヲ用キルトカ、又水壓ヲ用キテ、動力ト爲シ得ルト云フコトデアリマスガ、是モ御研究ニナッテ居リマスカ、矢張西洋人ノ發明ヲ待タナケレバ、日本人ハ之ニ力ヲ盡サナイノデアリマスカ、ソレカラ石炭及石油ノ量ハ減ジマシテ、五十年程ヨリ無イト云フコトヲ聞イテ居リマスガ、之ニ對シテ政府ノ御調査ガゴザイマシタカドウカト云フコトデ、ソレカラ次ニ樺太ノ石油問題デゴザイマス、是モ祕密ニ屬シタモノデアリマスレバ、强テ伺ヒタイト思ヒマセヌガ、併シ御漏シスルコトガ出來マスレバ、ソレダケヲ伺ヒタイノデアリマス、日本ノ樺太ノ石油ハ非常ニ有望ナモノデアルト云フ說ガゴザイマシテ、近頃ハ大變此事ニ一般國民ガ注目ヲ致シマスガ、私モ

樺太ニハ暫ク居ッタコトガゴザイマス、南樺太ニ於キマシテ、占領後ハ非常ナ有望ナモノデアルト云フコトヲ聞イテ居リマス、所ガ南樺太ノ石油ハ悉ク失望ニ歸シタノデアリマス、單リ北樺太ノミガ是ガ成功スルト云フコトハ、常識ニ於テハ判斷シ得ラレナイコトデアリマス、勿論日本ハ世界ノ石油礦區カラ云ヘバ、亞米利加ノ石油礦區ヨリハ、日本ノ方ガ石油礦區ガ廣イト云フ話ガアリマス、唯ダ之ヲ採油スルコトノ拙イ爲メニ出來ナイコトデアリマスレバ、前申ス通リ十分ニ力ヲ之ニ注ガナケレバナラヌコト、思ヒマスガ、之ニ對スル政府ノ御意見ヲ伺ヒタイト思フ

加藤國務大臣ノ應答

奥村君ノ御質問ニ御答致シマスガ、御質問ノ箇條ガ全部明瞭ニシ兼ネタ點モアリマス、併シ大體ノ御趣意ハ了解シテ居ルヤウデアリマスカラ、私ノ了解シテ居リマスル意味ニ於キマシテ御答ヲ試ミタイト存ジマス、第一ニ此日本ハ油田ガ少ナイ、卽チ石油政策ト云フガ如キ事ヲドウスルノカト云フノガ、御趣意デアラウト思ッタノデアリマス、海軍ノ關シマスル限リニ於キマシテハ今日ハ御話ノ如ク日本ニ於ケル石油ノ少ナイコトハ御話ノ通リト信ジテ居リマス、故ニ海外ヨリ輸入致シマシテ、之ヲ貯藏スルト云フ方針ヲ今日ハ執ッテ居ルノデアリマス、而シテ內地ニ於ケル石油ハ、必要ニ際シマシテハ之ヲ購入スル場合モアリマセウケレドモ、今日ハ成ベク海外ノ輸入ヲ待ッテ、之ニ依ッテ所要ノ數量ヲ充タス考デ居リマス、ソレ以上ニ尙ホ進ンデ石油政策ト云フガ如キモノニ就キマシテハ、如何ナル方法ニ依ルガ宜イカト云フコトハ、目下主務省ト協議研究中ニ屬シテ居リマス、其次ニ此代用品ニ就テノ御話ガアッタヤウデアリマス、卽チ先般ノ戰役中、獨逸ハ石油デナイ他ノ代用品ヲ使用シタイト云フコトヲ聞クガ、日本ニ於テモ之ヲ研究シテ居ルカドウカ、研究シテ居ルナラバ、其成績如何ト云フガ如キ御質問デアッタヤウデアリマス、是ハ所謂低溫乾溜卽チ「コールタール」カラ重油ヲ取ル御話デアラウト思フ、此問題ハ數年前ヨリ研究ヲ致シテ居リマス、海軍ニ於キマシテモ研究致シテ居リマス、民間ニ於テモ研究致シテ居リマス、又九州大學ニ於テモ研究サレテ居ルト云フコトヲ聞イテ居リマス、是等ノ各方面ニ於キマシ

テハ、互ニ聯絡ヲ取リテ研究ヲ進メ、今日ニ於キマシテハ、或程度マデハ實用ニ供シ得ルト云フ成績ヲ得テ居リマス、併ナガラ之ヲ實際ニ應用致サウト云フ場合ニハ、經濟上果シテ其結果ヲ得ルヤ否ヤト云フコトデ、今日ハ疑問ニナッテ居リマス、卽チ代用品其物ハ出來得ルト致シマシテモ、ソレ以外ノ副產物ノ方ガ大部分ヲ占メテ居ル、而シテ正副產物ヲ如何ニ捌クカト云フコトガ問題デアラウト思ウテ居リマス、是等ノ點ヲ將來如何ニスルカト云フコトハ、目下研究中ニ屬シテ居リマス、其外總テ幾明ト云フガ如キモノニ就テハ、外國デ成功シタモノヲ待ッノカ、日本ハ日本自ラ進ンデヤル氣カ、ドウカト云フ御話モアッタヤウデアリマス、吾ミハ外國ノ研究シタ成績ヲ得ルコトニモ怠ラナイ積リデアリマス、同時ニ爲シ得ル限リ研究ハ今日ニ於テモ致シテ居リマス、將來ニ於テモ益〻此方面ニ向ッテ努力スル考デアリマス、ソレカラ樺太ノ事ニ就テノ御話ガアリマシタガ、樺太ニ就キマシテハ、何事モ今日ハ調査研究ニ屬シテ居リマス、是以上ハ申上ゲルコトハ出來マセヌ

次テ委員ノ選擧ハ議長指名（九名）ノ同一委員ニ決シ卽日議長之ヲ指名ス委員ハ同月十二日委員會ヲ開キ委員長及理事ノ互選ヲ行ヒ審査ノ末各原案ヲ可決スヘキモノト決シ二月二十二日報告書ヲ議長ニ提出セリ

二月二十四日再ヒ兩案ヲ一括シテ第一讀會ノ續會ヲ開キ委員長龍野周一郎君ハ委員會ノ經過及結果ニ付左ノ報告ヲ爲ス

作業會計法中改正法律案ハ、其內容ニ於テ二ツノ改正デアルノデアリマス、印刷局ノ据置運轉資金ガ四十七萬圓デアリマシタ所ガ、物價騰貴ノ影響ト、印刷物ノ數量ガ非常ニ增加ヲ致シマシタソレガ爲メニ五十三萬圓ヲ增シマシテ、百萬圓ニ致シタイト云フノデアリマシテ、政府ヨリハ最

モ詳細ニ懇篤ナル説明ガアッタノデアリマス、ソレカラモウ一ツハ、現在ニ於テ海軍ハ福岡縣ノ新原、山口縣ノ大嶺ノ二ツノ石炭山ヲ自ラ經營致シマシテ、此石炭ト部外カラ買入レマスル所ノ石炭ヲ、山口縣德山ニ於テ煉炭ニ製造致シテ居ルノデアリマス、此事業ヲ幾分擴張致シタイ、ソレカラ更ニ外國カラ原油ヲ買入レマシテ、我ガ艦船ヲ動カシマスルニ適當ナル所ノ燃料、卽チ重油ヲ製造シ、之ヲ貯藏致シタイト云フ新タナル計畫ヲ加ヘマシテ、卽チ海軍ノ燃料政策ヲ一定スルガ爲メニ、海軍燃料廠ト云フモノヲ設ケマス、ソコデ今日マデ石炭煉炭ノ作業ニ使ッテ居ル所ノ据置運轉資本ハ十萬圓デアリマスルガ、大正十年ニ於テ七十萬圓ヲ增加ヲ致シ、合セテ八十萬圓トシ、大正十一年度ニ於テ七十萬圓ヲ增加シ、大正十二年ニ於テ五十萬圓增加ヲ致シテ、合計二百萬圓ノ据置運轉資本ニ致シ、海軍艦船ノ燃料政策ヲ統一經營致シタイト云フノ案デアリマス、此案ニ就キマシテハ、各委員諸君ヨリ最モ熱心有益ナル所ノ御質問ガアリマシテ、海軍大臣モ委員會ニ出席ヲシテ、軍事上ノ祕密ニ涉ラザル程度ニ於テ、委員ヲ滿足セシムル所ノ答辯ガアリマシタ、仍テ委員會ハ滿場一致ヲ以テ、此作業會計法中ノ改正案ハ可決致シマシタ、ソレカラモウ一ツノ法案ハ海軍ガ燃料廠ヨリ石炭、煉炭又ハ燃料油ノ買入ニ關スル法律案デアリマスルガ、是ハ從前ニ於テ法律ガアリマスル、卽チ海軍ニ於テ石炭、煉炭ヲ買入レマスル場合ニ於テハ、代金先拂ヲ爲スコトヲ得ルト云フ法律ガアリマスルガ、此燃料廠ヲ設ケマシテ新ニ燃料政策ヲ一定致シテ重油ヲ買ヒマスルガ爲メニ、矢張前ト同一ニ前渡金ヲスルコトヲ得ルト云フ法律案ヲ拵ヘテ、從前ノモノハ此法律ガ出來上リマスルト、現在ノ法律ハ同時ニ廢シタイト云フ案デアリマス、此案モ作業法ノ改正ヲ致シマスル結果トシテ、當然可決スベキモノト云フコトニナリマシテ、兩案共委員會ハ滿場一致デ可決致シマシタカラ、本會ニ於テ速ニ確定議ヲ與ヘラレンコトヲ希望致シマス

院議異議ナク兩案ノ第二讀會ヲ開クニ決シ引續キ第二讀會ヲ開キ第三讀會ヲ省略シテ各原案ノ通可決確定シ卽日兩案全部ヲ貴族院ニ送付ス同院ハ三月八日可決奏上シ三月三十日法律第八號（二三）法律第九號（二四）ヲ以テ公布セラル

二五　執達吏規則中改正法律案

執達吏規則中左ノ通改正ス

第十九條中「四百五拾圓」ヲ「六百圓」ニ改ム

附　則

本法ハ大正十年分ヨリ之ヲ適用ス但シ執達吏規則第二十一條ノ規定ノ適用ニ付テハ大正九年八月一日以後恩給ヲ受クヘキ事由ノ生シタルモノニ付之ヲ適用ス

右ハ十年二月七日本院ニ之ヲ提出ス二月十日本案ノ第一讀會ヲ開キ鈴木政府委員ハ左ノ如ク趣旨ヲ辯明セリ

唯今議題ニ上リマシタル執達吏規則中改正法律案ノ理由ヲ申上ゲマス、現行執達吏規則第十九條ニ規定シテアリマスル補給金額ハ、今日ノ經濟事情ニ照シテ少額ニ失シテ居ルノデゴザイマス、加之昨年發布セラレマシタル法令ノ規定ニ依ッテ、現今ノ執達吏ノ受クベキ恩給率ニ不權衡ヲ來シタト云フコトニナリマスルニ依ッテ、本案ヲ提出致シマシタル次第デアリマス、何卒御審議ノ上御協贊アランコトヲ願ヒマス

次テ本案ハ大道寺慶男君提出民事訴訟費用法中改正法律案（一一）委員ニ併セ付託スルニ決ス委員ハ

審査ノ末後ニ併セ付託セラレタル民事訴訟費用法中改正法律案(四三)及刑事訴訟費用法案(四四)ト共ニ各原案ヲ可決スヘキモノト決シ三月五日報告書ヲ議長ニ提出セリ

同日議事日程ヲ變更シテ再ヒ本案及(四三)、(四四)案ヲ一括シテ第一讀會ノ續會ヲ開キ委員長黑住成章君ハ委員會ノ經過及結果ニ付左ノ報告ヲ爲ス

只今日程ニ上リマシタ各法律案ノ委員會ノ顚末ヲ御報告致シマス、此民事ノ訴訟費用法中改正法律案ノ此提案ノ要旨ハ、搔摘ンデ申上ゲマスルト、明治二十三年ニ定メラレタル同法、此費額ガ今日ノ經濟事情ニ鑑ミマシテ、甚シク、不合理不自然デアル、實際支拂ヒマシタル所ノ實費ノ半バスラ、償フコトガ出來ナイト云フ有樣デアリマス、斯クテハ實費辯償ノ精神ニ悖リマスルノミナラズ、之ガ爲メニ遠方ノ證人等ハ出頭ヲ避ケマシテ、司法運用ノ上ニ時々支障ヲ生ズルコトガ少ナカラヌノデゴザイマス、故ニ此費額ノ增加ヲ爲サントスルコトガ、本案改正ノ骨子デアルノデゴザイマス、委員會ハ廢案ニナリマシタ大道寺君ヨリ御提案ニナリマシタル同法案ト併セテ審議ヲ致シマシタ、此額ノ事ハ極メテ細カイ事デアリマスカラ、御報告ヲ省略致シマシテ、委員會ノ速記錄ヲ御覽ヲ願フコトニ致シテ、本案ニ關係ヲ持チマスル重要ナル質問應答ノ大體ダケヲ御紹介致シマス、先ヅ大道寺君ノ御提案ニナリマシタ案ト、政府ノ提案トハ、大同小異デゴザイマス、又優劣モ殆ドゴザイマセヌ、ソレ故ニ政府案ダケニ色々ノ點ニ就テ質問ガアッタノデアリマスルカラ、政府案ダケニ就テ私ハ是ヨリ一二御紹介ヲ致シマス、現行法ノ二條、三條、十一條、是ハ改正案ハ單ニ費額ヲ增加シタニ過ギヌノデゴザイマスガ、其他十二條、此點ニ就キマシテハ現行法ハ法律デ其額ヲ定メテ居ルノデアリマス、然ルニ改正案ハ之ニ對シマシテ、稍〻裁判所ニ自由裁量ノ餘地ヲ與ヘマシテ、此點ダケガ先ヅ違フノデゴザイマス、之ニ關シテ委員會ニ於キマシテハ委員ヨリ質問ガ出マシタ、卽チ斯ク裁量ノ餘地ヲ存シタル理由如何、之ニ對シマシテ政府ハ一樣ニ規定セズシテ、多少ノ裁量ノ餘地アル方ガ、却テ損害賠償ノ精神ニ適フ、ソレデ斯ク改メタノデアル、斯ウ云フ答辯ヲ致シマシタ、其次ニ委員ノ一人ヨリ、最モ實費支辨ノ關係ニ於テ重要ナル事項トシテ質問ガアリマシタ、ソレハ現今大審院ノ判例ニ依リマスルト云フト、辯護士ノ報酬ト云フモノハ訴訟費用トシテ認メテ居ナイノデアリマス、デ斯樣ナ改正案ガ出マス場合ニ、何故此規定ヲ爲サヌカ斯ウ云フ質問ガ出タノデゴザイマス、之ニ對シマシテ政府ハ、不目民事訴訟法ノ改正ガ行ハレルノデアルカラ、此御希望ニ副フヤウニナルノデアラウ、要スルニ本法ハ單ニ其比較ヲ規定スルニ過ギマセヌデ、寧ロ斯樣ナ事ハ、其實體法デアル民事訴訟法ニ規定スルコトガ適當デアラウト、斯ウ云フ答辯デアリマシタ、ソレカラ更ニ改正案ガ附加致シマシタ第二條ノ三項デアリマス、此三項ハ從來無カッタモノガ、司法代書人法ト云フモノガ出來マシタノデ、此五條ノ規定ニ——同法ノ五條ノ規定ニ依リマシテ、「地方裁判所長ノ定ムル所ニ從ヒテ司法代書人ニ仕拂ヒタル金額ハ前二項ノ定ムルモノト異ナルトキハ其額ニ依ル」ト云フ條項ガ附加サレタノデアリマス、之ニ對シマシテ委員ノ一人ハ質問ヲ致シマシタ、斯樣ナ條項ハ却テ不必要デハナイカ、司法代書人ニ仕拂ヒタル金額ト云フモノハ一定ヲ致サナイ、管內ガ違ッタリ何カ致シマスルト、斯樣ナ場合ニ訴訟費用ノ確定決定ヲ求ムルト云フコトニ至リマスト云フト、煩雜ニナニ堪ヘヌ、卽チ裁判所ハ其證據書類ノ提出ヲ求メルト云フコトニナリマスノデ、非常ニ煩雜ニナル、斯樣ナモノハ置カヌ方ガ宜イデハナイカ、斯ウ云フ意見デアリマシタ、若シ是非此規定ヲ存置スル必要ガアルト云フコトニナリマシテモ、仕拂ヒタル金額トセズ、「地方裁判所長ノ定メタル金額」ト斯ウ云フ風ニ書イタ方ガ宜クハナイカ、斯ウ云フヤウナ質問ガ出マシタ、之ニ對シマシテ政府ノ答辯ハ、本項ニ司法代書人——此本項ヲ置キマシタノハ、司法代書人ヲ保護スル精神カラ生ジタモノデアル、而シテ現時司法省令ニ於テハ、代書人ハ其作ッタ書類ニ記名捺印ヲセシムルコトニナッテ居ルガ今度ハ更ニ其仕拂ヒマシタル代書料ヲモ附記セシムル方針ト致スノデアルカラ、御問ノヤウナ煩雜ハ來タサヌ、斯ウ云フ答辯ガゴザイマシタ、今一ツノ、事柄ハ小サイ事デアリマスガ、適用上往〻疑問ヲ生ズル事項デアリマスカラ御紹介致シマス、改正案ハ現行法ノ十條ヲ削除致シマシテ、第九條ニ當事者證人ヲ併セテ規定ヲ致シマシタ此證人ノ事ニ就キ

マシテハ前ニ説明致シマシタ如ク、實費辨償趣旨ニ於キマシテ、一定シナイ方ガ却テ宜イ、裁量ノ餘地ノアッタ方ガ實際ニ副フト云フノデ判ッテ居リマスルガ當事者本人ノ場合――例ヘバ質問ノ要旨ハ、當事者本人ノ場合ト其代理ヲ致シマスル、卽チ辯護士ヲシテ代理人トシテ出願セシムル場合ノ取扱方法ト云フモノヲ區別スル方針デアルカドウカ、第二ニ統一セシムル――斯ウ云フモノハドウシテモ統一スル必要ガアラウト思フカラ、統一セシムル方法トシテ、訓令デモ發スル考デアルカドウカ、此問ニ對シマシテ政府當局ハ、當事者ト辯護士ト區別シテ取扱ハ爲サヌ、第二ノ點ハ各管内ノ相當方法ニ依ッテ、取扱上ニ違算ナキコトヲ期スル積リデアルト斯ウ云フコトデ質問應答ノ本案ノ重要ナ點ハ濟ンダノデアリマス、質問ヲ終了致シマシテ採決ニ際シマシテ、大道寺君ヨリ、同君提出ノ案ハ御撤回ニナリマシタ、ソレ故政府案ニ就キマシテ採決ヲ取リマシタ所ガ、滿場一致デ可決スベキモノト議決ニ相成リマシタ、次ハ刑事訴訟費用法案、是ハ諸君モ御承知ノ如ク、從來刑法施行法第六十二條以下ニ規定シテアリマシタモノヲ一ツノ單行法ト致シマシテ、刑事訴訟費用法トシテノ提案ニナッタノデアリマス、サウシテ此大體民事訴訟――民事訴訟費用法ト同ジ精神デアリマス、卽チ今日ノ經濟事情ニ鑑ミマシテ、相當ノ卽チ實費ヲ辨償スル不合理ノナキヤウニ努メタ法案デゴザイマス、是ニハ別ニ質問ガゴザイマセヌデアリマシタガ、一ツ質問ガ出マシタ、是ハ無罪免訴トナッタ者ニ對シテモ、之ニ對シテノ賠償ヲ同法ノ精神カラ考ヘマシテ、此法律ニ規定スベキモノト思フガドウカ、斯ウ云フ質問ニ對シマシテ政府ノ答辯ハ費用法ハ、其額ヲ定ムルニ過ギヌノデアリマス、根本ハ是デハ規定ハシナイ、斯ウ云フ一ツノ答辯デゴザイマシタ、ソレカラ今一ツ此重要ナ質問ガ出タノデアリマスガ、確カ作間君デアッタト考ヘマスルガ、同ジ裁判所ニ喚出サレルノニ起訴後ニ於キマシテカ、此適用ヲ受ケルガ起訴前ニ於ケル搜査中ノ場合ニ、檢事局出頭等ニ對スル日當等ハ、之ヲ規定スベキモノデナイト斯ウ云フヤウナ質問デアリマシタ、如何ニモ尤モナ質問デアッタノデアリマスガ、之ニ對シテハ政府ノ答辯ハ、刑事ノ訴訟費用法デアルカラ、起訴前ノ搜査費用ニ關シテハ、此所ニ規定スルコトハ甚ダ不合理ニナル且ツ現今ハ大正二年省令ニ依リマシテ、檢事搜査ノ場合ニ任意出頭致シマシタ者ニ對シテ、相當ノ日當ヲ給與ヲ致シテ居ル、斯ウ云フ答辯デゴザイマシテ、同案ノ決ヲ採リマシタ所ガ是亦原案ヲ是認致シマシタ、最後ニ執達吏規則中改正法律案、是ハ極メテ簡單ナノデアリマス、同法ノ第十九條中ニ、執達吏一年間ニ收入セシ手數料四百五十圓ニ滿タヌ時ニハ、國庫カラ其不足額ヲ支給スルト云フ規定ニナッテ居リマスノヲ、之ヲ六百圓ニ改メルト云フ簡單ナ問題デアルノデアリマス、卽チ近時經濟狀態ノ膨脹ニ伴ヒマシテ、此金額ヲ六百圓ニ改メルト云フ簡單ナ問題デアルノデアリマス、又附則ノ但書ハ恩給關係ニ於テ、必然規定ヲ要シマスルニ至ッタ一ツノ法案ニ過ギヌノデゴザイマス、是亦委員會ハ滿場一致デ原案ヲ是認致シマシタ、此段御報告致シマス、

院議異議ナク三案ノ第二讀會ヲ開クニ決シ引續キ第二讀會ヲ開キ第三讀會ヲ省略シテ各原案ノ通可決確定シ卽日三案全部ヲ貴族院ニ送付ス同院ハ三月二十二日可決奏上シ三月三十日法律第二十六號(二五)四月十二日法律第六十七號(四三)法律第六十八號(四四)ヲ以テ公布セラル

二六　獨逸國等トノ平和條約賠償條項ニ基キ受領シタル賠償物件ノ輸入稅免除ニ關スル法律案

獨逸國等ノ平和條約賠償條項ニ基キ受領シタル賠償物件ニシテ政府ノ輸入スルモノノ輸入稅ハ之ヲ免除ス

附　則

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

右ハ十年二月九日本院ニ之ヲ提出ス二月十日本案ノ第一讀會ヲ開キ神野政府委員ハ左ノ如ク趣旨ヲ辯明セリ

平和條約ニ基キマシテ、獨逸國等ヨリ我國ガ受取ルベキ賠償金ヲ整理致シマスル爲メニ、特別會計ガ設ケテアルノデアリマス、其賠償金ハ現物ヲ以テ受取ルモノガアルノデアリマス、我國ニ於キマシテハ、船舶、染料、藥品等デアリマス、是ハ極ク臨時ノモノデアリマシテ、又輸入税ヲ拂ヒマシテモ、均シク國カラ國ヘ收納スルノデアリマスルカラ、此物ハ輸入税ヲ免除致シタイト云フ法律案デアリマス、御審議ノ上御協贊ヲ願ヒマス

次テ委員ノ選擧ハ議長指名(十八名)ニ決シ即日議長之ヲ指名ス委員ハ同月十二日委員會ヲ開キ委員長及理事ノ互選ヲ行ヒ審査ノ末原案ヲ可決スヘキモノト決シ二月十八日報告書ヲ議長ニ提出セリ二月十九日再ヒ本案ノ第一讀會ノ續會ヲ開キ委員長清崟太郎君ハ委員會ノ經過及結果ニ付左ノ報告ヲ爲ス

本案ハ名稱ハ極メテ長クアリマスルガ、事柄ハ極メテ簡單デアリマス即チ、平和條約中ノ賠償條項ニ於キマシテ、獨逸國等ヨリ受領スル物件ガアリマス、即チ其物件ハ船舶、染料、藥品ノ三種デアリマス、此三種ノ品物ハ既ニ其幾部分ガ我國ニ到著致シテ居リマスカラ、之ヲ處分スルニハ勢ヒ輸入税ヲ拂ハナケレバナラヌ、併ナガラ政府ガ納入スルト云フコトガ煩雜ノ手數デアリマスルガ故ニ、之ヲ免除シヤウト云フ案デアリマス、委員會ニ於キマシテハ、一人ノ異議ナク可決スベキモノト決定ヲ致シマシタガ、唯ダ問題トナルベキ點ハ、此三種ノ物件ノ中デ染料或ハ藥品ノ二ツノモノヲ處分スルニ方リマシテ、其方法ノ如何ニ依ッテハ輸入業者及關係者ニ影響ヲ及ボス所ガ少クナイト顧慮致シマシテ、此點ニ就キマシテ、今泉君、鈴木君、吉川君等ヨリ懇切ノ御質問ガアリマシタ、政府ハ之ニ對シテ、是等ノ物件ヲ處分スルニ方リマシテハ、十分ナル注意ヲ拂ヒマシテ、當業者ノ迷惑ニ關スルヤウナ事ハシナイ積リデアアル、固ヨリ或ル品物ヲ賣拂フノデアリマスカラ、絶對ニ影響ナシトハ申サレヌ、併ナガラ十分ナル注意ヲ拂ッテ、當業者ノ迷惑ヲ來スヤウナ事ハシナイト云フ聲明ノ下ニ、全會一致可決致シマシタ譯デアリマス、此段御報告申上ゲマス

院議異議ナク本案ノ第二讀會ヲ開クニ決シ引續キ第二讀會ヲ開キ第三讀會ヲ省略シテ原案ノ通可決確定シ即日之ヲ貴族院ニ送付ス同院ハ三月八日可決奏上シ三月十五日法律第四號ヲ以テ公布セラル

二七　大學特別會計法案

大學特別會計法

第一條　帝國大學ハ各別ニ、其ノ他ノ官立大學ハ之ヲ通シテ一ノ特別會計ヲ立テ資金ヲ所有シ政府ノ支出金、資金ヨリ生スル收入、授業料、寄附金其ノ他ノ收入ヲ以テ其ノ一切ノ歲出ニ充テシム

第二條　前條ノ政府支出金ハ東京帝國大學ニ在リテハ每年度二百九十五萬三千三百五圓、京都帝國大學ニ在リテハ每年度百七十一萬五千四百二十八圓トシ其ノ他ノ帝國大學及官立大學ニ

在リテハ毎年度豫算ノ定ムル所ニ依リ一般會計ヨリ之ヲ繰入ルヘシ

東京帝國大學ニ在リテハ前項ノ金額ノ外航空ニ關スル研究ノ費用ニ充ツル爲必要ナル金額ヲ毎年度豫算ノ定ムル所ニ依リ一般會計ヨリ繰入ルルコトヲ得

第三條　各帝國大學及官立大學ノ資金ハ政府ヨリ交付シ又ハ他ヨリ寄附シタル動產及不動產竝歲入殘餘ヨリ成ル但シ官立大學ニ在リテハ第七條ノ施行豫算ノ歲入殘餘ニシテ資金ニ編入シタルモノハ官立大學毎ニ區分シ之ヲ整理スヘシ

第四條　大學ノ歲出ニ充ツル爲必要アルトキハ其ノ資金ヲ支消スルコトヲ得但シ用途指定ニ係ル資金ニ付テハ用途指定者ノ同意ヲ得ルコトヲ要ス

第五條　政府ハ毎年各帝國大學及官立大學ノ特別會計ノ歲入歲出豫算ヲ調製シ歲入歲出ノ總豫算ト共ニ之ヲ帝國議會ニ提出スヘシ

第六條　大學特別會計ノ豫算中ニハ豫備費ヲ設クヘシ但シ東北帝國大學、九州帝國大學、北海道帝國大學及官立大學ノ特別會計豫算ニ在リテハ此ノ限ニ在ラス

第七條　文部大臣ハ歲入歲出豫算決定ノ後豫備費ヲ除クノ外各大學毎ニ歲入歲出ノ施行豫算ヲ調製シ當該大學ノ總長又ハ學長ヲシテ之ヲ施行セシムヘシ

文部大臣ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ前項以外ノ者ヲシテ歲入歲出豫算ノ一部ヲ施行セシムルコトヲ得

第八條　大學ニ於テ外國ヨリ直接ニ圖書、機械、標本又ハ實驗用材料ノ買入ヲ爲ス場合ニハ前金拂ヲ爲スコトヲ得

第九條　寄附金ニシテ特ニ用途ヲ指定シタルモノハ其ノ條件ニ從ヒ之ヲ使用スヘシ

第十條　奬學ヲ目的トスル寄附金ハ之ヲ當該大學ニ交付シ總長又ハ學長ニ經理ヲ委任スルコトヲ得

第十一條　委任經理ニ係ル會計ノ檢査ハ會計檢査院法第十六條ノ規定ニ依ル

第十二條　官立大學ニ屬スル收入ヲ以テ其ノ歲出ヲ支辨シ別ニ政府支出金ヲ要セサルニ至リタルトキハ當該大學ノ爲ニ特別會計ヲ設クルモノトス

第十三條　大學特別會計ノ收入支出ニ關スル規程ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第十四條　官立大學ノ創設費ハ第一條ノ規定ニ拘ラス一般會計ノ所屬トス

第十五條　官立大學特別會計ノ設置及官立大學ノ創設ニ付一般會計及學校及圖書館特別會計ニ關涉シ必要ナル規定ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

附　則

本法ハ大正十年度ヨリ之ヲ施行ス

帝國大學特別會計法及大正七年法律第四號ハ之ヲ廢止ス但シ大正九年度分ニ付テハ仍其ノ効力ヲ有ス

他ノ法律ニ於テ帝國大學特別會計法トアルハ大學特別會計法トス

仙臺高等工業學校ノ設置ニ付東北帝國大學特別會計及學校及圖書館特別會計ニ關渉シ必要ナル規定ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

二八 大正八年法律第十二號中改正法律案

大正八年法律第十二號中左ニ通改正ス

「工學部ノ擴張ヲ爲ス」ヲ「工學部ノ擴張並傳染病研究所ニ於ケル研究事項增加」ニ、「百八十萬圓ヲ」ヲ「二百四十七萬圓ヲ大正八年度乃至大正十三年度ニ亙リ」、ニ「八十三萬千二百七十一圓」ヲ「百六萬五千六百五十二圓」ニ、「帝國大學特別會計法第二條」ヲ「大學特別會計法第二條」ニ、「擴張ニ伴ヒ」ヲ「東京帝國大學及京都帝國大學ノ擴張ニ伴ヒ」ニ改ム

右兩案ハ孰レモ十年二月九日本院ニ之ヲ提出ス二月十日兩案ヲ一括シテ第一讀會ヲ開キ中橋國務大臣ハ左ノ如ク趣旨ヲ辯明セリ

此大學特別法案ヲ提出致シマシタノハ、從來帝國大學特別法ト云フモノデ實行致シテ來マシタガ、今度單科大學ガ出來マシタニ就キマシテ、綜合大學ニ對スルモノト、單科大學ニ對スルモノト一括シテ、大學特別會計法案ヲ提出シタ譯デアリマス、尙ホソレヲ加ヘマシテ、今回東京、京都ノ兩帝國大學ニ對シ定款ヲ增加致シマスルノデ、其繰入ノ爲メニモ此改正ヲ致ス譯デアリマス、ソレカラ次ニ大正八年法律第十二號中改正法律案、是ハ東京帝國大學京都帝國大學ニ於キマシテ、精神病室ノ新營ヲ致シマス、又傳染病研究所ノ建物ノ新築ヲ致シマス、ソレカラ今回臨海實驗所ヲ設ケテ、地質鑛物學ノ講室ノ新營費ヲ補足致シマス、又醫學部ノ擴張ヲ致シマスノデ資金ノ繰入ヲナスガ爲メニ、此改正ヲ要スル譯デアリマス、ドウゾ御審議ノ上御贊成ヲ願ヒマス

次テ委員ノ選擧ハ議長指名(九名)ニ決シ即日議長之ヲ指名ス委員ハ同月十二日委員會ヲ開キ委員長及理事ノ互選ヲ行ヒ審査ノ末各原案ヲ可決スヘキモノト決シ二月十九日報告書ヲ議長ニ提出セリ

二月二十二日再ヒ兩案ヲ一括シテ第一讀會ノ續會ヲ開キ委員長長峰與一君ハ委員會ノ經過及結果ニ付左ノ報告ヲ爲ス

此兩法案ハ時代ノ要求ニ伴ヒマシテ、最高學府ノ敎育振作擴張ニ關スル法案デアリマシテ、今回ノ改正ハ最モ時宜ニ適シタルモノトシテ、滿場一致原案ノ通リ可決確定致シタノデアリマス、以上報告ヲ致シマス

院議異議ナク兩案ノ第二讀會ヲ開クニ決シ引續キ第二讀會ヲ開キ第三讀會ヲ省略シテ各原案ノ通可決確定シ即日兩案全部ヲ貴族院ニ送付ス同院ハ三月十九日可決奏上シ三月三十日法律第十一號

(二七) 法律第十二號(二八)ヲ以テ公布セラル

二九　朝鮮醫院及濟生院特別會計法中改正法律案

朝鮮醫院及濟生院特別會計法中左ノ通改正ス

第二條中「九十二萬圓」ヲ「百十四萬圓」ニ改ム

右ハ十年二月十四日本院ニ之ヲ提出ス二月十五日本案ノ第一讀會ヲ開キ水野政府委員ハ左ノ如ク趣旨ヲ辯明セリ

本案ノ提出ノ理由ヲ簡單ニ說明致シマス、又朝鮮ニ於キマシテハ、既定計畫ニ掛リマス慈惠醫院十三箇所ノ中、三箇所ヲ明年度ヨリ開始スル豫定デアリマス、又朝鮮ノ實況ニ於キマシテ今日看護婦助產婦等ノ必要ヲ認メテ居リマスルガ、之ガ養成ヲ致スト云フコトガ極メテ必要デアリマス、之ニ對シマスル費用モ要ルノデアリマス、又次ニ濟生院ニ於キマシテ孤兒ヲ收容シテ居リマスルガ、來年度ニ於テ此收容人員ヲ增シマスルノト、收容ノ期間ヲ延長致シマスル必要ガアリマスルノデ、是ニモ亦相當ノ費用ヲ要スルノデアリマス、是等ノ費用ヲ支出致シマスルガ爲メニハ醫院ノ收入ヲ以テスル、更ニ、更ニ政府ノ支出金ヲ增ノ必要ガアルノデアリマス、而シテ此朝鮮醫院及濟生院特別會計法ニ於キマシテハ、法定ノ金額ガ九十二萬圓トナッテ居ルノデアリマス、之ヲ增額スル必要ガアリマスノデ、九十二萬圓ニ對シマシテ、二十二萬圓ヲ增加セネバナラナイ卽チ此點ニ於キマシテ、此法律ヲ改正スル必要ヲ認メマシタガ故ニ、九十二萬圓ヲ百十四萬圓ニスルト云フ法案ガ此法案ノ趣旨デアルノデアリマス、極メテ簡單ノ案デアリマスルカラ、ドウゾ御協贊アランコトヲ希望致シマス

次テ委員ノ選擧ハ議長指名(九名)ニ決シ卽日議長之ヲ指名ス委員ハ翌十六日委員會ヲ開キ委員長及理事ノ互選ヲ行ヒ審査ノ末原案ヲ可決スヘキモノト決シ二月二十二日報告書ヲ議長ニ提出セリ

同日議事日程ヲ變更シ再ヒ本案ノ第一讀會ノ續會ヲ開キ委員長八木逸郎君ハ委員會ノ經過及結果ニ付左ノ報告ヲ爲ス

朝鮮醫院及濟生院特別會計法中改正法律案ノ委員會ノ結果ヲ御報告致シマス、出席委員全體ハ異議ナク可決ヲ致シマシタ、質問ハアリマシタケレドモ此報告ハ避ケマス、唯ダ希望ハ朝鮮人ヲ施療スルコトヲ成ベク多クシテ貰ヒタイト云フコトノ希望ニ依ッテ滿場此案ヲ可決致シマシタ此段御報告致シマス

院議異議ナク讀會ノ順序ヲ省略シテ原案ノ通可決確定シ卽日之ヲ貴族院ニ送付ス同院ハ三月五日可決奏上シ三月三十日法律第十號ヲ以テ公布セラル

三〇　軍用自動車補助法中改正法律案

軍用自動車補助法中左ノ通改正ス

第二條第一項ヲ左ノ如ク改ム

補助金ヲ受クルコトヲ得ヘキ製造者又ハ所有者ハ內地、朝鮮、臺灣、樺太、關東州又ハ南滿洲鐵道附屬地ニ存在スル自動車製造所又ハ自動車ヲ有スル帝國臣民又ハ帝國法令ニ依リ設立シタル法人ニ限ル但シ社團法人ハ株式會社ニ在リテハ其ノ資本ノ半額以上及議決權ノ過半數カ帝

國臣民ニ屬スルモノ其ノ他ノ社團法人ニ在リテハ其ノ總社員カ帝國臣民ナルモノナルコトヲ要ス

第三條中「一英噸」ヲ「四分ノ三佛噸」ニ改ム

第四條中「二千圓」ヲ「三千圓」ニ改ム

第六條中「三百圓」ヲ「六百圓」ニ改ム

第十條中「之ヲ輸出シ」ヲ「主務大臣ノ許可ヲ受ケタル場合ヲ除クノ外之ヲ第二條第一項ニ掲クル地域ノ外ニ輸出シ」ニ改ム

附則

本法ハ大正十年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

右ハ十年二月十四日本院ニ之ヲ提出ス二月十五日本案ノ第一讀會ヲ開キ山梨政府委員ハ左ノ如ク趣旨ヲ辯明セリ

本案提出ノ理由ヲ申上ゲマス、軍用自動車補助法ノ實施後ノ狀況ニ鑑ミマシテ、此補助金ヲ受クルコトヲ得ベキモノヽ範圍ヲ擴張致シマスルト、又物價騰貴ニ伴ヒマシテ、補助金額ヲ增加スル等ノ必要ガ生ジマシタ爲メニ、同法中ニ改正ヲ加ヘタ次第デアリマス、ドウカ御審議ノ上御協贊ヲ願ヒマス

次テ本案ハ三善淸之君外五名提出航空事業ノ擴張及其ノ行政機關ノ統一ニ關スル建議案(八)委員ニ併セ付託スルニ決ス委員ハ審査ノ末原案ヲ可決スヘキモノト決シ二月二十四日報告書ヲ議長ニ提出セリ

翌二十五日再ヒ本案ノ第一讀會ノ續會ヲ開キ委員長菅原傳君ハ委員會ノ經過及結果ニ付左ノ報告ヲ爲ス

本案改正ノ要點條項ハ第二條、第三條、第四條、第六條、第十條ノ五箇條デアリマス、而シテ此改正ヲ要スル趣旨ハ、大別シテ三點デアリマス、第一ハ此區劃範圍ヲ擴張スルノデアリマス、卽チ內地、朝鮮、臺灣、樺太ソレニ、關東州、南滿洲ノ鐵道會社所屬地等斯ウ區域ヲ擴メ、且又株式會社ニモ及ボスノデアリマスガ、株式ヲ外人ガ所有シテモ宜シイト云フヤウニ範圍ヲ擴ゲタノデアリマス、第二點ハ自動車ノ積載量ヲ輕減シタノデス、詰リ幾分カ小サイ自動車ニモ補助ヲ與ヘルト云フコト、第三點ハ補助金額ノ增加デアリマス、是等ノ諸點其他ニ就テモ質問應答ガアッタノデアリマスガ、質問ノ中ニハ斯ウ云フコトモアッタノデアリマス、斯ノ如ク二三ノ改正ヲ致シテ、帝國ノ今日ノ道路ノ惡イコト、橋梁ナドノ至ッテ鞏固デナイ爲メニ、自動車ノ發達ヲ阻碍スル嫌ハナカラウカ、又此二三ノ規則改正ノミデハ不滿足デナカラウカ、此法律施行以來、自動車ノ構造其他非常ナル進步發達ヲシテ居ルノデアルカラ、之ニ適應スル所ノ法律ヲ全部改正スルコトガ必要デナカラウカト云フヤウナコトモアッタノデアリマスガ、是等ニ對スル政府ノ說明ニ依リマスレバ、道路ガ惡イ橋梁モ弱イ、之ガ爲メニ自動車ノ發達ヲ見ル點ニ於テ遺憾ハアル、質問者ト同感デアル、サリナガラ是等ノ事ハ道路法ノ設定ニ依リ、漸次道路ノ改善橋梁等ノ改善ニ俟ツヨリ外ハナイノデアル、差當ッタ所デハ先ヅ車ヲ小サクシテ、丁度此三條ノ改正案ニモアルガ如ク、今日マデ英一噸ト致シマシタノヲ、四分三佛噸ニ輕減シタヤウナ次第デ、斯ク自動車ヲ小サクシテ補助シタナラバ、餘程奬勵ニモナリ、多クナルト云フ點カラ斯ノ如キ改正ヲシタノデアル斯ウ云フ譯デアリマス、又全體ノ法律ノ改正ト云フコトニ就テハ、一應尤ナヤウニモ思フノデア

リマスケレドモ、ソレ程全部ト云フ必要モナカラウ、細則等モ追〻ト改正スル積リデアルカラシテ、サスレバ法ノ適用、規則ノ活用ニ依ッテハ、是ニテ今日ノ所十分デアラウト云フ政府ノ言明デアッタノデアリマス、更ニ第二條ノ改正デアリマスガ、區域ヲ廣クスルト云フコトハ、是ハ帝國ノ進運ニ伴ウテ、關東州ナリ、或ハ滿洲鐵道附屬地等ニモ、此補助ヲ希望スル製造者所有者等ノ追〻ト願出ル人モ多クナルノデアリマスカラ、是ハ自然ノ結果トシテ此法律ヲ出スコトハ當然デアル、ソレカラ株式會社ノ外人ト云フコトデアリマスガ、今日ノ場合追〻ト此製造業者ナリ所有者ガ、法人ニ傾イテ來ル場合デアルカラシテ、其株式會社ノ中ニハ外國人ガアッテモ宜イデハナカラウカ、併シ大體此資本ヲ帝國ノ臣民ガ過半數ヲ占メ、サウシテ議決權モ過半數デアッタナラバ、帝國ノ法律ヲ執行スルニ於テ何ノ支障モナイカラシテ、是ハ外人ニモ一部ヲ持タシメルコトハ差支ナイト云フ譯デ、是ダケノ改正ガアッタノデアル、勿論社團法人トシテモ、當前ノ社團法人ハ總社員ガ帝國臣民デナケレバナラヌト云フコトニ今日ハ止メテ置クト云フ譯デアリマス、其次ニ補助金增加ト云フコトハ、是ハ今日物價ノ騰貴ト自然ノ道行デ、已ムヲ得ナイ事ト思フノデアリマス、又外國ノ關係等ニ就テモ述ベマシタガ、是ハ要スルニ物價ノ騰貴等ヨリシテ、製造者ニ二千圓ヲ三千圓ト增シ、使用者持主ニ、三百圓ヲ六百圓ト增スト云フコトデアリマス、大體是等ノ說明デアリマシタガ、委員ハ之ヲ諒トシテ全會一致ヲ以テ可決シタ次第デアリマス、此段御報告致シマス、尙ホ更ニ附加ヘテ置キタイ事ハ、此十條ノ事ヲ申上ゲナイデ置キマシタケレドモ、是ハ自然ノ結果デアリマスカラ、別ニ理窟ハアリマセヌ

院議異議ナク本案ノ第二讀會ヲ開クニ決シ引續キ第二讀會ヲ開キ第三讀會ヲ省略シテ原案ノ通可決確定シ卽日之ヲ貴族院ニ送付ス同院ハ三月十九日可決奏上シ三月三十日法律第二十四號ヲ以テ公布セラル

三一　水產會法案

水產會法

第一條　水產會ハ水產ノ改良發達ヲ圖ルヲ目的トス

第二條　水產會ハ法人トス

第三條　水產會ハ營利事業ヲ爲スコトヲ得ス

第四條　政府ハ其ノ定ムル條件ヲ具備スル水產會ニ豫算ノ範圍內ニ於テ補助金ヲ交付スルコトヲ得

第五條　水產會ハ水產業ニ關スル事項ニ付行政廳ニ建議スルコトヲ得

水產會ハ行政廳ノ諮問ニ對シ答申スヘシ

第六條　行政官廳ハ命令ノ定ムル所ニ依リ水產會ニ對シ水產業ニ關スル報告書ノ提出及水產業ニ關スル事項ノ調査ヲ命スルコトヲ得

第七條　水產會ハ郡市水產會、道府縣水產會及帝國水產會トス

第八條　水產會ノ地區ハ郡市水產會ニ在リテハ特別ノ事由アル場合ヲ除クノ外郡市、道府縣水產會ニ在リテハ道府縣、帝國水產會ニ在リテハ內地ノ區域ニ依ル

第九條　水產會ノ名稱ニハ郡市若ハ市水產會、道、府若ハ縣水產會又ハ帝國水產會ナル文字ヲ用

キルヘシ但シ郡市水産會ノ地區カ都市ノ區域ニ依ラサルトキハ其ノ名稱中ニ郡又ハ市ノ文字ヲ用ヰサルコトヲ得

本法ニ依リ設立シタル水産會ニ非サレハ其ノ名稱中ニ前項ニ掲クル文字ヲ用フルコトヲ得ス

第十條　水産會ハ郡市水産會ニ在リテハ命令ヲ以テ規定シタル者ヲ除クノ外其ノ地區内ニ於テ漁業又ハ水産物ノ製造、取引若ハ保管ノ業ヲ營ム者及其ノ地區内ニ於ケル漁業權又ハ入漁權ヲ有スル者、道府縣水産會ニ在リテハ其ノ地區内ノ郡市水産會、帝國水産會ニ在リテハ道府縣水産會ヲ以テ之ヲ組織ス

第十一條　水産會ヲ設立セムトスルトキハ其ノ地區内ノ會員タル資格ヲ有スル者ノ三分ノ二以上ノ同意ヲ得テ創立總會ヲ開キ會則ヲ議定シ行政官廳ノ認可ヲ申請スヘシ

郡市水産會ノ設立ニ關シ前項ニ規定スル會員タル資格ヲ有スル者ノ員數ノ計算ニ付テハ漁業權又ハ入漁權ノ共有ノ場合ニ於テハ其ノ漁業權者又ハ入漁權者ハ之ヲ一人ト看做シ、一人ニシテ前條ニ掲クル二以上ノ資格ヲ有スル者ハ之ヲ一人トス

第十二條　水産會ハ設立ノ認可ヲ受ケタル時成立ス

第十三條　水産會成立シタルトキハ其ノ地區内ノ會員タル資格ヲ有スル者ハ總テ之ニ加入シタルモノト看做ス但シ特別ノ事由ニ依リ行政官廳ノ認可ヲ受ケタル者ハ此ノ限ニ在ラス

第十四條　郡市水産會ニ總代會、其ノ他ノ水産會ニ總會ヲ置ク

總代會ハ命令ノ定ムル所ニ依リ會員ノ選任シタル議員及特別議員ヲ以テ之ヲ組織ス

總會ハ命令ノ定ムル所ニ依リ其ノ會員タル議員及特別議員ヲ以テ之ヲ組織ス

第十五條　水産會ハ會則ノ定ムル所ニ依リ議員定數ノ五分ノ一ヲ超エサル特別議員ヲ置クコトヲ得

行政官廳ハ水産會ノ特別議員ヲ命スルコトヲ得但シ其ノ員數ハ議員數定ノ五分ノ一ヲ超ユルコトヲ得ス

第十六條　左ニ掲クル事項ハ總代會又ハ總會ノ議決ヲ經ヘシ

一　收支豫算

二　經費ノ分賦收入方法

三　事業報告及收支決算ノ承認

四　豫算ヲ以テ定メタルモノヲ除クノ外新ニ義務ヲ負ヒ又ハ權利ヲ失フヘキ行爲

五　基金ノ造成管理及處分

六　不動産ニ關スル權利ノ得喪及變更

七　會則ノ變更

八　役員及特別議員ノ選任及解任

九　訴願、訴訟、及和解

前項第一號、第二號、第四號、第七號及第八號ニ掲クル事項ノ決議ハ行政官廳ノ認可ヲ受クルニ非サレハ其ノ效力ヲ生セス

第十七條　總代會又ハ總會ハ會長之ヲ招集ス但シ第一回ノ總代會又ハ總會ハ水產會成立シタルトキ遲滯ナク設立申請者之ヲ招集スヘシ

議員又ハ特別議員ハ議員及特別議員ノ總數ノ五分ノ一以上ノ同意ヲ得テ會議ノ目的タル事項及招集ノ事由ヲ記載シタル書面ヲ提出シ總代會又ハ總會ノ招集ヲ請求スルコトヲ得

會長正當ノ事由ナクシテ項前ノ規定ニ依ル請求アリタル後十四日以內ニ總代會又ハ總會ヲ招集セサルトキハ請求者ハ行政官廳ノ認可ヲ受ケ之ヲ招集スルコトヲ得

第十八條　議員及特別議員ハ總代會又ハ總會ニ於テ各一個ノ議決權ヲ有ス

第十九條　總代會及總會ノ議事ハ本法ニ別段ノ定アル場合ヲ除クノ外出席者ノ議決權ノ過半數ヲ以テ之ヲ決ス

第二十條　會則ノ變更ハ總代會又ハ總會ニ於テ之ヲ組織スル者半數以上出席シ出席者ノ議決權ノ三分ノ二以上ヲ以テ之ヲ議決ス

郡市水產會ノ會則ノ變更カ地區ノ增減ニ關スルトキハ前項ノ規定ニ依ル議決ノ外新ニ編入又ハ削除セラルヘキ區域內ノ會員タル資格ヲ有スル者又ハ會員ノ三分ノ二以上ノ同意アルコトヲ要ス

前項ニ規定スル會員タル資格ヲ有スル者又ハ會員ノ員數ノ計算ニ付テハ第十一條第二項ノ規定ヲ準用ス

第二十一條　水產會ニ左ノ役員ヲ置ク

會　長　一人

副會長　一人又ハ二人

評議員　數人

役員ハ郡市水產會ニ在リテハ總代會ニ於テ其ノ會員中ヨリ其ノ他ノ水產會ニ在リテハ總會ニ於テ其ノ議員中ヨリ選任ス但シ特別ノ事由アル場合ニ於テハ會員又ハ議員ニ非サル者ヨリ之ヲ選任スルコトヲ得

第二十二條　會長ハ水產會ヲ代表シ會務ヲ總理ス

副會長ハ會長ヲ補佐シ會長事故アルトキ其ノ職務ヲ代理ス

副會長ハ會則ノ定ムル所ニ依リ會長ノ職務ノ一部ヲ分掌スルコトヲ得

評議員ハ會長ノ諮問ニ應シ並會務ノ執行及財産ノ狀況ヲ監査ス

第二十三條　總代會又ハ總會ノ議決ヲ經ヘキ事項ニシテ臨時急施ヲ要シ總代會又ハ總會ヲ招集スルノ暇ナシト認ムルトキハ會長ハ會則ノ定ムル所ニ依リ專決處分スルコトヲ得但シ第十六條第二項ノ事項ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

前項ノ場合ニ於テハ會長ハ次ノ總代會又ハ總會ニ於テ其ノ承認ヲ求ムヘシ

第二十四條　水産會ハ會則ノ定ムル所ニ依リ委員會ヲ置クコトヲ得

左ニ掲クル者ヲ以テ委員トス

一　會長

二　副會長

三　會則ニ定メタル方法ニ依リ選任シタル者

第二十五條　委員會ハ仲裁判斷其ノ他會則ニ定ムル事項ニ關シ審議決定ス

第二十六條　水産會ハ會則ノ定ムル所ニ依リ其ノ會員ニ對シ經費ヲ分賦シ及過怠金ヲ徵收スルコトヲ得

郡市水産會ノ經費又ハ過怠金ヲ滯納スル者アル場合ニ於テハ其ノ會長ノ請求アルトキハ市町村ハ市町村税ノ例ニ依リ之ヲ處分ス此ノ場合ニ於テ水産會ハ其ノ徵收金額ノ百分ノ四ヲ市町

村ニ交付スヘシ

前項ノ規定スル徵收金ノ先取特權ノ順位ハ市町村其ノ他之ニ準スヘキモノノ徵收金ニ次クモノトス

經費ノ分賦又ハ過怠金ノ徵收ニ關シテハ勅令ノ定ムル所ニ依リ異議ノ申立、訴願及行政訴訟ヲ爲スコトヲ得

第二十七條　帝國水産會ハ農商務大臣ノ認可ヲ受ケ朝鮮、臺灣、樺太、關東州又ハ外國ニ於テ設立シタル水産會ニ準スル法人其ノ他ノ團體ヲ會員ト爲スコトヲ得

第二十八條　行政官廳ハ水産會ニ對シテ事實ニ關スル報告ヲ爲サシメ業務ノ執行又ハ財産ノ狀況ヲ檢査シ會則、收支豫算又ハ經費ノ分賦及收入ノ方法ノ變更ヲ命シ其ノ他監督上必要ナル命令又ハ處分ヲ爲スコトヲ得

第二十九條　行政官廳ハ水産會ノ總代會、總會若ハ委員會ノ決議又ハ役員若ハ委員ノ行爲ニシテ法令若ハ會則ニ違反シ又ハ公益ヲ害シ若ハ害スルノ虞アリト認ムルトキハ決議ヲ取消シ、役員若ハ委員ヲ解任シ、議員ノ改選ヲ命シ水産會ノ事業ヲ停止シ又ハ水産會ノ解散ヲ命スルコトヲ得

第三十條　水産會解散又ハ合併若ハ分割ヲ爲サムトスルトキハ會員ノ三分ノ二以上ノ同意ヲ得

テ其ノ事由ヲ具シ尚分割ノ場合ニ於テハ分割ノ各水産會ノ會員又ハ會員タル資格ヲ有スル者ノ三分ノ二以上ノ同意ヲ得且水産會ノ權利義務ノ限度ヲ定メ農商務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

前項ニ規定スル會員又ハ會員タル資格ヲ有スル者ノ員數ノ計算ニ付テハ第十一條第二項ノ規定ヲ準用ス

第三十一條　水産會ハ債權者ノ同意ヲ得又ハ異議アル債權者ニ對シ辨濟ヲ爲シ若ハ相當ノ擔保ヲ供スルニ非サレハ水産會ノ解散、合併若ハ分割ヲ爲シ地區ノ增減ニ關スル會則ノ變更ヲ爲スコトヲ得ス

第三十二條　合併後存續スル水産會又ハ合併ニ因リテ設立シタル水産會ハ合併ニ因リテ消滅シタル水産會ノ權利義務ヲ承繼ス

分割ニ因リテ設立シタル水産會ハ第三十條ノ規定ニ依リテ定マリタル限度ニ於テ從前ノ水産會權利義務ヲ承繼ス

第三十三條　水産會ハ解散ノ後ト雖清算ノ目的ノ範圍ニ於テハ尚存續スルモノト看做ス

第三十四條　水産會解散シタルトキハ會長及副會長ヲ以テ其ノ清算人トス但シ會則ニ別段ノ定アルトキ又ハ總代會若ハ總會ニ於テ選任シタル者アルトキハ此ノ限ニ在ラス

前項ノ規定ニ依リ清算人タル者ナキトキハ行政官廳清算人ヲ選任ス清算人闕ケタルトキ亦同シ

第三十五條　清算人ハ水産會ヲ代表シ清算ヲ爲スニ必要ナル一切ノ行爲ヲ爲ス權限ヲ有ス

清算ノ方法ニ付テハ行政官廳ノ認可ヲ受クヘシ

第三十六條　行政官廳ニ於テ必要ト認ムルトキハ清算ノ方法及財産處分ノ變更ヲ命シ又ハ清算人ヲ解任スルコトヲ得

第三十七條　本法ニ於テ郡市町村トアルハ郡制市町村制ヲ施行セサル地ニ在リテハ之ニ準スヘキモノトス

附　則

本法ノ施行期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

本法施行ノ際現ニ存スル水産組合及水産組合聯合會ハ命令ノ定ムル所ニ依リ農商務大臣ノ認可ヲ受ケ本法ニ依ル水産會ト爲スコトヲ得

右ハ十年二月十八日本院ニ之ヲ提出ス二月十九日本案ノ第一讀會ヲ開キ田中政府委員ハ左ノ如ク趣旨ヲ辯明セリ

簡單ニ水産會法案提出ノ理由ヲ申上ゲマス、申上ゲルマデモナク我國ハ四面環海、而シテ水産業ト申シマスルノハ、我ガ國民生活ニ密接ナル關係ヲ有ッテ居ル事業デアリマス、其等ノ事情ヨリ

致シマシテ、沿岸到ル處ニ漁村ハ生成セラレマシテ、農村ト相併立シテ、特別ノ發展ヲ致シツヽアル譯デアリマス、尚又此漁場ト申シマスノハ、其通ノ場所ニナッテ居リマスノデ、サウ云フ特殊ノ關係カラシテ、種々複雜致シマシタ事故モ往々ニシテ起ルコトハ、是亦御承知ノ通リデアリマス、是等ノ理由ヨリ致シマシテ、恰モ農業ニ就テ農會ト云フモノガアルヤウナ工合ニ、此農會ノ方法ニ準ジマシテ、水産業ニ就テモ、系統アリ統一アル自治機關ヲ設ケタイト云フノガ、此法案ノ起リマシタ骨子デアリマス、而シテ此法案ニ於キマシテハ、市郡ト云フモノヽ水産會ヲ單位ト致シマシテ、其上ニ府縣ノ水産會アリ、又其上ニ帝國水産會ト云フモノガ出來ルヤウニナッテ居リマス、而シテ其單位ヲ形造ル水産會ハ、主トシテ漁業者、又其漁業製造業者、又其漁産物ヲ取引スル者、或ハソレヲ保管スル者ト云フヤウナ、此漁業ニ關係アル各當事者ヲ集メテ、唯今申上ゲマシタ單位ノ、市ノ水産會、或ハ郡ノ水産會ヲ造リマシテ、順次ニ系統ヲ逐ウテ、帝國水産會ト云フモノニマデ上セテ參リマス譯デアリマス、我國ノ水産業ハ追々發展ヲ遂ゲマシテ、大ニ成績ノ見ルベキモノガアリマスコトハ、是亦御承知ノ通リデアリマスケレドモ、尚ホ將來ニ亙リマシテ、益々其改善ヲ圖ラナケレバナラヌ事項モ多々アリマス次第デアリマス、ソレ故ニ此系統的ノ有力ナル自治機關ヲ設ケマシテ、其機關ノ自奮努力ト官廳行政ノ施設ト相俟ッテ大ニ此産業ノ發展ニ資シマシテ、産業國策ノ徹底ノ一端ニ致シタイト云フノガ此目的デアリマス、ドウゾ御審議ノ上御協贊ヲ與ヘラレンコトヲ切望致シマス

高草美代藏君ハ質疑ヲ爲シ田中政府委員之ニ應答ス

高草美代藏君ノ質疑

唯今議題トナリマシタル水産會法ニ就テ、農商務次官カラ其提出理由ノ大體ヲ御説明ニナリマシテ、略〻其要領ヲ得タノデアリマス、實ハ此水産會法ノ問題ハ水産當業者ノ側ヨリ申シマスルト、既ニ十餘年前ノ希望デアリマシテ、實ハ彼ノ御承知ノ全國ノ水産大會ニ於キマシテモ、年々當議會ニモ請願ヲ致シ、尚ホ政府ニモ年々引續イテ請願ヲ致シテ居ル問題デアリマシテ、實ハ今日提出サルヽト云フコトハ其晩キノ憾ガアルノデアリマス、併ナガラ假令晩シト雖モ、當業者ガ多年希望致シテ居ル問題デアリマスカラ、爰ニ出現シタト云フコトハ、洵ニ全國二百五十萬ノ當業者ガ此報ヲ一度聞キマスト、定メテ滿足致スコト、自分共ハ信ズルノデアリマス、而シテ今此法案ニ就テ私ガ爰ニ質問致サウト考ヘテ居リマス問題ハ、本案ノ第一條ニアリマス所ノ「水産業ノ改良發達ヲ圖ルヲ以テ目的トス」ト云フ此條項デアリマス、私ノ申スマデモナク、我ガ國民ノ主要食物ト申シマスモノハ米デアリマス、所ガ此我ガ國民ハ米食人種デアルト同時ニ、殆ド魚肉ヲ嗜食スルノ人種デアリマシテ、同時ニ魚食人種ト謂ヒ得ラルヽノデアリマス、今ヤ食糧問題ノ非常ニ八釜シイ今日デアリマスガ故ニ、水産問題モ必ズ米ノ問題ノ解決ト同時ニ、解決セナケレバナラヌ重要ナル問題ト私ハ考ヘテ居リマス、此水産事業ト申シマスモノハ、御承知ノ通リ此ノ如ク單リ食糧問題ノ上カラ重要デアルノミナラズ、海外ノ貿易品トシテモ、重要デアルト云フコトハ御承知デアラウト思ヒマス、是モ密接ノ關係デアリマス、其外漁業ト海軍トノ關係デアリマス、今非常ニ心配サレテ居リマスル所ノコトハ御承知デアラウト思ヒマスル、又海軍ノ關係ノ中デモ、燃料ノ問題ニ、魚類ノ油カラ重油デアルトカ、輕油デアルトカ、即チ軍艦ニ使用致シマスル所ノ燃料ノ問題ニ、魚類ノ油カラソレヲ採リマスルトカ云フヤウナコトデ、是ガ非常ニ密接ナ關係ヲ有チ、今餘程是ガ研究ヲサレテ居ルト云フコトニナッテ居リマスレバ、此上カラ申シマシテモ水産ト海軍トノ關係ハ頗ル重大ナ關係ガアルト申シ得ラレルノデアリマス、斯ノ如ク觀察致シテ見マスルト、此水産業ノ盛衰ト申シマスルモノハ、直チニ國家ノ民人ニ大ナル影響ヲ及ボスト云フコトガ判ルノデアリマシテ、(中略)二三ノ要點ヲ申上ゲテ、質問ヲ試ミヤウト思フノデアリマス、第一ニ此漁業ヲシテ如何ニ發セシムルカト云フ問題デアリマス、抑〻我國ハ私ガ申上ゲマスルマデモナク四面環海デ沿岸ノ里數ト申シマスルモノハ、其延長里數ガ殆ド八千里ト申シテ居リマス、此中二百五十萬ノ漁民ヲ包容致シマシテ、サウシテ其二百五十萬ノ漁民ガ得ル所ノ收獲高ハドノ位アルカト、申シマスルト、一箇年ニ最近即チ昨年ノ統計ニ依ッテ見マスルト、約二億圓ノ收益ガアルト云フコトハ、是モ皆樣御承

知デアラウト考ヘマス、サウシテ今此漁民ノ狀態ヲ御話致シマスルト、卽チ近時沿岸漁業ガ次第ニ近海漁業ニ移リ、而シテ近海漁業ガ漸次遠洋漁業ニ移ルト云フ狀態デアルノデアリマス、所ガ其遠洋漁業ニ從事致シマスル所ノ人ガ、年々歲々增加致シマスルケルドモ、併ナガラ其收益如何ト其內容ヲ調ベテ見マスルト、殆ド近年其進展ヲ見ナイノデアリマス、全ク今日ハ收獲ガ停滯不振ノ域ニ在ルト謂ハナケレバナラヌノデアリマス、サレバ此停滯不振ノ原因、其根源ヲ究メナケレバ、本案ノ第一條ノ目的ヲ達スルト云フコトハ、到底不可能デアラウト私共ハ考ヘルノデアリマス、而シテ其原因ハ一ニシテ足リマセヌケレドモ、其主ナルモノニ私ノ考ヲ爰ニ列擧致シマシテ、當局者ノ辯明ヲ求メ、御抱負ヲ伺ハウト思フノデアリマス、水產ノ不振ノ原因ノ第一ハ、水產敎育ノ缺ケテ居ルト云フコトヲ私共思フノデアリマス、御承知ノ通リニ此二億ノ收益ガアリ、二百五十萬ノ漁民ヲ包容致シテ居リマス所ノ、而モ國家ノ重要ナル位地ニ在ル所ノ此水產事業ニ向ヒマシマシテ、官立ノ敎育機關ト致シマシテハ、東京ニ一水產講習所ガアルバカリデアリマス、而シテ縣立ト致シマシテハ從來甲種程度ノ水產學校ガ僅ニ八ツシカ無イノデアリマス、斯ノ如キ有樣デアリマスルガ故ニ、水產ノ知識、水產ノ技能ト云フコトガ一向進步致サナイノデアリマス、御承知ノ通リニ英吉利ハ日本ト同ジク環海ノ國デアリマスガ、其航海ニ於テ、其水產ニ於テ非常ニ發達ヲ致シテ、世界第一ト云ハレテ居ルコトハ御承知ノ通リデアリマス、何ガ故ニ英吉利モ日本ト同ジヤウニ海國デアリ、而シテ一ハ非常ニ發展ヲシ一ハ非常ニ發展ヲセヌカト云ヒマスト、其本ハ所謂水產敎育ニ在ルノデアリマス、詰リ航海——商船ナドノ敎育ガ非常ニ盛ンナノデアリマス、英吉利ノ諺ニ斯ウ云フ事ヲ昔カラ言ウテ居リマス「英吉利國ハ波濤ニ主タリ波濤ニ主タル者ハ天下ニ主タリ」ト申シテ居ルノデアリマス、此理想ヲ持チ此信念ヲ持ッテ、上下一致シテ英吉利ハ航海ニ發達シ、而シテ水產業ニ努力シテ居ルト云フコトガ、ズット今日マデ從來カラ引續イテノ現況デアリマス、日本ノ國家ニ於キマシテモ、斯ノ如キ抱負ガアルカ否ヤ、政府ノ當路者ニ於テ、斯ノ如キ抱負ヲ持ッテ居ルカドウカ私ハサウ云フ事ハ持ッテ居ラヌト云フコトヲ悲シムノデアリマス、故ニ此水產敎育ノ事ニ就キマシテ、政府ハ如何ナル抱負ヲ御持チニナッテ居ルカト云フコトヲ御尋シダイノデアリマス、第二ニ水產ノ進步致サヌ原因ハ何カト云ヒマスト、水產資金ガ乏シイデハナイカト云フコトヲ私共思フノデアリマス、卽チ水產ニ對スル資金ガ乏シイ、此問題モ年々全國ニ於ケル當業者ガ水產銀行ヲ立テ、貰ハナケレバナラヌ、陸上ニ於ケル農工銀行、或ハ勸業銀行ニ對シテ水產ニ對シテモドウシテモ水產銀行ヲ立テ、貰ハナケレバナラヌ、斯ウ云フ事ハ年々引續イテ衆議院ノ方ニモ請願ヲ致シ、政府ノ方ニモ請願ヲ致シテ居ルト云フコトモ、貴方ガタモ御聞及デアラウト思フノデアリマス、ドウシテモ思フヤウニ水產ノ資金ガ得ラレヌト云フコトガ、第二ノ水產事業ノ發達致シマセヌ大ナル原因ト私共思フノデアリマス、尤モ近頃此聲ノ八釜シイ折柄、農工銀行ノ中ニ就キマシテモ、成ル可ク都合ニ依ッタラ水產業者ニモ此資金ヲ出スト云フヤウナ途ハ開イテアリマスケレドモ、併ナガラ實際ニ於キマシテハ、中〻借入レルト云フコトガ困難デアルノデアリマス、故ニ此水產資金ニ就キマシテハ、政府ハ如何ナル御抱負ガアルノデアリマスカ、此點ヲ伺ヒタイノデアリマス、第三ノ問題ハ漁場ノ面積ニ比シテ、漁民ガ割合ニ多過ギルト私共思フ、是ガ水產事業ノ發展ヲ致シマセヌ、收益ノ停滯不振デアルト云フ第三ノ理由デアラウト思フノデアリマス、是ハ何故私ガ斯ノ如キ事ヲ申上ゲルカト云ヒマスルト、日本沿岸ノ到ル所非常ニ漁民モ多イノデアリマスガ、陸上ノ人數ニ比シテ、割合ニ漁業者ノ子供ノ蕃殖力ハ强イト云フコトヲ申シテ居ルノデアリマス、殊ニ御承知ノ瀨戸內海ニ於キマシテハ、最モ是ガ夥多ニアルノデアリマス、故ニ此漁業ヲ發展シヤウト思ヒマスルト、比較的漁民ガ多クシテ而シテ其漁場ノ面積ガ狹イ、此解決ヲ一日片時モ早ク致スト云フコトヲ致シマセヌト、行詰リナッテ居ルノデアリマス、丁度御承知ノ我ガ漁民ヲ移民ヲシ、通漁ヲ致シマスルモノハ、殆ド四方ニ門戸ヲ開イテ待ッテ居ルノデアリマス、之ヲ迎ヘント欲シテ居ルノデアリマス、近クハ御承知ノ朝鮮アリ、或ハ臺灣アリ、或ハ南洋アリ、或ハ樺太アリ、薩哈璉州アリ、幾ラモアルノデアリマス、或ハ此勘察加州モ漁民ヲ迎ヘントシテ居ルノデアリマス、丁度私共爰ニ此比較ヲ以テ見マスルト——沿岸里數ノ一里ニ對スル比例ヲ朝鮮ト日本ト取ッテ見マスルト、先ヅ漁船ノ數ガ沿岸里數一里ニ對シテ內地ハ五十六艘デア

リマス、朝鮮ハ僅ニ五艘デアリマス、而シテ漁業者ノ人口ノ比較ヲ取ッテ見マスルト、内地ハ二百三人、而シテ朝鮮ハ僅ニ七十二人デアリマス、而シテ又漁船一艘當リノ漁獲高ヲ御話致シマスルト、内地ガ四百十四圓、朝鮮ガ千百五十四圓デアリマシテ、約二倍半朝鮮人ノ漁獲ガ、日本人ノ漁獲ヨリ多イト云フコトニナッテ居リマス、此統計、此實際ヲ比較シテ見マスルト、又實際ニ往ッテ調ベテ見マスルト、朝鮮ニ於キマシテハ非常ニ漁民ヲ入レ、而シテ日本人ガ往ッテ漁業ヲシテ、利益ガアルト云フコトガ實際ニ於テ分ルノデアリマス、其外臺灣ニ往キマシテモ――私ガ今申シマシタ各地ニ往キマシテモ、皆ナ斯ノ如キ比例ヲ以テ、日本人ヲ待ッテ居ルト云フ詰リ有樣デアリマス、サウ致シマスルト、政府ハ現在ニ於テ、尙ホ將來ニ於キマシテ、通漁ヲ奬勵ヲナサル御意見デアルカ、若クハ此漁業ヲ是等ノ各地ニ向ヒマシテ、通漁ノミナラズ――漁業者ノ移民ヲ奬勵スル御積リデアルカ、是ハ頗ル此漁業ノ問題トシテ重大ナル問題デアリマス、尤モ政府ニハ御承知ノ通リ、遠洋漁業ノ奬勵規定ト云フ法律ヲ設ケラレマシテ、而シテ從來多少ノ努力ハ致シテ居ラレマスケレドモ、併ナガラ斯ク重要ナル時期ニ――水産ノ重要ナル時期ニ切迫致シ、行詰ルヤウナ有樣ニナリマシタカラ、一層從來ニ比シマシテ、大ナル努力ト大ナル抱負ト、大ナル理想ヲ以テ、政府ニ私ハ此事業ヲ奬勵シテ貰ヒタイト思フノデアリマス、故ニ換言致シマスルト、此夥多ナル漁民ヲ奬勵スル上ニ就キマシテ、移民ヲ奬勵ヲナサル御積リデアルカ、或ハ通漁ヲ比較的奬勵ヲナサル御積リデアルカ、此邊ヲ伺ヒタイノデアリマス、ソレカラ第四ノ不振ノ原因ト致シマシテ、直接ノ指導調査機關ノ乏シイト云フコトガ、是ガ不振ヲ極スル第四ノ問題デナイカト思フノデアリマス、御承知ノ通リ魚類ト雖モ、貝類ト雖モ、或ハ藻ノ類ト雖モ、如何ニ海洋廣シト雖モ到ル處何處デモアルト云フ譯デハナイノデアリマス、總テ水族ト申シマスル物ハ、或ハ海水ノ溫度ニ依ッテ去來致シ、漁場ノ如何、或ハ魚餌卽チ「エサ」ノ如何ニ依ッテ來去ヲ致ス上ニ於テ原因トナルノデアリマス、然ルニ政府ニ於キマシテハ、是等ノ總テノ問題ニ就キマシテ、一向調査研究ヲ全ク爲サヌトハ申シマセヌガ――幾ラカ出來テ居リマセウケレドモ、今少シ大ニ努力ヲセラレテ、サウシテ直接ニ漁民ニ其調査ノ結果ヲ指導奬勵ヲ爲サッテ、サウシテ之ニ導ク、是ガ私共漁業ノ發展ヲセシムル、一ッノ方法デハナイカト思フノデアリマス、故ニ私ハ此點ガ大ニ缺ケテ居ルノデハナイカ、將來政府當路者ハ此點ニ向ヒマシテハ、如何ナル抱負ヲ以テ、如何ナル理想、考ヲ持ッテ居ラルヽノデアリマスカト云フコトヲ御尋シタイノデアリマス、ソレカラ第二ニ――唯今迄申上ゲマシタノハ是ハ漁業ノ問題デアリマス、第二ノ問題ト致シマシテ、養殖ノ事業ヲシテ如何ニ發達セシムル考デアルカト云フコトヲ簡單ニ御尋ガシタイノデアリマス、世人動モスレバ水産物ノ無盡藏ト云フコトヲ申シテ居ルノデアリマス、然レドモ水産物モ尙ホ陸上ノ産物ト同ジク、決シテ無盡藏ノモノデハアリマセヌ、所謂蒔カヌ種ハ生ヘルモノデハアリマセヌ、然ルニ今ヤ漁業ハ發達致シマシテ、其獲ル所ノ漁具ガ細密トナリ、或ハ漁業法ガ苛酷トナリ、濫獲トナリ、而シテ一方ニ於テハ非常ニ需要ガ多クナリマシタガ爲メニ、又漁民ガ增加致シマシタルガ爲メニ、漁獲物ノ減少ヲ來シタト云フコトハ、前ニ私共申上ゲマシタノデアリマス、故ニ是ニ於テカ是非共養殖ノ方法ヲ人ノ手デ出來ルダケ施サヾルヲ得ナイト云フ立場ニナッテ來タノデアリマス、而シテ今ヤ養殖事業ハ非常ニ進歩發達致シテ來タノデアリマス、現ニ私共調ベテ見マスルト、大正八年度ニ於テハ非常ニ養殖カラ獲リマスル――人間ノ手デ魚類或ハ貝類ヲ殖シマシタガ、其殖シマシタ所ノ養殖ノ揚リ高ガドノ位アルカト申シマスト、殆ド千二百萬圓ノ金額ニ達シテ居ルノデアリマス、我國ニ於テハ養殖事業ハ近年最モ發達ヲ致シマシテ、ソレハ何處カト云ヒマスルト、卽チ靜岡縣若クハ愛知縣ノ兩縣デアリマシテ、此兩縣ノ面積ダケデモ殆ド一千町歩ニ餘ッテ居ルノデアリマス、此收獲高ヲ調ベテ見マスルト、一段歩カラ殆ド――能ク獲ル所ハ二百圓餘ニ達スルト云フコトデアリマス、前述ノ如ク一方ニ於キマシテハ漁業者ノ漁獲ガ減ジ、又一方ニ於テハ魚類ノ種類ガ次第ニ增加シテ來テ居リマシテ、勢ヒ其割合ニ利益アル所ノ養殖事業ヲ盛ニ致サウト致シマスルト、ドウシタラ宜イカト云ヒマスルト、ドウシテモ是モ矢張水産業者自ラ努力ヲ致サナケレバナリマセヌケレドモ、併ナガラ政府ガ主トシテ、又之ヲ指導奬勵スルト云フコトヲシナケレバナラヌノデアリマス、然ルニ政府ハ此養殖ノ事業ニ就キマシテ、如何ナル方法ヲ以テ、如何ナル手段ヲ以テ之ヲ發達サセテ居ルカ、之ヲ指導致シテ居ルカト云フト、私共遺憾ナガラ政府ハ養殖事

業ニ對シテ、餘リ努力ヲ致シテ居ラヌト云フコトヲ斷言シテ、決シテ憚ラヌノデアリマス、而シテ又直接ニ指導奬勵ニ餘リ努力セヌノミナラズ、一方ニ於テハ斯ウ云フ事ガアルノデアリマス、即チ今ノ――法ノ上ニ非常ニ不備缺點ガアルノデアリマス、御承知ノ通リ陸上ニ於テハ、農業者ハ開墾助成法ト云フ法律ヲ拵ヘマシテ、サウシテ開墾ヲスレバ直チニ自分ニ所有權ガ移リマスガ、一タビ水產家ガ養魚池ヲ拵ヘ、或ハ養魚場ヲ拵ヘルト云フコトニナリマスルガ、其漁業權ハアリマスルガ、其所有權ト云フモノハ吳レナイノデアリマス、故ニ斯ノ如キ支障ガアリマスルガ爲メニ、非常ニ養殖事業ノ妨害ヲスルト云フコトニナッテ居リマス、非常ニ支障ヲ來スト云フコトニナッテ居ルノデアリマス、此點ニ於キマシテ、將來政府ハドウ云フ御考ヲ御拵デアリマスカ、私共ソレヲ御聽シタイノデアリマス、其次ニ――終リニ臨ミマシテ魚市場法ノ必要ヲ私共說クノデアリマス、御承知ノ通リニ從來魚類ノ取引ト申シマスルモノハ、何百年來ノ習慣ニ依リマシテ取引ヲ致シテ居ルノデアリマスルガ故ニ、其取引ノ上ニ於キマシテモ、其價格ノ上ニ於キマシテモ非常ニ不都合ガアリマスル故ニ、此點ニ於テモ、ドウシテモ魚市場法ヲ制定致シマスル故ニ、ソレ故ニ需要者ハ非常ニ高イ類魚ヲ食ハナケレバナラヌト云フ現狀デアリマスル故ニ、此點ニ於テモ、ドウシテモ魚市場法ヲ制定致シマシテ、相當ノ手數料ノ規定ヲ致シ、又或時ハ魚ガ多クテ値ガ廉イ、或時ハ魚ガ少クテ非常ニ價ガ高イト云フコトガナクシテ、魚市場法ヲ制定致シマシテ相當ナル設備ヲ致シマシテ、サウシテ一時ソレヲ貯藏シテ、少ナイ時ニモ多イ時ニモ魚類ノ調節ヲ圖ルト云フコトガ、是ガ今日此食糧問題ノ八釜シイ時ニ當リマシテモ、米ト同ジク、其他ノ食物ト同ジク、矢張水產業モ左樣ニ調節シナケレバナラヌト私共考ヘルノデアリマス、其點ニ於キマシテ政府ハ如何ナル御考ヲ御持デアルカドウカ、以上是等ノ問題ニ就キマシテ、政府ノ御抱負、政府ノ考ヘテ居ラレル所ノ事ヲ、私共明ニ御答ヲ願ヒタイノデアリマス

田中政府委員ノ應答

唯今ノ御尋ニ簡單ニ御答致シマス、段々唯今ノ詳シキ御話ハ、要スルニ私共カラ申上ゲマスルマデモナク、寧ロ高草君ノ御抱負ヲ伺ッタヤウナ次第デ、至極御同感ニ堪ヘヌ譯デアリマス、唯茲ニ農商務省トシテハ、既ニ先日當議場ノ御贊成ヲ得マシタ豫算案ダケノ事ヲ申上ゲマシテモ、只今モ縷々御述ニナリマシタ、例ヘバ水產講習所ト云フモノヽ學科程度ヲ進メ、其產業發達ニ資スル目的ヲ以テ、既ニ其講習所ダケデモ、此十年度ニ於テ五十萬圓ノ特別ノ經費ノ御增加ヲ願ッテ居ッタヤウナ次第デゴザイマス、ソレハ殊ニ設備ニ關スル費用デ、其他ニ尙ホ年々經常費ト云フモノハ約五萬圓內外ノモノガ掛ッテ參リマスヤウナコトニナッテ居リマス、又養殖ノ事ニ就テモ段々御話ガゴザイマスガ、是モ矢張先日ノ豫算ニアリマスルガ如ク、今年度ハ更ニ二十萬圓ダケノ增額ヲ御願申シマシテ、此養殖ノ事ニ就テ、尙ホ徹底的ニ一歩進メテ參リタイト云フコトニナッテ居ルノデアリマス、又水產會法ニ於キマシテモ、何條デゴザイマシタカ今後水產會ニ幾ラカ宛ノ補助金ヲ與ヘマシテ、水產會ヲシテ大ニ此目的ニ向ッテ改良發達ニ努メシムルト云フヤウナ事ヲシテ居ル譯デアリマス、ソレカラ尙ホ此遠洋漁業、或ハ海外漁業ニ關シマスル事モ、先日ノ豫算中ニモ所々現ハレテ居リマスル、又豫算以外ニ於テモ、御承知ノ通リ或ハ香港新嘉坡マデニモ色々技師ヲ派遣致シマシテ、種々取調ヲシテ、ソレ〳〵當業者ニハ其報告ヲ示シテ居ルコトハ、此水產ニ關係ノ方ハ御承知デアラウト思フ、而シテ新嘉坡方面ノ調査ノ如キハ大變好イ成績ヲ收メマシテ、既ニ數百萬圓ノ大會社ガ出來テ、其調査ノ結果ニ基イテ、大ニ我國ノ漁業ト云フモノヲ、海外ニマデ實際ニ於テ引伸バスベキ運命ニ遭遇シテ來タ譯デアリマス、尙ホ伯剌爾ニモ技師ヲ派遣致シマシテ調査ヲ致シマス、又今度ノ南洋方面等ニ就キマシテモ既ニ技師ヲ遣リマシテ、一通リハ調査ヲ了ヘマシタノデアリマス、併ナガラ之ヲ現實ニ我漁業ヲ其方面ニ於テ、目ニ見エルヤウニ活躍セシムル爲メニハ、政府トシテモ尙ホ數回ノ調査ヲ要スルコトモゴザイマセウ、又當業者諸君ニモ大ニ一ツ奮發シテ戴カナケレバナラヌ事モアラウト思ヒマス、ソレヤ是ヤ兎モ角モ漁業ノ事ニ就キマシテハ、出來得ル限リ努力ヲ致シテ居リマスルコトハ、十分一ツ御諒承ヲ願ヒタイト思ヒマス、要スルニ是等ノ事ヲ熱心ニ希望致シマスルガ故ニ、只今提案致シマシタ此水產會法、之ニ依リマシテ所謂當業者ニモ一ツ大ニ御奮發ヲ願ヒタイノデアリマス、迚モ政府ダケノ力

デハイカヌノデアリマス、デ尙又御言葉ノ中ニ、朝鮮臺灣等ノ事ニ就テノ御懸念モアッタヤウデアリマスガ、是ハ今日ニ於キマシテモ兩總督府ト連絡ヲ取リマシテ、漁業ノ改良發達等ノ事ニ就キマシテハ努メツヽアリマス、尙ホ此水產會法ノ何箇條カヲ御覽ニナレバ、會法ニモ載ッテ居リマスガ、此朝鮮ナリ臺灣ナリノ當業者モ、我ガ帝國水產會ノ方ノ會員トナッテ、此本案ノ會ノ目的カラモ互ニ共同聯絡ヲ取ッテ、提携スルノ途ヲ開イテアリマス、水產會ハアチラデ別ニ又其朝鮮ナリ臺灣ナリデ開キマシテモ、其會ハ又コチラノ帝國水產會ノ會員ト聯絡統一ヲ保ツコトニ、大ニ盡力セシムル積リデアリマス、其他詳細ニ亙リマシテハ、委員會ニ於キマシテ申上ゲルコトニ致シマス、大體右ノ通デアリマス

次テ委員ノ選擧ハ議長指名(十八名)ニ決シ卽日議長之ヲ指名ス委員ハ翌二十一日委員會ヲ開キ委員長及理事ノ互選ヲ行ヒ審査ノ末原案ヲ可決スヘキモノト決シ二月二十五日報告書ヲ議長ニ提出セリ

二月二十六日再ヒ本案ノ第一讀會ノ續會ヲ開キ委員長松本孫右衞門君ハ委員會ノ經過及結果ニ付左ノ報告ヲ爲ス

只今議題トナリマシタ所ノ水產會法案ニ就テ、委員會ノ顚末ヲ御報告致シマス、此法案ハ當業者ニ於テ多年希望シタルモノデアリマシテ、系統的ニ自治的ニ此水產會ヲ組織致シマシテ、官廳ノ施設ト相俟ッテ水產業ノ改良發達ヲ助長シタイト云フノガ此案ノ精神デアリマス、法案ノ組立及內容ハ農會法ト大體同樣デアリマシテ唯ダ農會法ニ對シテ進步シタト認メラレタ點ガ、二ツ許リアルノデアリマス、其一ツハ會費ヲ徵收スルノニ、行政處分ニ依ル强制徵收ヲ爲シ得ルコトガ其一ツデアリマス、第二ハ朝鮮、臺灣、樺太、關東州等ニ於ケル水產會ニ準ズル法人ヲモ、此會員ト爲スコトヲ得ルト云フコトガ第二ノ點デアリマス、委員會ハ三回程開會ヲ致シマシテ、政府當局ト質問應答ヲ重ネマシテ、滿場一致ヲ以テ可決シタノデアリマス、唯ダ討論ノ際ニ、憲政會ノ磯貝君ヨリ希望ノ點ヲ申述ベラレテアリマス、其點ハ政府ニ於テ今後漁民救濟ニ對シテ、適當ナル立法ヲシテ貰ヒタイ、斯ウ云フ希望ガアッタノデアリマス、此段モ併セテ御報告致シテ置キマス、何卒委員會決定通リ速ニ可決セラレンコトヲ希望致シマス

院議異議ナク本案ノ第二讀會ヲ開クニ決シ引續キ第二讀會ヲ開キ第三讀會ヲ省略シテ原案ノ通可決確定シ卽日之ヲ貴族院ニ送付ス同院ハ三月十六日可決奏上シ四月十一日法律第六十號ヲ以テ公布セラル

三二　大正四年法律第十六號中改正法律案

大正四年法律第十六號中左ノ通改正ス

「一億八百萬圓」ヲ「一億千五百萬圓」ニ改ム

右ハ十年二月十八日本院ニ之ヲ提出ス二月十九日本案ノ第一讀會ヲ開キ高橋國務大臣ハ左ノ如ク趣旨ヲ辯明セリ

本法ハ大正三年臨時事件ニ關シマスル、一時賜金公債發行ノ規定デアリマス、現行法ハ其總金額ガ一億八百萬圓トナッテ居ルノデアリマスガ、今回陸軍軍人等ニ對シマシテ、此外ニ更ニ一時賜金トシテ公債ヲ交付スルノ必要ヲ生ジタノデアリマス、現行法ノ公債發行額ノ總金額ニ七百萬圓ヲ增加致シマシテ、一億千五百萬圓ト致サントスルノデアリマス、御審議ノ上速ニ御協贊ヲ與ヘラレンコトヲ望ミマス

次テ本案ハ政府提出大正五年法律第四號中改正法律案(一九)委員ニ併セ付託スルニ決ス委員ハ審査ノ末原案ヲ可決スヘキモノト決シ二月二十六日報告書ヲ議長ニ提出セリ

同日議事日程ヲ變更シ再ヒ本案ノ第一讀會ノ續會ヲ開キ委員長富安保太郎君ハ委員會ノ經過及結果ニ付左ノ報告ヲ爲ス

本案ハ西伯利其他ニ派遣サレタル軍人ニ對シテ、一時賜金ヲ交付スル案デゴザイマシテ、人員ニ於テハ二萬七千八百六十人、金額ニ於テハ六百六十二萬四千五百圓、之ヲ公債交付ニ致シマス爲メニ、大正四年ノ法律第十六條中ニ改正ヲ加ヘマシテ、一億八百萬圓トアルノヲ七百萬圓增シマシテ、一億千五百萬圓ト改ムト云フ案件デゴザイマス、委員會ハ愼重審議ノ末、滿場一致ヲ以テ可決致シマシタ、此段御報告申上ゲマス

院議異議ナク讀會ノ順序ヲ省略シテ原案ノ通可決確定シ卽日之ヲ貴族院ニ送付ス同院ハ三月十九日可決奏上シ四月一日法律第三十一號ヲ以テ公布セラル

三三　特許法改正法律案

特許法

第一章　總則

第一條　新規ナル工業的發明ヲ爲シタル者ハ其ノ發明ニ付特許ヲ受クルコトヲ得

第二條　特許權者又ハ特許出願者ハ其ノ發明ノ改良又ハ擴張ニ係ル新規ノ發明ニ付獨立ノ特許ニ代ヘ追加ノ特許ヲ受クルコトヲ得

第三條　左ニ揭クル發明ニ付テハ之ヲ特許セス

一　飲食物又ハ嗜好物

二　醫藥又ハ其ノ調合法

三　化學方法ニ依リ製造スヘキ物質

四　秩序若ハ風俗ヲ紊リ又ハ衞生ヲ害スルノ虞アルモノ

第四條　本法ニ於テ發明ノ新規ト稱スルハ發明カ左ノ各號ノ一ニ該當スルコトナキヲ謂フ

一　特許出願前帝國內ニ於テ公然知ラレ又公然用ヰラレタルモノ

二　特許出願前帝國內ニ頒布セラレタル刊行物ニ容易ニ實施スルコトヲ得ヘキ程度ニ於テ記載セラレタルモノ

第五條　特許ヲ受クルノ權利ヲ有スル者カ試驗ノ爲其ノ者ノ發明ヲ前條各號ノ一ニ該當スルニ至ラシメタル場合ニ於テ其ノ日ヨリ六月以內ニ其ノ者カ特許ヲ出願シタルトキハ其ノ者ノ發明ハ之ヲ新規ナルモノト看做ス

特許ヲ受クルノ權利ヲ有スル者ノ意ニ反シテ其ノ者ノ發明カ前條各號ノ一ニ該當スルニ至リ

タル場合ニ於テ其ノ日ヨリ六月以内ニ其ノ者カ特許ヲ出願シタルトキ亦前項ニ同シ

第六條　特許ヲ受クルノ權利ヲ有スル者カ政府ノ開設シ、道府縣若ハ之ニ準スヘキモノノ開設シ若ハ政府ノ認可ヲ得テ開設スル博覽會又ハ工業所有權保護同盟條約國ノ版圖内ニ開設スル官設若ハ官許ノ萬國博覽會ニ出品ノ爲其ノ者ノ發明ヲ第四條各號ノ一ニ該當スルニ至ラシメタル場合ニ於テ其ノ開會ノ日ヨリ六月以内ニ其ノ者カ特許ヲ出願シタルトキハ其ノ者ノ發明ハ之ヲ新規ナルモノト看做ス

前項ニ掲クル萬國博覽會ヲ除クノ外外國ノ版圖内ニ開設スル官設又ハ官許ノ博覽會ニ出品スル發明ニ付保護ヲ與フルノ必要アルトキハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第七條　特許出願ハ一發明毎ニ之ヲ爲スヘシ但シ二以上ノ發明カ牽連シテ利用上一發明ヲ爲スモノト認メ得ル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第八條　同一發明ニ付テハ最先ノ出願者ニ限リ特許ス但シ同日ノ各別ノ出願者アルトキハ出願者ノ協議ニ依リ特許シ協議調ハサルトキハ共ニ特許セス

第九條　二以上ノ發明ヲ包含スル特許出願ヲ一以上ノ出願ト爲シタルトキハ各出願ハ最初出願ノ時ニ於テ之ヲ爲シタルモノト看做ス

追加ノ特許出願ヲ獨立ノ特許出願ニ、獨立ノ特許出願ヲ追加ノ特許出願ニ變更シタルトキ亦前項ニ同シ

第十條　特許出願カ特許ヲ受クルノ權利ノ承繼人ニ非サル者又ハ特許ヲ受クルノ權利ヲ冒認シタル者ノ爲シタルモノナルニ因リ特許ヲ受クルコト能ハサルニ至リタル場合ニ於テ其ノ特許出願ノ後ニ爲シタル正當權利者ノ出願ハ其ノ特許ヲ受クルコト能ハサルニ至リタル特許出願ノ時ニ於テ之ヲ爲シタルモノト看做ス但シ特許ヲ受クルコト能ハサルニ至リタル日ヨリ六十日ヲ、出願公告アリタル場合ニ於テハ出願公告ノ日ヨリ六十日ヲ經過シタル後ノ出願ニ係ルトキハ此ノ限ニ在ラス

第十一條　特許カ特許ヲ受クルノ權利ノ承繼人ニ非サル者又ハ特許ヲ受クルノ權利ヲ冒認シタル者ノ受ケタルモノナルニ因リ其ノ特許ヲ無效トスル審決確定シ又ハ判決アリタル場合ニ於テ其ノ特許ノ出願ノ後ニ爲シタル正當權利者ノ出願ハ其ノ無效ト爲リタル特許ノ出願ノ時ニ於テ之ヲ爲シタルモノト看做ス但シ其ノ特許ノ出願公告ノ日ヨリ五年ヲ經過シタル後ノ出願又ハ其ノ審決確定シ若ハ判決アリタル日後ノ出願ニ係ルトキハ此ノ限ニ在ラス

第十二條　特許ヲ受クルノ權利ハ之ヲ移轉スルコトヲ得但シ擔保ニ供スルコトヲ得ス

特許ヲ受クルノ權利カ共有ニ係ル場合ニ於テハ各共有者ハ他ノ共有者ノ同意アルニ非サレハ其ノ持分ヲ讓渡スルコトヲ得ス

特許ヲ受クルノ權利ノ承繼ハ承繼人カ特許出願前ニ在リテハ特許ヲ出願シ特許出願後ニ在リテハ出願人名義ノ變更ヲ屆出ツルニ非サレハ之ヲ以テ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス但シ同日ノ出願又ハ屆出ニ係ルトキハ關係者ノ協議ニ依リ協議調ハサルトキハ其ニ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス

第十三條　本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ依ル法定又ハ指定ノ期間ノ計算ハ左ノ規定ニ依ル

一　期間ノ初日ハ之ヲ算入セス但シ其ノ期間カ午前零時ヨリ始ルトキハ此ノ限ニ在ラス

二　期間ヲ定ムルニ月又ハ年ヲ以テシタルトキハ曆ニ從フ月又ハ年ノ始ヨリ期間ヲ起算セサルトキハ其ノ期間ハ最後ノ月又ハ年ニ於テ其ノ起算日ニ應當スル日ノ前日ヲ以テ滿了ス但シ最後ノ月ニ應當日ナキトキハ其ノ月ノ末日ヲ以テ滿了ス

特許ニ關スル出願、請求其ノ他ノ手續ニ付テノ法定又ハ指定ノ期間ノ末日カ日曜日又ハ一般ノ祝祭日ニ當ルヘキトキハ其ノ日ノ翌日ヲ以テ其期間ノ末日トス

第十四條　被用者、法人ノ役員又ハ公務員ノ其ノ勤務ニ關シ爲シタル發明ニ付テハ性質上使用者、法人又ハ職務ヲ執行セシムル者ノ業務範圍ニ屬シ且其ノ發明ヲ爲スニ至リタル行爲カ被用者、法人ノ役員又ハ公務員ノ任務ニ屬スル場合ノモノヲ除クノ外豫メ使用者、法人又ハ職務ヲ執行セシムル者ヲシテ特許ヲ受クルノ權利又ハ特許權ヲ承繼セシムルコトヲ定メタル契約又ハ勤務規程ノ條項ハ之ヲ無效トス

使用者、法人又ハ職務ヲ執行セシムル者ハ被用者、法人ノ役員又ハ公務員ノ其ノ勤務ニ關シ爲シタル發明ニシテ性質上使用者、法人又ハ職務ヲ執行セシムル者ノ業務範圍ニ屬シ且其ノ發明ヲ爲スニ至リタル行爲カ被用者、法人ノ役員又ハ公務員ノ任務ニ屬スル場合ノモノニ付其ノ被用者、法人ノ役員若ハ公務員カ特許ヲ受ケタルトキ又ハ其ノ者ノ特許ヲ受クルノ權利ヲ承繼シタル者カ特許ヲ受ケタルトキハ其ノ發明ニ付實施權ヲ有ス

被用者、法人ノ役員又ハ公務員ハ前項ノ發明ニ付テノ特許ヲ受クルノ權利又ハ特許權ヲ豫メ定メタル契約又ハ勤務規程ニ依リ使用者、法人又ハ職務ヲ執行セシムル者ヲシテ承繼セシメタル場合ニ於テ相當ノ補償金ヲ受クルノ權利ヲ有ス

使用者、法人又ハ職務ヲ執行セシムル者ニ於テ既ニ支拂ヒタル報酬アルトキハ裁判所ハ前項ノ補償金ヲ定ムルニ付之ヲ斟酌スルコトヲ得

本條ニ於テ法人ノ役員ト稱スルハ法人ノ業務ヲ執行スル役員ヲ謂ヒ公務員ト稱スルハ刑法第七條第一項ノ公務員ヲ謂フ

第十五條　特許出願ニ係ル發明カ軍事上祕密ヲ要シ又ハ軍事上若ハ公益上必要ナルモノナルト

キハ特許ヲ與ヘス、特許ヲ受クルノ權利ヲ政府ニ於テ收用シ又ハ制限ヲ附シテ特許ヲ與フルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ特許ヲ與ヘス、權利ヲ收用シ又ハ制限ヲ附シテ特許ヲ與フル場合ニ於テハ政府ハ相當ノ補償金ヲ支給ス

收用及補償金支給ニ關シテハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第十六條　帝國內ニ住所ヲモ居所ヲモ有セサル者ハ命令ニ別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外帝國內ニ住所又ハ居所ヲ有スル代理人ニ依ルニ非サレハ特許ニ關スル出願、請求其ノ他ノ手續ヲ爲シ又ハ特許權若ハ特許ニ關スル權利ヲ主張スルコトヲ得ス

前項ノ規定ニ依リ出願若ハ請求又ハ主張ヲ爲ス代理人ハ特ニ授ケラレタル權限ノ外本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ依ル手續竝民事訴訟、私訴及告訴ニ付本人ヲ代表ス

特許權者又ハ特許權ニ關シ登錄シタル權利ヲ有スル者ノ代理人ニシテ第一項ノ規定ニ依リ手續又ハ主張ヲ爲スモノノ選任若ハ變更又ハ代理權若ハ其ノ變更消滅ハ登錄ヲ受クルニ非サレハ之ヲ以テ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス

第十七條　特許ニ關スル出願、請求其ノ他ノ手續ヲ爲ス者ノ代理人ニシテ前條第三項ニ規定スル代理人ニ非サルモノノ選任若ハ變更又ハ代理權若ハ其ノ變更消滅ハ特許局ニ屆出ツルニ非サレハ之ヲ以テ特許局ニ對抗スルコトヲ得ス

第十八條　特許ニ關スル代理人數人アルトキハ特許局ニ對シテハ共同又ハ各別ニ本人ヲ代表ス

第十九條　特許局長ニ於テ特許ニ關スル代理人ヲ適當ナラスト認ムルトキハ其ノ改任ヲ命スルコトヲ得

特許局長又ハ審判長ニ於テ當事者、參加人若ハ特許異議申立人又ハ其ノ代理人カ手續又ハ演述ヲ爲スノ能力ナシト認ムルトキハ辨理士ヲ以テ代理セシムヘキコトヲ命スルコトヲ得

前二項ニ規定スル命令アリタル後第一項ノ代理人又ハ前項ノ當事者、參加人、特許異議申立人若ハ代理人ノ特許局ニ對シ爲シタル行爲ハ之ヲ無效ト爲スコトヲ得

第二十條　特許局ニ對シ爲スヘキ事項ノ代理業ハ辨理士ニ非サレハ之ヲ行フコトヲ得ス

第二十一條　數人共同シテ特許ニ關スル出願、請求其ノ他ノ手續ヲ爲ス者又ハ特許權ノ共有者ハ特許局ニ對シ各人互ニ代表スルモノトス但シ特ニ代表者ヲ定メ特許局ニ屆出テタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第十七條ノ規定ハ前項但書ノ代表者ニ付之ヲ準用ス

第二十二條　特許權者帝國內ニ住所ヲモ居所ヲモ有セサルトキハ第十六條第二項ノ代理人ノ住所又ハ居所、其ノ代理人ナキモノニ在リテハ特許局ノ所在地ヲ以テ民事訴訟法第十七條ノ財產

所在地ト看做ス

第二十三條　特許局長ハ外國又ハ遠隔若ハ交通不便ノ地ニ在ル者ノ爲請求ニ依リ又ハ職權ヲ以テ特許局ニ對シ手續ヲ爲スヘキ法定ノ期間ヲ延長スルコトヲ得

第二十四條　出願、請求其ノ他ノ手續ヲ爲シタル者之ニ關スル爾後ノ行爲ニ付指定ノ期間ヲ懈怠シタルトキ又ハ登錄ヲ受クル際納付スヘキ特許料ノ納付ヲ怠リタルトキハ本法ニ別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外特許局長ハ其ノ出願、請求其ノ他ノ手續ヲ無效ト爲スコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ出願、請求其ノ他ノ手續ヲ無效ト爲シタル場合ニ於テ其ノ期間ノ懈怠カ宥恕スヘキ障礙ニ因ルモノト認ムルトキハ其ノ障礙ノ止ミタル日ヨリ十四日以內ニシテ其ノ期間滿了後一年以內ノ請求ニ依リ特許局長ハ懈怠ノ結果ヲ免レシムルコトヲ得

第二十五條　天災其ノ他避クヘカラサル事變ニ因リ法定ノ期間ヲ懈怠シタル場合ニ於テ其ノ障礙ノ止ミタル日ヨリ十四日以內ニシテ其ノ期間滿了後一年以內ノ請求ニ依リ特許局長又ハ審判長ハ懈怠ノ結果ヲ免レシムルコトヲ得但シ第七十四條ニ規定スル特許異議ノ申立期間ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第二十六條　特許局ニ差出スヘキ書類其ノ他ノ物件ニ付差出ノ效力ヲ生スヘキ時期ニ關シテハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第二十七條　本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ依リ特許權者又ハ特許ニ關スル權利ヲ有スル者ノ爲シタル又ハ其ノ者ニ對シ爲サレタル手續ノ效力ハ其ノ特許權又ハ特許ニ關スル權利ノ承繼人ニ及フ

第二十八條　特許局ニ事件ノ繫屬中ニ於テ特許權又ハ特許ニ關スル權利ノ移轉アリタルトキハ特許局ハ承繼人ニ對シ手續ヲ續行スルコトヲ得

第二十九條　本法ニ規定スルモノノ外特許局ニ繫ル手續ノ中斷中止及中斷中止シタル手續ノ續行ニ關シテハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第三十條　特許ニ關シ證明、特許證ノ複本、書類ノ謄本若ハ圖面ノ調製ヲ求メ又ハ書類ノ閲覽若ハ謄寫ヲ爲サムトスル者ハ特許局長ニ之ヲ申請スルコトヲ得但シ特許局長ニ於テ祕密ヲ要スト認ムルモノニ付テハ之ヲ許可セス

第三十一條　軍事上祕密ヲ要スル發明ニ付テハ本法ニ規定スルモノノ外命令ヲ以テ特別ノ規定ヲ設クルコトヲ得

第三十二條　外國人ニシテ帝國內ニ住所ヲモ營業所ヲモ有セサルモノハ條約又ハ之ニ準スヘキモノニ規定アル場合ヲ除クノ外特許權又ハ特許ニ關スル權利ヲ享有スルコトヲ得ス

第三十三條　特許ニ關シ條約又ハ之ニ準スヘキモノニ別段ノ規定アルトキハ其ノ規定ニ從フ

第二章　特許權

第三十四條　特許權ハ登錄ニ依リ發生ス

第三十五條　特許權者ハ物ノ特許發明ニ在リテハ其ノ物ヲ製作、使用、販賣又ハ擴布スルノ權利ヲ專有シ方法ノ特許發明ニ在リテハ其ノ方法ヲ使用シ及其ノ方法ニ依リテ製作シタル物ヲ使用、販賣又ハ擴布スルノ權利ヲ專有ス

新規ナル同一ノ物ハ同一ノ方法ニ依リテ製作シタルモノト推定ス

特許權カ其ノ出願ノ日前ノ出願ニ係ル實用新案權ト牴觸スル場合又ハ特許發明カ其ノ出願ノ日前ノ出願ニ係ル登錄實用新案ヲ利用スルモノナル場合ニ於テハ特許權者ハ實用新案權者ノ實施許諾アルニ非サレハ其ノ特許發明ヲ實施スルコトヲ得ス

第三十六條　特許權ノ效力ハ左ノ各號ノ一ニ該當スルモノニ及ハス

一　研究又ハ試驗ノ爲ニスル特許發明ノ實施

二　單ニ帝國內ヲ通過スルニ過キサル運輸具又ハ其ノ裝置

三　特許出願ノ際ヨリ帝國內ニ在ル物又ハ第一號ノ實施ニ依リ製作シタル物

第三十七條　特許出願ノ際現ニ善意ニ帝國內ニ於テ其ノ發明實施ノ事業ヲ爲シ又ハ事業設備ヲ有スル者ハ其ノ特許發明ニ付事業ノ目的タル發明範圍內ニ於テ實施權ヲ有ス

第三十八條　特許ノ無效審判請求ノ登錄前善意ニシテ左ノ各號ノ一ニ該當シ帝國內ニ於テ其ノ發明實施ノ事業ヲ爲シ又ハ事業設備ヲ有スル者ハ其ノ特許發明ニ付事業ノ目的タル發明範圍內ニ於テ實施權ヲ有ス

一　同一發明ニ對スル二以上ノ特許中其ノ一カ無效ト爲リタル場合ニ於ケル登錄ヲ受ケタル原特許權者

二　特許ヲ無效トシ同一發明ニ付正當權利者ニ特許ヲ與ヘタル場合ニ於ケル登錄ヲ受ケタル原特許權者

三　前二號ニ揭クル場合ニ於テ其ノ無效ト爲リタル特許權ニ付實施權ヲ得テ其ノ登錄ヲ受ケタル者但シ實施權カ登錄ナキモ第五十二條第一項ノ效力ヲ有スル場合ハ登錄アルヲ要セス

特許出願ノ日前又ハ之ト同日ノ出願ニ係リ其ノ特許權ト牴觸スル實用新案權ノ存續期間滿了シタル場合ニ於テ其ノ實用新案權ニ付實施權ヲ得テ登錄ヲ受ケタル者ハ其ノ特許發明ニ付原實施權ノ範圍內ニ於テ實施權ヲ有ス但シ原實施權カ登錄ナキモ實用新案法第十三條第一項ノ效力ヲ有スル場合ハ登錄アルヲ要セス

特許權者ハ前二項ノ規定ニ依ル實施權者ヨリ相當ノ補償金ヲ受クルノ權利ヲ有ス

第三十九條　特許出願ノ日前又ハ之ト同日ノ出願ニ係リ其ノ特許權ト牴觸スル實用新案權ノ存

續期間滿了後ニ於ケル原實用新案權者ハ其ノ特許發明ニ付原權利ノ範圍內ニ於テ實施權ヲ有ス

第四十條　特許發明カ軍事上祕密ヲ要シ又ハ軍事上若ハ公益上必要ナルモノナルトキハ特許權ヲ制限シ若ハ政府ニ於テ收用シ、特許ヲ取消シ又ハ政府ニ於テ特許發明ヲ實施スルコトヲ得

特許權ノ收用アリタルトキハ其ノ特許發明ニ關スル特許權以外ノ權利ハ消滅ス

第一項ノ規定ニ依ル制限、收用、取消又ハ實施ノ場合ニ於テハ政府ハ相當ノ補償金ヲ特許權者又ハ實施權者ニ支給ス

收用、實施及補償金支給ニ關シテハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第四十一條　特許アリタル後ニ於テ引續キ三年以上正當ノ理由ナクシテ其ノ發明カ帝國內ニ適當ニ實施セラレサル場合ニ於テ公益上必要アルトキハ特許局長ハ利害關係人ノ請求ニ依リ其ノ實施權ヲ許與シ若ハ其ノ特許ヲ取消シ又ハ職權ヲ以テ其ノ特許ヲ取消スコトヲ得

特許權者又ハ請求人ハ前項ノ規定ニ依ル實施權許與若ハ特許取消ノ處分又ハ前項ノ請求ノ却下ニ對シ不服アルトキハ訴願ヲ提起スルコトヲ得

第一項ノ規定ニ依リ實施權ヲ許與スル場合ニ於テハ特許局長ハ補償金ニ付テモ亦之カ決定ヲ爲スヘシ

第四十二條　前條ノ規定ニ依リ實施權ヲ取得シタル者適當ニ其ノ特許發明ヲ實施セサル場合ニ於テハ特許局長ハ利害關係人ノ請求ニ依リ又ハ職權ヲ以テ其ノ實施權ヲ取消スルコトヲ得

實施權者又ハ請求人ハ前項ノ規定ニ依ル取消ノ處分又ハ前項ノ請求ノ却下ニ對シ不服アルトキハ訴願ヲ提起スルコトヲ得

第四十三條　特許權ノ存續期間ハ出願公告アリタル場合ニ在リテハ其ノ出願公告ノ日ヨリ、出願公告ナカリシ場合ニ在リテハ特許ノ日ヨリ十五年ヲ以テ終了ス

第十條ノ規定ニ依リ正當權利者ニ特許ヲ與ヘタル場合ニ於テ特許ヲ受クルコト能ハサルニ至リタル特許出願ニ付出願公告アリタルトキハ前項ノ十五年ノ期間ハ其ノ出願公告ノ日ノ翌日ヨリ之ヲ起算ス

第十一條ノ規定ニ依リ正當權利者ニ特許ヲ與ヘタルトキハ第一項ノ十五年ノ期間ハ無效ト爲リタル特許ノ出願公告ノ日ノ翌日ヨリ之ヲ起算ス

追加ノ特許權カ獨立ノ特許權ト爲リタルトキハ其ノ存續期間ハ原特許權ノ殘期間トス第五十三條第二項ノ規定ニ依ル各別ノ特許權ノ存續期間ニ付亦同シ

特許權ノ存續期間ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ三年以上十年以下之ヲ延長スルコトヲ得

第四十四條　特許權ハ制限ヲ附シ又ハ附セスシテ之ヲ移轉スルコトヲ得

特許權カ共有ニ係ル場合ニ於テハ各共有者ハ他ノ共有者ノ同意アルニ非サレハ其ノ持分ヲ讓渡スルコトヲ得ス

第四十五條　特許權ノ移轉、拋棄ニ依ル消滅若ハ處分ノ制限又ハ特許權ヲ目的トスル質權ノ設定、移轉、變更、消滅若ハ處分ノ制限ハ其ノ登錄ヲ受クルニ非サレハ之ヲ以テ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス

第四十六條　追加ノ特許權ハ原特許權ニ附隨ス

第四十七條　特許權カ共有ニ係ル場合ニ於テハ各共有者ハ契約ヲ以テ別段ノ定ヲ爲ササルトキハ他ノ共有者ノ同意ヲ要セスシテ特許發明ヲ實施スルコトヲ得

第四十八條　特許權者ハ特許發明ノ實施ヲ他人ニ許諾スルコトヲ得

特許權カ共有ニ係ル場合ニ於テハ各共有者ハ他ノ共有者ノ同意アルニ非サレハ特許發明ノ實施ヲ他人ニ許諾スルコトヲ得ス

第四十九條　特許權者ハ他人ヲ特許發明又ハ登錄實用新案ヲ實施スルニ非サレハ自己ノ特許發明ヲ實施スルコト能ハサル場合ニ於テ其ノ他人カ正當ノ理由ナクシテ實施ヲ許諾セサルトキ又ハ其ノ他人ノ實施許諾ヲ得ルコト能ハサルトキハ審判ヲ請求スルコトヲ得但シ他人ノ特許發明ノ實施ヲ要スル場合ニ於テハ其ノ實施セラルヘキ發明ノ特許權發生ノ日ヨリ三年ヲ經過

セサルトキハ此ノ限ニ在ラス

前項ノ規定ニ依リ特許發明ヲ實施セラルル者其ノ實施ヲ必要トスル相手方ノ特許發明ニ付實施ノ許諾ヲ求メタル場合ニ於テ其ノ相手方カ正當ノ理由ナクシテ實施ヲ許諾セサルトキ又ハ其ノ相手方ノ實施許諾ヲ得ルコト能ハサルトキハ審判ヲ請求スルコトヲ得

第五十條　第四十一條又ハ前條ノ規定ニ依ル實施權者ハ特許權者又ハ實用新案權者ニ對シ相當ノ補償金ヲ支拂フヘシ

前項ノ實施權者ハ補償金ノ支拂ヲ爲シ又ハ支拂ヲ爲スコト能ハサル場合ニ於テハ供託ヲ爲スニ非サレハ其ノ特許發明又ハ登錄實用新案ヲ實施スルコトヲ得ス但シ第四十一條ノ決定、審決又ハ判決ノ確定前ト雖決定、審決又ハ判決ニ依ル補償金ニ相當スル金額ヲ供託シタルトキハ實施スルコトヲ得

第五十一條　第四十九條ノ規定ニ依ル實施權ハ其ノ特許權ニ附隨ス

特許發明ノ實施權ニシテ前項ノ實施權ニ非サルモノハ其ノ實施ノ事業ト共ニスル場合又ハ特許權者ノ承諾アル場合ニ於テハ之ヲ移轉スルコトヲ得

第五十二條　特許發明ノ實施權ハ之ヲ登錄シタルトキハ其ノ特許權ヲ爾後取得シタル者及其ノ特許權ヲ目的トスル爾後設定ノ質權ヲ有スル者ニ對シテモ其ノ效力ヲ生ス

第十四條第二項又ハ第三十七條乃至第三十九條ノ規定ニ依ル實施權ハ其ノ登錄ナキ場合ト雖前項ノ效力ヲ有ス

第四十九條ノ規定ニ依ル實施權ハ其ノ登錄前設定ノ質權ヲ有スル者ニ對シテモ其ノ效力ヲ生ス第四十五條ノ規定ハ實施權ノ移轉、變更、消滅若ハ處分ノ制限又ハ實施權ヲ目的トスル質權ノ設定、移轉、變更、消滅若ハ處分ノ制限ニ付之ヲ準用ス

第五十三條　特許權者ハ特許發明ノ明細書又ハ圖面カ不完全ニ作製セラレタルコトヲ發見シタルトキハ左ノ各號ノ一ニ揭クル事項ヲ目的トスル場合ニ限リ其ノ明細書又ハ圖面ノ訂正ノ許可ノ審判ヲ請求スルコトヲ得

一　特許請求範圍ノ減縮

二　誤記ノ訂正

三　不明瞭ナル記載ノ釋明

特許權者ハ錯誤ニ因リ二以上ノ發明ヲ一特許出願ニ包含セシメタルコトヲ疏明シタル場合ニ限リ各發明毎ニ各別ノ特許權ト爲スノ許可ノ審判ヲ請求スルコトヲ得

第一項第一號ノ場合ニ於テハ其ノ殘部、前項ノ場合ニ於テハ其ノ各發明カ特許出願ノ際獨立シテ新規ノ發明ナルコトヲ要ス

第五十四條　前條ノ場合ニ於テハ特許請求範圍ヲ實質上擴張シ又ハ實質上變更スルコトヲ得ス

第五十五條　特許權者ハ制限附移轉ノ特許權ヲ有スル者、質權者又ハ第十四條第二項若ハ第四十八條ノ規定ニ依ル實施權者ノ承諾ヲ得ルニ非サレハ特許權ヲ拋棄シ又ハ第五十三條ノ規定ニ依ル許可ノ審判ノ請求ヲ爲スコトヲ得ス

第五十六條　先取特權又ハ質權ハ本法ニ依リ受クヘキ補償金其ノ他特許權ノ對價又ハ特許發明ノ實施ニ對シテ受クヘキ金錢若ハ金錢以外ノ物ニ對シテモ之ヲ行フコトヲ得但シ其ノ拂渡又ハ引渡前ニ差押ヲ爲スヘシ

第五十七條　特許カ左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ審判ニ依リ之ヲ無效ト爲スヘシ

一　特許カ第一條乃至第三條、第八條又ハ第三十二條ノ規定ニ違反シテ與ヘラレタルトキ

二　特許カ特許ヲ受クルノ權利ノ承繼人ニ非サル者又ハ特許ヲ受クルノ權利ヲ冒認シタル者ニ對シテ與ヘラレタルトキ

三　特許發明ノ明細書又ハ圖面ニ其ノ實施ニ必要ナル事項ヲ故意ニ記載セス又ハ其ノ實施ヲ不能若ハ困難ナラシムル爲必要ナラサル事項ヲ故意ニ記載シタルトキ

四　特許カ第三十三條ニ規定スル條約又ハ之ニ準スヘキモノニ違反シテ與ヘラレタル場合ニ於テ其ノ違反カ第一號乃至前號ニ揭クルモノニ準スヘキモノナルトキ

五　特許カ第三十二條ノ規定ニ違反スルニ至リタルトキ又ハ特許カ第三十三條ニ規定スル條約若ハ之ニ準スヘキモノニ違反スルニ至リタル場合ニ於テ其ノ違反カ第一號乃至第三號ニ掲クルモノニ準スヘキモノナルトキ

第五十三條ノ許可カ同條第三項又ハ第五十四條ノ規定ニ違反シタルトキハ審判ニ依リ之ヲ無效ト爲スヘシ

特許又ハ第五十三條ノ許可ハ特許權消滅後ト雖前二項ノ規定ニ依リ之ヲ無效ト爲スヘシ

第五十八條　特許カ無效ト爲リタルトキハ特許權ハ初ヨリ存在セサリシモノト看做ス但シ前條第一項第五號ノ規定ニ依リ特許カ無效ト爲リタルトキハ特許權ハ特許カ同號ニ該當スルニ至リタル時ヨリ存在セサリシモノト看做ス

第五十三條ノ許可カ無效ト爲リタルトキハ初ヨリ許可ナカリシモノト看做ス

特許ノ取消又ハ第四十二條ノ規定ニ依ル實施權ノ取消アリタルトキハ特許權又ハ實施權ハ爾後其ノ效力ナキモノトス

第五十九條　特許權ハ相續人ナキトキハ消滅ス

第六十條　特許カ取消サレ若ハ無效ト爲リ又ハ特許權カ消滅シタル場合ニ於テ追加ノ特許權アルトキハ其ノ追加ノ特許權ハ獨立ノ特許權ト爲ル第六十九條第二項ノ規定ニ依リ特許權カ消滅シタルトキハ同條第一項ニ規定スル追納期間ノ滿了ノ時獨立ノ特許權ト爲ル

前項ノ場合ニ於テ獨立ノ特許權ト爲リタルモノニ係ル追加ノ特許權アルトキハ其ノ追加ノ特許權ハ獨立ト爲リタル特許權ノ追加ノ特許權ト爲ル

前二項ノ場合ニ於テハ其ノ日ヨリ六十日以內ニ變更ノ登錄ヲ申請スルニ非サレハ第一項ノ特許權又ハ前項ノ追加ノ特許權ハ消滅ス

第三章　登錄、特許證、公報及明細書、特許標記並ニ特許料

第六十一條　特許局ニ特許原簿ヲ備ヘ特許權及實施權並之ヲ目的トスル質權ノ設定、保存、移轉、變更、消滅、處分ノ制限其ノ他法令ニ定ムル事項ヲ登錄ス

登錄ニ關スル規程ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第六十二條　特許スヘシトノ査定若ハ審決確定シ又ハ判決アリタルトキハ之ヲ特許原簿ニ登錄シ特許證ヲ下付ス第五十三條ノ許可ノ審決確定シ又ハ判決アリタルトキ亦同シ

第六十三條　特許局ハ特許公報及特許發明明細書ヲ發行シ本法ニ規定スル事項其ノ他特許發明ニ關スル必要ナル事項ヲ之ニ記載スヘシ但シ軍事上祕密ヲ要スル特許發明ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第六十四條　特許標記ハ特許ニ係ル物ニ之ヲ附スヘシ物ノ性質ニ依リ其ノ物ニ附スルコト能ハ

サルトキハ其ノ物ノ容器包裝ノ類ニ之ヲ附スヘシ

特許權者ハ實施權者又ハ第三十六條第一號ノ實施ヲ爲ス者ニ對シ特許標記ヲ附スヘキコトヲ請求スルコトヲ得

特許標記ヲ附セサリシ爲特許ニ係ル物ナルコトヲ知ラスシテ特許權ヲ侵害シタル者ニ對シテハ損害賠償ノ請求ヲ爲スコトヲ得ス

前三項ノ規定ハ特許ニ係ル物ノ要部ヲ分離シテ販賣又ハ擴布スル場合ニ之ヲ準用ス

第六十五條　特許權ノ特許ヲ受クル者又ハ特許證主ハ特許料トシテ第四十三條第一項ニ規定スル十五年ノ各年ニ付每件左ノ金額ヲ納付スヘシ

一　第一年乃至第三年　每年十圓

二　第四年及第五年　每年十五圓

三　第六年乃至第九年　每年二十五圓

四　第十年乃至第十二年　每年十三十五圓

五　第十三年乃至第十五年　每年五十圓

特許權存續期間延長ノ登錄ヲ受クル者又ハ其ノ特許證主ハ特許料トシテ每件左ノ金額ヲ納付スヘシ

一　第一年乃至第三年　每年百圓

二　第四年乃至第六年　每年百五十圓

三　第七年乃至第十年　每年二百圓

追加ノ特許權ノ登錄ヲ受クル者ハ其ノ登錄ヲ受クル時特許料トシテ每件一時ニ三十圓ヲ納付スヘシ特許權存續期間延長ノ場合ニ於テ追加ノ特許權アルトキハ其ノ登錄ヲ受クル時特許料トシテ每件一時ニ六十圓ヲ納付スヘシ

第五十三條第二項ノ規定ニ依ル各別ノ特許權ノ登錄ヲ受クル者又ハ特許證主ハ各別ノ特許權ニ付原特許權ノ當該年分ヨリノ特許料ヲ納付スヘシ但シ既納ノ特許料ノ金額ハ納付スヘキ特許料ノ金額中ニ之ヲ充當ス

追加ノ特許權カ獨立ノ特許權ト爲リタル場合又ハ第十一條ノ規定ニ依リ正當權利者ニ特許ヲ與ヘタル場合ニ於テハ特許權ノ登錄ヲ受クル者又ハ特許證主ハ原特許權ノ當該年分ヨリノ特許料ヲ納付スヘシ

前六項ノ規定ハ國ニ屬スル特許權ニ付之ヲ適用セス

第六十六條　前條第一項ノ規定ニ依ル第一年乃至第三年ノ特許料ハ一時ニ之ヲ前納シ其ノ第四年以後ノ特許料及前條第二項ノ規定ニ依ル特許料ハ前年ニ之ヲ納付スヘシ但シ數年分ヲ前納

スルコトヲ妨ケス

特許局長ハ前條第一項ノ規定ニ依ル第一年乃至第三年ノ特許料又ハ前條第三項ノ規定ニ依ル特許料ヲ納付スヘキ者カ其ノ特許發明ノ發明者又ハ其ノ相續人ナル場合ニ於テ之ヲ納付スルノ資力ナシト認ムルトキハ二年以内之カ納付ヲ猶豫シ又ハ之ヲ減免スルコトヲ得

第六十七條　利害關係人ハ特許料ヲ納付スヘキ者ニ代リ納付スルコトヲ得

第六十八條　既納ノ特許料ハ之ヲ還付セス

第六十九條　特許證主ハ特許料ヲ納付スヘキ期限ヲ經過シタル後ト雖六月間ヲ限リ特許料ヲ追納スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ第六十五條ニ規定スル特許料ノ二倍ニ相當スル金額ヲ特許料トシテ納付スヘシ

前項ニ規定スル追納期間内ニ特許料ヲ追納セサルトキハ特許料ヲ納付スヘキ期限經過ノ時ニ遡リ特許權ハ消滅シタルモノト看做ス

第四章　審査

第七十條　特許ノ出願アリタルトキハ審査官ヲシテ之ヲ審査セシム

第七十一條　第九十一條ノ規定ハ審査官ノ審査ノ干與ヨリノ除斥ニ付之ヲ準用ス

第七十二條　審査官ハ出願ヲ拒絶スヘキモノト認メタルトキハ出願人ニ對シ拒絶ノ理由ヲ示シ

期間ヲ指定シテ之ニ意見書提出ノ機會ヲ與フヘシ

第七十三條　審査官ハ出願拒絶ノ理由ヲ發見セサルトキハ出願公告ヲ爲スヘキモノト決定スヘシ前項ノ規定ニ依ル決定アリタルトキハ特許局ハ出願年月日、發明者ノ氏名、出願人ノ氏名、名稱及住所竝出願ノ要旨ヲ特許公報ニ掲載シテ出願公告ヲ爲スヘシ

出願公告アリタルトキハ其ノ出願ニ係ル發明ニ付出願公告ノ時ヨリ特許權ノ效力ヲ生シタルモノト看做ス

特許局ハ出願公告ト同時ニ出願書類及其ノ附屬物件ヲ特許局ニ於テ竝命令ノ定ムル所ニ依リ出願書類及其ノ附屬物件ヲ其ノ他ノ場所ニ於テ公衆ノ閲覽ニ供スヘシ

特許局ハ出願人ノ請求ニ依リ出願公告ノ決定アリタル日ヨリ六月以内出願公告ヲ猶豫スルコトヲ得

軍事上祕密ヲ要スル發明ノ出願ニ付テハ出願公告ノ決定ヲ爲サスシテ査定ヲ爲スヘシ

第七十四條　出願公告アリタルトキハ何人ト雖出願公告ノ日ヨリ二月以内ニ特許局ニ特許異議ノ申立ヲ爲スコトヲ得

特許異議ノ申立ハ特許異議申立書ヲ提出シテ之ヲ爲シ理由ヲ之ニ記載スヘシ

利害關係人ハ特許異議ノ決定アル迄其ノ特許異議ニ參加スルコトヲ得

特許異議ノ參加ニ關シテハ審判ノ參加ニ關スル規定ヲ準用ス

第七十五條　特許異議ノ申立アリタルトキハ審査官ハ特許異議申立書ノ副本ヲ出願人ニ送達シ期間ヲ指定シテ之ニ答辯書提出ノ機會ヲ與フヘシ

審査官ハ前條第一項ニ規定スル特許異議申立期間及前項ノ期間ノ經過後特許異議ノ決定ヲ爲シ同時ニ其ノ出願ニ對シ特許スヘキヤ否ヲ査定スヘシ

特許異議ノ決定ニハ理由ヲ附スヘシ

特許異議ノ決定ニ對シテハ不服ヲ申立ツルコトヲ得ス

審査官ハ特許異議申立ノ結果必要アルトキハ特許發明ノ明細書又ハ圖面ノ訂正ヲ命スルコトヲ得

第七十六條　特許異議ニ關シ爲シタル證據調ノ費用ニ付テハ審判ニ關スル費用ノ規定ヲ準用ス

第七十七條　特許異議ノ申立ナキトキハ審査官ハ査定ヲ爲スヘシ

第七十八條　出願公告後出願ノ抛棄、取下若ハ無效處分アリタルトキ、拒絶ノ査定若ハ審決確定シ若ハ判決アリタルトキ又ハ第五十八條第一項但書ノ場合ヲ除クノ外特許カ無效ト爲リタルトキハ第七十三條第三項ノ規定ニ依ル效力ハ初ヨリ生セサリシモノト看做ス

第七十九條　第十條又ハ第十一條ニ規定スル正當權利者ノ出願アリタルトキハ審査官ハ既ニ出

願公告ヲ爲シタルモノニ付テハ更ニ出願公告ヲ爲スコトナク査定ヲ爲スヘシ

第八十條　第百條及第百十八條第一項ノ規定ハ審査ニ付之ヲ準用ス

第八十一條　査定ニハ理由ヲ附スヘシ

第八十二條　本法ニ規定スルモノノ外審査ニ關スル書類ニシテ送達スヘキモノ及送達ニ關スル規定ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第八十三條　民事又ハ刑事ノ訴訟ニ於テ必要アルトキハ裁判所ハ特許又ハ拒絶査定確定アル迄其ノ訴訟手續ヲ中止スルコトヲ得

第五章　審判、抗告審判及出訴

第八十四條　審判ハ本法又ハ本法ニ基キテ發スル勅令ニ規定スルモノノ外左ニ掲クル事項ニ付之ヲ請求スルコトヲ得

一　第五十七條ノ規定ニ依ル特許又ハ許可ノ無效

二　特許權ノ範圍ノ確認

前項第一號ノ無效ノ審判ハ利害關係人及審査官ニ限リ之ヲ請求スルコトヲ得但シ審査官ハ第八條ノ規定ニ違反シ又ハ第五十七條第一項第二號ニ該當ストノ理由ニ依ル無效ノ審判ヲ請求スルコトヲ得ス

第一項第二號ノ確認ノ審判ハ利害關係人ニ限リ之ヲ請求スルコトヲ得

第八十五條　前條第一項第一號ノ無效ノ審判ハ特許又ハ第五十三條ノ許可ノ登錄ノ日ヨリ五年ヲ經過シタルトキハ之ヲ請求スルコトヲ得ス

前項ニ規定スル期間ハ第五十七條第一項第五號ニ該當ストノ理由ニ依ル無效ノ審判ノ請求ニ付テハ同號ニ該當スルニ至リタル日ノ翌日ヨリ之ヲ起算ス

第八十六條　審判ノ請求ハ審判請求書ヲ提出シテ之ヲ爲スヘシ

審判請求書ニハ一定ノ申立及理由ヲ記載スヘシ

第八十七條　審判ノ請求カ判然許スヘカラサルモノ、法令ニ定メタル方式ニ適セサルモノ又ハ期間ヲ經過シタルモノナルトキハ審判長ハ直ニ決定ヲ以テ之ヲ却下ス

前項ノ決定ニハ理由ヲ附スヘシ

第一項ノ決定ニ不服アル者ハ卽時抗告ヲ爲スコトヲ得

前項ノ卽時抗告ニ付テハ民事訴訟法中卽時抗告ニ關スル規定ヲ準用ス

第八十八條　審判長ハ審判請求書ヲ受理シタルトキハ其ノ副本ヲ被請求人ニ送達シ期間ヲ指定シテ之ニ答辯書提出ノ機會ヲ與ヘ其ノ答辯書ヲ受理シタルトキハ其ノ副本ヲ相手方ニ送達スヘシ

審判ニ關シテハ當事者ノ提出シタル書類ニ對シ相手方ヲシテ答辯書ヲ提出セシメ又ハ當事者ニ訊問書ヲ發シテ之ニ對スル意見書ヲ提出セシムルコトヲ得

第八十九條　審判ハ審判官三人ノ合議ニ依リ之ヲ行フ

合議ハ過半數ニ依リ之ヲ決ス

審判長ハ審判官中ノ上席者ヲ以テ之ニ充ツ

審判長ハ其ノ審判事件ニ關スル事務ヲ掌理ス

第九十條　審判官ハ各審判事件ニ付特許局長之ヲ指定ス

審判官中審判ニ干與スルニ故障アル者アルトキハ其ノ指定ヲ解キ更ニ他ノ審判官ヲ以テ之ヲ補充ス

第九十一條　審判官ハ左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ審判ノ干與ヨリ除斥セラル

一　其ノ事件ニ付當事者、參加人又ハ特許異議申立人ナルトキ

二　前號ニ掲クル者又ハ其ノ配偶者ノ親族ナルトキ

三　第一號ニ掲クル者ノ法定代理人、後見監督人又ハ保佐人ナルトキ

四　其ノ事件ニ付第一號ニ掲クル者ノ代理人ト爲リタルトキ

五　其ノ事件ニ付證人又ハ鑑定人ト爲リタルトキ

六　其ノ事件ニ付審査官又ハ審判官トシテ査定又ハ審決ニ干與シタルトキ

七　其ノ事件ニ付直接ノ利害關係ヲ有スルトキ

第九十二條　審判官カ前條ノ規定ニ依リ審判ノ干與ヨリ除斥セラルルトキ又ハ偏頗ノ審判ヲ爲スノ虞アルトキハ當事者又ハ參加人ヨリ之ヲ忌避スルコトヲ得

第九十三條　第九十一條ノ規定ニ依リ審判ノ干與ヨリ除斥セラルヘシトシテ爲ス審判官ノ忌避ノ申請ハ審判ノ如何ナル程度ニ在ルヲ問ハス之ヲ爲スコトヲ得

偏頗ノ審判ヲ爲スノ虞アリトシテ爲ス審判官ノ忌避ノ申請ハ當事者又ハ參加人カ其ノ覺知シタル忌避ノ原因ヲ主張セスシテ申立ヲ爲シ又ハ相手方ノ申立ニ對シ陳述ヲ爲シタル後ハ之ヲ爲スコトヲ得ス

第九十四條　忌避ノ申請ハ書面又ハ口頭ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得

忌避ノ原因ハ之ヲ疏明スヘシ忌避ヲ申請セラレタル審判官ノ職務上ノ陳述ハ之ヲ其ノ疏明ノ用ニ充ツルコトヲ得

當事者又ハ參加人カ申立又ハ陳述ヲ爲シタル後偏頗ノ審判ヲ爲スノ虞アリトシテ爲ス審判官ノ忌避ノ申請ニハ其ノ申立又ハ陳述ノ後ニ忌避ノ原因發生シ又ハ忌避ノ原因ヲ覺知シタルコトヲ疏明スヘシ

第九十五條　忌避ノ申請アリタルトキハ忌避ヲ申請セラレタル審判官以外ノ審判官ニシテ特許局長ノ指定シタルモノノ審判ニ依リ其ノ許否ヲ決定ス

前項ノ規定ニ依ル決定ニハ理由ヲ附スヘシ

第一項ノ規定ニ依ル決定ニ對シテハ不服ヲ申立ツルコトヲ得ス

第九十六條　忌避ヲ申請セラレタル審判官ハ忌避申請ノ許否ノ決定アル迄其ノ審判事件ニ關シ總テノ行爲ヲ爲スコトヲ得ス但シ偏頗ノ審判ヲ爲スノ虞アリトシテ爲サレタル忌避ノ申請ノ場合ニ於テ猶豫スヘカラサル行爲ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第九十七條　第八十四條第一項第一號ノ無效ノ審判ハ口頭審理ニ依ル但シ審判長ハ申立ニ依リ又ハ職權ヲ以テ書面審理ニ依ルモノト爲スコトヲ得

前項ノ審判以外ノ審判ハ書面審理ニ依ル但シ審判長ハ申立ニ依リ又ハ職權ヲ以テ口頭審理ニ依ルモノト爲スコトヲ得

口頭審理ハ之ヲ公開ス但シ公益又ハ風俗ヲ害スルノ虞アルトキハ此ノ限ニ在ラス

第九十八條　利害關係人ハ審理ノ終結ニ至ル迄其ノ審判ニ參加スルコトヲ得

第九十九條　參加ノ申請ハ參加申請書ヲ提出シテ之ヲ爲スヘシ

審判長ハ參加申請書ヲ受理シタルトキハ之ヲ當事者及參加人ニ送達シ期間ヲ指定シテ之ニ異

議申立ノ機會ヲ與フヘシ

參加ノ申請アリタルトキハ審判ニ依リ其ノ許否ヲ決定ス

第九十五條第二項及第三項ノ規定ハ前項ノ規定ニ依ル決定ニ付之ヲ準用ス

第百條　審判ニ於テハ申立ニ依リ又ハ職權ヲ以テ證據調ヲ爲スコトヲ得

前項ノ證據調ハ所要ノ事務ヲ取扱フヘキ地ノ區裁判所其ノ他區裁判所ノ事務ヲ行フ官廳ニ之ヲ囑託スルコトヲ得

民事訴訟法中證據調ニ關スル規定ハ前二項ノ規定ニ依ル證據調ニ付之ヲ準用ス但シ特許局ニ於テ爲ス證據調ニ關シテハ罰金ノ言渡ヲ爲シ又ハ勾引ヲ命スルコトヲ得ス

第百一條　當事者又ハ參加人カ法定若ハ指定ノ期間內ニ手續ヲ爲サス又ハ期日ニ出頭セサルトキト雖審判長ハ審判ヲ進行スルコトヲ得

第百二條　審判ノ請求ハ其ノ審理ノ終結ニ至ル迄之ヲ取下クルコトヲ得但シ答辯書ノ提出アリタル後ニ於テハ相手方ノ承諾ヲ要ス

第百三條　審判ニ於テハ當事者又ハ參加人ノ申立テサル理由又ハ取下ケタル理由ニ付テモ之ヲ審理スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ其ノ理由ニ付當事者又ハ參加人ニ期間ヲ指定シテ意見申立ノ機會ヲ與フヘシ

第百四條　特許局ハ當事者ノ雙方又ハ一方ノ同一ナル二以上ノ審判ニ付其ノ審理又ハ審決ノ併合ヲ爲スコトヲ得

特許局ハ前項ノ規定ニ依リ審理ノ併合ヲ爲シタル場合ニ於テ更ニ審理又ハ審決ノ分離ヲ爲スコトヲ得

第百五條　審判ハ別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外審決ヲ以テ之ヲ終了ス

前項ノ審決ニハ理由ヲ附スヘシ

事件カ審決ヲ爲スニ熟シタルトキハ審判長ハ審理ノ終結ヲ當事者及參加人ニ通知スヘシ

審判長ハ必要アルトキハ前項ノ規定ニ依リ審理ノ終結ヲ通知シタル後ト雖申立ニ依リ又ハ職權ヲ以テ審理ノ再開ヲ爲スコトヲ得

審決ハ審理ノ終結ノ通知ヲ發シタル日ヨリ二十日以內ニ之ヲ爲スヘシ

第百六條　第四十九條ノ審判ニ於テハ補償金額ニ付テモ亦之ヲ審決スヘシ

第百七條　第八十二條ノ規定ハ審判ニ付之ヲ準用ス

第百八條　第七十二條、第七十三條第一項第二項第四項第六項及第七十四條乃至第七十七條ノ規定ハ第五十三條ノ審判ニ付之ヲ準用ス

第九十八條、第九十九條及第百四條ノ規定ハ前項ノ審判ニ付之ヲ適用ス

第百九條　査定又ハ審決ヲ受ケタル者不服アルトキハ其ノ査定又ハ審決ノ送達ヲ受ケタル日ヨリ六十日以内ニ抗告審判ヲ請求スルコトヲ得但シ第百六條ノ規定ニ依ル補償金額ノ審決ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第百十條　第八十六條乃至第百八條ノ規定ハ抗告審判ニ付之ヲ準用ス但シ審判官ノ合議ハ三人又ハ五人ヲ以テ之ヲ爲シ第九十二條乃至第九十四條及第百一條ニ於テ當時者又ハ參加人トアルハ當事者、參加人又ハ特許異議申立人トス

第百十一條　抗告審判ニ於テハ審判請求ノ理由ヲ變更シ又ハ新ナル事實若ハ證據方法ヲ提出スルコトヲ得

第百十二條　抗告審判ニ於テハ其ノ事件ニ付審決ヲ爲スヘシ

第百十三條　第七十二條ノ規定ハ拒絶ノ査定ニ對スル抗告審判ニ於テ其ノ査定ノ理由ト異ル拒絶ノ理由ヲ發見シタル場合ニ之ヲ準用ス

第七十三條乃至第七十九條ノ規定ハ拒絶ノ査定ニ對スル抗告審判ノ請求アリトスル場合ニ之ヲ準用ス但シ特許スヘキ出願ニシテ出願公告アリタルモノニ付テハ更ニ出願公告ヲ爲スコトナク審決ヲ爲スヘシ

第百十四條　拒絶ノ査定ニ對スル抗告審判ニ於テハ前二條ノ規定ニ依ラス其ノ査定ヲ破毀シ更ニ審査ニ付スヘシトノ審決ヲ爲スコトヲ得

前項ノ規定ニ依ル審決アリタル場合ニ於テハ其ノ破毀ノ基本ト爲シタル理由ハ其ノ事件ニ付テハ審査官ヲ羈束ス

第百十五條　抗告審判審決ヲ受ケタル者不服アルトキハ其ノ審決カ法令ニ違反シタルコトヲ理由トスル場合ニ限リ審決ノ送達ヲ受ケタル日ヨリ六十日以内ニ大審院ニ出訴スルコトヲ得

前項ノ規定ニ依ル出訴及其ノ裁判ニ付テハ民事訴訟ノ上告及其ノ裁判ニ關スル規定ヲ準用ス

大審院ノ判決ニ於テ審決破毀ノ基本ト爲シタル理由ハ其ノ事件ニ付テハ特許局ヲ羈束ス

第百十六條　第十五條、第四十條又ハ第五十條ニ規定スル補償金額ノ通知又ハ決定若ハ審決ヲ受ケタル者補償金額ニ付不服アルトキハ其ノ通知又ハ決定若ハ審決ノ送達ヲ受ケタル日ヨリ六十日以内ニ通常裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第百十七條　特許若ハ第五十三條ノ許可ノ效力又ハ特許權ノ範圍ニ關スル確定審決又ハ判決ノ登錄アリタルトキハ何人ト雖同一事實及同一證據ニ基キ同一審判ヲ請求スルコトヲ得ス

第百十八條　審判又ハ抗告審判ニ於テ必要アルトキハ民事又ハ刑事ノ訴訟手續ノ完結ニ至ル迄其ノ手續ヲ中止スルコトヲ得

民事又ハ刑事ノ訴訟ニ於テ必要アルトキハ裁判所ハ特許ニ關シ審決ノ確定又ハ判決アル迄其

ノ訴訟手續ヲ中止スルコトヲ得

第百十九條　審判、抗告審判及出訴ニ關スル費用ノ負擔ハ別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外其ノ事件ノ審決ヲ以テ之ヲ定ム

審判、抗告審判及出訴ニ關スル費用ノ額ハ請求ニ依リ特許局長之ヲ決定ス

費用ノ負擔及額ニ關シテハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第百二十條　審判、抗告審判及出訴ニ關スル費用ノ額ノ決定並本法ニ規定スル補償金額ノ確定ノ決定及審決ハ强制執行ニ關シテハ民事訴訟法第五百五十九條第一號ノ規定ニ依ル債務名義ト看做ス但シ其ノ執行力アル正本ハ特許局官吏之ヲ付與ス

第六章　再審

第百二十一條　左ニ掲クル審判若ハ抗告審判又ハ出訴ニ付爲シタル確定審決又ハ判決ヲ以テ終結シタル事件ハ取消ノ請求又ハ原狀回復ノ請求ニ依リ之ヲ再審スルコトヲ得

一　特許若ハ第五十三條ノ許可ノ效力、特許權ノ簡圍又ハ實施權ノ取得ニ關スル審判

二　前號ノ審判ノ審決ニ對スル抗告審判

三　前號ノ抗告審判ノ審決ニ對スル出訴

民事訴訟法第四百六十八條ノ規定ハ取消ノ請求ニ付、同法第四百六十九條及第四百七十條ノ

規定ハ原狀回復ノ請求ニ付之ヲ準用ス

第百二十二條　再審ハ當事者カ不服ノ理由ヲ知リタル日ヨリ六十日以內ニ限リ之ヲ請求スルコトヲ得

審決ノ確定又ハ判決ノ前ニ當事者カ不服ノ理由ヲ知リタルトキハ前項ニ規定スル期間ハ審決確定シ又ハ判決アリタル日ノ翌日ヨリ之ヲ起算ス

審判、抗告審判又ハ出訴ノ手續ニ於テ當事者カ法律ノ規定ニ從ヒ代理セラレサリシコトヲ理由トシテ再審ヲ請求スル場合ニ於テハ第一項ニ規定スル期間ハ當事者又ハ其ノ法律上代理人カ送達ニ依リ審決又ハ判決アリタルコトヲ知リタル日ノ翌日ヨリ之ヲ起算ス

審決確定シ又ハ判決アリタル日ヨリ三年ヲ經過シタルトキハ再審ヲ請求スルコトヲ得ス

第百二十三條　審判、抗告審判又ハ出訴ニ於テ爲ス再審ノ請求及其ノ後ノ手續ニ付テハ本章ニ別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外各其ノ審級ノ手續ニ關スル規定ヲ準用ス

第百二十四條　民事訴訟法第四百六十七條第二項、第四百七十一條、第四百七十二條第一項第二項及第四百七十五條乃至第四百八十二條ノ規定ハ審判、抗告審判又ハ出訴ニ於テ爲ス再審ニ關シ之ヲ準用ス

第百二十五條　左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テ特許權ノ效力ハ審決確定シ又ハ判決アリタ

ル後ニシテ再審請求ノ登錄前善意ニ輸入若ハ移入シ又ハ帝國內ニ於テ製作若ハ取得シタル物ニ及ハス

一　無效ト爲リタル特許權カ再審ニ依リ回復シタルトキ

二　特許權ノ範圍ニ屬セストノ審決確定シ又ハ判決アリタルモノニ付再審ニ依リ之ニ反スル審決確定シ又ハ判決アリタルトキ

第百二十六條　前條各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テ審決確定シ又ハ判決アリタル後ニシテ再審請求ノ登錄前善意ニ帝國內ニ於テ其ノ發明實施ノ事業ヲ爲シ又ハ事業設備ヲ有スル者ハ其ノ特許發明ニ付事業ノ目的タル發明範圍內ニ於テ實施權ヲ有ス

第五十二條第二項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第百二十七條　實施權ノ取得ノ審決確定シ又ハ判決アリタル後再審ニ依リ之ニ反スル審決確定シ又ハ判決アリタル場合ニ於テ再審請求ノ登錄前善意ニシテ帝國內ニ於テ其ノ發明實施ノ事業ヲ爲シ又ハ事業設備ヲ有スル者ハ其ノ特許發明ニ付原實施權ノ範圍內ニ於テ實施權ヲ有ス」

第三十八條第三項及第五十二條第二項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第百二十八條　第三者カ請求人及被請求人ノ共謀ニ依リ其ノ第三者ノ權利又ハ利益ヲ詐害スル目的ヲ以テ審決又ハ判決ヲ爲サシメタルコトヲ理由トスル不服ノ申立ニ付テハ原狀回復ノ請求ニ依ル再審ノ規定ヲ準用ス

前項ノ場合ニ於テハ請求人及被請求人ヲ以テ共同被請求人トス

第七章　罰則

第百二十九條　左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ五年以下ノ懲役又ハ五千圓以下ノ罰金ニ處ス

一　特許權ヲ侵害シタル者

二　特許權ヲ侵害スヘキ物ヲ輸入又ハ移入シタル者

三　特許アリタル場合ニ於テ第七十三條第三項ニ規定スル權利ヲ特許前ニ侵害シタル者

四　特許アリタル場合ニ於テ第七十三條第三項ニ規定スル權利ヲ侵害スヘキ物ヲ特許前ニ輸入又ハ移入シタル者

前項ノ罪ハ告訴ヲ待テ之ヲ論ス

第百三十條　左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ三年以下ノ懲役又ハ三千圓以下ノ罰金ニ處ス

一　詐僞ノ行爲ヲ以テ特許ヲ受ケ又ハ審決若ハ判決ヲ受ケタル者

二　特許ニ係ラサル物又ハ其ノ物ノ容器包裝ノ類ニ特許標記ヲ附シ又ハ特許標記ニ紛ハシキ表示ヲ爲シタル者

三　特許ニ係ラサル物ニシテ其ノ物ノ容器包裝ノ類ニ特許標記ヲ附シ又ハ特許標記ニ紛ハシ

キ表示ヲ爲シタルモノヲ販賣又ハ擴布シタル者

四　特許ニ係ラサル物又ハ特許ニ係ラサル方法ニ依リ製作シタル物ヲ製作若ハ使用セシムル爲又ハ販賣若ハ擴布スル爲廣告、看板、引札ノ類ニ其ノ物若ハ方法カ特許ニ係ルコトヲ表示シ又ハ之ニ紛ハシキ表示ヲ爲シタル者

五　特許ニ係ラサル方法ヲ使用セシムル爲又ハ販賣若ハ擴布スル爲廣告、看板、引札ノ類ニ其ノ方法カ特許ニ係ルコトヲ表示シ又ハ之ニ紛ハシキ表示ヲ爲シタル者

第百三十一條　第百二十九條第一項ニ掲クル行爲ヲ組成シタル物又ハ其ノ行爲ヨリ生シタル物ニシテ刑法第十九條ノ規定ニ依リ沒收スルコトヲ得ヘキモノニ付判決言渡前被害者ノ請求アリタルトキハ其ノ物ヲ沒收シ之ヲ被害者ニ交付スルノ言渡ヲ爲スヘシ

被害者ハ前項ノ規定ニ依ル物ノ交付ヲ受ケタル場合ニ於テハ其ノ物ノ價額ヲ超過スル損害ノ額ニ限リ賠償ノ請求ヲ爲スコトヲ得

第百三十二條　法律ニ依リ宣誓シタル證人若ハ鑑定人又ハ通事特許局又ハ其ノ囑託ヲ受ケタル裁判所若ハ官廳ニ對シ虛僞ノ陳述ヲ爲シタルトキハ三月以上十年以下ノ懲役ニ處ス

前項ノ罪ヲ犯シタル者事件ノ査定又ハ審決ニ至ラサル前自白シタルトキハ其ノ刑ヲ減輕又ハ免除スルコトヲ得

第百三十三條　特許局職員又ハ其ノ職ニ在リタル者故ナク其ノ職務上知得タル特許出願中ノ發明又ハ特許出願者ノ事業上ノ祕密ヲ漏泄シ又ハ竊用シタルトキハ一年以下ノ懲役又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

第百三十四條　特許局リヨ證人、鑑定人又ハ通事トシテ呼出サレタル者正當ノ理由ナクシテ呼出ニ應セス又ハ其ノ義務ヲ盡ササルトキハ五十圓以下ノ過料ニ處ス

非訟事件手續法第二百六條乃至第二百八條ノ規定ハ前項ノ過料ニ付之ヲ準用ス

第百三十五條　辨理士ニ非スシテ特許局ニ對シ特許ニ關シ爲スヘキ事項ノ代理業ヲ營ミタル者ハ一年以下ノ懲役又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

附　則

第百三十六條　本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第百三十七條　舊法ニ依ル特許、特許權ノ改訂又ハ分割ノ許可、處分及手續ハ本附則ニ別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外本法ニ依リ爲シタルモノト看做ス

舊法ニ依リ特許ニ關シ爲シタル出願、請求其ノ他ノ手續ニ付亦前項ニ同シ

第百三十八條　本法施行ノ際現ニ繫屬スル特許又ハ特許權ノ改訂若ハ分割ノ許可ノ出願ノ處理ニ付テハ仍舊法ニ依ル但シ其ノ出願ニ係ル發明カ本法ニ依ル特許出願ニ係ル發明ニ抵觸スル

トキハ其ノ發明者ハ之ヲ先ニ發明ヲ爲シタル者ト看做ス

第百三十九條　特許ヲ受クルノ權利ヲ有スル者カ試驗ノ爲其ノ者ノ發明ヲ本法施行前第四條各號ノ一ニ該當スルニ至ラシメタル場合ニ於テ其ノ日ヨリ二年以內ニシテ本法施行ノ日ヨリ六月以內ニ其ノ者カ特許ヲ出願シタルトキハ其ノ者ノ發明ハ之ヲ新規ナルモノト看做ス

特許ヲ受クルノ權利ヲ有スル者ノ意ニ反シテ其ノ者ノ發明カ本法施行前第四條各號ノ一ニ該當スルニ至リタル場合ニ於テハ第五條第二項ノ規定ヲ適用セス

第百四十條　舊法ニ依ル使用權ハ第四十八條又ハ第四十九條ノ規定ニ依ル實施權ト看做ス

第百四十一條　本法施行前發生シタル特許權ニ關シテハ舊法第二十九條第二號ノ規定ハ仍其ノ效力ヲ有シ第三十七條ノ規定ハ之ヲ適用セス

第百四十二條　特許カ舊法施行中無效ト爲リタル場合ニ付テハ舊法第三十五條乃至第三十七條ノ規定及同法第三十六條ノ規定ニ依リ準用スル同法第三十三條ノ規定ハ仍其ノ效力ヲ有シ第三十八條ノ規定ハ之ヲ適用セス

特許カ舊法施行前無効ト爲リタル場合ニ付テハ第三十八條ノ規定ヲ適用セス

第百四十三條　舊法施行前發生シタル實施權ニ關シテハ第五十一條第二項ノ規定ヲ適用セス仍從前ノ例ニ依ル

第百四十四條　舊法ニ依ル特許權ノ存續期間ニ付テハ仍舊法ニ依ル

本法施行前既ニ納メタル又ハ納付スヘキ期限ヲ經過シタル特許料及追加特許料ニ付亦前項ニ同シ

第百四十五條　特許料又ハ追加特許料ノ納付ヲ怠リタル場合ニ於テ本法施行ノ際未タ其ノ特許又ハ追加特許ノ取消ナキモノニ付テハ本法施行ノ日ヨリ六月間ヲ限リ特許料又ハ追加特許料ヲ追納スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ舊法ニ依ル特許料又ハ追加特許料ノ二倍ニ相當スル金額ヲ特許料又ハ追加特許料トシテ納付スヘシ

前項ニ規定スル追納期間內ニ特許料又ハ追加特許料ヲ追納セサルトキハ本法施行ノ時ニ遡リ特許權又ハ追加特許權ハ消滅シタルモノト看做ス

第百四十六條　舊法ニ依ル特許又ハ特許權ノ改訂若ハ分割ノ許可ニ關シテハ本法施行後ニ特許又ハ許可アリタル場合ト雖舊法第四十九條ノ規定ハ仍其ノ效力ヲ有シ同條ノ規定ノ適用ノ範圍內ニ於テ同條ニ揭クル舊法ノ規定ハ仍其ノ效力ヲ有シ特許又ハ許可カ同條第一項各號ノ一ニ該當スル場合ニ限リ審判ニ依リ之ヲ無效ト爲スヘシ

第百四十七條　前條ノ規定ニ依ル無效ノ審判ハ本法施行前登錄セラレタル特許又ハ許可ニ關シテ本法施行ノ日ヨリ五年ヲ經過シタルトキハ之ヲ請求スルコトヲ得ス

三四　實用新案法改正法律案

實用新案法

第一條　物品ニ關シ形狀、構造又ハ組合ハセニ係ル實用アル新規ノ型ノ工業的考案ヲ爲シタル者ハ其ノ物品ノ型ニ付實用新案ノ登錄ヲ受クルコトヲ得

第二條　左ニ掲クル實用新案ニ付テハ之ヲ登錄セス

一　菊花御紋章ト同一又ハ類似ノ形狀ヲ有スルモノ

二　秩序若ハ風俗ヲ紊リ又ハ衞生ヲ害スルノ虞アルモノ

第三條　本法ニ於テ實用新案ノ新規ト稱スルハ實用新案カ左ノ各號ノ一ニ該當スルコトナキヲ謂フ

一　登錄出願前帝國內ニ於テ公然知ラレ若ハ公然用ヰラレタルモノ又ハ之ニ類似スルモノ

二　登錄出願前帝國內ニ頒布セラレタル刊行物ニ容易ニ實施スルコトヲ得ヘキ程度ニ於テ記載セラレタルモノハ又ハ之ニ類似スルモノ

第四條　同一又ハ類似ノ實用新案ニ付テノ最先ノ出願者ニ限リ登錄ス但シ同日ノ各別ノ出願者アルトキハ出願者ノ協議ニ依リ登錄シ協議調ハサルトキハ共ニ登錄セス

第五條　特許出願者又ハ意匠登錄出願者カ其ノ特許出願又ハ意匠登錄出願ヲ其ノ出願ニ係ル型ニ付テノ實用新案登錄出願ニ變更シタルトキハ其ノ實用新案登錄出願ハ特許出願又ハ意匠登錄出願ノ時ニ於テ之ヲ爲シタルモノト看做ス但シ特許出願又ハ意匠登錄出願ニ付特許又ハ登錄スヘカラストノ査定ヲ受ケタル場合ニ於テハ其ノ最初ノ査定ノ送達ヲ受ケタル日ヨリ三十日ヲ經過シタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第六條　實用新案權ハ登錄ニ依リ發生ス

實用新案權者ハ其ノ登錄實用新案ニ係ル物品ヲ業トシテ製作、使用、販賣又ハ擴布スルノ權利ヲ專有ス

實用新案權カ其ノ出願ノ日前ノ出願ニ係ル特許權若ハ意匠權ト牴觸スル場合又ハ登錄實用新案カ其ノ出願ノ日前ノ出願ニ係ル特許發明若ハ登錄意匠ヲ利用スルモノナル場合ニ於テハ實用新案權者ハ特許權者又ハ意匠權者ノ實施許諾アルニ非サレハ其ノ登錄實用新案ヲ實施スルコトヲ得ス

第七條　實用新案登錄出願ノ際現ニ善意ニ帝國內ニ於テ其ノ實用新案實施ノ事業ヲ爲シ又ハ事業設備ヲ有スル者ハ其ノ登錄實用新案ニ付事業ノ目的タル實用新案範圍內ニ於テ實施權ヲ有ス

第八條　登錄ノ無效審判請求ノ登錄前善意ニシテ左ノ各號ノ一ニ該當シ帝國內ニ於テ其ノ實用新案實施ノ事業ヲ爲シ又ハ事業設備ヲ有スル者ハ其ノ登錄實用新案ニ付事業ノ目的タル實用新案範圍內ニ於テ實施權ヲ有ス

一　同一又ハ類似ノ實用新案ニ對スル二以上ノ登錄中其ノ一カ無效ト爲リタル場合ニ於ケル登錄ヲ受ケタル原實用新案權者

二　登錄ヲ無效トシ同一又ハ類似ノ實用新案ニ付正當權利者ノ爲ニ登錄ヲ爲シタル場合ニ於ケル登錄ヲ受ケタル原實用新案權者

三　前二號ニ揭クル場合ニ於テ其ノ無效ト爲リタル實用新案權ニ付實施權ヲ得テ其ノ登錄ヲ受ケタル者但シ實施權カ登錄ナキモ第十三條第一項ノ效力ヲ有スル場合ハ登錄アルヲ要セス

實用新案登錄出願ノ日前又ハ之ト同日ニ出願ニ係リ其ノ實用新案權ト牴觸スル特許權又ハ意匠權ノ存續期間滿了シタル場合ニ於テ其ノ特許權又ハ意匠權ニ付實施權ヲ得テ登錄ヲ受ケタル者ハ其ノ登錄實用新案ニ付原實施權ノ範圍內ニ於テ實施權ヲ有ス但シ原實施權カ登錄ナキモ特許法第五十二條第一項又ハ意匠法第十五條第一項ノ效力ヲ有スル場合ハ登錄アルヲ要セス實用新案權者ハ前二項ノ規定ニ依ル實施權者ヨリ相當ノ補償金ヲ受クルノ權利ヲ有ス

第九條　實用新案登錄出願ノ日前又ハ之ト同日ノ出願ニ係リ其ノ實用新案權ト牴觸スル特許權又ハ意匠權ノ存續期間滿了後ニ於ケル原特許權者又ハ原意匠權者ハ其ノ登錄實用新案ニ付原權利ノ範圍內ニ於テ實施權ヲ有ス

第十條　實用新案權ノ存續期間ハ登錄ノ日ヨリ十年ヲ以テ終了ス

第二十六條ノ規定ニ依リ準用スル特許法第十一條ノ規定ニ依リ正當權利者ノ爲ニ登錄ヲ爲シタルトキハ前項ノ十年ノ期間ハ無效ト爲リタル登錄ノ爲サレタル日ノ翌日ヨリ之ヲ起算ス

第十一條　實用新案權者ハ他人ノ登錄實用新案又ハ登錄意匠ヲ實施スルニ非サレハ自己ノ登錄實用新案ヲ實施スルコト能ハサル場合ニ於テ其ノ他人カ正當ノ理由ナクシテ實施ヲ許諾セサルトキ又ハ其ノ他人ノ實施許諾ヲ得ルコト能ハサルトキハ審判ヲ請求スルコトヲ得但シ其ノ實施セラルヘキ實用新案又ハ意匠ノ實用新案權又ハ意匠權發生ノ日ヨリ二年ヲ經過セサルトキハ此ノ限ニ在ラス

前項ノ規定ニ依リ登錄實用新案又ハ登錄意匠ヲ實施セラルル者其ノ實施ヲ必要トスル相手方ノ登錄實用新案ニ付實施ノ許諾ヲ求メタル場合ニ於テ其ノ相手方カ正當ノ理由ナクシテ實施ヲ許諾セサルトキ又ハ其ノ相手方ノ實施許諾ヲ得ルコト能ハサルトキハ審判ヲ請求スルコトヲ得

第十二條　前條ノ規定ニ依ル實施權者ハ實用新案權者又ハ意匠權者ニ對シ相當ノ補償金ヲ支拂フヘシ

前項ノ實施權者ハ補償金ノ支拂ヲ爲シ又ハ支拂ヲ爲スコト能ハサル場合ニ於テハ供託ヲ爲スニ非サレハ其ノ登錄實用新案又ハ登錄意匠ヲ實施スルコトヲ得ス但シ審決又ハ判決ノ確定前ト雖審決又ハ判決ニ依ル補償金ニ相當ニスル金額ヲ供託シタルトキハ實施スルコトヲ得

第十三條　登錄實用新案ノ實施權ハ之ヲ登錄シタルトキハ其ノ實用新案權ヲ爾後取得シタル者及其ノ實用新案權ヲ目的トスル爾後設定ノ質權ヲ有スル者ニ對シテモ其ノ效力ヲ生ス

第七條乃至第九條又ハ第二十六條ノ規定ニ依リ準用スル特許法第十四條第二項ノ規定ニ依ル實施權ハ其ノ登錄ナキ場合ト雖前項ノ效力ヲ有ス

第十一條ノ規定ニ依ル實施權ハ其ノ登錄前設定ノ質權ヲ有スル者ニ對シテモ其ノ效力ヲ生ス

特許法第四十五條ノ規定ハ實施權ノ移轉、變更、消滅若ハ處分ノ制限又ハ實施權ヲ目的トスル質權ノ設定、移轉、變更、消滅若ハ處分ノ制限ニ付之ヲ準用ス

第十四條　實用新案權者ハ登錄實用新案ノ圖面又ハ說明書カ不完全ニ作製セラレタルコトヲ發見シタルトキハ左ノ各號ノ一ニ揭クル事項ヲ目的トスル場合ニ限リ其ノ圖面又ハ說明書ノ訂正ノ許可ノ審判ヲ請求スルコトヲ得

一　登錄請求範圍ノ減縮

二　誤記ノ訂正

三　不明瞭ナル記載ノ釋明

前項第一號ノ場合ニ於テハ其ノ殘部カ登錄出願ノ際獨立シテ新規ノ實用新案ナルコトヲ要ス

第十五條　前條ノ場合ニ於テハ登錄請求範圍ヲ實質上擴張シ又ハ實質上變更スルコトヲ得ス

第十六條　登錄カ左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ審判ニ依リ之ヲ無效ト爲スヘシ

一　登錄カ第一條、第二條又ハ第四條ノ規定ニ違反シテ爲サレタルトキ

二　登錄カ第二十六條ノ規定ニ依リ準用スル特許法第三十二條ノ規定ニ違反シテ爲サレタルトキ

三　登錄カ登錄ヲ受クルノ權利ノ承繼人ニ非サル者又ハ登錄ヲ受クルノ權利ヲ冒認シタル者ノ爲ニ爲サレタルトキ

四　登錄カ第二十六條ノ規定ニ依リ準用スル特許法第三十三條ニ規定スル條約又ハ之ニ準スヘキモノニ違反シテ爲サレタル場合ニ於テ其ノ違反カ第一號乃至前號ニ揭クルモノニ爲スヘキモノナルトキ

五　登錄カ第二十六條ノ規定ニ依リ準用スル特許法第三十三條ノ規定ニ違反スルニ至リタル

トキ又ハ特許法第三十三條ニ規定スル條約若ハ之ニ準スヘキモノニ違反スルニ至リタル場合ニ於テ其ノ違反カ第一號乃至第三號ニ掲ルモノニ準スヘキモノナルトキ

第十四條ノ許可カ同條第二項又ハ前條ノ規定ニ違反シタルトキハ審判ニ依リ之ヲ無效ト爲スヘシ

登錄又ハ第十四條ノ許可ハ實用新案權消滅後ト雖前二項ノ規定ニ依リ之ヲ無效ト爲スヘシ

第十七條　特許局ニ實用新案原簿ヲ備ヘ實用新案權及實施權竝之ヲ目的トスル質權ノ設定、保存、移轉、變更、消滅、處分ノ制限其ノ他法令ニ定ムル事項ヲ登錄ス

登錄ニ關スル規程ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第十八條　登錄スヘシトノ査定若ハ審決確定シ又ハ判決アリタルトキハ之ヲ實用新案原簿ニ登錄シ實用新案登錄證ヲ下付ス第十四條ノ許可ノ審決確定シ又ハ判決アリタルトキ亦同シ

第十九條　特許局ハ實用新案公報ヲ發行シ登錄實用新案ニ關スル必要ナル事項ヲ之ニ記載スヘシ但シ軍事上秘密ヲ要スル登錄實用新案ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第二十條　實用新案ノ登錄ヲ受クル者又ハ登錄證主ハ登錄料トシテ毎件左ノ金額ヲ納付スヘシ

一　第一年乃至第三年　毎年　七圓

二　第四年乃至第六年　毎年　十五圓

三　第七年乃至第十年　毎年　二十五圓

第二十一條　實用新案登錄ノ出願アリタルトキハ審査官ヲシテ之ヲ審査セシム

第二十二條　審判ハ本法又ハ本法ニ基キテ發スル勅令ニ規定スルモノノ外左ニ掲クル事項ニ付之ヲ請求スルコトヲ得

一　第十六條ノ規定ニ依ル登錄又ハ許可ノ無效

二　實用新案權ノ範圍ノ確認

前項第一號ノ無效ノ審判ハ利害關係人及審査官ニ限リ之ヲ請求スルコトヲ得但シ審査官ハ第四條ノ規定ニ違反シ又ハ第十六條第一項第三號ニ該當ストノ理由ニ依ル無效ノ審判ヲ請求スルコトヲ得ス

第一項第二號ノ確認ノ審判ハ利害關係人ニ限リ之ヲ請求スルコトヲ得

第二十三條　前條第一項第一號ノ無效ノ審判ハ實用新案ノ登錄又ハ第十四條ノ許可ノ登錄ノ日ヨリ三年ヲ經過シタルトキハ之ヲ請求スルコトヲ得ス

前項ニ規定スル期間ハ第十六條第一項第五號ニ該當ストノ理由ニ依ル無效ノ審判ノ請求ニ付テハ同號ニ該當スルニ至リタル日ノ翌日ヨリ之ヲ起算ス

第二十四條　第十一條ノ審判ニ於テハ補償金額ニ付テモ亦之ヲ審決スヘシ

第二十五條　査定又ハ審判ノ審決ヲ受ケタル者不服アルトキハ其ノ査定又ハ審決ノ送達ヲ受ケタル日ヨリ六十日以内ニ抗告審判ヲ請求スルコトヲ得但シ前條ノ規定ニ依ル補償金額ノ審決ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第二十六條　特許法第六條、第十條乃至第三十三條、第三十六條、第四十條、第四十四條、第四十五條、第四十七條、第四十八條、第五十一條、第五十五條、第五十六條、第五十八條、第五十九條、第六十四條、第六十五條第六項第七項、第六十六條乃至第六十九條、第七十一條、第七十二條、第八十條乃至第八十三條、第八十六條乃至第百五條、第百七條、第百八條、第百十條乃至第百十二條、第百十三條第一項及第百十四條乃至第百二十八條ノ規定ハ實用新案ニ關シ之ヲ準用ス

第二十七條　左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ三年以下ノ懲役又ハ三千圓以下ノ罰金ニ處ス

一　他人ノ登錄實用新案ニ係ル物品ト同一ノ物品ヲ業トシテ製作、使用、販賣又ハ擴布シタル者

二　他人ノ登錄實用新案ニ係ル物品ト類似ノ物品ヲ業トシテ製作、使用、販賣又ハ擴布シタル者

三　他人ノ登錄實用新案ニ係ル物品ト同一又ハ類似ノ物品ヲ業トシテ輸入又ハ移入シタル者

前項ノ罪ハ告訴ヲ待テ之ヲ論ス

第二十八條　左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ一年以下ノ懲役又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

一　詐僞ノ行爲ヲ以テ實用新案ノ登錄ヲ受ケ又ハ審決若ハ判決ヲ受ケタル者

二　登錄實用新案ニ係ラサル物品又ハ其ノ物品ノ容器包裝ノ類ニ實用新案登錄標記ヲ附シ又ハ實用新案登錄標記ニ紛ハシキ表示ヲ爲シタル者

三　登錄實用新案ニ係ラサル物品ニシテ其ノ物品又ハ其ノ物品ノ容器包裝ノ類ニ實用新案登錄標記ヲ附シ又ハ實用新案登錄標記ニ紛ハシキ表示ヲ爲シタルモノヲ販賣又ハ擴布シタル者

四　登錄實用新案ニ係ラサル物品ヲ製作若ハ使用セシムル爲又ハ販賣若ハ擴布スル爲廣告、看板、引札ノ類ニ其ノ物品カ登錄實用新案ニ係ルコトヲ表示シ又ハ之ニ紛ハシキ表示ヲ爲シタル者

第二十九條　第二十七條第一項ニ掲クル行爲ヲ組成シタル物又ハ其ノ行爲ヨリ生シタル物ニシテ刑法第十九條ノ規定ニ依リ沒收スルコトヲ得ヘキモノニ付判決言渡前被害者ノ請求アリタルトキハ其ノ物ヲ沒收シ之ヲ被害者ニ交付スルノ言渡ヲ爲スヘシ

被害者ハ前項ノ規定ニ依ル物ノ交付ヲ受ケタル場合ニ於テハ其ノ物ノ價額ヲ超過スル損害ノ額ニ限リ賠償ノ請求ヲ爲スコトヲ得

第三十條　法律ニ依リ宣誓シタル證人若ハ鑑定人又ハ通事特許局又ハ其ノ囑託ヲ受ケタル裁判所若ハ官廳ニ對シ虚僞ノ陳述ヲ爲シタルトキハ三月以上十年以下ノ懲役ニ處ス

前項ノ罪ヲ犯シタル者事件ノ査定又ハ審決ニ至ラサル前自白シタルトキハ其ノ刑ヲ減輕又ハ免除スルコトヲ得

第三十一條　特許局職員又ハ其ノ職ニ在リタル者故ナク其ノ職務上知得タル實用新案登錄出願中ノ考案又ハ實用新案登錄出願者ノ事業上ノ祕密ヲ漏泄シ又ハ竊用シタルトキハ一年以下ノ懲役又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十二條　特許局ヨリ證人、鑑定人又ハ通事トシテ呼出サレタル者正當ノ理由ナクシテ呼出ニ應セス又ハ其ノ義務ヲ盡ササルトキハ五十圓以下ノ過料ニ處ス

非訟事件手續法第二百六條乃至第二百八條ノ規定ハ前項ノ過料ニ付之ヲ準用ス

第三十三條　辨理士ニ非スシテ特許局ニ對シ實用新案ニ關シ爲スヘキ事項ノ代理業ヲ營ミタル者ハ一年以下ノ懲役又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

附　則

第三十四條　本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第三十五條　舊法ニ依ル實用新案ノ登錄、處分及手續ハ本附則ニ別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外本法ニ依リ爲シタルモノト看做ス

舊法ニ依リ實用新案ニ關シ爲シタル出願、請求其ノ他ノ手續ニ付亦前項ニ同シ

第三十六條　本法施行ノ際現ニ繫屬スル實用新案登錄ノ出願ノ處理ニ付テハ仍舊法ニ依ル

第三十七條　本法施行前發生シタル實用新案權ニ關シテハ舊特許法第二十九條第二號ノ規定ハ仍其ノ效力ヲ有シ同號ノ規定ヲ準用シ第七條ノ規定ハ之ヲ適用セス

第三十八條　實用新案ノ登錄カ舊法施行中無效ト爲リタル場合ニ付テハ舊法第十條ノ規定及同條ノ規定ニ基キ準用スル舊特許法ノ規定ハ仍其ノ效力ヲ有シ第八條ノ規定ハ之ヲ適用セス

第三十九條　舊法ニ依ル實用新案ノ登錄ニ關シテハ本法施行後ニ登錄カ爲サレタル場合ト雖舊法第十一條ノ規定ハ仍其ノ效力ヲ有シ同條ノ規定ノ適用ノ範圍内ニ於テ同條ニ揭クル舊法ノ規定ハ仍其ノ效力ヲ有シ登錄カ同條ノ規定ニ該當スル場合ニ限リ審判ニ依リ之ヲ無效ト爲スヘシ

第四十條　前條ノ規定ニ依ル無效ノ審判ハ本法施行前爲サレタル實用新案ノ登錄ニ關シテハ本法施行ノ日ヨリ三年ヲ經過シタルトキハ之ヲ請求スルコトヲ得ス

意匠法

第一條　物品ニ關シ形狀、模樣若ハ色彩又ハ其ノ結合ニ係ル新規ノ意匠ノ工業的考案ヲ爲シタル者ハ其ノ物品ノ意匠ニ付意匠ノ登錄ヲ受クルコトヲ得

第二條　左ニ揭クル意匠ニ付テハ之ヲ登錄セス

一　菊花御紋章ト同一又ハ類似ノ形狀又ハ模樣ヲ有スルモノ

二　秩序又ハ風俗ヲ紊ルノ虞アルモノ

三　世人ヲ欺瞞スルノ虞アルモノ

第三條　本法ニ於テ意匠ノ新規ト稱スルハ意匠カ左ノ各號ノ一ニ該當スルコトナキヲ謂フ

一　登錄出願前帝國內ニ於テ公然知ラレ若ハ公然用ヰラレタルモノ又ハ之ニ類似スルモノ

二　登錄出願前帝國內ニ頒布セラレタル刊行物ニ容易ニ實施スルコトヲ得ヘキ程度ニ於テ記載セラレタルモノ又ハ之ニ類似スルモノ

意匠ニシテ自己ノ登錄意匠ノミニ類似スルモノハ之ヲ新規ナルモノト看做ス

第四條　同一又ハ類似ノ意匠ニ付テハ最先ノ出願者ニ限リ登錄ス但シ同日ノ各別ノ出願者アルトキハ出願者ノ協議ニ依リ登錄シ協議調ハサルトキハ共ニ登錄セス

第五條　意匠登錄出願者ハ命令ノ定ムル類別內ニ於テ其ノ意匠ヲ現スヘキ物品ヲ指定スヘシ

第六條　意匠登錄出願者ハ登錄ノ日ヨリ三年以內ノ意匠ヲ祕密ニセムコトヲ請求スルコトヲ得

第七條　實用新案登錄出願者カ其ノ實用新案登錄出願ヲ其ノ出願ニ係ル意匠ニ付テノ意匠登錄出願ニ變更シタルトキハ其ノ意匠登錄出願ハ實用新案登錄出願ノ時ニ於テ之ヲ爲シタルモノト看做ス但シ實用新案登錄出願ニ付登錄スヘカラストノ査定ヲ受ケタル場合ニ於テハ其ノ最初ノ査定ノ送達ヲ受ケタル日ヨリ三十日ヲ經過シタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第八條　意匠權ハ登錄ニ依リ發生ス

意匠權者ハ其ノ登錄意匠ニ係ル物品ヲ業トシテ製作、使用、販賣又ハ擴布スルノ權利ヲ專有ス

自己ノ登錄意匠ニ類似スル意匠ノ意匠權ハ最先ニ發生シタル意匠權ト合體スルモノトス

意匠權カ其ノ出願ノ日前ノ出願ニ係ル實用新案權若ハ商標權ト牴觸スル場合又ハ登錄意匠カ其ノ出願ノ日前ノ出願ニ係ル登錄實用新案ヲ利用スルモノナル場合ニ於テハ意匠權者ハ實用新案權者ノ實施許諾又ハ商標權者ノ許諾アルニ非サレハ其ノ登錄意匠ヲ實施スルコトヲ得ス

第九條　意匠登錄出願ノ際現ニ善意ニ帝國內ニ於テ其ノ意匠實施ノ事業ヲ爲シ又ハ事業設備ヲ有スル者ハ其ノ登錄意匠ニ付事業ノ目的タル意匠範圍內ニ於テ實施權ヲ有ス

第十條　登錄ノ無效審判請求ノ登錄前善意ニシテ左ノ各號ノ一ニ該當シ帝國內ニ於テ其ノ意匠實施ノ事業ヲ爲シ又ハ事業設備ヲ有スル者ハ其ノ登錄意匠ニ付事業ノ目的タル意匠範圍內ニ

於テ實施權ヲ有ス

一　同一又ハ類似ノ意匠ニ對スル二以上ノ登錄中其ノ一カ無效ト爲リタル場合ニ於ケル登錄ヲ受ケタル原意匠權者

二　登錄ヲ無效トシ同一又ハ類似ノ意匠ニ付正當權利者ノ爲ニ登錄ヲ爲シタル場合ニ於ケル登錄ヲ受ケタル原意匠權者

三　前二號ニ揭クル場合ニ於テ其ノ無效ト爲リタル意匠權ニ付實施權ヲ得テ其ノ登錄ヲ受ケタル者但シ實施權カ登錄ナキモ第十五條第一項ノ效力ヲ有スル場合ハ登錄アルヲ要セス

意匠登錄出願ノ日前又ハ之ト同日ノ出願ニ係リ其ノ意匠權ト牴觸スル實用新案權ノ存續期間滿了シタル場合ニ於テ其ノ實用新案權ニ付實施權ヲ得テ登錄ヲ受ケタル者ハ其ノ登錄意匠ニ付原實施權ノ範圍內ニ於テ實施權ヲ有ス但シ原實施權カ登錄ナキモ實用新案法第十三條第一項ノ效力ヲ有スル場合ハ登錄アルヲ要セス

意匠權者ハ前二項ノ規定ニ依ル實施權者ヨリ相當ノ補償金ヲ受クルノ權利ヲ有ス

第十一條　意匠登錄出願ノ日前又ハ之ト同日ノ出願ニ係リ其ノ意匠權ト牴觸スル實用新案權ノ存續期間滿了後ニ於ケル原實用新案權者ハ其ノ登錄意匠ニ付原權利ノ範圍內ニ於テ實施權ヲ有ス

第十二條　意匠權ノ存續期間ハ登錄ノ日ヨリ十年ヲ以テ終了ス

第二十五條ノ規定ニ依リ準用スル特許法第十一條ノ規定ニ依リ正當權利者ノ爲ニ登錄ヲ爲シタルトキハ前項ノ十年ノ期間ハ無效ト爲リタル登錄ノ爲サレタル日ノ翌日ヨリ之ヲ起算ス

第十三條　意匠權者ハ他人ノ登錄實用新案又ハ登錄意匠ヲ實施スルニ非サレハ自己ノ登錄意匠ヲ實施スルコト能ハサル場合ニ於テ其ノ他人カ正當ノ理由ナクシテ實施ヲ許諾セサルトキ又ハ其ノ他人ノ實施許諾ヲ得ルコト能ハサルトキハ審判ヲ請求スルコトヲ得但シ其ノ實施セラルヘキ實用新案又ハ意匠ノ實用新案權又ハ意匠權發生ノ日ヨリ二年ヲ經過セサルトキハ此ノ限ニ在ラス

前項ノ規定ニ依リ登錄實用新案又ハ登錄意匠ヲ實施セラルル者其ノ實施ヲ必要トスル相手方ノ登錄意匠ニ付實施ノ許諾ヲ求メタル場合ニ於テ其ノ相手方カ正當ノ理由ナクシテ實施ヲ許諾セサルトキ又ハ其ノ相手方ノ實施許諾ヲ得ルコト能ハサルトキハ審判ヲ請求スルコトヲ得

第十四條　前條ノ規定ニ依ル實施權者ハ實用新案權者又ハ意匠權者ニ對シ相當ノ補償金ヲ支拂フヘシ

前項ノ實施權者ハ補償金ノ支拂ヲ爲シ又ハ支拂ヲ爲スコト能ハサル場合ニ於テハ供託ヲ爲スニ非サレハ其ノ登錄實用新案又ハ登錄意匠ヲ實施スルコトヲ得ス但シ審決又ハ判決ノ確定前

ト雖審決又ハ判決ニ依ル補償金ニ相當スル金額ヲ供託シタルトキハ實施スルコトヲ得

第十五條　登錄意匠ノ實施權ハ之ヲ登錄シタルトキハ其ノ意匠權ヲ爾後取得シタル者及其ノ意匠權ヲ目的トスル爾後設定ノ質權ヲ有スル者ニ對シテモ其ノ效力ヲ生ス

第九條乃至第十一條又ハ第二十五條ノ規定ニ依リ準用スル特許法第十四條第二項ノ規定ニ依ル實施權ハ其ノ登錄ナキ場合ト雖前項ノ效力ヲ有ス

第十三條ノ規定ニ依ル實施權ハ其ノ登錄前設定ノ質權ヲ有スル者ニ對シテモ其ノ效力ヲ生ス

特許法第四十五條ノ規定ハ實施權ノ移轉、變更、消滅若ハ處分ノ制限又ハ實施權ヲ目的トスル質權ノ設定、移轉、變更、消滅若ハ處分ノ制限ニ付之ヲ準用ス

第十六條　意匠權ハ第五條ノ規定ニ依リ指定シタル物品ニ依リ之ヲ分割シテ移轉スルコトヲ得

第十七條　登錄ヲ左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ審判ニ依リ之ヲ無效ト爲スヘシ

一　登錄ヲ第一條、第二條又ハ第四條ノ規定ニ違反シテ爲サレタルトキ

二　登錄ヲ第二十五條ノ規定ニ依リ準用スル特許法第三十二條ノ規定ニ違反シテ爲サレタルトキ

三　登錄ヲ登錄ヲ受クルノ權利ノ承繼人ニ非サル者又ハ登錄ヲ受クルノ權利ヲ冒認シタル者ノ爲ニ爲サレタトキ

四　登錄ヲ第二十五條ノ規定ニ依リ準用スル特許法第三十三條ニ規定スル條約又ハ之ニ準スヘキモノニ違反シテ爲サレタル場合ニ於テ其ノ違反ヲ第一號乃至前號ニ掲クルモノニ準スヘキモノナルトキ

五　登錄ヲ第二十五條ノ規定ニ依リ準用スル特許法第三十二條ノ規定ニ違反スルニ至リタルトキ又ハ特許法第三十三條ニ規定スル條約若ハ之ニ準スヘキモノニ違反スルニ至リタル場合ニ於テ其ノ違反ヲ第一號乃至第三號ニ掲クルモノナルトキ

登錄ハ意匠權消滅後ト雖前項ノ規定ニ依リ之ヲ無效ト爲スヘシ

第十八條　特許局ニ意匠原簿ヲ備ヘ意匠權及實施權竝之ヲ目的トスル質權ノ設定、保存、移轉、變更、消滅、處分ノ制限其ノ他法令ニ定ムル事項ヲ登錄ス

登錄ニ關スル規程ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第十九條　登錄スヘシトノ査定若ハ審決確定シ又ハ判決アリタルトキハ之ヲ意匠原簿ニ登錄シ意匠登錄證ヲ下付ス

第二十條　意匠ノ登錄ヲ受クル者又ハ登錄證主ハ登錄料トシテ毎件左ノ金額ヲ納付スヘシ

一　第一年乃至第三年　毎年　三圓

二　第四年乃至第十年　毎年　五圓

自己ノ登錄意匠ニ類似スル意匠ノ登錄ヲ受クル者ハ其ノ登錄ヲ受クル時登錄料トシテ每件一時ニ三圓ヲ納付スヘシ

第十六條ノ規定ニ依リ分割シテ移轉セラルル意匠權ノ登錄ヲ受クル者又ハ登錄證主ハ其ノ意匠權ニ付原意匠權ノ當該年分ヨリノ登錄料ヲ納付スヘシ

第二十一條　意匠登錄ノ出願アリタルトキハ審査官ヲシテ之ヲ審査セシム

第二十二條　審判ハ本法又ハ本法ニ基キテ發スル勅令ニ規定スルモノノ外左ニ揭クル事項ニ付之ヲ請求スルコトヲ得

一　第十七條ノ規定ニ依ル登錄ノ無效

二　意匠權ノ範圍ノ確認

前項第一號ノ無效ノ審判ハ利害關係人及審査官ニ限リ之ヲ請求スルコトヲ得但シ審査官ハ第四條ノ規定ニ違反シ又ハ第十七條第一項第三號ニ該當ストノ理由ニ依ル無效ノ審判ヲ請求スルコトヲ得ス

第一項第二號ノ確認ノ審判ハ利害關係人ニ限リ之ヲ請求スルコトヲ得

第二十三條　第十三條ノ審判ニ於テハ補償金額ニ付テモ亦之ヲ審決スヘシ

第二十四條　査定又ハ審判ノ審判ヲ受ケタル者不服アルトキハ其ノ査定又ハ審決ノ送達ヲ受ケタル日ヨリ六十日以內ニ抗告審判ヲ請求スルコトヲ得但シ前條ノ規定ニ依ル補償金額ノ審決ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第二十五條　特許法第六條、第十條乃至第十四條、第十六條乃至第三十條、第三十二條、第三十三條、第三十六條、第四十四條、第四十五條、第四十七條、第四十八條、第五十一條、第五十五條、第五十六條、第五十八條第一項、第五十九條、第六十四條、第六十五條第六項第七項、第六十六條第一項、第六十七條乃至第六十九條、第七十一條、第七十二條、第八十條乃至第八十三條、第八十六條乃至第百五條、第百七條、第百十條乃至第百十二條、第百十三條第一項及第百十四條乃至第百二十八條ノ規定ハ意匠ニ關シ之ヲ準用ス

第二十六條　左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ三年以下ノ懲役又ハ三千圓以下ノ罰金ニ處ス

一　他人ノ登錄意匠ニ係ル物品ト同一ノ物品ヲ業トシテ製作、使用、販賣又ハ擴布シタル者

二　他人ノ登錄意匠ニ係ル物品ト類似ノ物品ヲ業トシテ製作、使用、販賣又ハ擴布シタル者

三　他人ノ登錄意匠ニ係ル物品ト同一又ハ類似ノ物品ヲ業トシテ輸入又ハ移入シタル者

前項ノ罪ハ告訴ヲ待テ之ヲ論ス

第二十七條　左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ一年以下ノ懲役又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

一　詐僞ノ行爲ヲ以テ意匠ノ登錄ヲ受ケ又ハ審決若ハ判決ヲ受ケタル者

二　登錄意匠ニ係ラサル物品又ハ其ノ物品ノ容器包裝ノ類ニ意匠登錄標記ヲ附シ又ハ意匠登錄標記ニ紛ハシキ表示ヲ爲シタル者

三　登錄意匠ニ係ラサル物品ニシテ其ノ物品又ハ其ノ物品ノ容器包裝ノ類ニ意匠登錄標記ヲ附シ又ハ意匠登錄標記ニ紛ハシキ表示ヲ爲シタルモノヲ販賣又ハ擴布シタル者

四　登錄意匠ニ係ラサル物品ヲ製作若ハ使用セシムル爲又ハ販賣若ハ擴布スル爲廣告、看板、引札ノ類ニ其ノ物品カ登錄意匠ニ係ルコトヲ表示シ又ハ之ニ紛ハシキ表示ヲ爲シタル者

第二十八條　第二十六條第一項ニ掲クル行爲ヲ組成シタル物又ハ其ノ行爲ヨリ生シタル物ニシテ刑法第十九條ノ規定ニ依リ沒收スルコトヲ得ヘキモノニ付判決言渡前被害者ノ請求アリタルトキハ其ノ物ヲ沒收シ之ヲ被害者ニ交付スルノ言渡ヲ爲スヘシ

被害者ハ前項ノ規定ニ依ル物ノ交付ヲ受ケタル場合ニ於テハ其ノ物ノ價額ヲ超過スル損害額ニ限リ賠償ノ請求ヲ爲スコトヲ得

第二十九條　法律ニ依リ宣誓シタル證人若ハ鑑定人又ハ通事特許局又ハ其ノ囑託ヲ受ケタル裁判所若ハ官廳ニ對シ虛僞ノ陳述ヲ爲シタルトキハ三月以上十年以下ノ懲役ニ處ス

前項ノ罪ヲ犯シタル者事件ノ査定又ハ審決ニ至ラサル前自白シタルトキハ其ノ刑ヲ減輕又ハ免除スルコトヲ得

第三十條　特許局職員又ハ其ノ職ニ在リタル者故ナク其ノ職務上知得タル意匠登錄出願中ノ考案又ハ意匠登錄出願者ノ事業上ノ祕密ヲ漏泄シ又ハ竊用シタルトキハ一年以下ノ懲役又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十一條　特許局ヨリ證人、鑑定人又ハ通事トシテ呼出サレタル者正當ノ理由ナクシテ呼出ニ應セス又ハ其ノ義務ヲ盡ササルトキハ五十圓以下ノ過料ニ處ス

非訟事件手續法第二百六條乃至第二百八條ノ規定ハ前項ノ過料ニ付之ヲ準用ス

第三十二條　辨理士ニ非スシテ特許局ニ對シ意匠ニ關スヘキ事項ノ代理業ヲ營ミタル者ハ一年以下ノ懲役又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

附　則

第三十三條　本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第三十四條　舊法ニ依ル意匠ノ登錄、處分及手續ハ本附則ニ別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外本法ニ依リ爲シタルモノト看做ス

舊法ニ依リ意匠ニ關シ爲シタル出願、請求其ノ他ノ手續ニ付亦前項ニ同シ

第三十五條　本法施行ノ際現ニ繫屬スル意匠登錄ノ出願ノ處理ニ付テハ仍舊法ニ依ル

第三十六條　本法施行前發生シタル意願權ニ關シテハ舊特許法第二十九條第二號ノ規定ハ仍其

ノ效力ヲ有シ同號ノ規定ヲ準用シ第九條ノ規定ハ之ヲ適用セス

第三十七條　意匠ノ登錄カ舊法施行中無效ト爲リタル場合ニ付テハ舊法第十條ノ規定及同條ノ規定ニ基キ準用スル舊特許法ノ規定ハ仍其ノ效力ヲ有シ第十條ノ規定ハ之ヲ適用セス

第三十八條　本法施行前既ニ納メタル又ハ納付スヘキ期限ノ經過シタル意匠料ニ付テハ仍舊法ニ依ル

第三十九條　意匠料ノ納付ヲ怠リタル場合ニ於テ本法施行ノ際未タ其ノ意匠登錄ノ取消ナキモノニ付テハ本法施行ノ日ヨリ六月間ヲ限リ意匠料ヲ追納スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ舊法ニ依ル意匠料ノ二倍ニ相當スル金額ヲ意匠料トシテ納付スヘシ

前項ニ規定スル追納期間內ニ意匠料ヲ追納セサルトキハ本法施行ノ時ニ遡リ意匠權ハ消滅シタルモノト看做ス

第四十條　舊法ニ依ル意匠ノ登錄ニ關シテハ本法施行後ニ登錄カ爲サレタル場合ト雖舊法第十二條ノ規定ハ仍其ノ效力ヲ有シ同條ノ規定ノ適用ノ範圍內ニ於テ同條ニ揭クル舊法ノ規定ハ仍其ノ效力ヲ有シ登錄カ同條ノ規定ニ該當スル場合ニ限リ審判ニ依リ之ヲ無效ト爲スヘシ

商標法

第一條　自己ノ生產、製造、加工、選擇、證明、取扱又ハ販賣ノ營業ニ係ル商品ナルコトヲ表彰スル爲商標ヲ專用セムトスル者ハ商標ノ登錄ヲ受クルコトヲ得

登錄ヲ受クルコトヲ得ヘキ商標ハ文字、圖形若ハ記號又ハ其ノ結合ニシテ特別顯著ナルモノナルコトヲ要ス

商標ハ之ニ施スヘキ色ヲ限定シテ登錄ヲ受クルコトヲ得

第二條　左ニ揭クル商標ニ付テハ之ヲ登錄セス

一　菊花御紋章ト同一又ハ類似ノ圖形ヲ有スルモノ

二　國旗、軍旗、勳章、褒章、記章又ハ外國ノ國旗ト同一又ハ類似ノモノ

三　白地ニ赤十字ノ記章又ハ赤十字若ハ「ジェネヴァ」十字ノ稱號若ハ文字ト同一又ハ類似ノモノ

四　秩序又ハ風俗ヲ紊ルノ虞アルモノ

五　他人ノ肖像、氏名名稱又ハ商號ヲ有スルモノ但シ其ノ他人ノ承諾ヲ得タルモノハ此ノ限ニ在ラス

六　同一又ハ類似ノ商品ニ慣用スル標章ト同一又ハ類似ノモノ

七　政府ノ開設シ、道府縣若ハ之ニ準スヘキモノノ開設シ若ハ政府ノ認可ヲ得テ開設スル博覽會又ハ外國ニ於ケル官設若ハ官許ノ博覽會ノ賞牌、賞狀又ハ褒狀ト同一又ハ類似ノ圖形ヲ有スルモノ但シ其ノ賞牌、賞狀又ハ褒狀ヲ受領シタル者カ其ノ商標ノ一部トシテ其ノ圖形ヲ使用セムトスルトキハ此ノ限ニ在ラス

八　取引者又ハ需要者ノ間ニ廣ク認識セラルル他人ノ標章ト同一又ハ類似ニシテ同一又ハ類似ノ商品ニ使用スルモノ

九　他人ノ登錄商標ト同一又ハ類似ニシテ同一又ハ類似ノ商品ニ使用スルモノ

十　登錄失效ノ日ヨリ一年ヲ經過セサル他人ノ商標ト同一又ハ類似ノ商品ニ使用スルモノ但シ其ノ他人ノ商標カ登錄失效前一年以上使用セサリシモノナル場合ニ於テハ此ノ限ニ在ラス

十一　商品ノ誤認又ハ混同ヲ生セシムルノ虞アルモノ

商標ノ要部ト認メラルルノ虞アル部分カ分離シテハ前條第二項ニ規定スル特別顯著ノ要件ヲ具備セサル爲又ハ前項第六號ニ該當スル爲登錄ヲ受クルコトヲ得サルモノナル場合ト雖出願人カ其ノ部分自體ニ付權利ヲ要求セサル旨ヲ申出テタルトキハ其ノ商標ヲ登錄ス

第三條　同一商品ニ使用スヘキ自己ノ商標ニシテ相類似スルモノ又ハ類似ノ商品ニ使用スヘキ自己商ノ標ニシテ同一ノモノ若ハ相類似スルモノハ聯合ノ商標トシテ出願シタル場合ニ限リ之ヲ登錄ス

第四條　同一又ハ類似ノ商品ニ使用スヘキ同一又ハ類似ノ商標ニ付各別ノ登錄出願カ競合スルトキハ最先ノ出願者ニ限リ登錄ス但シ同日ノ各別ノ出願者アルトキハ出願者ノ協議ニ依リ登錄シ協議調ハサルトキハ共ニ登錄セス

政府ノ開設シ、道府縣若ハ之ニ準スヘキモノノ開設シ若ハ政府ノ認可ヲ得テ開設スル博覽會又ハ工業所有權保護同盟條約國ノ版圖內ニ開設スル官設若ハ官許ノ萬國博覽會ニ出品シタル商品ニ使用シタル商標ニ付其ノ開會ノ日ヨリ六月以內ニ其ノ商標ノ使用者カ其ノ商標ノ登錄ヲ出願シタルトキハ其ノ開會ノ日ニ於テ出願シタルモノト看做ス

前項ノ規定ハ命令ヲ以テ前項ニ規定スル出品ニ付豫メ屆出ツヘキコトヲ規定シタル場合ニ於テ其ノ屆出ヲ怠リタル者ニ付之ヲ適用セス

第二項ニ揭クル萬國博覽會ヲ除クノ外外國ノ版圖內ニ開設スル官設又ハ官許ノ博覽會ニ出品スル商品ニ使用スル商標ニ付保護ヲ與フルノ必要アルトキハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第五條　商標登錄出願者ハ命令ノ定ムル類別內ニ於テ其ノ商標ヲ使用スヘキ商品ヲ指定スヘシ

第六條　商標ノ登錄出願ヨリ生シタル權利ハ其ノ營業ト共ニスル場合ニ限リ之ヲ移轉スルコト

ヲ得

商標ノ登錄出願ヨリ生シタル權利カ共有ニ係ル場合ニ於テハ各共有者ハ他ノ共有者ノ同意アルニ非サレハ其ノ持分ヲ讓渡スルコトヲ得ス

商標ノ登錄出願ヨリ生シタル權利ノ承繼ハ承繼人カ出願人名義ノ變更ヲ屆出ツルニ非サレハ之ヲ以テ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス但シ同日ノ屆出ニ係ルトキハ關係者ノ協議ニ依リ協議調ハサルトキハ其ニ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス

第七條　商標權ハ登錄ニ依リ發生ス

商標權者ハ第五條ノ規定ニ依リ指定シタル商品ニ付其ノ商標ヲ專用スルノ權利ヲ有ス

商標權カ其ノ登錄商標ノ使用ノ態樣ニ依リ其ノ出願ノ日前ノ出願ニ係ル意匠權ト牴觸スル場合ニ於テハ商標權者ハ意匠權者ノ實施許諾アルニ非サレハ其ノ態樣ニ於テ登錄商標ヲ使用スルコトヲ得ス

第八條　商標權ノ效力ハ普通ニ使用セラルル方法ヲ以テ自己ノ氏名名稱若ハ商號又ハ其ノ商品ノ普通名稱、產地、品位、品質、效能、用途、製法、時期、數量、形狀若ハ價格ヲ表示スルモノニ及ハス但シ商標登錄後惡意ヲ以テ氏名名稱又ハ商號ヲ使用シタル場合ハ此ノ限ニ在ラス

商標權ノ效力ハ第二條第二項ノ規定ニ依リ權利ヲ要求セサル旨ヲ申出テタル部分自體ニ及ハス

第九條　他人ノ登錄商標ノ登錄出願前ヨリ同一又ハ類似ノ商品ニ付取引者又ハ需要者ノ間ニ廣ク認識セラレタル同一又ハ類似ノ標章ヲ善意ニ使用スル者ハ其ノ他人ノ商標ノ登錄ニ拘ラス其ノ使用ヲ繼續スルコトヲ得營業又ハ業務ト共ニ其ノ標章ノ使用ヲ承繼シタル者亦同シ

前項ノ場合ニ於テ商標權者ハ標章使用者ニ對シ商品ノ混同ヲ防クニ適當ナル表示ヲ附スヘキコトヲ請求スルコトヲ得

第十條　商標權ノ存續期間ハ登錄ノ日ヨリ二十年ヲ以テ終了ス

第十一條　前條ノ存續期間ハ更新登錄ノ出願ニ依リ之ヲ更新スルコトヲ得但シ其ノ更新登錄ノ出願ニ係ル商標カ第二條第一項第一號乃至第四號第六號第七號又ハ第十一號ニ該當スル場合ニ於テハ此ノ限ニ在ラス

第十二條　商標權ハ其ノ營業ト共ニスル場合ニ限リ之ヲ移轉スルコトヲ得

商標權ハ第五條ノ規定ニ依リ指定シタル商品ニ依リ之ヲ分割シテ移轉スルコトヲ得

聯合ノ商標ノ商標權ハ分離シテ之ヲ移轉スルコトヲ得ス

商標權カ共有ニ係ル場合ニ於テハ各共有者ハ他ノ共有者ノ同意アルニ非サレハ其ノ持分ヲ讓渡スルコトヲ得ス

第十三條　商標權ハ商標權者カ其ノ營業ヲ廢止シタル場合ニ於テハ消滅ス

外國ノ登錄商標トシテ登錄ヲ受ケタル商標ノ商標權ハ其ノ本國ニ於ケル商標權消滅シタル場合ニ於テハ消滅ス

第十四條　左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ特許局長ハ利害關係人ノ請求ニ依リ又ハ職權ヲ以テ商標ノ登錄ヲ取消スコトヲ得

一　商標權者正當ノ理由ナクシテ帝國內ニ於テ登錄ノ日ヨリ一年間其ノ商標ヲ使用セサリシトキ又ハ引續キ三年間其ノ商標ノ使用ヲ中止シタルトキ但シ第五條ノ規定ニ依リ指定シタル商品中其ノ一ニ使用シ又ハ聯合ノ商標中其ノ一ヲ使用シタルトキハ此ノ限ニ在ラス

二　商標權ノ移轉アリタル場合ニ於テ其ノ相續ニ依ルモノヲ除クノ外移轉アリタル日ヨリ一年以內ニ商標權移轉ノ登錄ヲ申請セサルトキ

外國ノ登錄商標トシテ登錄ヲ受ケタル商標ニ付テハ前項第一號ノ規定ヲ適用セス

商標權者又ハ請求人ハ第一項ノ規定ニ依ル登錄取消ノ處分又ハ第一項ノ請求ノ却下ニ對シ不服アルトキハ訴願ヲ提起スルコトヲ得

第十五條　商標權者故意ニ其ノ登錄商標ニ商品ノ誤認又ハ混同ヲ生セシムルノ虞アル附記又ハ變更ヲ爲シテ之ヲ使用シタルトキハ審判ニ依リ商標ノ登錄ヲ取消スヘシ

前項ノ規定ニ依リ商標ノ登錄ヲ取消サレタル者ハ取消ノ審決確定シ又ハ判決アリタル日ヨリ五年間同一又ハ類似ノ商品ニ付同一又ハ類似ノ商標ノ登錄ヲ受クルコトヲ得ス

第十六條　商標ノ登錄カ左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ審判ニ依リ之ヲ無效ト爲スヘシ

一　登錄カ第一條乃至第四條又ハ前條第二項ノ規定ニ違反シテ爲サレタルトキ

二　登錄カ第二十四條ノ規定ニ依リ準用スル特許法第三十二條ノ規定ニ違反シテ爲サレタルトキ

三　登錄カ商標ノ登錄出願ヨリ生シタル權利ノ承繼人ニ非サル者ノ爲ニ爲サレタルトキ

四　登錄カ第二十四條ノ規定ニ依リ準用スル特許法第三十三條ニ規定スル條約又ハ之ニ準スヘキモノニ違反シテ爲サレタル場合ニ於テ其ノ違反カ第一號乃至前號ニ揭クルモノニ準スヘキモノナルトキ

五　登錄カ第二十四條ノ規定ニ依リ準用スル特許法第三十二條ノ規定ニ違反スルニ至リタルトキ又ハ特許法第三十三條ニ規定スル條約若ハ之ニ準スヘキモノニ違反スルニ至リタル場合ニ於テ其ノ違反カ第一號乃至第三號ニ揭クルモノニ準スヘキモノナルトキ

商標權存續期間更新ノ登錄カ左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ審判ニ依リ之ヲ無效ト爲スヘシ

一　登錄カ第十一條但書ノ規定ニ違反シテ爲サレタルトキ

二　登錄カ商標權者ニ非サル者ノ爲ニ爲サレタルトキ

商標又ハ商標權存續期間更新ノ登錄ハ商標權消滅後ト雖前二項ノ規定ニ依リ之ヲ無效ト爲スヘシ

第十七條　特許局ニ商標原簿ヲ備ヘ商標權ノ設定、移轉、變更、消滅其ノ他法令ニ定ムル事項ヲ登錄スニ關スル規程ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第十八條　登錄スヘシトノ査定若ハ審決確定シ又ハ判決アリタルトキハ之ヲ商標原簿ニ登錄スヘシ

第十九條　特許局ハ商標公報ヲ發行シ本法ニ規定スル事項其ノ他登錄商標ニ關スル必要ナル事項ヲ之ニ記載スヘシ

第二十條　商標ノ登錄ヲ受クル者ハ其ノ登錄ヲ受クル時登錄料トシテ毎件一時ニ三十圓ヲ納付スヘシ

商標權存續期間更新ノ登錄ヲ受クル者ハ其ノ登錄ヲ受クル時登錄料トシテ毎件一時ニ五十圓ヲ納付スヘシ

第二十一條　商標又ハ商標權存續期間更新ノ登錄出願アリタルトキハ審査官ヲシテ之ヲ審査セシム

第二十二條　審判ハ本法又ハ本法ニ基キテ發スル勅令ニ規定スルモノノ外左ニ掲クル事項ニ付之ヲ請求スルコトヲ得

一　第十五條ノ規定ニ依ル商標ノ登錄ノ取消

二　第十六條ノ規定ニ依ル商標又ハ商標權存續期間更新ノ登錄ノ無效

三　商標權ノ範圍ノ確認

前項第一號ノ取消ノ審判又ハ第二號ノ無效ノ審判ハ利害關係人及審査官ニ限リ之ヲ請求スルコトヲ得但シ審査官ハ第二條第一項第五號第八號乃至第十號、第三條若ハ第四條ノ規定ニ違反シ又ハ第十六條第一項第三號若ハ第二項第二號ニ該當ストノ理由ニ依ル無效ノ審判ヲ請求スルコトヲ得ス

第一項第三號ノ確認ノ審判ハ利害關係人ニ限リ之ヲ請求スルコトヲ得

第二十三條　前條第一項第二號ノ無效ノ審判ハ登錄ノ日ヨリ五年ヲ經過シタルトキハ之ヲ請求スルコトヲ得ス但シ第二條第一項第一號乃至第四號第六號第七號第十一號、第十一條但書、第十五條第二項又ハ第二十四條ノ規定ニ依リ準用スル特許法第三十二條又ハ第三十三條ノ規定ニ違反ストノ理由ニ依ル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第二十四條　特許法第十三條、第十六條乃至第三十條、第三十二條、第三十三條、第四十五條、第

五十八條第一項第三項、第六十八條、第七十一條、第七十二條、第七十三條第一項第二項第四項第七十四條乃至第七十七條、第八十條乃至第八十三條、第八十六條乃至第百五條、第百七條、第百九條乃至第百十五條、第百十七條乃至第百二十四條及第百二十八條ノ規定ハ商標ニ關シ之ヲ準用ス但シ第七十三條第一項第二項第四項及第七十四條乃至第七十七條ノ規定ハ商標權存續期間更新ノ登錄出願ニ付之ヲ準用セス

第二十五條　登錄無效ノ審決確定シ又ハ判決アリタル後ニシテ再審請求ノ登錄前ヨリ同一又ハ類似ノ商品ニ付取引者又ハ需要者ノ間ニ廣ク認識セラレタル同一又ハ類似ノ登錄商標ヲ善意ニ使用スル者ハ其ノ登錄商標カ再審ニ依リ登錄ヲ回復シタル商標ニ牴觸スル爲第二條第一項第九號ノ規定ニ違反ストノ理由ニ依リ其ノ登錄ヲ無效トセラレタル場合ニ於テモ其ノ商標ノ使用ヲ繼續スルコトヲ得營業ト共ニ其ノ商標ノ使用ヲ承繼シタル者亦同シ

第九條第二項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第二十六條　營利ヲ目的トセサル業務ニ係ル商品ノ標章ヲ專用セムトスル者ハ標章ノ登錄ヲ受クルコトヲ得

前項ノ標章ハ之ヲ商標ト看做シ本法中商標ニ關スル規定ヲ之ニ適用ス

第二十七條　同業者及密接ノ關係ヲ有スル營業者ノ設立シタル法人ニシテ團體員ノ營業上ノ共同ノ利益ヲ增進スルヲ目的トスルモノハ其ノ團體員ヲシテ其ノ營業ニ係ル商品ニ標章ヲ專用セシムル爲其ノ標章ニ付團體標章ノ登錄ヲ受クルコト得

團體標章ハ本法ニ別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外之ヲ商標ト看做シ本法中商標ニ關スル規定ヲ之ニ適用ス

第二十八條　前條ノ規定ニ依リ團體標章ノ登錄ヲ受ケムトスル法人ハ其ノ定款ニ於テ其ノ團體標章ノ使用ニ關スル事項ヲ定メ特許局長ノ認可ヲ受クヘシ其ノ事項ヲ變更スル場合亦同シ

第二十九條　團體標章權ノ侵害ニ因ル損害賠償請求權ハ團體員ニ生シタル損害ヲモ包含ス

第三十條　第二十七條ノ法人ノ合併又ハ分割ノ場合ニ於テ一ノ法人カ他ノ法人ニ團體標章ノ登錄出願ヨリ生シタル權利又ハ團體標章權ヲ移轉セムトスルトキハ特許局長ノ認可ヲ受クヘシ

此ノ場合ニ於テハ第二十八條ノ規定ヲ準用ス

第三十一條　左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ特許局長ハ利害關係人ノ請求ニ依リ又ハ職權ヲ以テ團體標章ノ登錄ヲ取消スコトヲ得

一　法人カ團體員ヲシテ第二十八條又ハ前條ノ規定ニ依リ特許局長ノ認可ヲ受ケタル定款ノ規定ニ違反シテ團體標章ヲ使用セシメ又ハ其ノ使用ヲ放任シタルトキ

二　法人カ團體員ニ非サル者ヲシテ團體標章ヲ使用セシメ又ハ團體員ニ非サル者ノ使用ヲ放

任シタルトキ

第十四條第三項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第一項ノ規定ニ依リ團體標章ノ登錄ヲ取消サレタル法人ハ取消アリタル日ヨリ五年間同一又ハ類似ノ商品ニ付同一又ハ類似ノ團體標章ノ登錄ヲ受クルコトヲ得ス此ノ場合ニ於テハ第十六條及第二十二條ノ規定ヲ準用ス

第三十二條　團體標章ノ登錄ヲ受クル者ハ其ノ登錄ヲ受クル時登錄料トシテ毎件一時ニ百圓ヲ納付スヘシ

團體標章權存續期間更新ノ登錄ヲ受クル者ハ其ノ登錄ヲ受クル時登錄料トシテ毎件一時ニ百五十圓ヲ納付スヘシ

第三十三條　前六條ノ規定ハ公法人カ其ノ地域内ニ於ケル營業者ヲシテ其ノ營業ニ係ル商品ニ專用セシムル爲團體標章ノ登錄ヲ受ケムトスル場合ニ之ヲ準用ス

第三十四條　左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ五年以下ノ懲役又ハ五千圓以下ノ罰金ニ處ス

一　他人ノ登錄商標ト同一若ハ類似ノ商標ヲ同一若ハ類似ノ商品ニ使用シタル者又ハ其ノ商品ヲ交付シ、販賣シ若ハ交付販賣ノ目的ヲ以テ所持スル者

二　他人ノ登錄商標ト同一又ハ類似ノ商標ヲ同一若ハ類似ノ商品ニ使用セシムルノ目的ヲ以テ交付シ若ハ販賣シ又ハ其ノ交付販賣ノ目的ヲ以テ所持スル者

三　他人ノ登錄商標ヲ同一又ハ類似ノ商品ニ使用スルノ目的又ハ使用セシムルノ目的ヲ以テ僞造又ハ模造シタル者

四　他人ノ登錄商標ト同一又ハ類似ノ商標ヲ使用シタル同一又ハ類似ノ商品ヲ交付販賣ノ目的ヲ以テ輸入又ハ移入シタル者

五　他人ノ登錄商標ト同一又ハ類似ノ商標ヲ同一又ハ類似ノ商品ニ使用スルノ目的又ハ使用セシムルノ目的ヲ以テ輸入又ハ移入シタル者

六　他人ノ登錄商標ヲ僞造若ハ模造スルノ目的又ハ僞造若ハ模造セシムルノ目的ヲ以テ其ノ用具ヲ製作、交付、販賣又ハ所持スル者

七　同一又ハ類似ノ商品ニ關シ他人ノ登錄商標ト同一又ハ類似ノモノヲ營業ニ用フル廣告、看板、引札、物價表ノ類又ハ取引書類ニ使用シタル者

第三十五條　左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ三年以下ノ懲役又ハ三千圓以下ノ罰金ニ處ス

一　詐僞ノ行爲ヲ以テ商標若ハ商標權存續期間更新ノ登錄ヲ受ケ又ハ審決若ハ判決ヲ受ケタル者

二　登錄ヲ受ケサル商標ニシテ商標登錄標記ヲ附シ若ハ商標登錄標記商ニ紛ハシキ表示ヲ爲

シタルモノヲ商品ニ使用シタル者又ハ其ノ商品ヲ交付シ、販賣シ若ハ交付、販賣ノ目的ヲ以テ所持スル者

三　登錄ヲ受ケサル商標ニシテ商標登錄標記ヲ附シ若ハ商標登錄標記ニ紛ハシキ表示ヲ爲シタルモノヲ營業ニ用ヰル廣告、看板、引札、物價表ノ類又ハ取引書類ニ使用シタル者

第三十六條　法律ニ依リ宣誓シタル證人若ハ鑑定人又ハ通事特許局又ハ其ノ囑託ヲ受ケタル裁判所若ハ官廳ニ對シ虛僞ノ陳述ヲ爲シタルトキハ三月以上十年以下ノ懲役ニ處ス

前項ノ罪ヲ犯シタル者事件ノ査定又ハ審決ニ至ラサル前自白シタルトキハ其ノ刑ヲ減輕又ハ免除スルコトヲ得

第三十七條　特許局ヨリ證人、鑑定人又ハ通事トシテ呼出サレタル者正當ノ理由ナクシテ呼出ニ應セス又ハ其ノ義務ヲ盡ササルトキハ五十圓以下ノ過料ニ處ス

非訟事件手續法第二百六條乃至第二百八條ノ規定ハ前項ノ過料ニ付之ヲ準用ス

第三十八條　辨理士ニ非スシテ特許局ニ對シ商標ニ關シ爲スヘキ事項ノ代理業ヲ營ミタル者ハ一年以下ノ懲役又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

附　則

第三十九條　本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第四十條　舊法ニ依ル商標又ハ商標權存續期間更新ノ登錄、處分及手續ハ本附則ニ別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外本法ニ依リ爲シタルモノト看做ス

舊法ニ依リ商標ニ關シ爲シタル出願、請求其ノ他ノ手續ニ付亦前項ニ同シ

第四十一條　本法施行ノ際現ニ繫屬スル商標若ハ商標權存續期間更新ノ登錄出願又ハ商標登錄ノ取消ニ關スル事項ノ處理ニ付テハ仍舊法ニ依ル

第四十二條　舊法ニ依ル商標又ハ商標權存續期間更新ノ登錄ニ關シテハ本法施行後ニ登錄カ爲サレタル場合ト雖舊法第十一條ノ規定ハ仍其ノ效力ヲ有シ同條ノ規定ノ適用ノ範圍內ニ於テ同條ニ揭クル舊法ノ規定ハ仍其ノ效力ヲ有シ登錄カ同條ノ規定ニ該當スル場合ニ限リ審判ニ依リ之ヲ無效ト爲スヘシ此ノ場合ニ於テ舊法附則第二條ノ規定ハ仍其ノ效力ヲ有シ同項ノ規定ノ適用ノ範圍內ニ於テ同項ニ揭クル舊法ノ規定ハ仍其ノ效力ヲ有ス

第四十三條　登錄カ舊法第一條又ハ第二條第五號ノ規定ニ違反ストノ理由ニ依ル前條ノ無效ノ審判ハ本法施行前爲サレタル商標又ハ商標權存續期間更新ノ登錄ニ關シテハ本法施行ノ日ヨリ五年ヲ經過シタルトキハ之ヲ請求スルコトヲ得ス

登錄カ舊法第二條第八號第九號、第三條又ハ第四條第二項ノ規定ニ違反ストノ理由ニ依ル前條ノ無效ノ審判ハ商標又ハ商標權存續期間更新ノ登錄カ商標公報ニ揭載セラレタル日ヨリ三

年ヲ經過シタルトキハ之ヲ請求スルコトヲ得ス

第四十四條　本法施行前舊法第二十三條ノ罪ヲ犯シタル者ハ本法施行後ト雖告訴アルニ非サレハ其ノ罪ヲ論セス

三七　辨理士法案

辨理士法

第一條　辨理士ハ特許、實用新案、意匠又ハ商標ニ關シ特許局ニ對シ爲スヘキ事項ノ代理ヲ爲スコトヲ業トスルモノトス

第二條　左ノ條件ヲ具フル者ハ辨理士タル資格ヲ有ス

一　帝國臣民又ハ農商務大臣ノ定ムル所ニ依リ外國ノ國籍ヲ有スル者ニシテ私法上ノ能力者タルコト

二　帝國內ニ住所ヲ有スルコト

三　辨理士試驗ニ合格シタルコト

辨理士試驗ニ關スル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第三條　左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ前條第一項第三號ニ規定スル條件ヲ要セスシテ辨理士タル資格ヲ有ス

一　辯護士法ニ依リ辯護士タル資格ヲ有スル者

二　高等試驗ノ行政科試驗若ハ司法科試驗又ハ判事檢事登用試驗ニ合格シタル者

三　特許局ニ於テ高等官ニ在職シテ二年以上審判若ハ審査ノ事務ニ從事シタル者又ハ判任以上ノ官ニ在職シテ五年以上審査ノ事務ニ從事シタル者

第四條　左ニ揭クル者ハ辨理士タルコトヲ得ス

一　禁錮以上ノ刑ニ處セラレタル者但シ六年未滿ノ懲役又ハ禁錮ニ處セラレタル者ニシテ刑ノ執行ヲ終リ又ハ其ノ執行ノ免除ヲ得タル日ヨリ起算シ三年ヲ經過シタルモノハ此ノ限ニ在ラス

二　前號ニ該當スル者ヲ除クノ外第二十一條、特許法第百二十九條、第百三十條、第百三十三條若ハ第百三十五條、實用新案法第二十七條、第二十八條、第三十一條若ハ第三十三條、意匠法第二十六條、第二十七條、第三十條若ハ第三十二條又ハ商標法第三十四條、第三十五條若ハ第三十八條ノ罪ヲ犯シ刑ニ處セラレタル者但シ刑ノ執行ヲ終リ又ハ其ノ執行ノ免除ヲ得タル日ヨリ起算シ三年ヲ經過シタル者ハ此ノ限ニ在ラス

三　破產若ハ家資分散ノ宣告ヲ受ケ復權セサル者又ハ身代限ノ處分ヲ受ケ債務ノ辨償ヲ終ヘ

サル者

四　業務停止ノ期間中業務ヲ廢止シ未タ其ノ期間ノ經過セサル者又ハ業務禁止ノ處分アリタル日ヨリ起算シ三年ヲ經過セサル者

第五條　特許局ニ辨理士登錄簿ヲ備ヘ辨理士ニ關スル事項ヲ登錄ス

辨理士タラムトスル者ハ辨理士登錄簿ニ登錄ヲ受クルコトヲ要ス

辨理士ノ登錄ニ關スル事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第六條　辨理士ノ登錄ヲ受ケムトスル者ハ登錄料トシテ二十圓ヲ納付スヘシ

第七條　辨理士ハ左ノ各號ノ一ニ該當スル事件ニ付其ノ業務ヲ行フコトヲ得ス

一　相手方ノ代理人トシテ取扱ヒタル事件

二　裁判所又ハ特許局ニ在職中取扱ヒタル事件

第八條　辨理士ハ特許、實用新案、意匠又ハ商標ニ關スル事項ニ付裁判所ニ於テ本人ト共ニ出頭シテ本人ノ爲演述ヲ爲スコトヲ得其ノ演述ハ本人卽時ニ之ヲ取消シ又ハ更正セサルトキニ限リ本人自ラ之ヲ爲シタルモノト看做ス

前項ノ規定ニ依リ帝國臣民ニ非サル辨理士出頭シテ演述ヲ爲サムトスルトキハ裁判所ノ許可ヲ受クヘシ

第九條　辨理士ハ特許局所在地ニ辨理士會ヲ設立スヘシ

辨理士會ハ支部ヲ設クルコトヲ得

第十條　辨理士會ハ辨理士ノ風紀ヲ保持シ業務ノ發達ヲ圖ルヲ以テ目的トス

第十一條　辨理士會ハ法人トス

第十二條　辨理士會ハ農商務大臣之ヲ監督ス

第十三條　辨理士會ハ會則ヲ設ケ役員ニ關スル事項、會議ニ關スル事項、辨理士ノ風紀保持ニ關スル事項、謝金及手數料ニ關スル事項其ノ他會務ノ處理ニ必要ナル事項ヲ規定スヘシ

會則ハ特許局長ヲ經由シテ農商務大臣ノ認可ヲ受クヘシ會則ノ變更ニ付亦同シ

第十四條　辨理士會ノ設立ノ手續機關ノ組織及監督ニ關シテハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第十五條　辨理士ハ辨理士會ニ加入シタル後ニ非サレハ其ノ業務ヲ行フコトヲ得ス

第十六條　辨理士本法又ハ辨理士會ノ會則ニ違反スル行爲アルトキハ農商務大臣ハ辨理士懲戒委員會ノ議決ニ依リ之ヲ懲戒スルコトヲ得

辨理士懲戒委員會ニ關スル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第十七條　辨理士懲戒處分ハ左ノ四種トス

一　譴責

二　五百圓以下ノ過料
三　一年以内業務ノ停止
四　業務ノ禁止

第十八條　辨理士會ハ辨理士ニ對シ懲戒ノ必要アリト認メタルトキハ特許局長ヲ經由シテ農商務大臣ニ申告スヘシ

第十九條　農商務大臣ハ前條ノ規定ニ依ル辨理士會ノ申告ニ依リ又ハ職權ヲ以テ辨理士懲戒委員會ヲ招集ス

第二十條　過料ヲ完納セサルトキハ特許局長ノ命令ヲ以テ之ヲ執行ス

非訟事件手續法第二百八條ノ規定ハ前項ノ規定ニ依ル執行ニ付之ヲ準用ス

第二十一條　辨理士又ハ辨理士タリシ者故ナク其ノ業務上知得タル發明者、考案者、特許出願者又ハ登錄出願者ノ發明、考案又ハ事業上ノ祕密ヲ漏泄シ又ハ竊用シタルトキハ六月以下ノ懲役又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

前項ノ罪ハ告訴ヲ待テ之ヲ論ス

附　則

第二十二條　本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第二十三條　特許辨理士令及特許辨理士組合規則ハ之ヲ廢止ス

第二十四條　本法ノ適用ニ付テハ明治十三年第三十六號布告刑法ノ重罪ノ刑ニ處セラレタル者ハ六年以上ノ懲役又ハ禁錮ノ刑ニ處セラレタル者ト看做ス

第二十五條　第四條第一號ニ該當スル者ヲ除クノ外舊特許法第九十二條、第九十三條若ハ第九十七條、舊實用新案法第二十二條、第二十三條若ハ第二十七條、舊意匠法第二十四條、第二十五條若ハ第二十九條又ハ舊商標法第二十三條、第二十四條若ハ第二十八條ノ罪ヲ犯シ刑ニ處セラレタル者ハ辨理士タルコトヲ得ス但シ刑ノ執行ヲ終リ又ハ其ノ執行ノ免除ヲ得タル日ヨリ起算シ三年ヲ經過シタル者ハ此ノ限ニ在ラス

第二十六條　本法施行ノ際現ニ特許辨理士タル資格ヲ有スル者ハ辨理士タル資格ヲ有ス

第二十七條　本法施行ノ際現ニ特許辨理士タル者ハ辨理士ト看做ス

第二十八條　特許辨理士登錄簿ハ辨理士登錄簿ト看做ス

第二十九條　第十五條ノ規定ハ本法施行ノ日ヨリ起算シ六月間之ヲ適用セス

右五案ハ孰レモ十年二月十九日本院ニ之ヲ提出ス二月二十二日五案ヲ一括シテ第一讀會ヲ開キ山本國務大臣ハ左ノ如ク趣旨ヲ辯明セリ

唯今議題トナリマシタル工業所有權ニ關シマスル現行法規ハ、明治四十二年ニ改正ニ相成リマシテ、今日マデ其儘ニナッテ居ルノデアリマス、然ルニ此間ニ於テ此農商工三業ニ關シマスル發達ハ御承知ノ通リ著シキモノニナッテ居リマス爲メニ、ソレニ關係ノアル此法案ノ改正ノ必要ガ起キテ參ッタノデアリマス、故ニ一昨年デアリマシタカ、斯道ニ最モ學識經驗ヲ、有セラレテ居リマスル人々ヲ集メマシテ、サウシテ特許局ノ主管ニ關シマスル諸法律改正調査委員ヲ設ケラレマシタ、爾來今日ニ至リマス約一箇年ニ亘リマシテ、十分ニ調査研究ヲ遂ゲラレマシテ、其主ナルモノハニ至リマシテ此成案ガ出來マシタノデゴザイマス、サウ云フモノデアリマシテ、其主ナルモノハ發明ノ保護、又所有權ノ保護、審査又ハ私權公權ナドノ調和ノ點ナドニ就テ主ニ力ヲ用ヰマシタ、サウシテ此改正ヲ遂ゲタ次第デアリマス、又特許ノ方ハサウデアリマスガ、ソレト同時ニ實用新案、又意匠法、商標法ナドニ就キマシテモ矢張改正ノ必要ガ起リマシテ、此所ニ出シタル譯デゴザイマス、又新ニ辨理士法ヲ設定致シマシテ、サウシテ諸法律ト相俟ッテ、工業所有權ノ完全ヲ圖ラント云フ趣意ニ依ッテ、今日提出致シマシタル次第デゴザイマス、此事ハ申上ゲルマデモナク、產業ニ密接ノ關係ヲ有シテ居ルモノデアリマシテ、今日戰後ノ經營ニ於キマシテ、其中ノ重要ナル一策トシテ提出シタ次第デゴザイマス、何卒御審議ノ上御協贊アランコトヲ希望致シマス

清瀨一郎君ハ質疑ヲ爲シ田中政府委員之ニ應答ス

清瀨一郎君ノ質疑

本案ニ對シテ質問ヲ致スベキ箇條ハ多々アリマスガ、追テ委員會ニ於テ詳細ナル御說明ヲ得ルコトニ致シマス、唯ダ大體ニ關スル事デ三箇條ノ御答辯ヲ求メマス、第一ハ申スマデモナク特許法、商標法、是等ハ我國ノ產業ヲ進步セシムル爲メニ設ケラレタモノデアル、特許ノ制度ノ確立シタノハ既ニ明治十七年デアリマスガ、今日ニ至ル迄帝國ノ特許官廳ハ、我國ノ產業ニ如何ナル貢獻ヲ爲シタルヤト云フ點デアリマス、今日特許ニ關スル民間ノ輿論ハ甚ダ悲觀的デアリマス、蓋シ政府ガ特許法ノ改正ヲ企テラレタノハ、此狀態ニ應ズル爲メデアラウト思ヒマスガ、我國ノ農商務省ノヤル特許ノ行政ガ成績ヲ擧ゲナイノハ、特許法ガ惡イノデアルカ、或ハ特許局ガ惡イノデアルカ、私自身ノ考デハ、無論特許法ニモ改正スベキ點ハ多々アリマス、今回ノ案ニモ洵ニ贊同スベキ點ガ多々アリマス、併ナガラ我國ノ特許行政ニ於テ最モ悲シムベキハ特許局デアリマス、此大切ナル官廳ヲ農商務省ノ一局トシテ、水產局ヤ鑛山局ト共通ノ一局トシテ、局長ナドハ年中更迭サレル、御出世ヲナサルノハ結構デアルガ、吾々特許ノ事務ヲ執ッテ居ル者ハ、文書ノ宛名サヘモ五六日スレバ變ッテ來ル、ウッカリスルト舊ノ人ヲ局長ト思ッテ居ルヤウナコトガアル御出世ハ結構デアルガ、斯ノ如キ大切ナル事ヲ一屬僚ノ局長ナドニ預ケテ置イテ、ドウシテ日本ノ發明ガ進步シマセウ、今日ノ實際カラ申シマシテ、特許局ニ於ケル印紙及手數料ノ收入ハ、一年平均六十萬圓ニ上ッテ居ル、然ルニ特許局ノ經費ハ僅カ二十萬圓足ラズデアル、政府ハ發明ヲ保護スルト言ヒナガラ、實ハ發明ニ保護サレテ居ル、特許局ヲシテ金儲ノ役所トシテ居ルヤウナモノデアル私ハ今日ノ急務トシテハ、特許法ノ改正ヨリモ、特許局ノ大改革ト云フコトガ必要デアルマイカ、現ニ一部ニ於テハ、特許局ノ官吏ハ賄賂ヲ取ルト云フ說サヘアルノデアル、現ニ又豫審ニ於テモ繫屬シタ事モアルノデアル、特許局ノ扱フ所ノ事務ハ、一ツハ司法事務デアル、審判デアル之ニ關係スル者ガ賄賂ヲ取ルナド、云フコトハアル筈ガナイ、……此狀態ヲ改革スルノガ、第一デ法律ノ改正モ宜イガ、法律ヨリモ特許局ニ向ッテ手ヲ下ス抱負ハ政府當局ニ有ルヤ無シヤ、是ガ第一デアリマス、第二ハ特許法ノ改正ト同時ニ、不正競爭法ト云フモノハ是ハ年來宿題デアリマス、政府ハ如何ナル點マデ是ハ調査ヲ爲サレ、將來ニ於テ不正競爭ニ對スル法律ヲ出ス精神ガアルカドウカト云フコトデアリマス、是ハ說明ヲ要シマセヌ、第三ハ商標ニ關スル事デアリマスガ、殊ニ支那ノ商標デアリマスカラ、外務當局ヨリシテ、支那政府ニ商標法ヲ設定セシメル權利ガアリマス、我國ノ將來ノ貿易ハ、支那ニ於ケルコトヲ第一トシナケレバナラヌ、然ルニ今日支那ニ於テ確定ナル商標法ガ制定セラレザル結果、我國ノ輸出貿易ハ非常ニ不便ヲ感ジテ居ルノデアリマス、

支那政府ヲ督勵シテ、確定ノ商標法ヲ作ラセナケレバナラヌト云フコトハ、數年來ノ世間ノ輿論デアルニ拘ラズ、今日ニ至ル迄毫モ其成績ヲ擧ゲテ居ラヌノハドウ云フ譯デアルカ、急速ニ政府ハ支那ヲシテ、商標法ヲ編纂セシムル精神アルヤ、否ヤ以上ノ三點ニ向ッテ責任アル御答辯ヲ求メマス

田中政府委員ノ應

一寸御答致シマス、唯今御尋ノ第一點、詰リ特許局ノ事ニ就テ大分御不滿デアラレルヤウナ風ニ又局員ニ何カ不正ナ事デモアルカノ如キマデノ御言葉ガアリマシタガ、特許局ガ十分ニ吾〻ノ思フ如ク活動ノ出來ナイト云フ點ハ、清瀨君ト私共同感デアリマス、併ナガラ何事モ豫算其他ニ關係ノアルコトデアリマスカラ、其國家一般財政ノ範圍内ニ於テ、出來ル限リ漸次ニ之ヲ擴張シテ行キタイ、整理シテ行キタイト思ッテ努メッ、アリマス、今日提案セラレマシタ此改正案ト共ニ、又特許局ニ於テモソレ〴〵定員ヲ增加致シマシテ、大ニ其面目ヲ改メルコトニ努メル積リデアリマス、何レ又此法案ノ御協贊ヲ得ルト共ニ、追加豫算等ニ依ッテ、諸君ノ御協贊ヲ得ナケレバナラヌコトニ到來スルト思ウテ居リマス、其節ニハドウゾ清瀨君ハ眞先ニナッテ、十分ノ御贊成アランコトヲ切望致シマス、ソレカラ第二ノ不正競爭云々ノ事ハ、要スルニサウ云フ不正ナ事ヲスル者ノ取締ノ事デアリマセウガ、取締ヲ致シマスニシテモ、其不正競爭ノ實際ヲ能ク取調ベルコトガ根抵ニナルノデアリマスカラシテ、是モ及バズナガラ調査等ニ就キマシテ力ヲ盡シテ居リマス積リデアリマス、ソレカラ第三ノ支那ノ商標ノ事モ是モ當局ト致シマシテ、多年非常ニ心配ヲ致シテ居リマス事デゴザイマスガ、是ハ實ハ獨リ日本ノ事ノミナラズ、英吉利ニシテモ、亞米利加ニシテモ、佛蘭西、獨逸等ニシテモ日本ノ思フ通リニ致シマスレバ、其等ノ外國或ハ其他ノ外國等カラシテ抗議ガ出マシタリ、色〻外國トノ關係ノ上ニ於テ、一方ガ希望スル所ガ他ノ一方ガ希望セヌト云フコトガアリマシタリ、種々ノ事情ノ爲メニ今日マデマダ行惱ンデ居ルノデアリマス、併ナガラ各國政府共ソレ〴〵段々困難ナ問題ニ就テ、諒解ヲ得ルノ運ニナッテ參リマシテ、是ハ餘リ遠カラザル將來ニ於テ、何トカ片ガ付クト思ヒマス、卽チ支那ニ於テ商標ノ事ニ關スル完全ナ法律ガ出來マシテ、各國共之ニ依ッテ權利ノ確保ヲ期スルコトガ出來ルダラウト思ヒマス、之ヲ以テ御答ト致シマス

次ニ委員ノ選擧ハ議長指名（十八名）ノ同一委員ニ決シ卽日議長之ヲ指名ス委員ハ翌二十三日委員會ヲ開キ委員長及理事ノ互選ヲ行ヒ審査ノ末各原案ヲ修正スヘキモノト決シ三月四日報告書ヲ議長ニ提出セリ

（小字及――ハ委員會修正）

（三三）（委員會報告書）

特許法改正法律案中左ノ通修正ス

第十條　特許出願カ特許ヲ受クルノ權利ノ承繼人ニ非サル者又ハ特許ヲ受クルノ權利ヲ冒認シタル者ノ爲シタルモノナルニ因リ特許ヲ受クルコト能ハサルニ至リタル場合ニ於テ其ノ特許出願ノ後ニ爲シタル正當權利者ノ出願ハ其ノ特許ヲ受クルコト能ハサルニ至リタル特許出願ノ時ニ於テ之ヲ爲シタルモノト看做ス但シ特許ヲ受クルコト能ハサルニ至リタル日ヨリ六十日ヲ、出願公告アリタル場合ニ於テハ出願公告ノ日ヨリ三六十日ヲ經過シタル後ノ出願ニ係ルトキハ此ノ限ニ在ラス

第十一條　特許カ特許ヲ受クルノ權利ノ承繼人ニ非サル者又ハ特許ヲ受クルノ權利ヲ冒認シタル者ノ受ケタルモノナルニ因リ其ノ特許ヲ無效トスル審決確定シ又ハ判決アリタル場合ニ於

テ其ノ特許ノ出願ノ後ニ爲シタル正當權利者ノ出願ハ其ノ無效ト爲リタル特許ノ出願ノ時ニ於テ之ヲ爲シタルモノト看做ス但シ其ノ特許ノ出願公告ノ日ヨリ五年ヲ經過シタル後ノ出願又ハ其ノ審決確定シ若ハ判決アリタル日ヨリ三十日ヲ經過シタル後ノ出願ニ係ルトキハ此ノ限ニ在ラス

第十四條　被用者、法人ノ役員又ハ公務員ノ其ノ勤務ニ關シ爲シタル發明ニ付テハ性質上使用者、法人又ハ職務ヲ執行セシムル者ノ業務範圍ニ屬シ且其ノ發明ヲ爲スニ至リタル行爲カ被用者、法人ノ役員又ハ公務員ノ任務ニ屬スル場合ノモノヲ除クノ外豫メ使用者、法人又ハ職務ヲ執行セシムル者ヲシテ特許ヲ受クルノ權利又ハ特許權ヲ承繼セシムルコトヲ定メタル契約又ハ勤務規程ノ條項ハ之ヲ無效トス

使用者、法人又ハ職務ヲ執行セシムル者ハ被用者、法人ノ役員又ハ公務員ノ其ノ勤務ニ關シ爲シタル發明ニシテ性質上使用者、法人又ハ職務ヲ執行セシムル者ノ業務範圍ニ屬シ且其ノ發明ヲ爲スニ至リタル行爲カ被用者、法人ノ役員又ハ公務員ノ任務ニ屬スル場合ノモノニ付其ノ被用者、法人ノ役員若ハ公務員カ特許ヲ受ケタルトキ又ハ其ノ者ノ特許ヲ受クルノ權利ヲ承繼シタル者カ特許ヲ受ケタルトキハ其ノ發明ニ付實施權ヲ有ス

被用者、法人ノ役員又ハ公務員ハ前項ノ發明ニ付テノ特許ヲ受クルノ權利又ハ特許權ヲ豫メ定メタル契約又ハ勤務規程ニ依リ使用者、法人又ハ職務ヲ執行セシムル者ヲシテ承繼セシメタル場合ニ於テ相當ノ補償金ヲ受クルノ權利ヲ有ス前項ノ規定ニ依リ使用者、法人又ハ職務ヲ執行セシムル者カ其ノ發明ヲ實施スル場合亦同シ

使用者、法人又ハ職務ヲ執行セシムル者ニ於テ既ニ支拂ヒタル報酬アルトキハ裁判所ハ前項ノ補償金ヲ定ムルニ付之ヲ斟酌スルコトヲ得

本條ニ於テ法人ノ役員ト稱スルハ法人ノ業務ヲ執行スル役員ヲ謂ヒ公務員ト稱スルハ刑法第七條第一項ノ公務員ヲ謂フ

第十九條　特許局長官ニ於テ特許ニ關スル代理人ヲ適當ナラスト認ムルトキハ其ノ改任ヲ命スルコトヲ得

特許局長官又ハ審判長ニ於テ當事者、參加人若ハ特許異議申立人又ハ其ノ代理人カ手續又ハ演述ヲ爲スノ能力ナシト認ムルトキハ辯理士ヲ以テ代理セシムヘキコトヲ命スルコトヲ得

前二項ニ規定スル命令アリタル後第一項ノ代理人又ハ前項ノ當事者、參加人、特許異議申立人若ハ代理人ノ特許局ニ對シ爲シタル行爲ハ之ヲ無效ト爲スコトヲ得

第二十三條　特許局長官ハ外國又ハ遠隔若ハ交通不便ノ地ニ在ル者ノ爲請求ニ依リ又ハ職權ヲ以テ特許局ニ對シ手續ヲ爲スヘキ法定ノ期間ヲ延長スルコトヲ得

第二十四條　出願、請求其ノ他ノ手續ヲ爲シタル者之ニ關スル爾後ノ行爲ニ付指定ノ期間ヲ懈

怠シタルトキ又ハ登錄ヲ受クル際納付スヘキ特許料ノ納付ヲ怠リタルトキハ本法ニ別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外特許局長官ハ其ノ出願、請求其ノ他ノ手續ヲ無效ト爲スコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ出願、請求其ノ他ノ手續ヲ無效ト爲シタル場合ニ於テ其ノ期間ノ懈怠カ宥恕スヘキ障礙ニ因ルモノト認ムルトキハ其ノ障礙ノ止ミタル日ヨリ十四日以内ニシテ其ノ期間滿了後一年以内ノ請求ニ依リ特許局長官ハ懈怠ノ結果ヲ免レシムルコトヲ得

第二十五條　天災其ノ他避クヘカラサル事變ニ因リ法定ノ期間ヲ懈怠シタル場合ニ於テ其ノ障礙ノ止ミタル日ヨリ十四日以内ニシテ其ノ期間滿了後一年以内ノ請求ニ依リ特許局長官又ハ審判長ハ懈怠ノ結果ヲ免レシムルコトヲ得但シ第七十四條ニ規定スル特許異議ノ申立期間ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第三十條　特許ニ關シ證明、特許證ノ複本、書類ノ謄本若ハ圖面ノ調製ヲ求メ又ハ書類ノ閲覽若ハ謄寫ヲ爲サムトスル者ハ特許局長官ニ之ヲ申請スルコトヲ得但シ特許局長官ニ於テ祕密ヲ要スト認ムルモノニ付テハ之ヲ許可セス

第三十六條　特許權ノ效力ハ左ノ各號ノ一ニ該當スルモノニ及ハス

一　研究又ハ試驗ノ爲ニスル特許發明ノ實施

二　單ニ帝國内ヲ通過スルニ過キサル運輸具又ハ其ノ裝置

三　特許出願ノ際ヨリ帝國内ニ在ル物又ハ第一號ノ實施ニ依リ製作シタル物

第四十一條　特許アリタル後ニ於テ引續キ三年以上正當ノ理由ナクシテ其ノ發明カ帝國内ニ適當ニ實施セラレサル場合ニ於テ公益上必要アルトキハ特許局長官ハ利害關係人ノ請求ニ依リ其ノ實施權ヲ許與シ若ハ其ノ特許ヲ取消シ又ハ職權ヲ以テ其ノ特許ヲ取消スコトヲ得

特許權者又ハ請求人ハ前項ノ規定ニ依ル實施權許與若ハ特許取消ノ處分又ハ前項ノ請求ノ却下ニ對シ不服アルトキハ訴願ヲ提起スルコトヲ得

第一項ノ規定ニ依リ實施權ヲ許與スル場合ニ於テハ特許局長官ハ補償金ニ付テモ亦之カ決定ヲ爲スヘシ

第四十二條　前條ノ規定ニ依リ實施權ヲ取得シタル者適當ニ其ノ特許發明ヲ實施セサル場合ニ於テハ特許局長官ハ利害關係人ノ請求ニ依リ又ハ職權ヲ以テ其ノ實施權ヲ取消スコトヲ得

實施權者又ハ請求人ハ前項ノ規定ニ依ル取消ノ處分又ハ前項ノ請求ノ却下ニ對シ不服アルトキハ訴願ヲ提起スルコトヲ得

第六十條　特許カ取消サレ若ハ無效ト爲リ又ハ特許權カ消滅シタル場合ニ於テ追加ノ特許權アルトキハ其ノ追加ノ特許權ハ獨立ノ特許權ト爲ル第六十九條第二項ノ規定ニ依リ特許權カ消滅シタルトキハ同條第一項ニ規定スル追納期間ノ滿了ノ時獨立ノ特許權ト爲ル

前項ノ場合ニ於テ獨立ノ特許權ト爲リタルモノニ係ル追加ノ特許權アルトキハ其ノ追加ノ特許權ハ獨立ト爲リタル特許權ノ追加ノ特許權ト爲ル

前二項ノ場合ニ於テハ其ノ日ヨリ六十日以内ニ變更ノ登錄ヲ申請スルニ非サレハ第一項ノ特許權又ハ前項ノ追加ノ特許權ハ消滅ス

第六十六條　前條第一項ノ規定ニ依ル第一年乃至第三年ノ特許料ハ一時ニ之ヲ前納シ其ノ第四年以後ノ特許料及前條第二項ノ規定ニ依ル特許料ハ前年ニ之ヲ納付スヘシ但シ數年分ヲ前納スルコトヲ妨ケス

特許局長官ハ前條第一項ノ規定ニ依ル第一年乃至第三年ノ特許料又ハ前條第三項ノ規定ニ依ル特許料ヲ納付スヘキ者カ其ノ特許發明ノ發明者又ハ其ノ相續人ナル場合ニ於テ之ヲ納付スルノ資力ナシト認ムルトキハ二年以内之カ納付ヲ猶豫シ又ハ之ヲ減免スルコトヲ得

第九十條　審判官ハ各審判事件ニ付特許局長官之ヲ指定ス

審判官中審判ニ干與スルニ故障アル者アルトキハ其ノ指定ヲ解キ更ニ他ノ審判官ヲ以テ之ヲ補充ス

第九十五條　忌避ノ申請アリタルトキハ忌避ヲ申請セラレタル審判官以外ノ審判官ニシテ特許局長官ノ指定シタルモノノ審判ニ依リ其ノ許否ヲ決定ス

前項ノ規定ニ依ル決定ニハ理由ヲ附スヘシ

第一項ノ規定ニ依ル決定ニ對シテハ不服ヲ申立ツルコトヲ得ス

第百四條　審判官特許局ハ當事者ノ雙方又ハ一方ノ同一ナル二以上ノ審判ニ付其ノ審理又ハ審決ノ併合ヲ爲スコトヲ得

審判官特許局ハ前項ノ規定ニ依リ審理ノ併合ヲ爲シタル場合ニ於テ更ニ審理又ハ審決ノ分離ヲ爲スコトヲ得

第百九條　査定又ハ審判ノ審決ヲ受ケタル者不服アルトキハ其ノ査定又ハ審決ノ送達ヲ受ケタル日ヨリ三十日以内ニ抗告審判ヲ請求スルコトヲ得但シ第百六條ノ規定ニ依ル補償金額ノ審決ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第百十三條　第七十二條ノ規定ハ拒絶ノ査定ニ對スル抗告審判ニ於テ其ノ査定ノ理由ト異ル拒絶ノ理由ヲ發見シタル場合ニ之ヲ準用ス

第七十三條乃至第七十九條ノ規定ハ拒絶ノ査定ニ對スル抗告審判ノ請求ヲ理由アリトスル場合ニ之ヲ準用ス但シ特許スヘキ出願ニシテ出願公告アリタルモノニ付テハ更ニ出願公告ヲ爲スコトナク審決ヲ爲スヘシ

前二項ノ規定ハ第五十三條ノ許可ヲ與ヘサル審決ニ對スル抗告審判ニ付之ヲ準用ス

第百十五條　抗告審判ノ審決ヲ受ケタル者不服アルトキハ其ノ審決カ法令ニ違反シタルコトヲ理由トスル場合ニ限リ審決ノ送達ヲ受ケタル日ヨリ六十日以内ニ大審院ニ出訴スルコトヲ得」

前項ノ規定ニ依ル出訴及其ノ裁判ニ付テハ民事訴訟ノ上告及其ノ裁判ニ關スル規定ヲ準用ス」

大審院ノ判決ニ於テ審決破毀ノ基本ト爲シタル理由ハ其ノ事件ニ付テハ特許局ヲ羈束ス

第百十六條　第十五條、第四十條又ハ第五十條ニ規定スル補償金額ノ通知又ハ決定若ハ審決ヲ受ケタル者補償金額ニ付不服アルトキハ其ノ通知又ハ決定若ハ審決ノ送達ヲ受ケタル日ヨリ六十日以内ニ通常裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第百十九條　審判、抗告審判及出訴ニ關スル費用ノ負擔ハ別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外其ノ事件ノ審決ヲ以テ之ヲ定ム

審判、抗告審判及出訴ニ關スル費用ノ額ハ請求ニ依リ特許局長官之ヲ決定ス

費用ノ負擔及額ニ關シテハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第百二十二條　再審ハ當事者カ不服ノ理由ヲ知リタル日ヨリ六十日以内ニ限リ之ヲ請求スルコトヲ得

審決ノ確定又ハ判決ノ前ニ當事者カ不服ノ理由ヲ知リタルトキハ前項ニ規定スル期間ハ審決確定シ又ハ判決アリタル日ノ翌日ヨリ之ヲ起算ス

審判、抗告審判又ハ出訴ノ手續ニ於テ當事者カ法律ノ規定ニ從ヒ代理セラレサリシコトヲ理由トシテ再審ヲ請求スル場合ニ於テハ第一項ニ規定スル期間ハ當事者又ハ其ノ法律上代理人カ送達ニ依リ審決又ハ判決アリタルコトヲ知リタル日ノ翌日ヨリ之ヲ起算ス

審決確定シ又ハ判決アリタル日ヨリ三年ヲ經過シタルトキハ再審ヲ請求スルコトヲ得ス

第百三十八條　本法施行ノ際現ニ繫屬スル特許又ハ特許權ノ改訂若ハ分割ノ許可ノ出願ノ處理ニ付テハ仍舊法ニ依ル但シ其ノ出願ニ係ル發明カ本法ニ依ル特許出願ニ係ル發明ニ牴觸スルトキハ其ノ發明者ハ之ヲ先ニ發明ヲ爲シタル者ト看做ス

本法施行前送達ヲ受ケタル審決ニ對スル不服申立ノ期間ニ付テハ仍舊法ニ依ル補償金額ニ對スル不服申立ノ期間ニ付亦同シ

（三四）（委員會報告書）

實用新案法改正法律案中左ノ通修正ス

第二十五條　査定又ハ審判ノ審決ヲ受ケタル者不服アルトキハ其ノ査定又ハ審決ノ送達ヲ受ケタル日ヨリ六十日以内ニ抗告審判ヲ請求スルコトヲ得但シ前條ノ規定ニ依ル補償金額ノ審決ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

（小字及――ハ委員會修正）

第二十六條　特許法第六條、第十條乃至第三十三條、第三十六條、第四十條、第四十四條、第四十五條、第四十七條、第四十八條、第五十一條、第五十五條、第五十六條、第五十八條、第五十九條、第六十四條、第六十五條第六項第七項、第六十六條乃至第六十九條、第七十一條、第七十二條、第八十條乃至第八十三條、第八十六條乃至第百五條、第百七條、第百八條、第百十條乃至第百十二條第百十三條第一項及第百十四條乃至第百二十八條ノ規定ハ實用新案ニ關シ之ヲ準用ス

第三十六條　本法施行ノ際現ニ繫屬スル實用新案登錄ノ出願ノ處理ニ付テハ仍舊法ニ依ル

本法施行前送達ヲ受ケタル審決ニ對スル不服申立ノ期間ニ付テハ仍舊法ニ依ルシ

（三五）（委員會報告書）

意匠法改正法律案中左ノ通修正ス

（小字及――ハ委員會修正）

第二十四條　査定又ハ審判ノ審決ヲ受ケタル者不服アルトキハ其ノ査定又ハ審決ノ送達ヲ受ケタル日ヨリ三十日以內ニ抗告審判ヲ請求スルコトヲ得但シ前條ノ規定ニ依ル補償金額ノ審決ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第三十五條　本法施行ノ際現ニ繫屬スル意匠登錄ノ出願ノ處理ニ付テハ仍舊法ニ依ル

本法施行前送達ヲ受ケタル審決ニ對スル不服申立ノ期間ニ付テハ仍舊法ニ依ル

（三六）（委員會報告書）

商標法改正法律案中左ノ通修正ス

（小字及――ハ委員會修正）

第十四條　左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ審判ニ依リ特許局長ハ利害關係人ノ請求ニ依リ又ハ職權ヲ以テ商標ノ登錄ヲ取消スコトヘシヲ得

一　商標權者正當ノ理由ナクシテ帝國內ニ於テ登錄ノ日ヨリ一年間其ノ商標ヲ使用セサリシトキ又ハ引續キ三年間其ノ商標ノ使用ヲ中止シタルトキ但シ第五條ノ規定ニ依リ指定シタル商品中其ノ一ニ使用シ又ハ聯合ノ商標中其ノ一ヲ使用シタルトキハ此ノ限ニ在ラス

二　商標權ノ移轉アリタル場合ニ於テ其ノ相續ニ依ルモノヲ除クノ外移轉アリタル日ヨリ一年以內ニ商標權移轉ノ登錄ヲ申請セサルトキ

外國ノ登錄商標トシテ登錄ヲ受ケタル商標ニ付テハ前項第一號ノ規定ヲ適用セス

商標權者又ハ請求人ハ第一項ノ規定ニ依ル登錄取消ノ處分又ハ第一項ノ請求ノ却下ニ對シ不服アルトキハ訴願ヲ提起スルコトヲ得

第二十二條　審判ハ本法又ハ本法ニ基キテ發スル勅令ニ規定スルモノノ外左ニ掲クル事項ニ付

之ヲ請求スルコトヲ得

一　○第十四條、○又ハ第三十一條○第十五條○ノ規定ニ依ル商標ノ登錄ノ取消

二　第十六條ノ規定ニ依ル商標又ハ商標權存續期間更新ノ登錄ノ無效

三　商標權ノ範圍ノ確認

前項第一號ノ取消ノ審判又ハ第二號ノ無效ノ審判ハ利害關係人及審査官ニ限リ之ヲ請求スルコトヲ得但シ審査官ハ第二條第一項第五號第八號乃至第十號、第三條若ハ第四條ノ規定ニ違反シ又ハ第十六條第一項第三號若ハ第二項第二號ニ該當ストノ理由ニ依ル無效ノ審判ヲ請求スルコトヲ得ス

第一項第三號ノ確認ノ審判ハ利害關係人ニ限リ之ヲ請求スルコトヲ得

第二十八條　前條ノ規定ニ依リ團體標章ノ登錄ヲ受ケムトスル法人ハ其ノ定款ニ於テ其ノ團體標章ノ使用ニ關スル事項ヲ定メ特許局長○官ノ認可ヲ受クヘシ其ノ事項ヲ變更スル場合亦同シ

第三十條　第二十七條ノ法人ノ合併又ハ分割ノ場合ニ於テ一ノ法人カ他ノ法人ニ團體標章ノ登錄出願ヨリ生シタル權利又ハ團體標章權ヲ移轉セムトスルトキハ特許局長○官ノ認可ヲ受クヘシ此ノ場合ニ於テハ第二十八條ノ規定ヲ準用ス

第三十一條　左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ審判ニ依リ特許局長ハ利害關係人ノ請求ニ依リ又ハ職權ヲ以テ團體標章ノ登錄ヲ取消スコトヲ得

一　法人カ團體員ヲシテ第二十八條又ハ前條ノ規定ニ依リ特許局長○官ノ認可ヲ受ケタル定款ノ規定ニ違反シテ團體標章ヲ使用セシメ又ハ其ノ使用ヲ放任シタルトキ

二　法人カ團體員ニ非サル者ヲシテ團體標章ヲ使用セシメ又ハ團體員ニ非サル者ノ使用ヲ放任シタルトキ

第十四條第三項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

前第一項ノ規定ニ依リ團體標章ノ登錄ヲ取消サレタル法人ハ取消アリタル日ヨリ五年間同一又ハ類似ノ商品ニ付同一又ハ類似ノ團體標章ノ登錄ヲ受クルコトヲ得ス此ノ場合ニ於テハ第十六條及第二十二條ノ規定ヲ準用ス

第四十一條　本法施行ノ際現ニ繫屬スル商標若ハ商標權存續期間更新ノ登錄出願又ハ商標登錄ノ取消ニ關スル事項ノ處理ニ付テハ仍舊法ニ依ル

本法施行前送達ヲ受ケタル審決ニ對スル不服申立ノ期間ニ付テハ仍舊法ニ依ル

（小字及――ハ委員會修正）

（三七）（委員會報告書）

辨理士法

第一條　辨理士ハ特許、實用新案、意匠又ハ商標ニ關シ特許局ニ對シ爲スヘキ事項ノ代理ヲ爲スコトヲ業トスルモノトス

第二條　左ノ條件ヲ具フル者ハ辨理士タル資格ヲ有ス

一　帝國臣民又ハ農商務大臣ノ定ムル所ニ依リ外國ノ國籍ヲ有スル者ニシテ私法上ノ能力者タルコト

二　帝國內ニ住所ヲ有スルコト

三　辨理士試驗ニ合格シタルコト

辨理士試驗ニ關スル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第三條　左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ前條第一項第三號ニ規定スル條件ヲ要セスシテ辨理士タル資格ヲ有ス

一　辯護士法ニ依リ辯護士タル資格ヲ有スル者

二　高等試驗ノ行政科試驗若ハ司法科試驗又ハ判事檢事登用試驗ニ合格シタル者

三　特許局ニ於テ高等官ニ在職シテ二年以上審判若又ハ審査ノ事務ニ從事シタル者又ハ判任以上ノ官ニ在職シテ五年以上審査ノ事務ニ從事シタル者

第四條　左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ辨理士試驗委員ノ銓衡ニ依リ第二條第一項第三號ニ規定スル條件ヲ要セスシテ辨理士タル資格ヲ有ス

一　學位ヲ有スル者

二　帝國大學ノ學部又ハ之ト學科程度同等以上ト認ムル內外國ノ學校ニ於テ定規ノ課業ヲ卒ヘタル者

三　特許局ニ於テ判任以上ノ官ニ在職シテ五年以上審査ノ事務ニ從事シタル者

第四條五　左ニ掲クル者ハ辨理士タルコトヲ得ス

一　禁錮以上ノ刑ニ處セラレタル者但シ六年未滿ノ懲役又ハ禁錮ニ處セラレタル者ニシテ刑ノ執行ヲ終リ又ハ其ノ執行ノ免除ヲ得タル日ヨリ起算シ三年ヲ經過シタルモノハ此ノ限ニ在ラス

二　前號ニ該當スル者ヲ除クノ外第二十二條、特許法第百二十九條、第百三十條、第百三十三條若ハ第百三十五條、實用新案法第二十七條、第二十八條、第三十一條若ハ第三十三第、意匠法第二十六條、第二十七條、第三十條若ハ第三十二條又ハ商標法第三十四條、第三十五條若ハ第三十八條ノ罪ヲ犯シ刑ニ處セラレタル者但シ刑ノ執行ヲ終リ又ハ其ノ執行ノ免除ヲ得タル日ヨリ起算シ三年ヲ經過シタル者ハ此ノ限ニ在ラス

三　破產若ハ家資分散ノ宣言ヲ受ケ復權セサル者又ハ身代限ノ處分ヲ受ケ債務ノ辨償ヲ終ヘ

サル者

四　業務停止ノ期間中業務ヲ廢止シ未タ其ノ期間ノ經過セサル者又ハ業務禁止ノ處分アリタル日ヨリ起算シ三年ヲ經過セサル者

第五條（六）　特許局ニ辨理士登錄簿ヲ備ヘ辨理士ニ關スル事項ヲ登錄ス

辨理士タラムトスル者ハ辨理士登錄簿ニ登錄ヲ受クルコトヲ要ス

辨理士ノ登錄ニ關スル事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第六條（七）　辨理士ノ登錄ヲ受ケムトスル者ハ登錄料トシテ二十圓ヲ納付スヘシ

第七（八）　辨理士ハ左ノ各號ノ一ニ該當スル事件ニ付其ノ業務ヲ行フコトヲ得ス

一　相手方ノ代理人トシテ取扱ヒタル事件

二　裁判所又ハ特許局ニ在職中取扱ヒタル事件

第八（九）條　辨理士ハ特許、實用新案、意匠又ハ商標ニ關スル事項ニ付裁判所ニ於テ本人ト共ニ出頭シテ本人ノ爲演述ヲ爲スコトヲ得其ノ演述ハ本人卽時ニ之ヲ取消シ又ハ更正セサルトキニ限リ本人自ラ之ヲ爲シタルモノト看做ス

前項ノ規定ニ依リ帝國臣民ニ非サル辨理士出頭シテ演述ヲ爲サムトスルトキハ裁判所ノ許可ヲ受クヘシ

第九（十）條　辨理士ハ特許局所在地ニ辨理士會ヲ設立スヘシ

辨理士會ハ支部ヲ設クルコトヲ得

第十〇（一）條　辨理士會ハ辨理士ノ風紀ヲ保持シ業務ノ發達ヲ圖ルヲ目的トス

第十一（二）條　辨理士會ハ法人トス

第十二（三）條　辨理士會ハ農商務大臣之ヲ監督ス

第十三（四）條　辨理士會ハ會則ヲ設ケ役員ニ關スル事項、會議ニ關スル事項、辨理士ノ風紀保持ニ關スル事項、謝金及手數料ニ關スル事項其ノ他會務ノ處理ニ必要ナル事項ヲ規定スヘシ

會則ハ特許局長官ヲ經由シテ農商務大臣ノ認可ヲ受クヘシ會則ノ變更ニ付亦同シ

第十四（五）條　辨理士會ノ設立ノ手續、機關ノ組織及監督ニ關シテハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第十五（六）條　辨理士ハ辨理士會ニ加入シタル後ニ非サレハ其ノ業務ヲ行フコトヲ得ス

第十六（七）條　辨理士本法又ハ辨理士會ノ會則ニ違反スル行爲アルトキハ農商務大臣ハ辨理士懲戒委員會ノ議決ニ依リ之ヲ懲戒スルコトヲ得

辨理士懲戒委員會ニ關スル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第十七（八）條　辨理士ノ懲戒處分ハ左ノ四種トス

一　譴責

二　五百圓以下ノ過料

三　一年以内業務ノ停止

四　業務ノ禁止

第十八九條　辨理士會ハ辨理士ニ對シ懲戒ノ必要アリト認メタルトキハ特許局長官ヲ經由シテ農商務大臣ニ申告スヘシ

第二十十九條　農商務大臣ハ前條ノ規定ニ依ル辨理士會ノ申告ニ依リ又ハ職權ヲ以テ辨理士懲戒委員會ヲ招集ス

第二十一〇條　過料ヲ完納セサルトキハ特許局長官ノ命令ヲ以テ之ヲ執行ス

非訟事件手續法第二百八條ノ規定ハ前項ノ規定ニ依ル執行ニ付之ヲ準用ス

第二十二一條　辨理士又ハ辨理士タリシ者故ナク其ノ業務上知得タル發明、考案者、特許出願者又ハ登錄出願者ノ發明、考案又ハ事業上ノ祕密ヲ漏泄シ又ハ竊用シタルトキハ六月以下ノ懲役又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

前ノ罪ハ告訴ヲ待テ之ヲ論ス

附　則

第二十二三條　本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第二十三四條　特許辨理士令及特許辨理士組合規則ハ之ヲ廢止ス

第二十四五條　本法ノ適用ニ付テハ明治十三年第三十六號布告刑法ノ重罪ノ刑ニ處セラレタル者ハ六年以上ノ懲役又ハ禁錮ノ刑ニ處セラレタル者ト看做ス

第二十五六條　第四五條第一號ニ該當スル者ヲ除クノ外舊特許法第九十二條、第九十三條若ハ第九十七條、舊實用新案法第二十二條、第二十三條若ハ第二十七條、舊意匠法第二十四條、第二十五條若ハ第二十九條又ハ舊商標法第二十三條、第二十四條若ハ第二十八條ノ罪ヲ犯シ刑ニ處セラレタル者ハ辨理士タルコトヲ得ス但シ刑ノ執行ヲ終リ又ハ其ノ執行ノ免除ヲ得タル日ヨリ起算シ三年ヲ經過シタル者ハ此ノ限ニ在ラス

第二十六七條　本法施行ノ際現ニ特許辨理士タル資格ヲ有スル者ハ辨理士タル資格ヲ有ス

第二十七八條　本法施行ノ際現ニ特許辨理士タル者ハ辨理士ト看做ス

第二十八九條　特許辨理士登錄簿ハ辨理士登錄簿ト看做ス

第二十九三十條　第十五六條ノ規定ハ本法施行ノ日ヨリ起算シ六月間之ヲ適用セス

三月五日再ヒ五案ヲ一括シテ第一讀會ヲ開キ委員長島田俊雄君ハ委員會ノ經過及結果ニ付左ノ報告ヲ爲ス

特許法改正法律案外四件ノ委員會ノ經過、並ニ結果ヲ報告致シマス、特許法改正法律案外四件卽チ實用新案法、意匠法、商標法、並ニ辨理士法ハ、通計致シマシテ三百餘箇條ニ亙ル長大ナル法律案デアリマス、恐ラク今期議會ニ提出セラレマシタル法律案中ノ、最大ニシテ又最モ重要ナルモノヽ、一ツト考ヘルノデアリマス、而シテ其改正ノ趣意ハ、現行ノ特許制度ニ對シテ根本的ノ改正ヲ加ヘタ所ノモノデアリマシテ、其改正セラレマシタル所ノ箇所モ、極メテ多岐ニ亙ッテ居ルノデアリマス、隨テ是等ノ諸點ニ就テ一々詳細ニ之ヲ述ブルト云フコトハ、非常ニ煩雜ニ亙ルト考ヘマスガ、唯ダ其中ノ重要ナル點ニ就テハ、爰ニ報告ヲ申上グル必要ガアラウト考ヘルノデアリマス、此改正ノ法律案五ツヲ通ジマシタ、第一ニ最モ注意ヲスベキ點ハ、特許ニ就テ從來最先發明ノ物ニ對シテ、許可スルト云フ主義ヲ執ッテ居リマシタノヲ改メテ、先願主義ニシタト云フ點デアリマス、卽チ從來ハ一ツノ事柄ニ就テ二ツノ特許出願ノアリマシタ場合ニ、一番最初ニ發明シタ所ノモノヲ調ベテ、之ニ特許ヲスルト云フコトデアッタノデアル、之ヲ出願ノ前後ニ依ッテ特許ヲスルト云フコトニ改メタノデアリマシテ、卽チ其趣意ハ特許出願ニ關スル所ノ、種々ナル紛爭ヲ防グト云フ意味カラ來タモノデアリマシテ、是レ改正案ノ第一ノ眼目ノ一トスベキモノデアラウト思フノデアリマス、改正ノ第二ノ要點ハ、特許ト實用新案トノ區別ヲ明カニシタト云フコト、並ニ意匠ト云フ卽チ意匠權ノ客體ヲ明カニシタト云フ點デアリマス、從來發明ト實用新案此モ、區別ニ就テハ世間ニ往々誤解ガアリマシテ、實用新案ハ簡單ナル發明デアルカノ如クニ、了解ヲセラレテ居ル向キガ多カッタノデアリマス、又現行法ノ書方ニ就テ之ヲ見マシテモ、其點ニ就テ、聊カ疑ヲ挿ム所ノ餘地ガ存シテ居タノデアリマス、此點ニ對シテ改正法ハ極メテ明瞭ナル定義ヲ下シマシテ卽チ特許ハ自然力ヲ利用シ、之ヲ產業上ニ於テ效果アラシメル爲メニスル所ノ獨創ノ考案ニ對シテ、所謂發明ニ對スルモノデアッテ、實用新案ハ新規ノ考案ニ係ル所ノ物品ノ型デアルト云フコトニ定義ヲ下シテ、其區域ヲ明確ニシタノデアリマス、意匠權ニ就テモ亦其通リデアリマシテ、從來ハ卽チ現行法ニ於キマシテハ、意匠ノ權利ハ物ヲ離レテモ、或ハ存在スルカノ如クニ解釋ヲセラレタノデアリマスルガ、此點ニ對シテ、改正法ハ亦明瞭ナル定義ヲ與

ヘテ、意匠ハ物ヲ離レテ存スルモノデハナイ、卽チ法律ガ保護スル所ノ意匠權トシテ保護スル所ノモノハ、或品物ニ關シテ意匠ヲ爲シタモノヲ保護スルノデアルト云フコトノ意味ヲ、明確ニ致シテ居ルノデアリマス、改正案ノ第三ノ注意スベキ要點ハ特許法ニ商標ニ就テ所謂出願公告ノ制度ヲ採用シタト云フコトデアル、出願公告ノ制度ト云フノハ、特許若ハ商標登錄ノ出願ノアリマシタ場合ニ、特許局ニ於テ審査ヲシテ、之ヲ拒絕スル所ノ理由ガ無イト見タ場合ニハ、所謂出願公告ト云フモノヲシテ、一般世人ニ之ヲ示シテ、サウシテ一般世人ヲシテ、之ニ對シテ異議ノ申立ヲスル所ノ機會ヲ與ヘタモノデアリマシテ、學者ノ所謂公衆審査ト云フ制度デアリマス、是ハ申スマデモナク取扱ノ事務トシテハ、頗ル煩雜ニナルカモ知レマセヌケレドモ、ソレト同時ニ特許ヲ爲シ、若クハ登錄出願ノ許可ヲ與ヘマシタ場合ノ、其後ニ於テノ爭ヲ防グト云フコトニ就テハ、非常ナル努力ノアル制度デアルト考ヘルノデアリマシテ、又此改正法律ノ一ツノ特徵デアルト謂ハネバナラヌノデアリマス、第四ノ點ハ特許新案、意匠並ニ商標ニ就キマシテ之ヲ登錄セズ、若クハ特許セズト云フ意見ヲ特許局ニ於テ持チマス場合ニ於テ、先ヅ以テ其拒絕ノ理由ヲ出願人ニ示スノデアリマス、卽チ拒絕ノ理由ヲ出願人ニ示シテ、是〻ノ事情ガアルカラ、オ前ノ出願ハ之ヲ採用スル譯ニ行カナイト云フコトヲ示ス、而シテ之ニ對シテ出願人ハ相當ノ、意見ヲ申立ル所ノ機會ヲ與ヘルト同時ニ、他ノ方ニ於テハ現行制度ニ於テハ、同樣ナル場合ニ再審査ヲ要求スル所ノ方法ヲ執ッテ居リマシタノヲ改メテ、直チニ報告審判ノ手續ヲ爲スコトガ出來ルト云フコトニ致シタノデアリマス、是ハ一面ニ於テハ出願人ヲシテ滿足セシメ、自分ノ特許ハ如何ナル理由ニ依ッテ、自分ノ登錄出願ハ如何ナル理由ニ依ッテ、拒絕セラルヽノデアルカト云フコトヲ知ルコトガ出來ルト同時ニ、其拒絕ノ理由ニ對シテ、相當ナル意見ヲ述ベルコトガ出來テ、滿足ヲ與ヘルコトガ出來ルト同時ニ、又他ノ一方ニ於テハ、從來ノ如ク一ツノ査定ニ對シテ再審査ヲ願ヒ、サウシテ多クノ時間ヲ費スコトヲ避ケテ、直チニ抗告審判ノ手續ニ依ッテ、所謂特許ニ於ケル一種ノ裁判制度ニ依テ其願ノ許否ヲ決メルコトガ出來ルト云フ、事務簡捷ノ意味ニ於テモ利益ノアル制度デアリマシテ、此二ツハ相俟ッテ又此改正法ノ一大特色ト謂フコトガ出來ルト思フ

ノデアリマス、唯ダ此再審査要求ニ對スル抗告審判ノ制度ニ對シテ、政府提出原案ハ其審査ノ期間ヲ六十日ト致シテ居ル、審判請求ノ期間ヲ六十日ト致シテ居リマシタノヲ、委員會ニ於テハ是ヲ三十日ト改メタト云フコトハ、後ニ御話ヲスル積リデアリマスガ、兎ニ角改正案ニ於テハ、斯ノ如キ場合ニ於テ一方ニハ出願人ヲシテ異議ヲ申立ツルコトノ出來ル機會ヲ與ヘ、他ノ一方ニ於テハ再審査ト云フガ如キ煩雜ナル手續ヲ要セズシテ直チニ抗告審判ヲ爲スコトノ出來ルコトニシタノハ、一大進歩ト謂ハナケレバナラヌト思フノデアリマス、改正法ノ第五ノ特徴トシテハ、爰ニ紹介スベキモノハ、特許新案及意匠ニ就テ、使用人卽チ會社ト役人或ハ契約ニ依ッテ人ノ仕事ヲシテ居ルト云フヤウナ場合ニ於テ、其使ハレル所ノ人ガ發明ヲ爲シタ場合ニ、此被用者ガ職務ヲ執行スル場合ニ於テ發明ヲシタ、此發明權ト云フモノニ就テ特許ヲ得ル、其權利ハ誰ニ歸屬スルカト云フコトニ就テ、明瞭ナル原則ヲ定メタト云フコトデアリマス、現行法ニ於テモ、固ヨリ此點ニ就テ規定ヲ爲シテ居ルノデアリマスガ、改正法ハ此點ニ就テ極メテ明カナル原則ヲ定メ、職務執行ノ場合ニ於テモ又契約ニ於テモ、人ノ仕事ヲスル場合ニ於テモ、其使ハレル所ノ人ガ發明ヲ爲シタ場合ニ於テハ、其ノ發明ニ就テ特許ヲ受クルノ權利ハ、特約ノアル場合ノ外、原則トシテ使ハレル人間、卽チ發明者自身ニ之ヲ與ヘルコトニナッテ居ルノデアリマス、唯タ斯ノ如キ場合ニ於テ使用者卽チ使フ所ノ人、主人側ノ利益ヲ保護スルト云フ意味ヲ以テ、其特許ヲ受クルノ權利ヲ承繼スルコトノ出來ルヤウニ、又或場合ニ於テハ之ヲ實施スルコトノ出來ル所ノ權能ヲ使用者ノ側ニ認メタト云フ點ニ於テ、兩者ヲ公平ニ保護シテ居ルコトニナッテ居ルノデアリマシテ、此點モ亦改正法ノ特徴ノ一ツデアルト謂ハナケレバナラヌト思フノデアリマス、原案ハ使用者ガ被用者ノ發明ヲ實施スル場合ニ於テ、何等補償金ヲ與ヘルト云フ制度ヲ設ケテ居ナカタノデアリマスガ、委員會ニ於テハ發明者タル所ノ被用者、用キラルヽ所ノ人ノ地位ヲ保護シ、其權利ヲ伸張スル意味ヲ以テ、使用者ガ被用者ノ發明權ヲ實施スル場合ニ於テハ、相當ノ補償金ヲ與ヘルト云フコトノ修正ヲ加ヘタト云フコトハ、是亦後ニ一言スル所デアリマス、以上ノ五ツノ點ハ改正法律ヲ通ジテ、最モ特筆スベキ所ノ點デアルト思フノデアリマスガ、其他此商標ニ就テ、

商標ノ保護ノ範圍ヲ擴メテ、現行法ニ於テハ、唯タ一ノ商品ニ對シテ保護ヲスルト云フコトニナッテ居リマス點ヲ同一及類似ノ商品ニハ商標ノ保護ガ及ブコト、致シテ居ル點、又取引者ノ間或ハ購買者ノ間ニ於テ、極メテ明カニ普通ニ認メラレルヽヤウニナッテ居ル所ノ商標ニ就テハ、假令後ニ商標登錄ヲ受クル者ガアリマシテモ、其前カラ之ヲ使用シテ居ル所ノ商標使用者ハ相當ノ保護ヲ受ケルコトガ出來ルヤウニシタ點デアル、又同業者間、又地方ニ於テ團體トシテ共通ノ商標ヲ使フ場合ニ於テ、所謂團體商標ノ制度ヲ認メ、團體トシテ一ツノ商標ヲ與ヘルコトガ出來ルヤウニシタ點、是ハ主トシテ商標法ニ關スルモノデアリマスガ、其等ノ點、竝ニ特許、實用新案、及意匠ニ就テ、或場合ニ於テ所謂强制實施ノ制度ヲ認メタルコト、一ツノ他ノ人ノ發明シタル所ノ特許若クハ他ノ人ノ持ッテ居ル所ノ新案權、或ハ他ノ人ノ登錄シテ居ル所ノ意匠ヲ用キルニ非ザレバ、自己ノ特許若クハ新案、意匠ヲ實施スルコトハ出來ナイト云フ場合ニ於テ、强制的ニ他人ノ特許ノ新案、又ハ意匠ヲ利用スルコトノ出來ルコトノ途ヲ開イタ、强制實施ノ制度ノ如キ、竝ニ特許或ハ新案其他ニ就テ、特許若クハ此登錄ノ無效ノ請求ヲ爲スコトニ就テ、一定ノ制限ヲ加ヘテ、或期間ヲ經過シタ場合ニ於テハ、無效ノ審判若クハ無效ノ訴ヲ起スト云フガ如キコトノ出來ナイヤウニスル、是ハ從來屢〻アリマシタ所ノ、何年カ後ニナッテ思掛ケナイ時ニ知ラナイ人カラ無效ノ審判ヲ要求セラルルト云フガ如キ事ガアッテ權利ノ安定ヲ害スルヤウナコトガアル、所謂不正競爭ト云フガ如キ弊害ヲ防グガ爲メニ、現行法ニ一ツノ救濟法ヲ規定シタト云フガ如キ、尙又審判ノ制度ニ就テ、從來卽チ現行法ニ在ラザリシ所ノ審判官ノ或身上ノ關係ニ就テ、除斥ノ制度ヲ設ケタト云フガ如キ、其外民事訴訟ノ手續ニ倣ヒマシテ、或場合ニ於テ再審ノ制度ヲ設ケタルガ如キ、何レモ主要ナル改正トシテ、爰ニ紹介スル價値ノアルモノデアルノデアリマス、尙ホ最後ニ辨理士法ニ就テ之ヲ申シマスレバ、從來辨理士ニ關スル規定ハ、辨理士令トシテ、勅令ヲ以テ之ヲ定メラレタノデアリマスガ、此形式ヲ改メマシテ、今回辯護士法其他ト同ジク、辨理士ニ就テモ矢張法律ヲ以テ其資格要件ヲ定メルコトニ相成リマシテ、卽チ從來勅令デアリマシタモノヲ改メテ、法律ヲ以テ之ヲ定メルコトニ致シタノデアリマス、尙又實質

上ノ關係カラ之ヲ申シマスレバ、辨理士會ト云フモノヲ設ケルコトニ致シマシテ、此辨理士會ハ之ヲ法人トシテ、又隨ッテ此辨理士ノ懲戒委員會ノ組織ヲ認メルト云フガ如キ、凡ソ此等ハ何レモ重要ナル改正ノ點デアリマシテ、此度ノ三百箇條ニ亙ル所ノ改正法律案ニ含マレテ居ル改正ノ、重大ナル點ト信ズルノデアリマス、尙ホ此外ニ細カナル手續等ノ點ニ就テ、改正ヲセラレタモノモ澤山アルノデアリマスガ、是ハ政府ヨリ委員ニ向ッテ供給致シテ居リマスル、「改正理由書」ト云フ改正ノ要點ヲ記シテ居ル所ノモノガアリマスカラ、何レ許可ヲ得テ之ヲ官報ニ掲載ヲ願ヒマシテ、諸君ノ御覽ヲ願フコトニ致シマシテ、爰ニ說明スルコトヲ略シマス、是等ノ重要ナル改正ヲ含ム五ツノ法律案ニ就テ、委員會ハ前後五回之ヲ開キマシテ、詳細ニ質問應答ヲ致シマシタル結果、此案ニ對スル修正ノ原案ヲ得ル爲メニ、小委員會ヲ設ケルコトニ相成リマシタ、卽チ五名ノ小委員ヲ指名致シマシテ、此小委員ハ更ニ前後二回、十有二時間ニ亙リ祕密會ヲ開キマシテ、此會合ニ於テ又詳細討論シマシタ結果一ツノ修正ノ原案ヲ得テ、之ヲ委員會ニ報告シタノデアリマス、此修正案ニ對シマシテハ、唯ダ一箇所ニ就テ一員ノ反對ガアリマシタケレドモ、其他ノ部分ニ就テハ、全體卽チ全會一致ヲ以テ之ニ贊成ヲシタト云フヤウナ次第デアリマス、而シテ政府モ亦此修正ニ對シテ同意ヲ表シテ居リマシテ、卽チ今日諸君ノ手許ニ配付セラレテ居ル所ノ諸點ハ、修正案ノ要領デアリマス、此事ニ就テ是亦詳細ニ之ヲ申上ゲルト云フコトハ、長時間ヲ要シ煩雜ニ涉ルト考ヘマスガ、修正ノ重ナル點ニ關シマシテハ爰ニ報告セザルヲ得ナイト思フノデアリマス、先ヅ第一ニ委員會ニ於ケル修正ノ方針ニ就テ一言致シテ置キタイト思フノデアリマス、修正ノ方針ハ二ツニ分ケテ之ヲ述ベナケレバナラヌ、一ツハ法文ノ字句ニ關スル修正ノ點デアリマス、一ツハ法文ノ內容ニ涉ル修正ノ點デアリマス、卽チ意味不明瞭、或ハ甚シク異ッタル意義ニ解ク原案ヲ保存スル所ノ主義ニ據ッタノデアリマス、卽チ原案ヲ保存シテ、之ニ向ッテ修正ヲ加ヘナイト云フ所ノ方針ヲ執ッタノデアリマス、蓋シ原案卽チ政府提出ノ原案ノ中ニ就テ諸君ガ御覽下サイマスレバ直チニ相分リマス通リ、隨分體裁ノ惡イ、或ハ法文トシテハ、如何デアラウカト云フヤウナ文字ヲ使ハレテ居ルモノモ澤山アルノデアリマス、今其一二ノ例ニ就テ爰ニ之ヲ紹介致シマスレバ、特許法ニ就テ之ヲ申シマスレバ同法案第十條ニ「冒認」ト云フ文字ガ用ヰラアリマス、是ハ舊キ我國ノ法律ニハ用ヰラレタ文字デアリマスケレドモ、舊刑法ノ時代ニ於テ用ヰラレタ文字デアッテ、今日ハ普通ニ法文トシテハ用ヰラレナイヤウナ文字デアリマス又特許法第十二條ノ規定ヲ御覽ニ相成リマスルト云フト、「特許ノ權利ハ擔保ニ供スルコトヲ得ス」ト云フ文字カ書イテアル、擔保ニ供スルト云フコトハ、通俗ニ申ス言葉デアリマスケレドモ、法文ノ用語トシテハ、甚ダ穩當デアルト云フコトハ出來ナイノデアリマス、又政府ノ說明ニ依ッテモ擔保ニ供スルト云フコトハ、卽チ質權ヲ設定スルト云フ意味ニ主ニ使ッテ居リマシテ、其意味ハ所謂不明瞭デアルト云フコトガ出來ルノデアリマス、其他第十六條ニ於テ「又ハ」トカ或ハ「若ハ」ト云フ文字ヲ使フベキ場合ニ「ヲモ」ト云フ假名ヲ使ッテ居リマス、卽チ何々ノ場合ニハ「住所ヲモ居所ヲモ有セサル」ト云フガ如キ、新シキ文字ヲ使ッテ居ルノデアリマス、政府ノ說明スル所ニ依レバ、是ハ近頃法制局デ流行スル用方デアルト言ハレマスケレドモ、吾〻ガ法文ニ於テ從來言付ケテ居ル例デナイノデアリマス、抑〻法律文モ或ハ口語體ニナルト云フ形式ヲ、是等ノ點カラ示スノカモ知レマセヌケレドモ、兎ニ角法律ヲ以テ立ッテ居ル者ノ眼カラ見レバ、可笑シイ書方デアルト云フコトヲ謂ハナケレバナラヌ、其外特許法第十七條ヲ見マスルト云フト「特許局ニ屆出ヅルニ非サレバ之ヲ以テ特許局ニ對抗スルコトヲ得ス」ト云フコトガ書イテアル、是等モ甚ダ通常ニ謂フコトノ出來ナイ法文デアルト思フノデアリマス、登記ヲシナケレバ第三者ニ對抗スルコトハ出來ナイトカ云フコトハ、能ク見ル所デアリマスケレドモ、特許局ニ屆出ヲシナケレバ特許局ニ對抗スルコトガ出來ナイト云フコトハ、文章トシテハ決シテ歡迎スベキモノデハナカラウト思フノデアリマス、其外特許證ノ所持者或ハ特許者ト云フ代リニ、「特許證主」ト云フガ如キ文字ヲ用ヰテ居ルトカ、或ハ工業法等ニ於テアルト云フコトデアリマスケレドモ、特許法第百三十條ニ於テハ「詐僞」ト云フ文字ノ僞ト云フ所ニ「人扁」ニ「爲」ト云フ字ヲ用ヰテ居ッタ、刑法其他ニ用ヰテ居ル「欺」ト云フ字——「其」ト云フ扁ニ「欠」ト云フ字ヲ

用ヰテ居ラナイ、尙ホ特許法第百四十六條ノ書方ノ如キハ、之ヲ玆ニ朗讀スルト云フコトハ省キマスケレドモ、如何ニモ廻リ諄イ書方デアッテ、普通ニ之ヲ讀ンダ者デハ、到底其意味ヲ一讀シテ了解スルコトガ出來ナイヤウナ書方ガアッテ、何レモ法文ト致シマシテハ、其體ヲ成シテ居ルト云フコトハ出來難イモノガアルノデアリマス、尙又法文ノ意味ニ關シテ之ヲ申シマスレバ、特許法第三十七條第三十八條ニ於テ「又ハ事業設備」ト云フ文字ガアルノデアリマス、卽チ第三十七條ニ「特許出願ノ際現ニ善意ニ帝國內ニ於テ其ノ發明實施ノ事業ヲ爲シ又ハ事業設備ヲ有スル者ハ云々ト云フコトガアリマス、此事業設備ト云フ意味ハ、果シテ如何ナル意義デアルカ、政府委員ノ說明サル、所ニ依リ、又吾〻ノ應答ニ於テ理解シテ居ル所ニ依リマスト、當該發明ノ問題タル所ノ發明ノ實施ニ就テ、必要ナル設備ヲ爲シテ居ルト云フ意味ニ解釋スル外ハ無イノデアリマス、併ナガラ此法文ニ現レテ居ル所ノ「又ハ事業備設」ト云フ文字ヲ、果シテ斯ノ如キ限定的ノ意味ニ解釋スルノガ至當デアルカト云フコトハ、必ズシモ明瞭疑ナシト云フコトハ出來ナイノデアリマス、卽チ是ハ不體裁トカ體裁ト云フ問題デナクシテ、法文ノ意義ニ就テ、幾分カ疑ノ餘地ヲ容ルヽコトノ出來ルヤウナ點デアラウト思フノデアリマス、又商標法ニ就テ之ヲ御覽ニ相成リマスト、商標法第二條ノ商標登錄ヲスベカラザルモノ、中デ、其第十一號ニ於テ「商品ノ誤認又ハ混同」云々ト云フコトガ書イテアル、此商標ノ誤認又ハ混同ト云フコトハ、是レ亦政府委員ノ說明スル所ニ依リ、又吾〻ノ理解シタ所ニ依リマスト云フト、商品ノ產地、或ハ品質、又ハ其商品製造者等ニ關シテ、商品ノ誤認、又ハ混同ヲ來タスト云フ意味ニ解釋スルノガ當然デアリマシテ、又左樣解釋シナケレバナラヌノデアリマスルガ、果シテ單純ニ此書下サレタル所ノ商品ノ誤認、又ハ混同云々ト云フコトヲ以テ、此意味ニ解釋スルコトガ出來ルカト云フコトハ、一應ノ辯明說明ヲ聽カナケレバ、理解スルコトガ出來難イ點デアルガ如ク思ハレルノデアリマス、凡ソ是等ハ法文ノ體裁又ハ其意義ヲ明瞭スルト云フ上カラ考ヘマスレバ、相當ノ修正ヲ加ヘテ、然ルベキ點デアルカモ知レマセヌト思フノデアリマスルケレドモ、先刻御報告申上ゲタ如ク、法文ノ字句ニ對シテハ、極端ナルモノヲ除クノ外、成ルベク原案ヲ尊重シ、原案ヲ保存スルト云フ意味ヲ以テ、委員會ハ是等ニ就テソレ〴〵論究ヲ致シマシタケレドモ、修正ヲ加ヘルコトハ致サナカタッノデアリマス、第二ニ法文ノ內容卽チ規定ノ內容ニ對シテ、修正ニ關スル所ノ要領ヲ申シマスレバ、是ハ亦特許制度ニ關スル事柄ハ、言フマデモナク我國ノ法曹界、又實際當業者ノ間ニ於テ、既ニ多年ノ間ノ問題トナッテ居ル所デアリマシテ、非常ニ議論サレテ居ル所デアリマス、委員會ニ於テハ此點ニ就テモ深ク鑑ミル所ガアリマシテ、徒ラニ理論ニ拘泥シ、理窟ニ流レテ多クノ修正ヲ加ヘルト云フガ如キ事ハ成ベク之ヲ避ケ、必要已ムヲ得ザルモノ、又實際ニ於テ其效能極メテ著シキモノト認メタルモノ或ハ明カニ法文ノ脫漏デアル、拔ケテ居ルト考ヘテ居ルヤウナモノニ就テハ、已ヲ得ズ修正ヲ加ヘル、又其等ノ修正ノ結果トシテ、法文整理ノ意味ヲ以テ爲サルル所ノ修正ニ就テハ、是ハ已ムヲ得ナイモノトシテ之ヲ爲スケレドモ、其以外ノモノニ就テハ、是亦成ベク原案ヲ尊重シテ、手ヲ觸レナイ所ノ方針ヲ執ッタノデアリマス、卽チ委員會ニ於テ斯ノ如キ方針ノ下ニ、又斯ノ如キ趣意ニ依ッテ、修正ノ箇所ヲ成ルベク少ナクスルト云フコトノ意味ヲ以テ、此修正原案ヲ作成シタ次第デアリマス、斯ノ如キ意味ニ於テ修正シタ所ノ要點、卽チ今日御配付シテアリマス所ノ修正案ニ於テ、特ニ注意ヲシテ戴キタイ點ニ於テ、玆ニ其一二ヲ申上ゲマスレバ、其第一ハ前ニ一言致シタ如ク、特許出願或ハ特許其他ニ關シテ抗告審判ヲ請求シ、又ハ裁判所ニ出訴シ、或ハ再審ノ要求ヲ爲スト云フ場合ニ於テ、其期間ヲ原案ハ六十日ト致シテ居リマス點ニ就テ、之ヲ改メテ三十日トシタ所ノ點ガ其一ッデアリマス、此點ニ就テハ日本特許辨理士會、其他實施ニ當ル所ノ人〻ノ間ニ於テ、既ニ輿論トシテ認メラレテ居ルヤウナ點デアリマスカラ、私ハ爰ニ詳シク其理由ヲ述ベル必要ハナイト思フノデアリマスガ、詰リ事務簡捷、從來我國ノ特許局ガ審査事務ニ就テ爲シテ居ル所ノ成績ニ鑑ミテ其事務簡捷ヲ圖リ、成ルベク簡便ニ、早ク審査ノ事務ヲ了ラセルト云フ意味ヲ以テ、此六十日ノ期間ヲ三十日ニ短縮スル所ノ修正ヲ加ヘタ次第デアリマス、卽チ特許法ニ就テ言ヘバ特許法第十條、又第百十五條、第百十六條、又第百二十二條ノ如キ、而シテ之ヲ準用シテ居ル所ノ新案法案或ハ意匠法、商標法等ニ就テモ、各、六十日ノ期間ヲ三十日ニ短縮スル所ノ修正ヲ可決シタノデアリマス、修正ノ第二ノ點ニ就テ特

ニ御注意ヲ願ヒマス點ハ、前ニ申シタル出願公告別度、卽チ公衆ノ審査ノ制度ヲ、原案ニ於テハ特項及商標ニ於テノミ之ヲ認メテ居ッタノデアリマスガ、委員會ニ於テハ多クノ討論ヲ爲シ、多クノ研究ヲ爲シタル結果、此出願公告制度ハ之ヲ實用新案ニモ應用スルニ於テ、最モ其效能顯著ナルノデアルト云フコトヲ認メマシテ、卽チ多少ノ經費ノ增加等ガアルト云フコトヲ言ハレマシタニ拘ラズ、實用新案ニ就テ、特許若クハ商標ト同ジク、出願公告ノ制度ヲ採用スルト云フコトヲ致シタノデアリマス、卽チ實用新案ニ就テモ、特許局ニ於テ審査ノ結果別段拒絕スベキ理由ナキモノト見タモノハ、先ヅ之ヲ公告シテ一般公衆ニ示シテ、異議申立ノ機會ヲ與ヘルト云フ所ノ制度ヲ實用新案ニ應用スルト云フ點ニ就テ、修正ヲ加ヘタノデアリマス、是等ハ修正案ノ中ノ最モ顯著ナル一ツデアルト考ヘルノデアリマス、尙ホ修正第三ノ要點ハ、是亦前ニ一言致シマシタガ會社ノ被用人トシテ、或ハ契約シ依ッテ仕事ヲ爲ス所ノ者ガ發明ヲ致マシタ場合ニ、其發明ニ就テ特許ヲ受ケルノ權利ハ被用者使ハレテ居ル發明者自身ニ繫屬スルノデアリマスガ、此者ガ改正法ノ規定ニ依テ特許權ヲ使用者、卽チ法人卽チ主人ニ之ヲ承繼セシメタル場合、又改正法ノ規定ニ依ッテ主人ガ其發明權ノ實施權利ヲ得テ、之ヲ實施スル場合ニハ、補償金ノ制度ガ定メ繼セシメタ場合ニ於テハ補償金ガアルケレドモ、權利ヲ實施スル場合ニ於テモ、亦テナイノデアリマス、此點ニ就テ又一ツノ修正ヲ加ヘマシテ、權利ヲ實施スル場合ニ於テモ、亦相當ノ保證金ヲ與フルト云フコトニ致シタノデアリマス、是ハ發明者卽チ被用者トシテ發明ヲ爲シタル所ノ者ヲ保護シ其人格ヲ認メルト云フ點ニ於テ、意味深長ナル修正案デアルコトヲ吾吾ハ信ジテ居ルノデアリマス、尙ホ修正案ニ就テ第四ニ特ニ御注意ヲ願フベキ點ハ、辨理士法ニ就テノ修正デアリマス、卽チ政府提出ノ原案ニ於テハ、現行辨理士、今ニ於テ認メテ居ル所ノ辨理士タル資格ニ於テ、銓衡ヲ以テ無試驗ニシテ、辨理士タル資格ヲ與ヘルト云フ所ノ詮衡制度ヲ採用シテ居ラヌノデアリマス、此點ニ於テハ又政府ノ說明ニ依リマスレバ、政府ハ法律ニ於テ之ヲ認メテ居ラヌケレドモ、技術家其他高等敎育ヲ受ケタ所ノ或人〻ニ對シテハ、現行辨理士ニ於ケルガ知ク、詮衡等ノ方法ニ依ッテ、辨理士タルノ資格ヲ得セシムル所ノ途ヲ開ク積リデアリマス

ト云フコトデアリマシタ、併ナガラ爰ニ法律デ定メテ辨理士タル者ノ資格ヲ定メルニ當ッテ、此現行法ノ詮衡制度ヲ採用スルト云フコトハ、特許或ハ實用其他ニ就テ、最モ深ク關係スル所ノ技術家ノ地位ヲ認メルト云フコトニ於テ極メテ必要デアルト云フコトヲ信ジマシテ、委員會ハ卽チ全會一致ヲ以テ現行辨理法ニ於ケル詮衡程度ヲ、大體ニ於テ其儘之ヲ採用シテ、卽チ辨理士法第四條ニ之ヲ規定スルト云フコトニ致シタノデアリマス、以上ハ修正ノ主ナル點デアリマスガ此他特又法ニ於テ第十一條、又第三十六條、第六十條ノ修正ノ如キ、何レモ特許權ノ內容ニ關係スル所ノ重要ナル修正デアリマス、又第百十四條ノ修正ハ、是ハ法文ノ脫漏ヲ補足スル意味ヲ以テ修正ヲ加ヘタモノデアリマシテ、是亦重要ナル修正ト考ヘテ居ルノデアリマス、其他商標法ニ於テ第十四條、第三十一條ノ修正ハ、是亦極メテ重要ナル意義ヲ含ンデ居ルモノデアリマシテ、卽チ原案ニ於テハ特許局長ヲシテ此權限ヲ握ラシメテ居ッタモノヲ移シテ、審判ニ依ッテ之ヲ決スルト云フコトニ致シタモノデアリマシテ、其意味ニ於テハ實務家及當業者ノ、或意味ニ於テ輿論ヲ參照シタト云フコトヲ認メテ戴キタイト思フノデアリマス、尙ホ最後ニ一言致シテ置キタイ事ハ、政府ノ說明スル所ニ依リマスト、此改正法律案通過ノ場合卽チ此法律案ガ法律トシテ發布セラルル、場合ニ於テハ、特許局ノ規模ヲ擴大シ、又其擴大ノ爲メニ既ニ追加豫算ヲ要求スル所ノ手順ヲ定メラレテ居ルト云フコトデアリマスルガ、左樣ニシテ特許局ハ其規模ヲ大キクセラレ、隨テ特許局ノ長官ハ現ニ特許局長ト稱シテ居リマスケレドモ、其待遇ト云フコトニ就テモ、官制ノ改正等ヲシナケレバナラヌ、又現ニ其案ガ既ニ出來テ居ルカノ如キ意味ノ言明ガアリマシタ、ソレガ爲メニ此法律ニ於テ左樣ナル政府ノ言明ヲ參酌致シマシテ此法律ノ各箇條ニ——方々ノ箇條ニ於テアリマス所ノ「特許局長」ト云フ文字ニ對シテ、其下ニ「官」ノ字ヲ加ヘテ、卽チ「特許局長官」ト云フ文字ニ致シマシテ、將來改正セラルベキ——規模ヲ擴大セラレタ特許局ノ機關ニ、之ヲ直チニ應用スルコトノ出來ル途ヲ開ク意味ニ於テ、長官ノ「官」ノ字ヲ一ツ加ヘタト云フ修正モ、亦特ニ御注意ヲ願フベキ筈デアラウト思フノデアリマス、此以外ノ修正ハ固ヨリ必要已ムベカラザル修正デアリマスケレドモ、多クハ法文ノ整理ノ關係

カラ、卽チ只今紹介致シマシタ多クノ修正ノ結果トシテ、法文整理ノ意味ヲ以テ爲シタ所ノ修正デアリマシテ、是ハ特ニ爰ニ説明スルノ必要ハ無カラウト考ヘルノデアリマス、以上ノ順序ニ依リマシテ、委員會ハ愼重審議ノ上、小委員會ガ定メタ所ノ修正案ヲ原案トシテ、議題ニ供シ討論ヲ致シマシタ結果、實用新案ニ就テ出願公告ノ制度ヲ用ヰルト云フ此一點ニ就テ、委員森下龜太郎君ノ反對ガアリマシタ以外、其他ノ點ニ就テハ、十八名ノ委員悉ク全會一致ヲ以テ之ヲ可決致シマシタ、政府ハ又之ニ對シテ其修正案ニ同意スル旨ヲ答ヘタ次第デアリマス、斯樣ナ次第ヲ以テ委員會ヲ經過致シタヤウナ關係ガアリマス、何卒御審議ノ上委員會ノ修正ニ滿場一致ヲ以テ、同意セラルヽコトヲ希望スル次第デアリマス

〔參照略〕

清瀨一郎君ハ委員長報告ニ贊成ノ演説ヲ爲ス

我ガ立憲國民黨ハ產業立國ト云フコトヲ重要ナル政策ノ一ト致シテ居リマス、殊ニ又理化學ノ研究發達ニ依リマシテ、我國ノ天然資源ノ缺乏ヲ補フベキコトヲ主張致シテ居リマス、隨テ之ニ重大ナル關係ヲ有スル發明特許ノ制度、之ニ就キマシテハ格段ナル注意ヲ拂ヒツヽアルノデアリマス、我國ノ特許制度ガ完全ナル效果ヲ收メツヽアラザルコトハ、是ハ著明ナ事實デアリマス、其原因ノ一ツハ我國ノ特許局ノ事務ノ扱ノ缺陷ト云フコトガ、是ガ一ツニ相違ナイケレドモ他ノ一ツハ矢張現行特許ニ缺點ガアルト云フコトモ明瞭デアリマス、ソレ故ニ大正六年第四十議會ニ於キマシテ、議院ヨリ特許法改正ノ法律案ガ提出サレタノデアリマス、此時ニ政府ハ直チニ引續イテ政府案トシテ完全ナル特許法案ヲ議會ニ提出スルコトヲ言明サレタ、是ガ大正六年デアリマス、爾來四年間ノ研鑽ヲ以テ提出サレタノガ、卽チ今回ノ特許法外四件ノ政府案デアリマス、以上ノ次第ヲ承知致シテ居リマスカラ、先月二十二日ニ政府ノ特許法原案ガ吾々ニ配付サレタ際ニ、私ハ非常ナル期待ヲ以テ此原案ニ接シタノデアリマス、四年間ノ推敲ヲ積マレ多數ノ

人ニ委員ヲ囑託シテ編成サレタ特許法デアルカラ、無論是ハ完全ナルモノデアラウト思ウテ之ニ接シタンデアリマス、所ガ實際之ヲ讀ムニ至ッテ希望ノ大ナルダケ、ソレダケ落膽モ大デアッタ、元々特許法ヲ改正シナケレバナラヌト言出シタ理由ハ二ツアル、其一ツハ特許事務ノ簡捷デアル、速ニ特許ヲ片付ケネバナラヌ、現ニ審査ノ請求ヲシテモ、一年モ二年モ放ッテアルノモアルシ、現ニ又審判請求ノ如キ三年五年、長キハ七年ニ至ッテ片ノ附カヌ審判ガアル、斯樣ナル現象デアルカラ、事務ヲ早ク片付ケル、敏速ト云フコトガ第一ノ主義デアッタンデアリマス、モウ一ツハ今日特許局ニ與ヘタル實用新案、若クハ或種ノ特許ハ甚ダ粗末デアル、之ガ爲メニ非常ナル弊害ヲ釀ス、殊ニ農具トカ或ハ手工業ノ――手細工ノ道具ニ至ッテハ極メテ粗末ナル物ニ特許ヲ與ヘタ結果、論議百出、甚シキニ至ッテハ一鄕一郡ヲ悉ク被告トシテ實用新案ノ告訴ヲシタ、然ルニ內容ヲ審査シテ見ルト云フト、決シテ權利ヲ與フベキ物デナカッタト云フ例ガ多々アルノデアリマス、斯ノ如キ審査ノ疎漏ヲ防イデ、完全ナル實用新案、若クハ特許ヲ與フベシ――此主義デアリマス、卽チ事務ノ敏速ガ一ツ、審査ノ適正ガ一ツ、此ノ二ツノ主義ガ抑々特許法ノ改正ノ大眼目デアル、所ガ政府案ハ成程色々ナ規則ヲ澤山作リマシタ、法條ノ數モ殖シテ居リマス、文章モ長クシテ居リマスガ、實際ハ此二眼目ガ全ク外レテ居ル、何トナレバ從來ノ通リ、上訴期間ハ矢張六十日ニシテ居ル、世間ノ輿論ハ三十日デアルニモ拘ラズ六十日ニシテ居ル、其ノ上ニ公告ト云フ法ヲ執ッテ居リマス結果、審査ハ今迄ヨリハ長クナッテモ、短クナル氣遣ハナイ、反對ノ立法ニ相成ッテ居ル、今迄非難ノアッタモノハ實用新案デアル、若シモ公衆ニ公告スル必要デアレバ實用新案ノ附與前ニ公告ヲ必要トスルニ拘ラズ、實用新案ニハ公告ヲセズシテ、却テ特許ノ方ニ公告制度ヲ與ヘテ居ル、文章典章ハ卽チ備ハレリト雖モ、其內容ニ至ッテハ、大正六年來四年間世間ガ希望シタ所ノ眼目ハ全ク外レテ居リマスルガ故ニ、爰ニ修正ノ義ガ起ッタノデアリマス、此趣意ヨリシテ委員長ノ今報告サレタ修正ノ箇條ノ中、先ヅ六十日ノ上訴、期間ヲ之ヲ三十日ニ改メルコトニ依ッテ、事務ノ簡捷ヲ圖ルト云フ途ヲ開イタノデアリマス、ソレカラ又公告ハ特許ノミナラズ、實用新案ニ向ッテ公告ヲスル、世間一般ニ告ゲテ後ニ實用新案ヲ與ヘルト云フ構造ヲ採リ

マシテ、權利ノ適正ト云フコトヲ圖ッタノデアリマス、此二箇條ノ修正ガ無カッタナラバ、政府ノ原案ト云フモノハ、到底目的ノ達成ヲ期シ難イモノデアリマス、此意味ニ於キマシテ私ハ修正ノ特許法實用新案法ニ贊成ヲスルノデアリマス、以上ハ特許實用新案ニ就テ主トシテ著眼ヲ致シマシタガ、商標法ニ就キマシテモ、商標ノ改正ヲ要スルノハ、不正競爭ヲ防ギタイト云フ趣意デアッタ、殊ニ戰爭以來現レタ所ノ不正競爭ノ一ツハ、自ラ使用セザル所ノ商標ノ登錄ヲ受ケテ、長ク之ヲ抛ッテ置イテ、實際使用スル所ノ商標權者、商賣人ニ迷惑ヲ被ラスト云フコト、之ニ對スル救濟方法ハ現行ノ規則ニモアルノデアル、斯ノ如キ場合ニ於テハ、特許局長ガ其商標ノ取消ヲ爲セト云フコトガアル、隨テ特許局ニ向ッテ此意味ノ取消ノ申請モ出テ居ルノデアリマスケレドモ、實際其取消ガ行ハレテ居ラヌ、行ハレルニシテモ甚ダ遲延シテ居ル、ソレハ譯ノアル事デ、特許局長ニ斯ノ如キ事實問題ヲ判斷セヨト云フノガ無理デアル、何トナレバ局長ガ證據調ノ權能ナキガ故ニ、甲ハ彼ガ不正競爭ヲ爲スト言ウテモ、必ズシモ片言信ジ難シ、然ルニ乙ヲ呼付ケテ之ヲ調ベルト云フコトハ無論出來ナイ、躊躇逡巡決スルコトガ無イノデアリマス、是ニ於キマシテ今回ノ委員會ニ於テハ、是ハ卽チ本來改正ヲ願ッタ所ノ趣旨ニ適ッテ居ラヌ、斯ノ如キ場合ニ於テハ審判ニ依ッテ取消ス途ヲ開キ、利害關係人ハ證據調ノ請求ヲシテ一刀兩斷惡イ所ノ商標ハ取消スト云フ途ヲ與ヘルト云フ改革ヲ致シタノデアリマス、此外政府ノ原案ニ向ッテハ、吾吾同志ハ甚ダ滿足セザル所ガ多々アルノデアリマス、殊ニ根本的ニ研究ヲ要スル事ハ、從來ノ通リニ特許ノ審判ヲ法律的ノ構成ヲ有タザル行政官ニ委ネテ宜イカドウカ、憲法ノ第二十四條ヲ研究スルト云フト、今日ノ特許局ノ構成ハ明カニ違憲ナルコトガ明瞭デアル、是ハ審判制度ガ明治二十一年、丁度憲法實施前ニ構成サレタノヲ吾〻ハ傳承シテ居ルカラデアル、之ガ爲メニ生ジテ居ル弊害モ現ニアルノデアリマス、此問題ガ一ツ、ソレカラ特許權ガ十五年デ消滅シテカラ後ニ特許ノ延長ヲ許ス制度、特許法ノ第四十三條、此制度ヲ維持スベキカドウカ、之ニ關シテハ從來種々ナル農商務省ニ係ル惡シキ世評ガアルノデアリマス、是ハ世間ニ顯著ノ事デアル、一體特許ノ延長ト云フ事ハ、特許權者以外ノ營業ノ自由ニ關シマスルガ故ニ、夙ニ特許法ノ母タル英吉利ニ於テハ、特許ノ延長ハ特ニ議會ノ特別法律ヲ以テ許シテ來テ居ル、其後千八百八十三年ニ之ヲ樞密院ノ權限トシ、更ニ千九百七年ノ改正ニ於テハ、最高裁判所ノ權限ニ移シテ居ルノデアル、佛蘭西ノ特許法ニ於テハ其第十五條ニ於テ、「特許權ハ法律ニ依ルニ非サレハ延長スルコトヲ得ス」ト云フ性質ニナッテ居ル、是ガ營業ノ自由ヲ以テ構成サレテ居ル憲法國デハ當然ノ事デアル、然ルニモ拘ラズ、日本ノ特許法第四十三條ハ、勅令ヲ以テ定ムル官廳ニ之ヲ委ネテ居ルノデアル、如何ニ官權萬能ノ國トハ云ヘ、特許權ノ延長ヲ行政廳ニ許スト云フコトハ日本ダケデアル、併ナガラ是等ノ根本問題ニ觸レ出シマスルト云フト、迚モ今回ノ案ハ成立ノ見込ガ無イ、其故ニ吾〻ハ最善ヲ得ルノニハ、暫ク距離ガアリマスルガ故ニ、第二ノ善——次善ノ積リデ以テ、本案ニ對シ四箇ノ大修正ヲ加ヘタノデアリマス、卽チ期間ノ短縮ト、實用新案ノ公告ト、及商標法ノ取消審判、並ニ特許局ヲシテ今日ノ如ク農商務省内ノ一局トセズシテ、之ニ獨立ノ體面ヲ有ッ特許局長官ナル者ヲ設ケル、此四箇ノ修正ガアレバ、ドウゾカウゾ吾〻ノ希望ノ一端ハ達セラレルト云フ目的ガ付キマスル故ニ、此四箇ノ大修正ヲ以テ原案ヲ維持スル積リデアリマスル、終リニ此際壇上ヨリ世間ニ告ゲタイ事ガアルノデアリマス、今度ノ特許法乃至實用新案法デ目的ヲ達スルヤ否ヤハ、是ハ今日ハ特許局デナクシテ、世間ノ人ノ責任ニナッテ居ル、特許乃至實用新案ヲ與ヘル以前ニ公告ヲシテ、世間ノ人ニ異議ノ機會ヲ與ヘテ、異議ノ無イモノヲ確定ノ權利ト致スコトニナッテ居リマスルガ故ニ、一般世人ハ爾後ハ今マデト違ッテ、特許附與ノ審査ニ干與スル機會ヲ得テ居ルノデアルカラ、十分ニ此機會ヲ利用シ、例ヘバ各學校、各産業組合、同業組合ノ如キニ至ッテハ、始終特許局ノ公告ニ注意シテ、異議權ヲ行使スル機會ヲ失セラレザランコトヲ希望スルノデアリマス、之ヲヤルニ非ザレバ、此度ノ原案若クハ吾〻ノ修正案ハ、到底效能ヲ發揮スルコトハ出來ナイノデアリマス、斯樣ナ次第ヲ以チマシテ、委員長ノ報告ノ修正意見ニ贊成ノ意ヲ表スルノデアリマス、

院議異議ナク五案ノ第二讀會ヲ開クニ決シ引續キ第二讀會ヲ開キ第三讀會ヲ省略シテ各委員會報

告ノ通修正議決ヲ爲シ即日五案全部ヲ貴族院ニ送付ス同院ハ三月二十五日(三三)案ハ修正議決ヲ爲シ即日本院ニ之ヲ回付シ他ノ四案ハ孰レモ可決奏上セリ

(――ハ貴族院修正)

(三三)(回付案)

特許法改正法律案中貴族院修正ノ箇所左ノ如シ

第十四條　被用者、法人ノ役員又ハ公務員ノ其ノ勤務ニ關シ爲シタル發明ニ付テハ性質上使用者、法人又ハ職務ヲ執行セシムル者ノ業務範圍ニ屬シ且其ノ發明ヲ爲スニ至リタル行爲カ被用者、法人ノ役員又ハ公務員ノ任務ニ屬スル場合ノモノヲ除クノ外豫メ使用者、法人又ハ職務ヲ執行セシムル者ヲシテ特許ヲ受クルノ權利又ハ特許權ヲ承繼セシムルコトヲ定メタル契約又ハ勤務規程ノ條項ハ之ヲ無效トス

使用者、法人又ハ職務ヲ執行セシムル者ハ被用者、法人ノ役員又ハ公務員ノ其ノ勤務ニ關シ爲シタル發明ニシテ性質上使用者、法人又ハ職務ヲ執行セシムル者ノ業務範圍ニ屬シ且其ノ發明ヲ爲スニ至リタル行爲カ被用者、法人ノ役員又ハ公務員ノ任務ニ屬スル場合ノモノニ付其ノ被用者、法人ノ役員若ハ公務員カ特許ヲ受ケタルトキ又ハ其ノ者ノ特許ヲ受クルノ權利ヲ承繼シタル者カ特許ヲ受ケタルトキハ其ノ發明ニ付實施權ヲ有ス

被用者、法人ノ役員又ハ公務員ハ前項ノ發明ニ付テノ特許ヲ受クルノ權利又ハ特許權ヲ豫メ定メタル契約又ハ勤務規程ニ依リ使用者、法人又ハ職務ヲ執行セシムル者ヲシテ承繼セシメタル場合ニ於テ相當ノ補償金ヲ受クルノ權利ヲ有ス前項ノ規定ニ依リ使用者、法人又ハ職務ヲ執行セシムル者カ其ノ發明ヲ實施スル場合亦同シ

使用者、法人又ハ職務ヲ執行セシムル者ニ於テ既ニ支拂ヒタル報酬アルトキハ裁判所ハ前項ノ補償金ヲ定ムルニ付之ヲ斟酌スルコトヲ得

本條ニ於テ法人ノ役員ト稱スルハ法人ノ業務ヲ執行スル役員ヲ謂ヒ公務員ト稱スルハ刑法第七條第一項ノ公務員ヲ謂フ

本院ハ同日議事日程ヲ變更シテ右回付案ヲ院議ニ付ス清瀨一郎君ハ貴族院修正ニ不同意、島田俊雄君ハ同意ノ意見ヲ述フ

清瀨一郎君ノ不同意意見

貴族院ノ修正ハ工場發明ノ場合ニ於テ、技師職工等ノ發明ヲ工場主ガ實施スルニ當ッテ報酬ヲ與ヘルノ必要ナシト云フノデアリマス、當院ハ曩ニ全院一致ヲ以テ、此場合ニ同シク報酬ヲ與フベシ、斯樣ニ決定致シタルモノヲ、貴族院ニ於テ飜シタノデアリマス、之ニ就テ私ハ一ニハ院議ヲ尊重スルト云フ意味ニ於テ、二ニハ本件ハ事小ナリト雖モ、勞働者技師ノ權利ニ關スル問題デアルガ故ニ、衆議院ニ於テハ、主義トシテ之ニ同意スベカラズト云フ考ヲ持ッテ居ルノデアリマス、斯樣ナ理由ニ於キマシテ、貴族院ノ修正ニハ同意スベカラズト云フ意見ヲ陳述シテ置キマス

島田俊雄君ノ同意意見

此貴族院回付ノ修正ノ件ニ就キマシテハ、只今清瀬君ヨリ述ベラレマシタ通リ、曩ニ本員ハ此法律案外四件ノ特別委員長ト致シマシテノ報告中ニモ、此點ハ事小ナリト雖モ極メテ重要ナル意義ヲ含ミ、深長ナル意味ヲ含ンデ居ル點デアルトシテ報告ヲ致シタ所デアリマス、隨テ此點ニ於テ貴族院ノ修正ヲ受ケタト云フコトハ、甚ダ遺憾トスル所デアリマス、併ナガラ今日會期切迫ノ際ニ當ッテ此修正一箇條ノ爲メニ、之ニ關聯シテ提出セラレタ所ノ更ニ重大ナル多クノ意義ヲ含ンデ居ル各種ノ法律案ガ、悉ク不成立ニ終ルト云フガ如キコトニナルノハ、國家ノ爲メニ甚ダ遺憾ト考ヘルノデアリマス、故ニ院議尊重ハ固ヨリ當然デアリマスケレドモ、此場合ニ於テハ已ムヲ得ザル事柄トシテ、衆議院ハ此貴族院ノ修正ニ同意スルコトニ致シタイト考ヘマス

院議多數ヲ以テ貴族院ノ修正ニ同意スルニ決シ即日裁可ヲ奏請シ同時ニ其ノ旨ヲ貴族院ニ通知ス

四月三十日法律第九十六號（三三）法律第九十七號（三四）法律第九十八號（三五）法律第九十九號（三六）法律第百號（三七）ヲ以テ公布セラル

三八　米穀法案

米穀法

第一條　政府ハ米穀ノ需給ヲ調節スル爲必要アリト認ムルトキハ米穀ノ買入、賣渡、交換、加工又ハ貯藏ヲ爲スコトヲ得

第二條　政府ハ米穀ノ需給ヲ調節スル爲特ニ必要アリト認ムルトキハ勅令ヲ以テ期間ヲ指定シ米穀ノ輸入稅ヲ增減若ハ免除シ又ハ其ノ輸入若ハ輸出ヲ制限スルコトヲ得

第三條　政府ハ帝國内ニ於テ第一條ノ規定ニ依リ米穀ノ買入又ハ賣渡ヲ爲サムトスルトキハ其ノ價格及期間ヲ告示スヘシ但シ米穀ノ買換、貯藏米穀整理ノ爲ニスル賣渡其ノ他必要ト認ムル場合ニ於テハ此ノ限ニ在ラス

第四條　政府ハ米穀需給調節上米穀現在高調査ノ必要アリト認ムルトキハ米穀ノ生産者、取引業者、倉庫業者其ノ他占有者ニ對シ調査ニ必要ナル事項ノ報告ヲ命シ又ハ官吏若ハ吏員ヲシテ其ノ營業所、倉庫其ノ他ノ場所ニ臨檢シ帳簿物件ヲ檢査セシムルコトヲ得

第五條　前條ノ規定ニ依ル命令ニ違反シ又ハ當該官吏若ハ吏員ノ執行ヲ妨ケタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

附則

本法ハ大正十年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

三九　米穀需給調節特別會計法案

米穀需給調節特別會計法

第一條　米穀需給ノ調節ノ爲ニスル米穀ノ買入、賣渡、交換、加工又ハ貯藏ニ關スル一切ノ歲入

歳出ハ之ヲ一般會計ト區分シ特別ノ會計ヲ立テシム

第二條　本會計ニ屬スル經費ヲ支辨スル爲必要アルトキハ政府ハ本會計ノ負擔ニ於テ借入ヲ爲スコトヲ得

前項ノ規定ニ依ル借入金ノ額ハ第三條ノ規定ニ依リ發行スル證券ノ額ト通シテ最高二億圓トス

第三條　米穀ノ買入代償ハ外國ヨリ直接ニ買入ルル場合ヲ除クノ外一年内ニ償還スヘキ證券ヲ以テ其ノ額面金額ニ依リ之ヲ交付ス

前項ノ證券ハ無記名證券トス

第一項ノ規定ニ依リ交付スル爲政府ハ證券ヲ發行スルコトヲ得

第四條　日本銀行ハ前條ノ證券ノ所持人ノ請求ニ依リ政府ノ定ムル歩合ヲ以テ其ノ證券ノ割引ヲ爲スヘシ

第五條　本會計ノ負擔ニ屬スル證券及借入金ノ償還金及利子並證券ノ發行及償還ニ關スル諸費ノ支出ニ必要ナル金額ハ毎年度國債整理基金特別會計ニ之ヲ繰入ルヘシ

第六條　本會計ハ借入金、米穀賣渡代金及附屬雜收入ヲ以テ歳入トシ米穀ノ買入代金、米穀ノ買入賣渡交換加工貯藏及運搬ニ關スル諸費、證券及借入金ノ償還金及利子其ノ他諸費ヲ以テ歳出トス

第七條　本會計ニ於テ支拂上餘裕アルトキハ大藏省預金ニ之ヲ預入ルヘシ

第八條　本會計ノ決算上剩餘アルトキハ翌年度ノ歳入ニ之ヲ繰入ルヘシ

本會計ノ毎年度歳出豫算ニ於ケル支出殘額ハ遞次之ヲ翌年度ニ繰越使用スルコトヲ得

第九條　政府ハ毎年度本會計ノ歳入歳出豫算ヲ調製シ歳入歳出ノ總豫算ト共ニ帝國議會ニ之ヲ提出スヘシ

第十條　本會計ノ收入支出ニ關スル規程ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

附　則

本法ハ大正十年度ヨリ之ヲ施行ス

四〇　罹災救助基金法中改正法律案

罹災救助基金中法左ノ通改正ス

第十七條第一項ニ左ノ一號ヲ加フ

五　米穀ヲ買入ルルコト但シ買入金額ハ罹災救助基金年度初ノ現在高ヨリ第三條ノ制限額ヲ控除シタル金額ヲ超ユルコトヲ得ス

附則

本法ハ大正十年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

右三案ハ孰レモ十年二月二十三日本院ニ之ヲ提出ス二月二十四日三案ヲ一括シテ第一讀會ヲ開キ山本國務大臣ハ(三八)、(三九)、高橋國務大臣ハ(四〇)ニ付左ノ如ク趣旨ヲ辯明セリ

山本國務大臣ノ趣旨辯明

唯今議題ト相成リマシタル米穀法ニ就キマシテ説明ヲ致シマスルガ、我國主要食糧品タル米穀ノ産額ハ、年々增加シツヽアルノデゴザイマス、併ナガラ又一方ニハ人口ノ增殖ノタメニ、此供給ヲ十分ニ充タスコトガ出來ナイノデアリマス、平年ニ於キマシテハ、其平作ノ米穀生産高ガ約三百——或ハ二百二三十萬石ノ不足ヲ生ズルコトニ相成ッテ居リマス、而シテ此米ハ一種特別ナル品質ヲ我米ハ持ッテ居リマス、又市場ノ範圍モ甚ダ狹隘デアルノデアリマス、サウ云フヤウナ事ノ爲メニ、豐凶如何ニ依リマシテ、ドウモ此供給需要ノ關係ニ於テ著シク權衡ヲ失ヒマス、隨ヒマシテ米ノ價格ノ騰落ガ激甚ニナリマス、ソレガ爲メニ此農家ノ生産ニ不安ヲ起シ、又國民食糧ハソレガ爲メニ脅カサレテ、一般ノ經濟社會ノ發達ヲ阻止スルコトガ過去ノ歷史ニ於テ屢〻アルコトデアリマス、政府ハ是等ノ事ニ鑑ミマシテ、食糧品ノ充實ヲ根本的ニ充タスノ必要ヲ感ジマシテ、昨年カラ臨時經濟調査會ニ諮詢ヲ致シマシテ、漸ク此頃其答申ヲ得マシタ、此答申ノ趣旨ニ基キマシテ、穀物ノ充實ヲ圖ルコトニ極力相努メ、又一方ニハ此法案ヲ制定シマシテ、而シテ先ヅ自給ノ調節ヲ圖リタイト思フノデアリマス、米穀ノ豐作ノ時ニ於テ——剩餘ノ時ニ於テソレヲ買取リマシテ、サウシテ之ヲ貯藏シ、尙ホ供給不足ノアル凶年ノ場合ニ於キマシテハ、之ヲ賣拂ヒ、尙ホ場合ニ依リテハ、外國ヨリ外米ヲ輸入スルコトノ途ヲ立テ、又ソレト同時ニ其ノ時ノ必要アル場合ニハ、關稅ノ增減免除、又ハ外米ノ輸入ヲ制限スル等、要スルニ此唯一ノ食糧品ノ調節按排ヲ十分ニシタイト云フ精神ニ於テ提出シタ案デゴザイマス、何卒愼重愼議ノ上御協贊アランコトヲ希望致シマス

高橋國務大臣ノ趣旨辯明

日程第五第七卽チ米穀需給調節特別會計法案及罹災救助基金法中改正法律案ノ提出ノ理由ヲ説明致シマス、唯今農商務大臣ヨリ米穀法案ニ就テ説明セラレタル如ク、此多年ノ懸案デアリマシタル所ノ食糧問題ヲ解決致シマスル爲メニ、此度政府ハ必要ヲ認メマシタル場合ニ於テハ、卽チ米穀ヲ買入レタリ、或ハ賣渡ヲ爲シタリスル爲メノ、制度ヲ確定スルコト、致シマシタルニ就キマシテハ、其買入レタリ、或ハ賣渡シタリ、其他收支——收入又ハ支出ヲ整理スル爲メニ、特別會計ヲ設置スルコトヲ以テ適當ナリト認メタル次第デアリマス、米穀ノ買入其他ニ要シマスル資金ハ、最尙額二億圓ト見積ルコトニ致シマシタ、而シテ米穀ノ買入レ代價ハ、證券ヲ以テ交付スルコト、致シマシタ、且ツ其證券ハ何時ニテモ日本銀行ニ於テ其提出者ニ對シテ割引ヲ爲スコト、致シマシテ、サウシテ此賣主ノ便利ヲ圖リマスト同時ニ、此證券ノ流通ヲ圖リマシテ、金融業ノ便ヲ圖ルコト、致シタノデアリマス、是ガ此米穀需給調節特別會計法案ノ骨子デアリマス、此會計ノ働ニ依リマシテ、大體米穀需給調節ノ目的ハ達シ得ルコト、見込ンデアルノデアリマスガ、尙ホ之ニ類似ノ目的ヲ有シテ居リマスル所ノ、彼ノ罹災救助基金ヲ以チマシテモ米穀ノ買入賣渡ヲ爲スコトニ致シマスレバ、一層有效デアラウト考ヘルノデアリマシテ、其途ヲ新ニ開キマスル爲メニ、罹災救助基金法ニモ相當ノ改正ヲ加フルコト、致シタノデゴザイマス、御審議ノ上御協贊ヲ與ヘラレンコトヲ切望致シマス

上田彌兵衞君齋藤宇一郎君及前川虎造君ハ質疑ヲ爲シ山本國務大臣及高橋國務大臣之ニ應答ス

上田彌兵衞君ノ質疑

諸君、本員ハ唯今上程サレマシタ米穀案ニ就キマシテ、政府ニ對シ二三ノ質疑ガアルノデゴザイマス、尤モ詳細ニ渉リマスル點ニ就キマシテハ、追テ委員會ニ於テ致ス考デアリマスルガ、本案ハ我國ノ食糧政策ヲ確立致シマスル上ニ就キマシテ、最モ重要ナル要件デアリマスルカラ、茲ニ政府ノ方針ニ對シマシテ、其大局ニ渉リマスル點ヲ伺ッテ置キタイノデアリマス、政府ハ我國ノ將來ノ發展ニ對シマシテ、立國ノ國是ヲ如何ニ定メントノ御考デアルカ、即チ商工立國主義デアルカ、或ハ又農本主義デアルカ、但シハ農工商ノ併用主義デアルカ、我國ノ將來ノ進運ハ、此食糧政策ト大ナル關係ヲ持ッテ居ルノデアリマスルカラ、此見解ノ相違ハ、直チニ本案解決ノ上ニ於キマシテモ、大ナル相違ヲ來スコト、信ズルノデアリマス、我國維新ノ變革以來茲ニ五十有餘年間、海外ノ貿易ハ年ト共ニ發展ヲ致シマシテ、殊ニ歐洲ノ戰亂以來非常ニ急激ノ發展ヲ致シシマテ、今ヤ其貿易總額ハ大正八年ニ於キマシテ、殆ド四十億圓以上ノ巨額ニ達シテ居ルノデアリマスル、隨テ內地ニ於キマスル所ノ商工業モ、亦驚クベキ發展進歩ヲ遂ゲマシテ、今ヤ我國ノ商工立國ノ基礎ハ、漸ク鞏固ヲ加ヘントスルノ盛況ニ立至ッテ居ルノデアリマスル、併ナガラ此我國ノ貿易ガ海外ノ歐米先進國ノ降昌ニ比較ヲ致シマスルト、尙ホ未ダ及バザルノ感ガ致スノデゴザイマスル、ソレ故ニ戰後ニ於キマスル我ガ海外貿易ノ施設ト致シマシテハ、國民ハ協力一致、大ニ之ニ努力ヲ要スルコトハ今更喋々ヲ俟タナイノデアリマス、實ニ只今ハ我國商工業ノ前途ニ對シマシテ、重要ナル時機トスルノデゴザイマスル、我國ハ今ヤ此商工立國ノ國是ヲ確立致シマシテ、經濟的施設ニ對シテ、勇往邁進ヲ致シマセネバ、到底彼ノ歐米諸國ヲ凌駕致シマスル所ノ、經濟的地位ヲ占ムルコトハ甚ダ困難デアリマスル、然ルニ翻ッテ考ヘテ見マスルト、我國ニハ頗ル困難ナル問題ガゴザイマス、所謂食糧問題デアリマスル、過去數年來ニ於キマスル物價ノ騰貴ハ、我ガ國民生活ノ安定ヲ脅シマシテ、加フルニ國民ノ常食品タル所ノ米モ亦此物價ニ伴レマシテ、大ナル暴騰ヲ致シタノデアリマスル、其結果ハ食料ノ自給自足ノ問題ガ、社會ノ輿論トシテ起ッテ參ッタノデアリマスルガ、政府ハ此點ニ對シマシテハ、ソレ〳〵施設ヲ致サレマシテ、或ハ耕地ノ整理デアルトカ、或ハ開墾助成法デアルトカ、色〳〵米ノ增殖ヲ圖ラレマシテ、以テ供給ノ潤澤ニ努メラレタノデアリマスルガ、此米ノ增殖ヲ圖ルト云フコトニ就キマシテハ、我國現時ノ農業制度ヨリ考ヘマスルト、必ズヤ農家所謂生產者タル農家ノ保護ト、是ガ利益增進ヲ圖ル方法ヲ講ズルニ非ザレバ、其效果ヲ十分ニ現ハスコトガ出來ナイノデアリマスル、ソレ故ニ農業經濟ニ於キマシテモ、相當ノ方策ヲ立テマシテ、以テ此農家ノ發展スベキ施設ヲ講ジナケレバナラヌノデアリマスル、農家ノ利益增進ヲ致スト云フコトハ、諸種ノ方法ガアルノデアリマスルガ、結局此米價ヲ騰貴セシムルト云フコトガ、主要ナル目的トナッテ來ルノデアリマス、而シテ此米價ヲ騰貴セシメルト云フコトハ、一面カラ商工業ノ發展ヲ阻止スルト云フコトニナリマシテ、茲ニ商工立國主義ト農本主義トノ衝突、言葉ヲ換ヘテ申シマスルト、生產者ト消費者ノ利益ガ相反スル傾ガ生ジテ來ルノデアリマスル、丁度西暦千八百二十年ノ頃、即チ約今ヨリ百年前ノ頃ニ於キマシテ、彼ノ英吉利國ガ丁度此食糧政策ニ就テ經驗シマシタルヤウナ實狀ガ、今ヤ我國ノ現狀ニ實現サレテ來タノデアリマスル、其當時英吉利政府ハ農業保護ニ努メマシテ、所謂農業保護ニ偏シマシタル故ニ、一方ニハ盛ナル自由貿易論ガ起リマシテ、遂ニ此自由貿易論ガ勝ヲ制シマシタルガ爲メニ、商工立國主義ノ下ニ今日ノ英吉利ノ隆盛ヲ來シタノデアリマスル、然ラバ我國ハ此英國ノ執リマシタル如ク、商工立國主義ヲ根本ノ主義方針トシテ進ムコトガ、果シテ善良ナル政策デアルヤ否ヤト云フコトニナリマスルト、茲ニ甚ダ困難ナル問題ガ横ッテ來ルノデアリマスル、ソレハ外デモアリマセヌ、所謂申スマデモナク我ガ日本人ハ米食者デアリマス、而モ日本米ノ嗜好者デアルノデゴザイマスル、唯ダ單ニ米ノ需要者デアリマスルナラバ、東洋ノ諸國ニ於キマシテハ、豐富ナル米產地ヲ到ル處ニ持ッテ居ルノデアリマスル、所謂有無相通ジ、缺剩相補フノ方法ヲ講ジマシタナラバ、左程驚ク問題デナイノデアリマス、米ノ需給ノ前途ニ對シテモ、憂フル程ノ問題デハナイノデアリマスルガ、如何セン我日本人ハ日本米デナケレバ食セヌノデアリマスル、所謂久シキ因襲ハ直チニ此食料ニ對シテ大ナル變化ヲ與ヘルト云フコトハ、甚ダ困難デゴザイマスル、ソレ故ニ彼ノ英國ノ如ク其國民ノ常食品タル所ノ品物ガ、世界的ノ商品デアリマセヌノデアリマスルカラ、英國ト國情ヲ異ニシ、其食糧ノ種類ヲ異ニシテ居リマスル所ノ我ガ日本國

ハ、直チニ彼ノ英國ガ執リマシタル所ノ、一方ニ偏シタル政策ヲ踏襲スル譯ニハ參ラヌノデアリマスル、是ニ於テカ我國ハ農工商ノ併用主義ヲ必要トスル狀態ニ在ルノデゴザイマスル、併ナガラ此併用主義ナルモノハ、其一方ニ偏シ易クアリマシテ、一歩此方法ヲ誤リマスルトキニハ、非常ニ國家ノ進運ニ大蹉跌ヲ來スコトニナルノデアリマス、實ニ我國ノ政策ノ樹立ニ際シテハ、今ヤ非常ニ困難ナル岐路ニ立ッテ居ルモノト察スルノデアリマスル、卽チ生産者ノ保護ニ勗メマスレバ、消費者ヲ苦シメ、消費者ノ負擔ヲ輕減スルコトニナリマスレバ、生産者ノ立場ヲ苦メルト云フコトニナリマシテ、寔ニ考慮スベキ問題ト信ズルノデアリマス、是ニ於テカ先ヅ第一ニ此立國ノ大主義大方針ヲ定メマシテ、而シテ後ニ食糧政策ヲ考出サネバナラヌノデアリマス、彼ノ歷代內閣ノ食糧政策ヲ看テ見マスト、常ニ此主義方針ヲ誤リマシテ、其時〻ノ狀況ニ拘泥致シマシテ、此大方針ヲ無視スルト云フコトハ、洵ニ本員ノ遺憾ニ堪ヘナイ次第デゴサイマス、我國現時ノ農業政策、農業ノ制度及食糧品ノ狀況ヨリ鑑ミマスルト、國家ガ其生産、消費、分配ノ方針ヲ根本的ニ確立致シマセヌ以上ニハ、必ズ其食糧政策タルヤ常ニ消費生産ニ孰レモ偏セズ致シマシテ、克ク其協調ヲ保チマシテ、國家ノ進運ニ努メル所ノ方策デナケレバナラヌノデアリマスル、恰モ彼ノ勞働ノ協調ノ如キモノデアリマスル、近年勞働者ト資本家トノ利害相反スルノ故ヲ以チマシテ、互ニ相爭フト云フコトハ、國家產業上大ナル不幸デアリマスル如ク、生產者ト消費者トガ相爭フト云フコトハ、又國家國民ノ一大不利益ト信ズルノデアリマス、ソレ故ニ政府ノ此點ニ對スル主義方針ヲ伺ッテ置キタイノデアリマスル、此問題ハ數年來社會ノ大問題ト致シマシテ、第二ニハ食糧ノ自給自足ノ程度如何ト云フコトニ就テ伺ヒタイノデアリマスル、卽チ政府ハ米ノ自給自足ヲ絕對的ニ致サレマシタガ、未ダ其定案ヲ得テ居ラナイノデアリマスル、卽チ政府ハ米ノ豐凶ニ依リ、或ハ經濟界ノナラシメル御考デアルカ、又其大部分ヲ自給自足致シマシテ、其年ノ豐凶ニ依リ、或ハ經濟界ノ進展ニ順應致シマシテ、適宜其過不足ヲ調節セラルヽノデアルカ、此點ニ就テ伺ヒタイノデアリマス、我國ノ米產額ノ增加率ハ、人口ノ增加ト米食者ノ增加率ニ伴ヒマセヌガ故ニ、凶作ノ場合ハ勿論、一朝風水害ノ爲メニ其收穫ヲ減ズルコトガアリマスルト、忽チ米價ノ暴騰ヲ來タシマシテ、國民ノ生活ノ安定ヲ脅スニ至ルノデアリマス、此補充ト致シマシテ、每年數千萬圓、甚シキハ一億圓以上ノ外米ヲ輸入致シマシテ、幸ニ其所用ノ量ヲ充シ、以テ需給ヲ緩和シテ居ル狀態デアリマスル、併ナガラ此外國米ハ甚ダ品質ガ劣等デアリマシテ、加フルニ其調理ノ方法ガ十分ニ研究ヲサレテ居リマセヌガ故ニ、我國ノ國民ノ歷史的慣習、所謂嗜好的欲求ハ、此需要ヲ充タスニ適セナイノデアリマスルガ故ニ、洵ニ國民一般ノ需要ヲ喚起スルコトガ出來ナイノデアリマスル、動モ致シマスレバ、日本米ト此外國米ハ、殆ド別箇ノ商品ナルガ如キ感ヲ與ヘマシテ、全然其價格ヲ支配スルノ力ガ薄弱デアリマスル、是ニ於テカ數年來ノ米價暴騰ニ際シマシテハ、食糧獨立ノ急務ナルコトヲ訴ヘマシテ、朝野ノ人心ハ期セズシテ其對策ヲ案ジ、或ハ生產ノ增殖デアルトカ、未墾地ノ開拓デアルトカ、農業ノ改良デアルトカ、產米增殖ノ輿論ガ翕然トシテ起ッテ參リマシタノハ、蓋シ當然ノ事ト信ズルノデゴザイマスル、本員ノ如キモ農業政策ニ就キマシテ是ガ奬勵ヲ完備シ、以テ米ノ增殖ヲ圖リマスルノ急務ナルコトニ於キマシテハ、十分ニ贊成ノ意ヲ表スルノデアリマスルガ、立國ノ根本義ヨリ達觀致シマシテ、又經濟的政策ヨリ考ヘマスルト、一概ニ此產米ノ獨立ヲ期スルト云フコトガ、果シテ善良ナル策デアルヤ否ヤト云フコトニ就テハ、尙ホ深キ考慮ヲ要スルノデアリマスル、我國ノ米ノ收穫ハ年々ノ豐凶ニ依リマシテ、常ニ其收穫高ヲ異ニシテ居ルノデアリマス、而シテ大正九年ニハ六千三百十五萬石ノ增收トナッテ居ルノデアリマスル、此大正元年二年ノ不作ノ年ト、大正九年ノ豐作ヲ比較ヲ致シテ見マスルト、其差ガ實ニ一千三百萬石ノ以上ニ達シテ居ルノデアリマスル、尤モ此政府ノ發表致シマシタル統計ハ、其實質ニ於キマシテ正確ナリトハ申サヌノデアリマスルガ——兎ニ角我國ノ米作ハ、豐凶其差ニ於キマシテ一千萬石以上ノ差ガアルト云フコトハ事實デアリマスル、若シ我國ノ食糧ヲ絕對ニ自給自足ヲ致スト云フコトニナリマスレバ、最モ凶年ノ年ノ收穫量ヲ以チマシテ、我國民ノ需要ノ總額ニ備ヘナケレバナラヌノデアリマスル、斯ノ如キハ到底長キ年月ヲ要シマスルノミナラズ、我國現時ノ農業ノ狀態ヨリ考ヘテ見マスルト、之ガ爲メニハ巨額ノ費用ヲ投ジナケレバナラ

ヌノデアリマスル、此巨額ノ國費ヲ一時ニ支出ヲ致シスマルト云フコトハ、一面商工業ノ發展ヲ阻止シ、商工業ノ施設ヲ犧牲ニセナケレバナラヌト云フコトニナリマシテ、商工立國ノ本旨、經濟政策ヨリ言ヒマシテ、到底堪ヘ得ナイ問題デアルト信ズルノデアリマスル、加フルニ此ノ豐年ノ年ニ於キマスル所ノ一千萬石以上ノ剩餘米ニ對スル處置ニ就キマシテハ、極メテ困難ナル問題ガ湧イテ來ルノデゴザイマスル、以上ノ結果ヨリ考ヘマスルト、我國ノ食糧ハ、一面外國米ノ存在スルコトモ忘レテハナラヌノデアリマス、成程一時ノ消極的政策ヨリ考ヘテ見マスルト――經濟策ヨリ考ヘテ見マスルト、年々外國米ノ爲メニ、數千萬圓或ハ其以上ノ費用ヲ國外ニ支出ヲ致シマスルト云フコトハ、一見國家ノ經濟ヨリ大ナル損失デアル如ク見エルノデアリマスル、併ナガラ翻ッテ經濟的實質ヨリ考ヘテ見マスルト、此間國ヲ擧ゲマシテ貿易ノ伸張ニ努メ、商工業ヲ發展致シマシテ、以テ國富ヲ增進スルコトニ努メマスルナラバ、我國ノ綜合的經濟ヨリ考ヘマスルト、遙ニ利益ノ大ナルモノデゴザイマスル、斯ク考ヘ來リマスルト、我國ノ食糧政策ハ、此自給自足ノ程度方針ノ確定致シマセヌ限リハ、到底總テノ施設ガ徒勞トナリマシテ、十分ノ效果ヲ擧ゲ得ルコトガ出來ナイノデアリマス、數年來ノ米價暴騰ニ際シマシテハ、國民ハ擧ッテ生活ノ安定ニ努力ヲシタノデアリマスル、而シテ大ナル騷動ヲモ惹起シマシテ、今尙ホ之ガ救濟ノ方策ニ就テ、吾レ人共ニ憂ヲ深カラシメテ居ルニモ拘リマシテ、米價ハ急轉直下ヲシ、今ヤ農家ノ困難ノ大ナルコトヲ訴ヘマシテ、農家救濟ノ聲ガ翕然トシテ起ッテ居ルノデアリマスル、而シテ是亦國民ノ大ナル注意ヲ要スベキ問題トシテ、吾人ノ前ニ横テ參ッタノデアリマス、洵ニ我國ノ食糧政策程、國家ノ消長ニ大ナル關係ヲ有スルモノハ無イノデアリマス、又之ガ調節策ニ就キマシテハ、至難中ノ至難ナル問題ト言ハナケレバナリマセヌ、前申上ゲマシタ如ク我國ノ食糧產米ノ絕對的獨立ヲ期シマスルノニハ、商工業ノ發達ニ多大ノ犧牲ヲ拂フノ虞ガアルノデゴザイマス、サリトテ一朝因作ノ年ヲ聯想致シマスルト、相當程度ノ自給自足ノ途ヲ講ジテ置キマセヌケレバ、前申述ベマシタガ如キ、國民生活ノ安定ヲ脅カスノ虞ガアルノデゴザイマスル、是ニ於テカ米價ノ調節ハ、我國產米ノ自給自足ノ程度如何ト云フコトニ依ッテ定マルト信ズルノデアリマス、此點ニ於キマシテ、政府ハ如何ナル御方針ト御意見ヲ持ッテ居ラルルカ、此點ヲ聽キタイノデアリマスル、第三ニハ此制度ハ主トシテ數量ノ調節デアルカ、又價格調節ノ意味ヲモ主ナル目的トシテ加味サレテ居ルノデアルカ、固ヨリ數量ノ調節ハ自然價格ノ調節ニ歸スルノデアリマスルガ、此本末ヲ顚倒致シマスルト、其結果ニ於テ大ナル相違ヲ生ズルノデアリマス、本案ノ第一條ニハ「米穀需給調節ノ爲」トアリマシテ、其次ニ價格調節ト云フコトハ明記セラレテ居ラナイノデアリマスル、而シテ其次ニハ「米穀ノ買入賣渡ヲ爲スコトヲ得」トアリマシテ、此言葉ハ其目的遂行上ノ附帶行爲ト思フノデアリマスルガ、此買入賣渡ナル行爲ガ一朝其運用ヲ誤リマスルト、政府ガ自ラ買占ヲ爲シタリ、賣放ヲ爲シタリ致シマシテ、所謂投機的行爲ニ陷ルナキヲ保シ難イノデアリマスル、若シ政府ガ此制度ヲ濫用致シマシテ買占賣渡等ノ行爲ヲ致シマスルナラバ、其結果ハ却テ目的ニ反對ノ現象ヲ出現致シマシテ、米價調節上ニ大ナル弊害ヲ貽スコトヲ憂フルノデアリマスル、近年我國ノ米穀生產ノ狀況ヲ考ヘテ見マスルト、其供給ガ兎角需要ニ伴ヒマセヌガ故ニ、是ガ生產增殖ノ爲メニハ有ユル論議ヲサレマシテ、此實行モサレテ居ルノデアリマスルガ、是ト同時ニ價格ノ點ニ於キマシテモ、其年々ノ豐凶ニ依リマシテ高低ガ甚シク、常ニ人心ヲ惱シテ居ル次第デアリマスル、而シテ其高キニ失シマスレバ、消費者ノ苦情トナリマシテ、若シ低キニ過ギマスレバ、生產者ノ不平トナルノデアリマスル、故ニ此米價問題ガ需給ノ過不足問題ヨリモ、常ニ生產者ト消費者ノ直接ノ利害ニ關係ヲ致シマスルガ故ニ、世人ガ常ニ此價格ノ問題ニノミ囚ハレマシテ騷イデ居ル狀態デアリマスル、彼ノ歷代內閣ガ執リ來リマシタル食糧政策モ常ニ此價格ニ偏シマシテ、根本的何等政策ニ觸レマセズ、價格ノ騰落ニノミ拘泥致シマシタル缺點ガ見出サルヽノデアリマスル、卽チ米價ノ高キ時ニハ、之ヲ下落セシメンコトニノミ奔走ヲ致シマシテ、又廉キトキニハ之ガ騰貴ニ苦心ヲ致シマシテ、而モ其時機ヲ遲馳ニスル、デアリマスルカラ假令其效果ガアリマシテモ、唯ダ一時的ノモノデアリマシテ、一因來ラバ復タ一因、一因去ラバ復一因來ル、常ニ調節ヲ云爲スルト云フ狀況デアリマスル、是レ卽チ從來ニ於ケル米價政策ノ通弊デアリマシテ、物價ハ常ニ其需給ノ關係ヨリ

起ルト云フコトヲ無視致シマシタ結果デアリマス、其失敗ニ了リマスルコトハ、蓋シ當然ノ事ト考ヘルノデアリマス、申スマデモナク米價ノ由ッテ生ジマスル原因ハ、經濟上、社會上諸種ノ原因ガアリマセウガ、結局產米ノ多寡、需要ノ增減ノ分配ノ適否等ニ依ッテ、其實質ニ基キマスル所ノ經濟ノ利用ニ依ッテ定マルノデアリマス、故ニ米價ノ調節ナルモノハ、結局需給ノ調節ニ歸著スルモノト信ズルノデゴザイマスル、然ルニ兎角社會ニ於キマシテハ、米價ニノミ重キヲ置キマシテ、歷代ノ爲政者モ亦此米價ノ昂騰ニノミ囚ハレマシタガ爲メニ、玆ニ明ニ政府ノ御意見ヲ聽イテ置キタイ點ガアルノデアリマスル、卽チ昨年來經濟界ノ變亂ニ際シマシテ、米價ハ急轉直下大暴落ヲ來タシタノデアリマス、ソレガ爲メニ生產者ハ不賣同盟ヲ形成致シマシテ騷イデ居ル狀態デアリマス、此行動ハ政治上或ハ社會上ニ及ボス影響ニ就キマシテハ、他日政府ニ對シテ御問ヲスルノ機會ガアラウト思フノデアリマスルガ、唯ダ此騷イデ居ルト云フコトガ、新聞紙上傳フル所ニ依リマスルト、單ニ此米價ノ釣上ノ爲メニ、早ク此制度ノ實施ヲ政府ニ迫ッテ居ル如キ模樣ガアルノデアリマスル、果シテ本案ガ米價釣上策ニ用キラル、ト云フヤウナ誤解ヲ社會ニ起スト云フコトニナリマスト、本案ノ解決ノ爲メニモ又非常ナル相違ガ生ズルノデアリマスルカラ、本案ノ眞ノ目的ニ對シテ、政府ノ言明ヲ望ムノデアリマスル、本案ノ內容ヲ一見致シマスルト、斯ル憂ハナイヤウニ存ズルノデアリマスルガ、若シ斯ル一方ニ偏シタル所ノ考ヲ以チマシテ、政府當務者ガ此制度ヲ運用ヲ致シマスルコトニナリマスルト、此本案ハ十分ニ效果ヲ擧ゲルト云フコトハ、實ニ六ケシキ問題ト信ズルノデアリマスル、故ニ敢テ此質問ヲ致ス所以デアリマスル諸君、第四ニ伺ッテ置キタイノハ、政府ハ將來米穀官營ノ意思ナキカ、若シ之レ無シトスルモ、何故ニ外米官營ノ制度ヲ採用セザリシカ、又將來米穀官營ノ意思アリトスレバ、現在ノ取引所ヲ如何ニ處置セラレントスルカ、本案ハ前述ノ如ク、歷代內閣ノ米價政策ヨリ一步ヲ進メマシタ持久ノ政策デアリマスルカラ、經濟施設ト致シマシテハ、理論上、又實際上ヨリ致シマシテ、不可ナキモノト信ズルノデアリマスルガ、變化極リナキ我國ノ米界ニ處シマシテ、其運用ガ適當ニ行ハル、ヤ否ヤニ就キマシテハ、唯ダ吾人ノミナラズ、政府ニ於キマシテモ頗ル案ジラレテ居ル點ト

信ズルノデアリマス、米穀ノ如キ我國ノ食糧品ノ主要物ト致シマシテハ、其價格ノ高低ハ、直チニ國民ノ生活ノ上ニ大ナル影響ヲ與ヘマシテ、其政策ノ良否ハ寧ロ國家ノ消長ニ關スル問題デアリマスカラ、寧ロ根本政策ヨリ致シマスレバ、之ヲ官營ニ致シマスルト、極メテ徹底的ナリト信ズルノデアリマスル、サリトテ之ヲ官營ニ致シマスル上ニ於テハ、事極メテ重大ナル問題デアリマスルカラ、論議シ又研究スベキ事項ガ澤山アラウト信ズルノデアリマスル、併ナガラ其大要ヲ申上ゲマスレバ生產分配ノ二ツナガラ政府ノ管理ニ屬セシメラルヘノデアルカ、又生產セルモノデ買上ゲテ、分配ノミヲ管理スルノデアルカ、此二點デアリマスル、而シテ我國ノ取引所ハ、米ノ公定相場ヲ定メマスル所ノ唯一ノ機關デアリマスル、古來幾多ノ歷史的變遷ヲ以チマシテ今日ノ發達ヲ見マシタノデアリマスルカラ、若シ米穀官營ト致スコトニナリマスレバ此處分ニ就テハ深甚ノ注意ヲ拂ハネバナラヌノデアリマスル、ソレ故ニ政府ハ將來官營ノ意思アルカヲ問フテ置キタイノデアリマスル、而シテ若シ無シトスルモ、此得失ニ就テ調査研究セラレタコトガアリマスルナラバ、其調査材料ヲ議會ニ與ヘラレンコトヲ希望スルノデアリマス、尙ホ內地米官營ノ御意思ナシトスルモ、外米官營ハ本案ヲヨリ有效ナラシメマスル上ニ於テ、必要ト認メルノデアリマスルガ、政府ハ何故ニ外米管理ノ制度ヲ採ラナカッタノデアルカ、我國產米ノ狀態ハ前申述ベマシタ如ク、其年ノ豐凶ニ依リマシテ、或ハ其需要ノ增減ニ依リマシテ、種々ナル變化ヲ來タスノデアリマスカラ、之ガ調節ニ方リマシテハ、政府ハ外米ヲ管理致シマシテ、需給上ノ彈力性ヲ玆ニ用意シ置クノ必要ガアラウト信ズルノデアリマス、然ラザレバ本案ノ運用ハ甚ダ狹少トナッテ徹底セル效果ヲ現ハスコトガ甚ダ困難ナリト信ジマス、此點ニ就テノ政府ノ所見果シテ如何ト云フコトヲ御尋スルノデアリマス

山本國務大臣ノ應答

第一ハ農商工鼎立、此モノニ就テ商工立國デアルカ、農ニ就テハ云々ト云フコトニ就テ、色ミ長ク御演說ガアリマリタガ、要シマスルノニ政府ニ於キマシテハ、農ト云ヒ、商ト云ヒ、工ト云ヒ、之ニ

就テ別段區別ヲ立ッテ居リマセヌ、我國ハ農商工鼎立ヲ主トシテ今日進ンデ居ル次第デアリマス、ソレカラ第二ハ絶對ノ自給ヲ欲スルカ、或ハ如何ナル程度カト云フコトデアリマスガ、政府ニ於キマシテハ自足自給ヲ欲シテ、成ルタケ此需給ノ關係ヲシテ、均一ニ來タスベキ方針ヲ執リツヽアルノデアリマスガ、是ハ絶對ニヤルト云フコトハ餘程困難デアル、又非常ニソレハ年モ費スコトデアリマスカラシテ、是ハ絶對ト云フコトハ出來マセヌ出來マセヌガ、成ベク其兩方ニ就テ近寄ラセル爲メニ進ンデ居ル次第デゴザイマス、ソレカラ物價調節ノ程度デゴザイマスルガ、此事ニ就キマシテハ、數量或ハ價ト云フコトニ付テノ色〻論議ガアルノデアリマスガ、政府ニ於キマシテハ、此法ヲ立テマシタル主ト致シマスルコトハ、我國ノ穀物ノ充實ヲ圖リタイト云フノガ大眼目デアリマス、ソコデアリマスル故ニ、其充實ヲ圖ルト云フ爲メニハ、剩リノアル時ニ成タケ買ッテ、サウシテ不足ノアル時ニ於テソレノ供給ヲ爲シタイ、ソレデ調節ヲ圖リタイト云フノデアリマス、元ガ充實ガ主トナッテ居リマス、サウシテ其數量ノ多寡ニ依リマシテ、物價ノ高低ガ起ルノデアリマスカラ、高イカラ賣ル、廉イカラ買フヤウナ事ヨリモ、其品物ガ多クテ剩リガアル故ニ、其時ニ買ッテ置ク、又少クナル故ニ、其時ニハ數量ヲ賣ッタナラバ、自ラ價ガ下ルデアラウ、米ノ價ノ下ル上ルト云フコトハ、其品物ノ多イ寡イニ依ッテ起ルコトデアリマスル故ニ、成タケ數量ノ調節ヲ圖ッテ來タナラバ、自ラ物價ノ高低モ支配スルヤウニナルダラウ、斯ウ云フ精神ニ於テ此法ヲ行ヒタイト思フノデアリマス、ソレカラ米穀官營ニ就テノ意思如何、又外米ニ就テ何故官營ニセナイカト云フコトデアリマスルガ、政府ニ於キマシテハ先ヅ此物價ノ高低、或ハ品物ノ多寡ト云フモノニ於キマシテハ、餘リ政府ガ干渉ガマシイ事ヲ致シマスト云フト、自然ノ調節、自然ノ發達ヲ動モスルト害スルヤウナ事ガアリマスカラ、成タケ斯ウ云フ事ハ、自然ノ高低ニ委セルトト云フコトガ必要デアラウト思フノデゴザイマス、ソレ故ニ是ガ起リマシテモ、先ヅ十ノモノハ七八ハ自然ノ高低ニ委セテ置イテ、サウシテ餘リニ極端ニ趨ル如キ時ニ於テ、調節ヲ圖リタイト云フ考デアリマス、官營ノ事ニ就キマシテハ、政府ニ於キマシテ是迄色〻調ベモ致シマシタガ、爰ニ斯ノ如キ調ガアルトシテ提出スル所マデ至ッテ居リマセヌ、併ナガラ今日官營ノ意思ハアリマセヌ、先ヅ米穀法ヲ以テ或ル點マデ調節ヲ圖ルコトガ出來ルモノト承知シテ居リマス、ソレカラ外米ノ事ニ就キマシテ、是モ今日ハ外米ヲ自ラ政府ガ管理スル、卽チ官營ニスルト云フ考ハアリマセヌ、併ナガラ今日ノ法案ニ於テ、或ハ穀物ノ輸入稅ノ增減、減免、又輸入外米ノ制限、制止ト云フヤウナ事ハ、其時ノ必要ガアレバ爲スト云フコトノ權利ヲ政府ニ與ヘラ貰ヒタイト云フ考デ、此法案ガ制定シテアリマス、官營ニ致サヌデモ、此途ヲ以テ取捨按排ヲシタナラバ、其邊ノ目的ヲ達スルコトニ就テ、除リ困難ハアルマイト云フ考デアリマス、大體ハ斯ノ如クデアリマス

齋藤宇一郎君ノ質疑

只今上程ニナッテ居リマス三案ハ、頗ル重大ナ案デアリマシテ、私モ二三ノ點ヲ質問シテ、大體ノ立法ノ趣旨ヲ明ニ承ッテ置キタイト思ヒマス、第一ニ御伺シタイ事ハ、第一條ニ「需給調節」ト云フコトヲ掲ゲテアリマス、又只今農商務大臣ノ御辯明ニ依リマシテモ、此量ノ問題ヲ主トシテ立法セラレタト云フコトヲ、辯明セラレテ居ルノデアリマシテ、價格ノコトニ對シテハ、言及セラレテ居ラヌノデアリマス、要スルニ量ノ高ハ、隨テ價格ニ影響スルコトハ、當然デアルト云フ意味ニ於テ、需給ニ重キヲ置カシテ、立法セラレタノデアラウト思ヒマスケレドモ、第三條ヲ見マスルト「價格及期間ヲ告示スヘシ」トアリマシテ、量ハ告示シナイコトニナッテ居リマス、若シ夫レ量ト云フコトニ重キヲ置イテ本案ヲ運用スルコトニナリマスレバ、價格ニ拘ラズシテ、何所迄モ剩ッテ居ルト云フ其數量ヲ買上ゲナケレバナラナイト云フコトニ陷リマス、上田君ノ質問ハ、商工本位デ議論ヲセラレタヤウデアリマシタガ、若シ數量本位デ行キマスレバ、其剩ッテ居ルト云フ量ヲ買ヒマスレバ、價格ニ拘ラズ買上ゲナケレバナラヌト云フコトニ理論上陷ルノデアリマスガ、政府ハ如何ナル方法ニ依ッテ此量ヲ定メ、又如何ナル方法ニ依ッテ價格ヲ定メ、而シテ其買上ノ時期等ハ、如何ナル機關ニ依ッテ定メテ行クノデアルカト云フコトガ、此法ノ上ニ於テ明ニナッテ居リマセヌ、是ハ頗ル重大ナ事デアリマシテ、隨テ吾〻是迄承ッタ所ニ依リマスレバ、臨時經濟調査會ニ於キマシテノ調査ノ中ニモ、需給調節委員會ト云フモノガ設ケラレルコトニナッテ

居ッテ、其委員會ト云フモノハ頗ル重大ナル責任ヲ以テ、是等ノ問題ヲ愼重ニ研究シテ、而シテ此問ニ於テ遺漏ナキヲ期サナケレバナラヌヤウニナッテ居ッタト云フコトヲ、漏聞イテ居ルノデアリマス、又政府ノ案モ、其需給調節委員會ト云フモノヲ置カレルト云フコトニナッテ居ッタト云フコトヲ漏聞イテ居リマスガ、只今此案ヲ受取ッテ見マスルト、此米穀法ニハ其事ガ削ラレテアッテ、載ッテ居リマセヌ、又其等ノ組織ヲ勅令ニ依ッテ定メルトカ、何トカ云フ規定モ無イヤウデアリマス、而モ此價格ヲ定メ、量ヲ定メテ此法ヲ行フコトガ本法ノ骨子デアリマススカラ、此調節委員會ト云フ類ノモノハ、頗ル重要ナルモノデアリマシテ、隨テ責任モ大ナルモノデナケレバナラヌノデアル、故ニ必ズ本法ノ條項ノ中ニソレガ明ニ規定サレテ、最モ權威アルモノニナッテ居ラナケレバナラヌノニ、其條項ノ削ラレテ居ルコト、――爰ニ規定ガ無イト云フコトハ如何ナル理由デアルカ、是ガ私ノ米穀法ニ對スル疑問デアリマス、卽チ之ヲ要言スレバ、量ノ問題デアルカト思ヘバ、第一條ヲ讀メバ第三條ニ於テ其量ヲ告示スルト云フコトハ、削ラレテ、價格ト期間ダケ告示スルト云フコトニナッテ居ル、サウスレバ是ハ價格主義、卽チ米價主義ヲ第三條デハ採ッテ居ルヤウニ見エルノデアリマス、孰レガ此立法ノ精神デアルカ、而シテ斯ノ如キ事ヲ調査研究スル所ノ何等カノ機關ガナケレバナラヌノニ、其大切ナル事項ヲ本法ニ掲ゲテ居ラヌノハ、如何ナル譯デアルカト云フコトヲ御尋致シタイノデアリマス、第三條ニ「米穀ノ買入代價ハ外國ヨリ直接ニ買入マスルノデ、其主ナルモノヲ申上ゲマスガ、第三條ニ「米穀ノ買入代價ハ外國ヨリ直接ニ買入ル場合ヲ除クノ外一年内ニ償還スヘキ證券ヲ以テ其ノ額面金額ニ依リ之ヲ交付ス」斯ウ規定シテ居リマス、サウシマスルト云フト、政府ハドレダケノ分量ヲ買フノデアルカ知レマセヌガ、例ヘバ三百萬石買フト云フコトニナリマスレバ、三十圓トシマシテモ九千萬圓ノ證券ヲ爰ニ發行シナケレバナラヌト云フコトニナル、其金ハ其年度内ニ於テ、之ヲ償還シナケレバナラヌト云フコトヲ爰ニ規定シテアルノデアリマス、果シテ之ヲ償還スルトスレバ、政府デ買ッタ所ノ米ト云フモノハ、其償還期間ノ間ニハ賣ラナケレバナラヌト云フコトヲ、是ハ聯想シナケレバナラヌノデアリマス、果シテ然リトスレバ、何時デモ此政府ノ買入レタ所ノ三百萬石ト云フ米ガ市場ヲ壓迫スルト云フコトハ當然ノ事ニナルノデアル、斯樣ナ事デハ實際此需給關係ノ上カラ、又農家經濟ノ上カラ考ヘテ見マシテ、非常ニ是ハ面白クナイ所ノ結果ヲ惹起シハセヌカ、又此常平倉ト云フモノヽ性質カラ考ヘテ見マシテモ、是ハ米ガ剩ッテ居レバ賣ラナイト云フ事ガ、根本ノ意義ニナッテ居ラナケレバナラヌ筈デアリマス、然ルニ其米ヲ持ッテ居ル所ノ資源、其代價ト云フモノハ、一年ノ間ニ償還シナケレバナラヌト云フ此法規ガアル以上ハ、ドウシテ之ヲ持ッテ居ルノデアルカ、必ズ是ハ何等カノ方法ニ依ッテ米ヲ賣ラナイト云フ明カナル國民ガ信賴スルダケノ資源ヲ持タナケレバナラヌ、其安心ガ無ケレバ、此米穀法案ト云フモノハ是ハ有ッテモ無クテモ、同ジ事ニナリハセヌカト思フノデアリマス、果シテ其安定ヲ得ルニハ、ドウシテモ爰ニ政府ハ何等カノ資源ヲ積ンデ置イテ、サウシテ此米ヲ若シ量ガ多イ場合ニ於テハ何年デモ賣ラナイト云フダケノ、鞏固ナル基礎ガナケレバナラヌト思フノデアリマスカラ、政府ハ其點ニ就テ如何ナル所信ヲ持ッテ居ラル、ノデアルカ、サウデナケレバ是ハ日本銀行カラシテ、最後ニハ其金ハ借入金トシテ殘シテ置カナケレバナラヌト云フコトニナリマス、故ニソレヲ本法ニ於テ認ムルノデアルカ、例ヘバ若シ其次モ豐年デアルト云フコトデアレバ、此米ト云フモノハ長ク貯藏シナケレバナラヌト云フコトニナリマスカラ、爰ニ會計法ニ規定シテアル一年デ償還シナケレバナラヌト云フ事モ、或ル場合ニ於テハ是ハ或ル方法ニ依ッテ、返濟シナクテモ宜イト云フ考ヲ持ッテ居ラル、ノデアルカ否ヤ、其點ヲ御尋致シタイト思フノデアリマス、ソレカラ罹災救助基金ノ改正案ニ於キマシテ、先刻大藏大臣ノ御說明ハ、頗ル簡單デ要ヲ得マセヌノデアリマス、唯ダ米ヲ買入レルコトニシタナラバ、此場合非常ニ都合ガ好イト云フ意味ニ於テ、改正案ヲ出シタト云フ御話デアリマシタガ、此罹災救助基金ハ、確カ全國ヲ通ジテ六千萬圓程金高ハアルト云フコトニ記憶シテ居リマスガ、併ナガラ其現金ト云フモノハ、四五百萬圓ノモノデアラウト私ハ考ヘテ居リマス、ソレダケノ金ヲ政府ガ中央ニ集メテ、ソウシテ此米穀法ノ出資ノ上ノ資源トスル御考デアルカ、或ハ各縣ニ金ノアリ次第ニ、自由ニソレデ米ヲ買ハヌト云フ御考デアルカ、若シ各縣ニ自由ニスルト云フナラバ、如何ナル方法ニ依ッテ之ヲ行フノデアルカ、或ハ又之ヲ目下頻リニ要求シテ居リマスル

所ノ低利資金ノ一部トシテ、産業組合ナリ、農業倉庫ナリニ運用ヲ致シテ而シテ幾分カ其等ノ機關ノ運用ヲ便用ニシヤウト云フ爲メニ此罹災救助基金ヲ利用スルト云フ御考デアルノデアルカ、其點ハ少シク御説明ガナケレバ、吾〻理解ニ苦シムノデアリマス、ソレヲ明ニ御説明ニナラナケレバ、目下此米ノ問題、殊ニ農家經濟上カラ申シマスレバ、價格ノ問題ガ非常ニ八釜シイコトニナッテ居ルノデアリマス、然ルニ此價格ノ問題ヲ申シマスト云フト、是ハ何カ商工業者ノ不利益デモ働クヤウニ或者ハ誤解スルノガ、非常ニ國家ノ爲メニ憂フルノデアリマシテ、若シ價格ガ適當ナル程度ニ維持サレナケレバ、本年度ノ肥料ノ入レ方カラ、耕作ノ仕方カラ、遂ニ此秋ニ至ッテ非常ニ減收ヲ來タシハシナイカト云フコトヲ、一般ニ虞レテ居ルノデアリマス、故ニ若シ果シテ斯ノ如キ事ガアリマシタナラバ、今日ノ是ハ單ニ農業者ダケ利益ヲ圖ルモノデアルト云フ其誤解シタ人ガ、他日臍ヲ噛ンデモ及バザル所ノ非常ナル高イ米ヲ食ハナケレバナラヌヤウニ陷ルデアラウ、故ニ私共ハ決シテ生産者側ノミノ利益ヲ考ヘテ居ルノニ非ズシテ、ドウシテモ是ハ消費者ガ將來非常ナル窮地ニ陷ラナケレバナラヌト云フノデ、此價格問題モ大ナル問題トシテ考ヘテ居ルノデアリマス、政府ノ提案ヲ見マスト云フト、唯ダ單ニ分量ノ調節ダケスレバ、ソレデ足レリト云フヤウナ御説明ハ、何カ爰ニ言フニ言ハレヌ所ノ理由ガアッテ、隱レテ物ヲ言ッテ居ラルノデハナイカト思フ節モアルノデアリマス、是ハ國民ニ明ニ徹底スルヤウニシテ、生産者モ消費者モ此法ヲ巧ニ運用シテ、公平ナル判斷ニ依ッテ價格ヲ定メ、量ヲ定メ、而シテ消費者モ生産者モ、安心シテ此重要ナル所ノ米ト云フ問題ヲ考ヘルヤウニ御説明ニナラナケレバ、折角ノ案モ、是ハドウ云フ風ナ運命ニナルカモ判ラヌコトニナルカモ知レヌ、故ニ政府ハ虛心坦懷ニ國民ト共ニ此問題ヲ研究スル態度ニ於テ、明ニ其邊ノ事ヲ此席ニ於テ御辯明ニナルコトハ、本案ノ成立ノ上ニ於テ利益ナ事ト思ヒマスカラ、農商務大臣及大藏大臣ガ、爰ニ詳細ナル御説明ヲナサルコトヲ要求致シマス

山本國務大臣ノ應答

只今御質問ノ、價格ヲ如何ニシテ協定スルカト云フコトデアリマスルガ、是ハ矢張此法律案ガ法律ニナリマスレバ、ソレニ依ッテ勅令ニ依リマシテ、サウシテ調節委員會ト云フモノヲ設ケテ、ソレソレ其道ニ堪能ナル人ヲ委員ニ任命スルト云フ考デアリマス、ソレニ依リマシテ調節ヲスルト云フ積リデアリマス、卽チ價格ヲ定メル、又買入レルト云フヤウナ事ニ就テモ皆ナ此委員會ニ諮ッテ、サウシテ成タケ公平ニ、又ハ隱微ニ行ハレヌヤウニ、明ニヤリタイト云フ積リデアリマス、兎角斯ウ云フ事ニ於テハ餘リ少數ノ人ガヤリマスト、色〻ナル批評モ起ッテ參リマスカラ、其邊ハ餘程明ニシタイト云フ積リデアルノデアリマス、ソレカラ一條ニ於テ米ノ數量云々トアルガ、第三ニ於テハ、此米ヲ買入レルトキニ於テ數量ガ示シテナイ、シテ見ルト米ノ數量ト云フモノヨリモ、價ト云フ方ニナッテ居ル疑ガアルト云フ御質問デアリマス、是ハ初ヨリ申ス通リニ、數量ガ主トナッテ居ルノデアリマス、御承知ノ通リニ米ノ高イ廉イト申シマシテモ一般ノ物價ガ廉イ爲メニ、ソレニ準ジテ矢張米モ廉クナル、又一般ノ物價ガ經濟上ノ狀態ニ伴レテ高クナル、ソレ故ニ米モ矢張同ジ比例ヲ以テ高クナルノデアル、斯ウ云フ事ト、經濟社會ノ狀態ニ於テ諸物價ハ餘リ高低ハ無イガ、米ソレ自身ニ於テ、豐凶過不足ガ起ル爲メニ米ガ高クナルノデアル、或ハ低クナルノデアルトシテ、申サバ其物ガ單獨ニ高低ヲ致スト云フ場合ガ、折〻御承知ノ通リアルノデアリマス、此所ガ此法ニ於テ大ニ考ヘナケレバナラヌ點ニナルノデアリマス、假令米ガ廉クナリマシテモ、總テノ諸物價ガ廉クナッテ、ソレニ伴レテ廉イト云フモノデアリマスレバ、之ヲ米單リ高クスルヤウナコトガ生ジマスルト、亦一方ニソレニ就テノ害ガ起ッテ參リマス、併シ米ガ不足シテ居ルガ故ニ高クナリ、又餘リ豐作デ多過ギタ故ニ低クナルト云フ高低ノアル場合ニ於テハ、多イ時ニ買入レ、少イ時ニソレヲ賣ッテ、サウシテ平均ヲ得テ調節ヲ圖リタイト云フノデアリマス、ソコデアリマスガ故ニ、矢張數量如何ニ依ッテ、政府ノ買フ賣ルト云フコトヲ決スルコトガ主トナルノデアリマスル、併ナガラ數量ガ主トナッテ居ル、主トナッテ居ルガ故ニ、數量ノ餘ッテ居ルト考ヘルダケノモノハ、假令百萬石デアラウガ二百萬石デアラウガ、買フノデアルト云フコトニシテ、價ヲ少シモ顧ミナイト云フコトニナリマスレバ、亦價ナルモノガ非常ナル高イモノニナル場合モ、

必ズ生ズルデアラウト思ヒマス、何故ナラバ政府ニ於テハ必ズ是ダケ買フト云フコトニナッテ、サウシテ爰ニ價ヲ示シテ、是レ〳〵ナラバ何月ヨリ何月マデハ買入レルト云フコトヲ告示シマシテモ、其價ガ賣ラヌ前ニ甚シク高クナッテ來テ、一向手ニ入ラナイト云フコトニナッテ參リマシテ其狀態ニ依ッテハ、或ハ控ヘナケレバナラヌト云フコトガ生ズルノデアリマスカラシテ、サウ云フ如キ事ハ矢張其時ノ事情ニ依ッテ、臨機適當ナル處置ヲスルト云フコトノ餘裕ヲ持ッテ居リマセヌト、必ズ政府ガ是ダケノモノヲ買フト言ッタガ故ニ、高クテモ何デモ買ハナケレバナラヌト云フヤウナルコトノ起ルノヲ虞レルノデアリマス、固ヨリ價ヲ定メテ參リマスカラシテ、其價デナケレバ買ハヌト云フコトモ生ジマスケレドモ、此價ヲ以テ政府ハ必ズ是ダケ買フト申シマスルト、其數量ノ入ラヌ間ニ見込ヲ以テ甚シク高クナルト云フヤウナ場合ハ、必ズ生ズルコトヽ思フノデアリマスカラシテ、ソレハ假令數量ヲ主ト致シマシテモ、餘リ釣合ヲ失シタ高イヤウナコトガアレバ控ヘナケレバナラヌノデアリマスカラ、其邊ノ餘地ヲ以テ、其數量ヲ爰ニ法律的ニ示シテ居ラヌノデアリマス、併ナガラ實際ニ於テハ買フカト云ヘバ、此時期ニ於テハ何萬石買フ、何十萬石ヲ入レルノデアルト云フガ如キ事ハ、實際ニ於テハ必ズ示スコトニ相成ラウト思ヒマスガ、必ズ示サナケレバナラヌト、斯ウ法律ニ定メラレマスト、實際ニ於テ甚シク不便ヲ感ズルデアラウト云フコトデアルカラ、彼ノ數量ヲ掲ゲズニ置イタ次第デアリマス、ソレデアリマスカラシテ、數量ヲ主トスルガ、價ハソレナラ下ラウト構ハヌカト云フト、サウデハアリマセヌ、今申上ゲマシタ通リ、價ハ數量ニ依ッテ自ラ定ッテ居リマス、米ソレ自身ハ今申シマス如キ取捨ヲシテヤリマスレバ、實際ノ事ハ數量ヲ入レルノモ、サウ酷イ喰違ハアルマイト思ヒマス、特別會計ニ就キマシテハ、大藏大臣ヨリ説明ガアラウト思ヒスカラ私ハ控ヘマスガ、是ハ手形ハサウナッテ居リマスガ、米ヲ其時ニ賣ルト云フコトハ決シテアリマセヌ、此法ニ於テ説明ヲ致シマシタル如ク、政府ハ餘リアル時ニ買ッテ置クノデゴザイマス、若シ一年經ッテモ二年經ッテモ三年經ッテモ米ヲ賣ル必要ガナイ、豐作ガ續イテ賣ル必要ガ無イト云フナラバ何年經ッテモ賣ラナイ、而シテ何カ米ノ腐敗ガ起ルトカ、品質ガ惡クナルトカ云フヤウナ事ガアリマスト、ソレダケノモノハ又新シイ物ニ代ヘテ、古イ物ハ賣ッテ、矢張數量ニ於テハ從前ノ通リ貯ヘテ置イテ、サウシテ他日不足ノ用ニ備ヘルト云フ考デアリマス、又會計上ニ就テノ其邊ノ經緯ノコトハ、大藏大臣ヨリ説明致シマス

高橋國務大臣ノ應答

御質問ノ證券ノ事ニ就テヾアリマスガ、是ハ十二箇月ヲ超ユルコトヲ得ナイ期限ニナッテ居リマス、故ニ十二箇月經チマスレバ、無論額面ノ金額ヲ日本銀行ニ於テ支拂ッテヤル譯デアリマス、併シ御尋ノ趣意ハ、手形ハ取リニ來ルガ、一方ニ於テ米ヲ賣ラナイデ居タナラバ、如何ナル金ヲ以テ其米ヲ貯ヘルカト云フコトノ御疑ガアルダラウト思ヒマス、ソレハ一方ニ於テ借入金ヲスルヤウニ此規則デハ出來テ居リマス、此借入金ト云フモノニハ、年限ガ定メテナイノデアリマス、發行スル所ノ證券ニ限ッテ年限ガ定メテアリマス、故ニ手形ハ支拂ヲシタ、米ハ賣レズニ手許ニアルト云フ場合ニハ、借入金ヲ以テ其米ヲ維持スルト云フコトニナルノデアリマス、ソレカラ斯ウ云フ疑ガ起ルカモ知レナイ、サウスレバ二億ノ制限ト云フコトニナッテ、最高額ガ二億トナルカラ、不足ヲ生ジハセヌカト云フ疑モ起ルカモ知レマセヌ、兎ニ角此法案ト云フモノハ、兩院ヲ通過シマスレバ初メテノ試デアリマスカラ、其狀況ニ依リマシテ、此手形ノ發行額ハ、借入金ノ金額ガ二億デ不足ヲ告ゲルト云フ場合ニ於キマシテハ、之ヲ增加スルノ必要アルコトハ無論デアリマス、併シ先ヅ初メテノ試デアリマスカラ、最高額ヲ二億トシテ置イテ今日ノ所行フコトガ出來ヤウ、斯ウ存ジテ居ルノデアリマス、ソレカラ罹災基金ノ事デアリマスガ、是ハ今日デハ只今モ御述ニナッタ通リ、六千萬圓餘ノ罹災基金ガ各府縣通シテアル、多クハ有價證券或ハ地方債等ニ今日ハナッテ居リマスガ、尙ホ其等ノモノヲ差引イテ、手許ノ殘金ガ三百四五十萬圓ノ現金ガアル勘定ニナッテ居リマス、ソレハ其地方々々ニ於キマシテ天災等ノ爲メニ物資ヲ供給スルト云フノガ本來ノ趣旨デアリマス、ソレ故ニ地方ニ依リマシテ萬一ノ場合ニ備ヘルノニ、米ヲ貯ヘテ置クト云フコトモ、至極罹災ノ趣意ニ適フコトデアラウト考ヘルノデアリマスカラ、今日米穀法ヲ

設ケマスル以上ハ、地方ノ罹災救助基金ヲ以テ、地方ノ望ニ依ッテハ米穀ヲ買入レテ置クト云フ途ヲ開クコトガ至當ナリト云フ考デ、其法ヲ設ケタノデアリマス

前川虎造君ノ質疑

大分先程カラノ御質問ニ依リマシテ私共ノ疑問ヲ氷解致シマシタガ、尚ホ一二三判ラヌ所ガアリマスカラ、此場合伺ッテ置キタイト思ヒマス、吾〻ハ此米穀問題ト云フモノニ對シマシテハ、強チ生產者ノ側バカリカラ見テ居ル者デナイ、一體政治ニ大切ナル事ハ國家ノ存立デアル、國家ノ存立ト云フモノハ、其國民ノ安固安定ト云フモノヲ根柢ニ置カナケレバナラヌノデアル、一昨年來國民ノ思想ニ多少ノ動搖ヲ來シ、或時ハ危險思想ノ如キモノモ現ハレタ、ト云フコトハ何ニ原因致シテ居ルカト云ヘバ、悉ク生活難ト云フモノガ主ナル原因ヲ成シテ居ル、ソレデ此生活難ノ緩和ト云フコトハ、國家ノ存立、國民ノ生存ト云フ事ニ大切ナル問題タルコトハ、申スマデモナイ事デアリマス、故ニ政府ハ食糧ト云フモノニ就テハ、非常ナル御考慮ヲ下サルト云フコトハ、吾〻ノ深ク感謝スル所デゴザイマス、併シ一體政府ガ此穀物問題ニ就テ、何ヲ根據トセラレテ總テノ施設ヲナサレテ居ルカ、此點ニ於テ吾〻ハ大ナル疑問ヲ持ッテ居ルト云フノハ、此穀物ニ就テノ問題ノ起ッタノハ今日ニ始マッタコトデハナイ、大正二年米ガ十圓内外ニ下ッタト云フ時ニ、痛切ニ國民ガ感ジタノデアリマス、又政府モ之ヲ感ジタノデアリマス、ソレカラ近クハ大正八年卽チ一昨年デアル、一昨年米價ガ暴騰致シマシテ、石五十四圓ノ、五十五圓ト云フ價格ヲ示ス際ニ至ッテ、國民ガ非常ニ不安ヲ感ジタノデアル、此場合ニ政府ハ如何ナル處置ヲ御執リニナッタカ、其當時政府ハ臨時事件費カラ、七千八百八十萬圓ト云フ巨額ノ金ヲ投ジテ外國米ヲ百五十八萬石餘ヲ御買入ニナッタノデアル、其買入ニナッタ原因ハ何所ニ在ルカ、米ガ足ラナイ、米ガ足ラナイカラ、此際此米價ヲ調節スルノニハ、米ヲ外國ヨリ買ッテ來テ之ヲ市場ニ撒布スレバ、此價額ガ調節サレルト云フ御見込ヲ以テ御買入ニナッタノデアル、然ルニ其結果ハドウナッタノデアルカ、其結果ハ高等官ニ犯罪ヲ出シ、ソレカラ指定商人ニ不都合ナル者ヲ出シ、却テ其買入レタ米ナルモノハ、政府ガ目的トシタ所ノ、市中ノ生活難ニ苦ンデ居ル者ニ供給スル能ハズシテ、却テ米ヲ持ッテ居ル所ノ農民ガ之ヲ買ッテ食ッタト云フ、非常ナ奇妙ナル現象ヲ現ハシタノデアリマス、而シ又驚クベキハ此莫大ノ金ヲ御出シニナッテ買取ッタ米ヲ、政府ガ應急的ニ之ヲ撒布スルコトガ出來ナクテ、遂ニ五十萬石ト云フモノヲ今尙ホ之ヲ倉庫ニ御貯藏ニナッテ居ルデハナイカ、然ラバ一體何ノ爲メニ此米ヲ買ウタノカ、今日米ノ剩餘ヲ來スト云フ、此剩餘米ノ高ヲ多クスル爲メニ御買入ニナッタト見ルヨリ外、我〻ハ見ラレナイノデアル、假令五十萬石ニセヨ、今日此米ガ無カッタナラバ、ソレダケ此過剩ノ米ガ減ッテ居ルト云フコトニナッテ居ルノデアル、又大正八年度ニ泡ヲ食ッテ、政府ガ米ガ足ラナイカラ米ヲ買フノデアルト言ッテ御買ニナラナクテ、此米ヲ何トカシテ農民ノ懷中ヨリ吐出サセテ、市場ニ撒布スルト云フ手段ヲ御執リニナッテ居ッタナラバ、今日此米ガ斯ノ如ク四百萬石、五百萬石ト云フ過剩ガ出來ズ、確ニ百五十萬石ト云フ米ガ減ッテ居ルノデアル、故ニ此政府ノ政策ノ錯誤ガ、卽チ今日過剩米ニ多クノ數ヲ加ヘタト云フ結果ニ今日ナッテ居ルノデアリマス、併シ之ヲ煎ジ詰メテ何ニ原因シテ居ルカト云フト、農商務ノ當局ガ米ノ生產ト云フコトヲ確實ニ御調査ニナラナイ、杜撰ナ調査ヲ以テ速斷セラレルト云フニ結論スルノデアリマス、故ニドウシテモ斯ウシテモ、今日日本ニハドレ位ノ米ヲ作ルカ、唯今段々御說明ガアリ、又質問者モ言ハレテ居リマスガ、平年作ガ五千百萬石ダトカ、或ハ豐作ノ時ニハ六千百萬石、其差額ガ一千萬石ナドト云フ御話ガアリマシタガ、此根據ハ何ニ依ッテ居ルカ、卽チ町村役場、郡役所ニ調査ヲ命ズル、郡役所カラ來タ人間ガ今年ハ米ガドノ位出來ルデアラウカ、先ヅ是位ダラウト云フヤウナ、ダラウト云フ說ニ依ッテ數字ヲ御書上ゲニナッテ居ル、日本ノ米ハ是ダケヨリ出來ナイ、又豐作ナレバ是ダケ出來ル、斯樣ナル不完全ナル調査ノ下ニ根據ヲ置カレテ、サウシテ米ガ剩ルノ剩ラナイト云フ御速斷ヲナサル、此根本ニ私ハ誤謬ガアルト考ヘルノデアリマス、故ニ之ヲ如何ニ御取扱ニナルカ、成程此法案ハ見マシタ所ハ洵ニ結構ナ法案デアル、剩ル時ニハ買取ッテ置ク、足ラヌ時ニハ此米ヲ以テ市場ヲ潤ハス、洵ニ簡單明瞭ナモノデアリマス、併ナガラ今日ハ昔トハ違フ、段々此人間ノ力ヲ以テ凶作ヲ防グト云フ術ガ進步致シテ居ル、昔ノヤウナヤリッ

放シデハアリマセヌ、又水旱――朝鮮ノ如キモ四五年前マデハ、水旱ノ憂ノ爲メニ出來高ガ非常ニ少カッタ所ガ、朝鮮事業公債ト云フモノヲ拵ヘテ、河川ノ改良ヲ爲サレテ居ル爲メニ、本年ハ二百五十萬石ノ米ガ剩ル、來來ハ凶作デアッタナラバ、非常ニ足ラヌト言ハレルカドウカ知ラヌガ、來年マデハ段々工事ヲ進メテ行ク、サウスレバ灌漑ノ便モ付イテ行キ、少々ノ旱位デハ朝鮮ハ米ニ苦シムト云フコトハ最早ナイ、人工ガ加ッテ來テ、此人間ノ力ガ天災ヲ防グト云フ方ニ段々向イテ居ルノデアル、故ニ是マデノ通リニハ行カナイ、又一方カラ言ヘバ我々モ今ヨリ二十年前ニハ、地方デハ大抵一段ノ土地カラ二石五斗位穫レバ喜ンデ居ッタノデアル、今日ハドウシテモ一段ノ地所カラ三石以上ヲ穫ラナケレバ、農民ハ承知シナイト云フ位ニ耕位法ガ進歩致シテ居ルノデアル、故ニ今ハ十年前ノ平年作五千萬石デハナイ、ソレカラ以來土地ハ開墾サレテ居ラナクテモ、農家ノ勉勵ト肥料ノ遣方ト耕作法ノ進歩トニ依ッテ、一段カラ取上ゲル所ノ作物ハ、段々進歩致シテ來テ居ルノデアル、然ルニ十年モ、二十年モ、前ニ而モ出鱈目デ拵ヘタ所ノ統計ニ依ッテ、是ダケ足ラヌトカ剩ルトカ云フヤウナ、早計ナル考ヲ御持ニナッテ法律ヲ御制定ニナル、而モ永久的ノ法律ヲ爰ニ御制定ニナルト云フコトハ私ハ甚ダ其意ヲ得ナイト思フノデアル、故ニ政府ハ現在ヤラレテ居ル所ノ、農商務省ガ執ッテ居ラレル所ノ統計ト云フモノハ、果シテ間違ガ無イト云フ御確信ガアリヤ否ヤト云フコトヲ、私ハ先ヅ伺ヒタイノデアリマス、ソレカラ若シ又サウ確實ト云フコトガ斷言ハ出來ヌト云フナラバ、何等カノ方法ヲ以テ、今後之ヲ確實ニ御取調ニナルコトノ御考ヲ持ッテ居ラレルカドウカト云フコトモ伺ヒタイノデアル、ソレカラモウ一ツ私ハ大切ナル事ヲ伺ハナケレバナラヌ、成程政府ハ今簡單ニ米ヲ買ウテ置ケバ、今度不足ノ時ニ賣レバ大變都合ガ好イ、ソレハ極メテ明瞭ナ好イ事ニ相違ナイ、併ナガラ凶作豐年ト云フモノハ、必ズ何年ニ來ルト云フコトハ政府ハ御存ジデアルマイ、恐ラクハ我々人間ガ、今年ハ豐年デアルガ、來年ハ不作デアルト云フコトヲ的確ニ御決メニナルト云フコトハ、人間ノ知識デハ出來ナイト思フ、如何ニシテ豐年ガ二年モ四年モ續イタト云フコトニナッテ、サウシテ年々剩ル所ノ米ヲ政府ガ之ヲ倉庫ニ御入レニナル、御入レニナッテ其結果ハドウナサル積リデアルカ、又此法案ニ依ッテモ政府ハ斯ウ云フ事ヲ御書キニナッテ居ル、買入レタ所ノ米ハ今度買替ヘルコトガ出來ルト云フコト、左樣ニ買替ヘルト云フコトヲ御書キニナッテ居ル、所ガ此買替ヘルト云フ事ニハドウ云フ結果ヲ來タシマスカ、卽チ米ガ古クナッテ、來年持ッコトガ出來ナイト云フノデ、已ムヲ得ズ新ニ出來タ所ノ米ト買替ヘルノデアル、此場合ニ政府ハ此米ヲ買ウタ値デ賣レルト云フ御考デアルカ、既ニ最早古米ニナッテ、古々米ニナルト云フト、價格ニ非常ナ變動ガ――現在價格ニ變動ナクトモ、其品物ニ就テ非常ニ價格ガ劣ッタト云フ場合ニ、高ク買ウテ居ル米ヲ同ジ値デ以テ市場ニ賣ルト云フコトハ、ドウシテモ出來ル譯ノモノデハナイ、故ニ此時ニ政府ハ損失ヲシナケレバナラヌ、是ガ繰返シ〳〵十年五年モヤッテ居レバ、其缺損高ガ今ノ法案ノ二億萬圓ト云フモノニナッテシマッタ時ニハ、ドウスル積リデアリマスカ、二億萬圓ヲ損ジテシマッタ時分ニハドウ云フ御考ヲ御持ニナッテ居リマスカ、此法律デハ二億萬圓ヲ限度トシテヤルト云フ趣旨デアルガ、此二億萬圓ヲ三年カ、四年ノ間ニ賣ッタリ買ッタリシテ居ル間ニ、政府ガ損ヲシテシマッタ時ニハ、ドウ云フ結果ニナルノデアルカ、更ニ又二億萬圓ト云フモノヲ御出シニナッテ、是デオヤリニナル御考デアルカ、私ハ非常ニドウモ疑フノデアル、サウ云フ譯デアルカラ、是等ニ對シテモ政府ハドウ云フ御考ヲ御持ニナッテ居ルカト云フコトヲ伺ヒタイ、ソレカラ一體政府ハ今度ノ此事業ト云フコトニ就テハ、價格ニハ何等ノ關係ハシナイ、唯ダ剩ル米ガアッタナラバ買ッテ置イテ、今度足ラナケレバ之ヲ出スノデアルト云フ、御趣意デアルト、斯ウ云フヤウニ唯今承ッタノデアルガ、成程御趣意ハサウカモ知レナイケレドモ、政府ハ百萬石二百萬石ト云フ米ヲ買ウタリ賣ッタリスル結果ガ、市場ニ一ツモ影響シナイト、云フコトガ言ヘルカドウカ、僅ニ或一人ガ取引所ニ行ッテ十萬石カ二十萬石ヲ買ウテスラモ、此取引所ノ市場ガソレダケノ影響ヲ生ジテ來ルノデアル、況ンヤ政府ガ百萬石、二百萬石ノ米ヲ買ウテ、市場ノ價格ニ影響ヲ及ボサヌト云フコトハ、私ハドウシテモ無カラウト思フ、故ニ私ハ是ハ米價需給――名ハ需給デアルケケドモ、之ヲヤッタ時ニハ結果ハ矢張米價ノ價格ニ變動ヲ來スト云フコトハ、明カナル事實デアル、名前ハ何デアラウト、カンデアラウト、卽チ米ガ下ッタ時ニハ豐作ニ違ヒナイ、之ヲ政府ガ買ヘバ價格ガ上ル、ソレカラ